

男女共同参画・女性の活躍促進に関する 意識調査報告書

令和2年3月

福島県

はじめに

県では、すべての県民が個人として尊重され、性別にかかわらず、自己の能力を自らの意思に基づいて発揮することができ、あらゆる分野にともに参画し、責任を担う社会を男女共同参画社会形成のための基本理念とし、「ふくしま男女共同参画プラン（平成13年2月策定、平成29年3月改定）」や「福島県男女平等を実現し男女が個人として尊重される社会を形成するための男女共同参画の推進に関する条例（平成14年3月制定）」に基づき、各種施策を展開しているところです。

東日本大震災から9年が経過し、復興を支えるインフラの復旧や新しい拠点施設の整備進展、古里への帰還に向けた動きが着実に進んでおります。

復興と地方創生を力強く進めていくためには、あらゆる分野で様々な主体が連携しながら、男女がその個性や能力を十分に発揮し、多様な生き方を選択できる男女共同参画社会を実現することが重要です。

今回の意識調査は、前回調査（平成27年1月調査）からの変化と女性活躍に関する県民の意識を把握するとともに、「ふくしま男女共同参画プラン」の改定や今後の効果的な施策を進めていく上での基礎資料とするために実施したものです。

本報告書が、広く皆様に活用され、県内の男女共同参画の現状や課題について理解を深めていただく一助となり、男女共同参画社会を実現する契機の一つとなれば幸いです。

終わりに、本調査の実施に当たりまして御協力いただきました多くの県民の皆様並びに関係機関の皆様に、心から御礼申し上げます。

令和2年3月

福島県生活環境部男女共生課長
中川 浩然

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	11
1. 男女共同参画に関する意識	12
(1) 男女の地位の平等感	12
(2) 男女の望ましい生き方	21
(3) 子どもに受けさせたい教育程度	24
(4) 人権や男女平等意識の育成のために必要なこと	26
2. 仕事・家庭・地域生活に関する意識	28
(1) 仕事をしている理由	28
(2) 仕事を辞めた理由	30
(3) 家事・育児・介護の負担割合	32
(4) 家庭、結婚観	36
(5) 出生数が減少している理由	43
(6) 家族の介護方法	46
(7) 自分自身の介護方法	50
(8) 参加している社会活動・地域活動の種類	54
(9) 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと	56
3. 女性の活躍に関する意識	59
(1) 女性の活躍状況	59
(2) 女性の活躍に必要なこと	65
(3) 女性が仕事を持つことに対する考え方	67
(4) 女性が働き続けるために必要なこと	69
(5) 男性の育児休暇取得への賛否	71
(6) 出産・育児の際の望ましい選択	73
(7) リーダー・管理職への意欲	76
(8) 女性の増加を望む役職	80
4. 男女の人権	83
(1) 女性の人権が尊重されていないと感じること	83
(2) 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと	86
(3) 性的マイノリティの認知度	89
(4) 性的指向について悩んだ経験の有無	90
(5) 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか	91
5. 配偶者等からの暴力	95

(1) 夫婦間の暴力	95
(2) 夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入	114
(3) 配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況	119
6. 男女共同参画の推進	121
7. 地域の慣習	124
8. 自由意見・要望	127
付. 調査票様式	137

□本書の利用にあたって

- 本文及び図表中の回答者の比率は、百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。そのため個々の比率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問では比率の合計が100%を超える。
- 図表中の「n」は回答者総数（該当者だけが回答する質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 回答数が極端に少ない（概ねに10以下の）属性については分析対象外とした。
- 本調査と調査項目が同一または類似している質問について、前回調査（平成27年1月実施）結果及び国（内閣府）が実施した調査結果との比較を行った。
文中及び図表中では、比較する調査結果を以下のように表記した。

前回（平成27年）

「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査」
福島県 平成27年1月実施
（調査対象：福島県内に居住する20歳以上の男女個人）

国（令和元年）

「男女共同参画社会に関する世論調査」
内閣府 令和元年9月実施
（調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する者）

I 調査の概要

調査の概要

1. 調査の目的

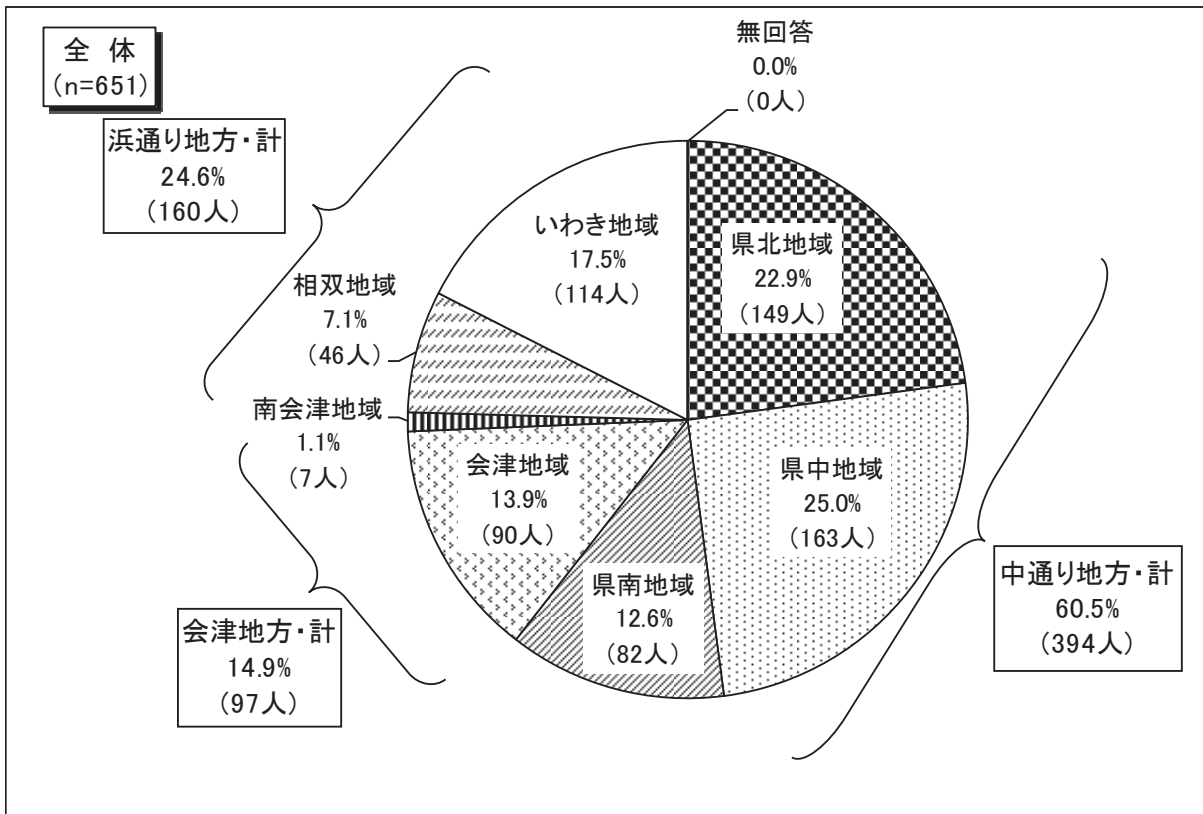
男女共同参画に関する県民の意識を把握するとともに前回調査（平成 27 年 1 月実施）からの変化を探り、併せて、女性の活躍促進のための現状と課題を探り、調査の分析結果を「ふくしま男女共同参画プラン」の改定及び今後の施策展開の基礎資料とする。

2. 調査実施概要

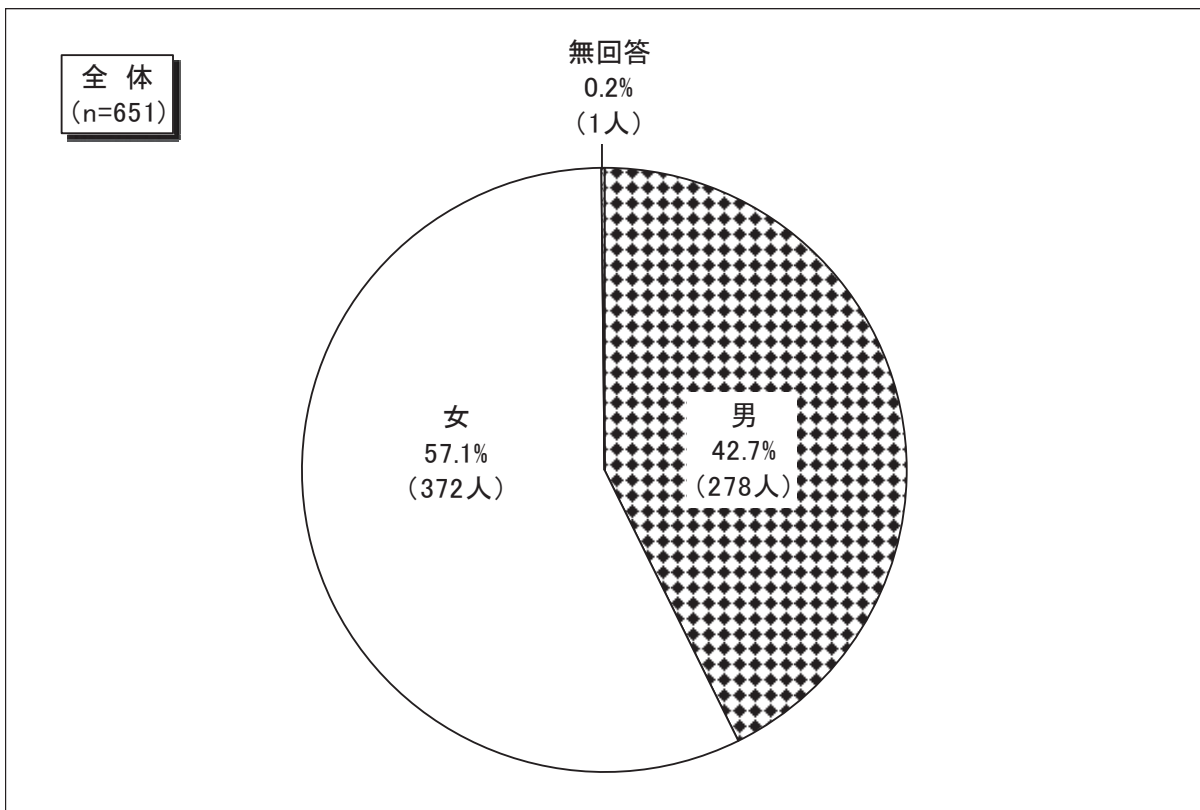
- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（33 市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 20 歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第一次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内 7 地域をそれぞれ「総人口 10 万人以上の市」「総人口 10 万人未満の市」「郡部（町村）」の 3 つのグループに分け、各グループを 1 つの層とした。各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第二次抽出：第一次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（配布・回収とも郵送）による自記式のアンケート調査 |
| (6) 調査期間 | 令和元年 11 月 12 日（火）～11 月 25 日（月） |
| (7) 調査項目 | ①回答者の属性（8 問）
②男女共同参画に関する意識（4 問）
③仕事・家庭・地域生活に関する意識（10 問）
④女性の活躍に関する意識（8 問）
⑤人権に関する意識（5 問）
⑥配偶者等からの暴力（3 問）
⑦男女共同参画の推進（1 問）
<p style="text-align: right;">（合計 39 問）</p> |
| (8) 回収結果 | 有効回収数 651（32.6%） |

3. 回答者の構成

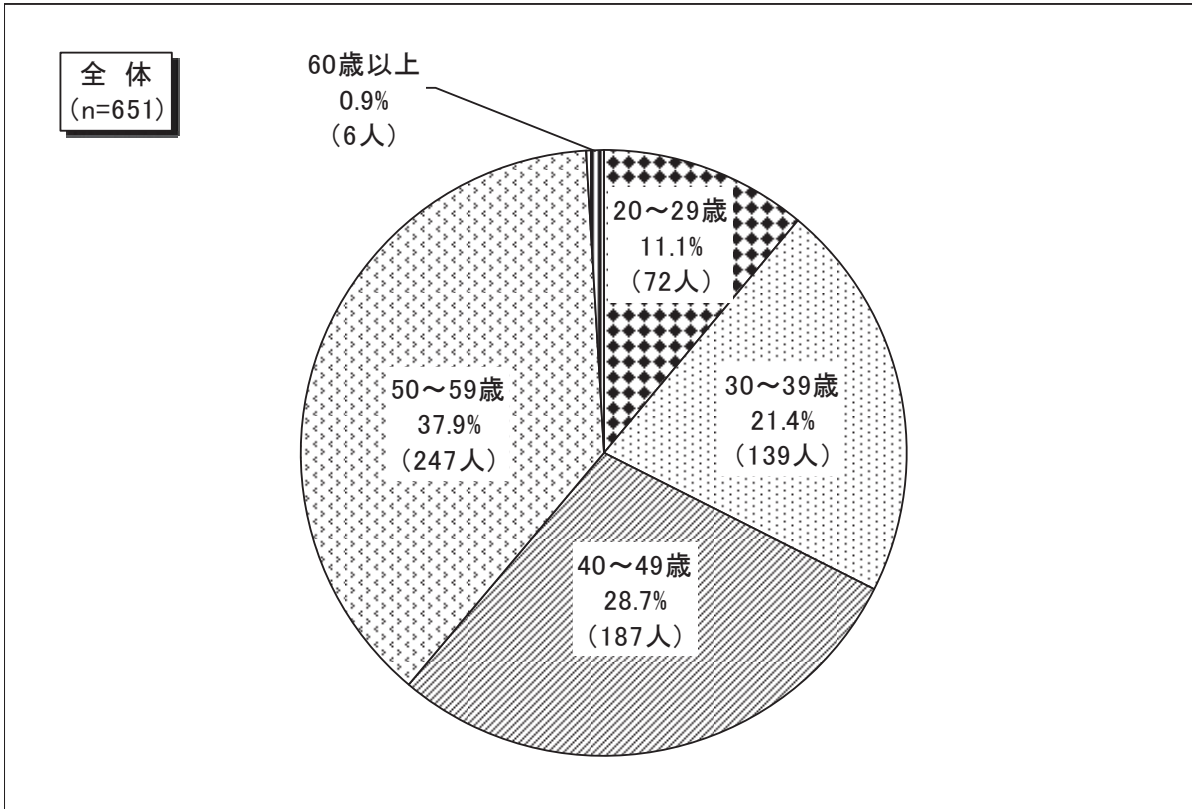
(1) 居住地域



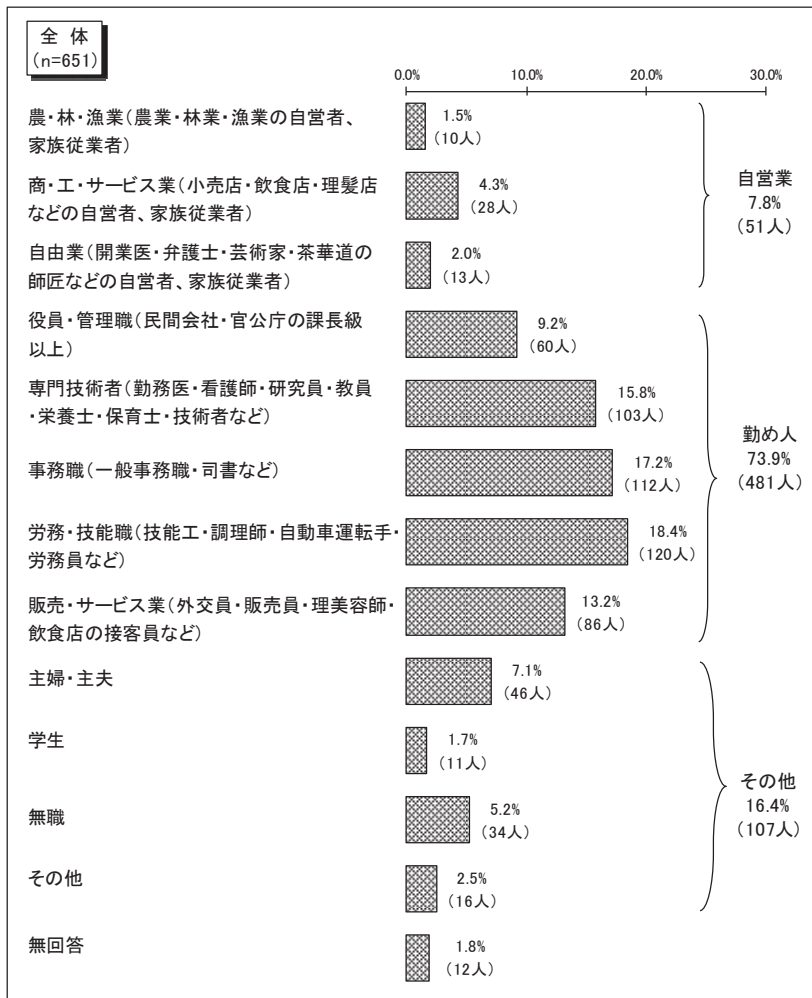
(2) 性別



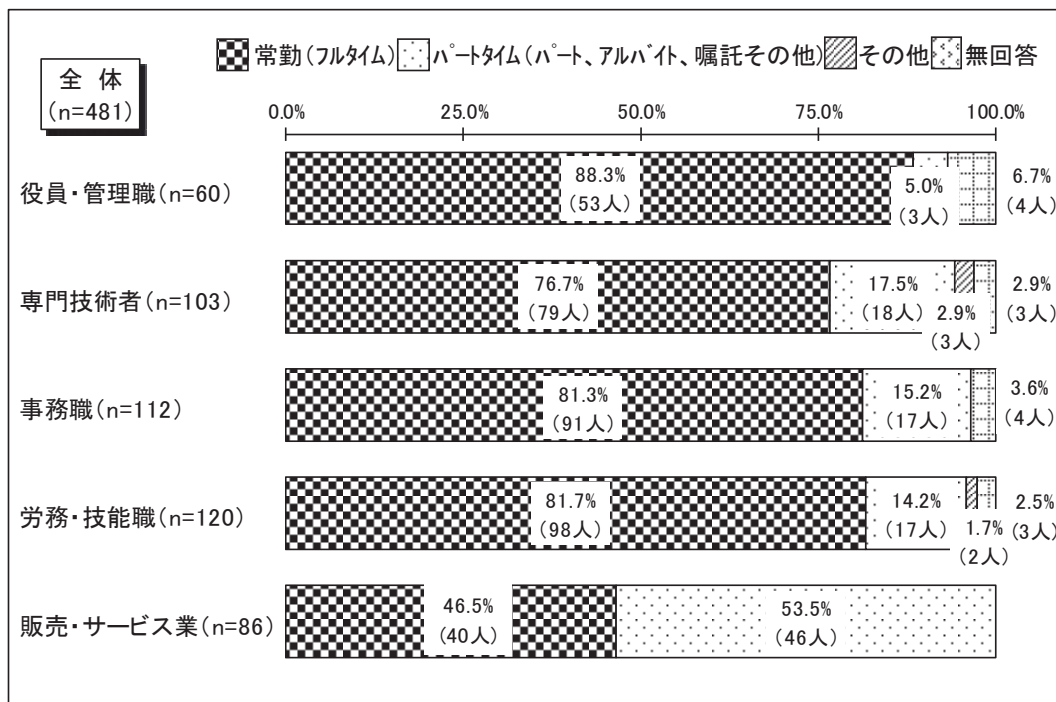
(3) 年齢



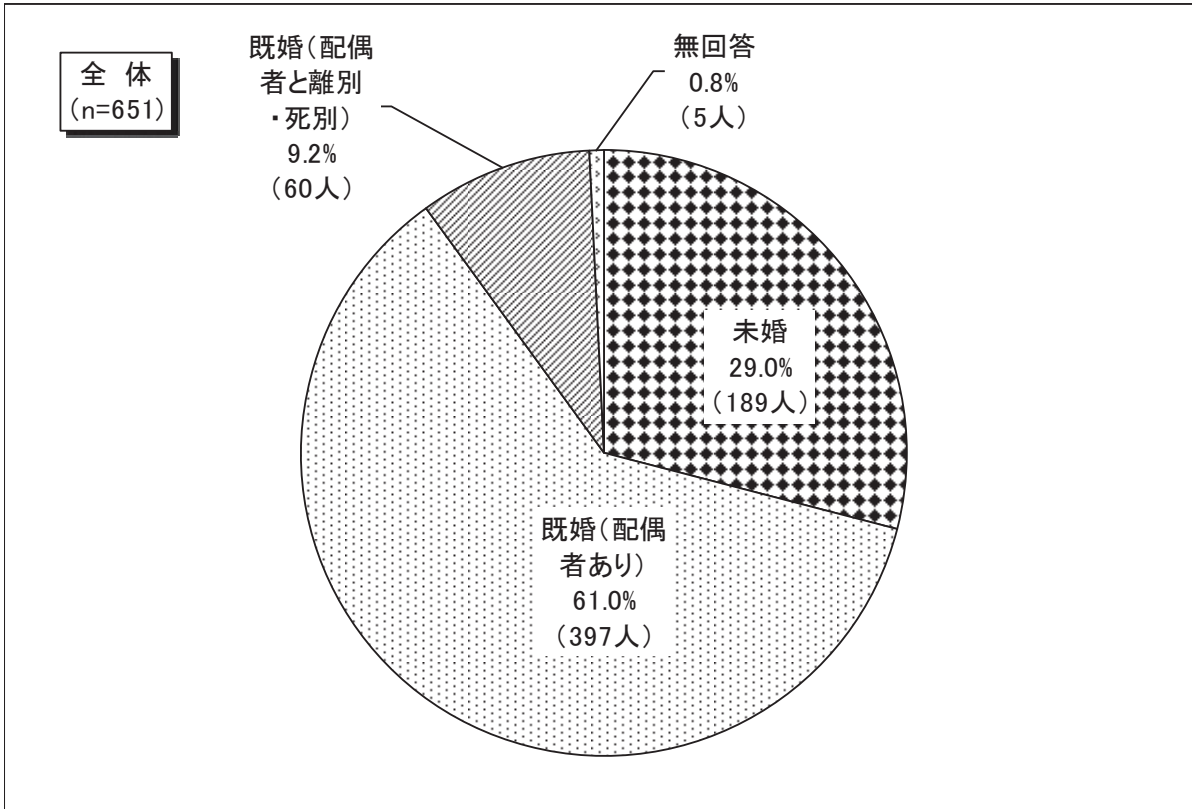
(4) 職業



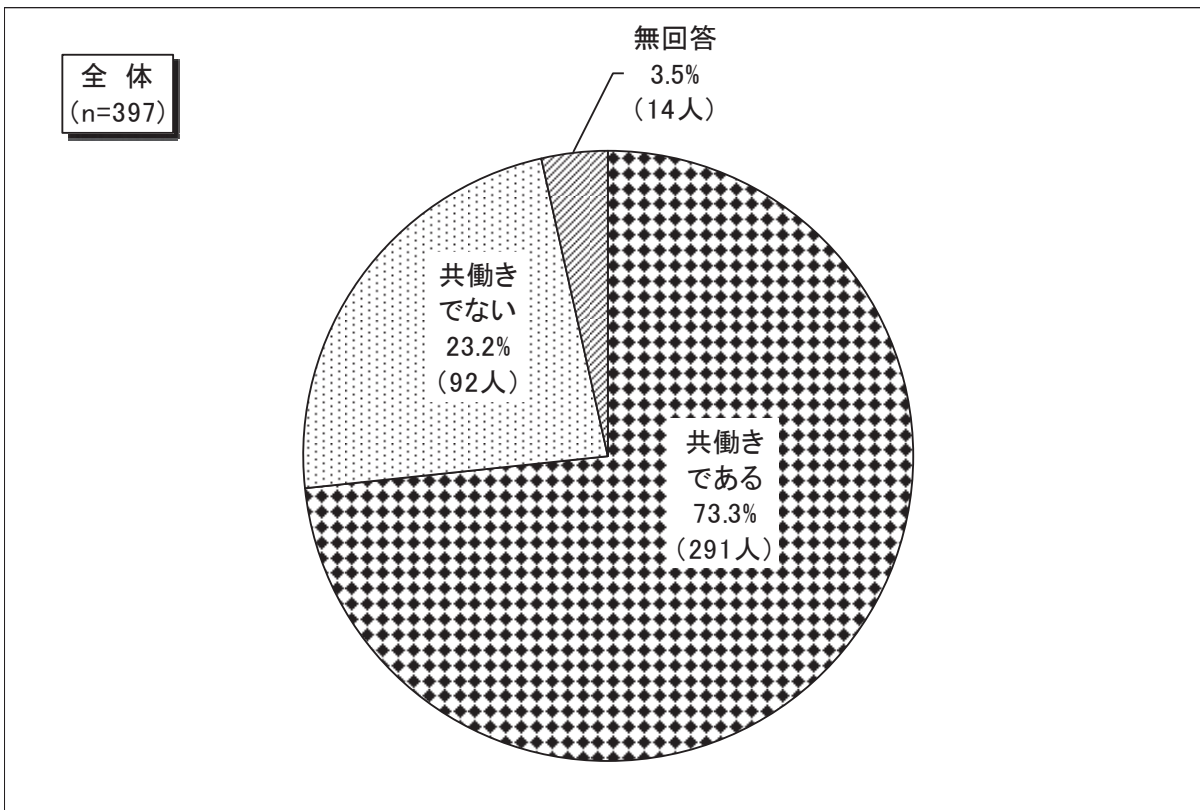
* 勤め人の雇用形態



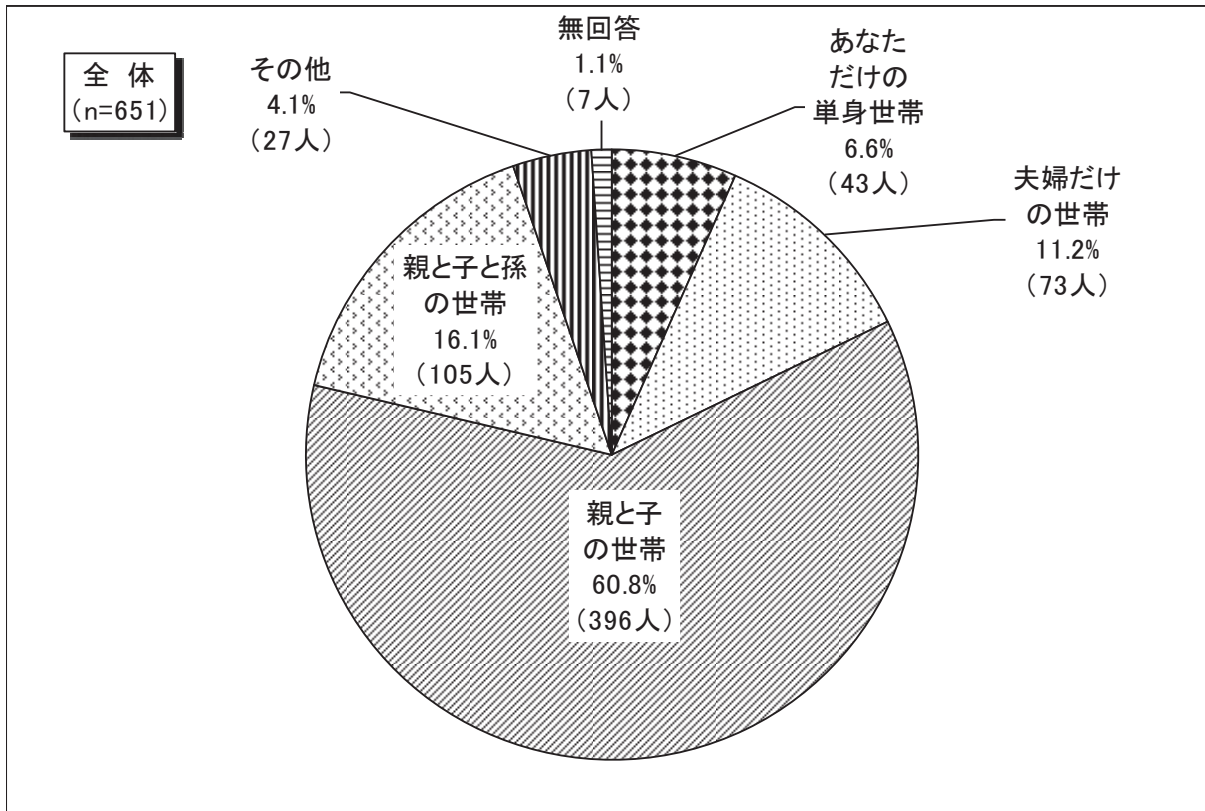
(5) 婚姻の状況



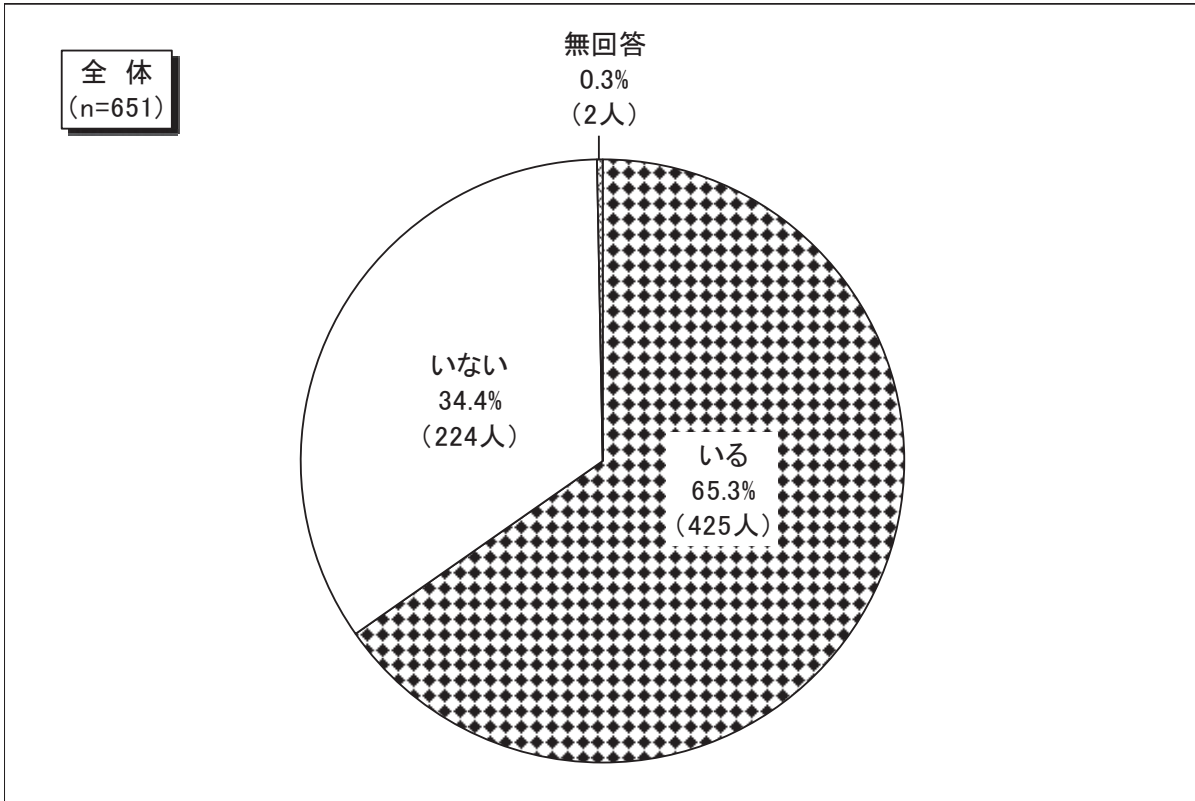
* 共働きの状況



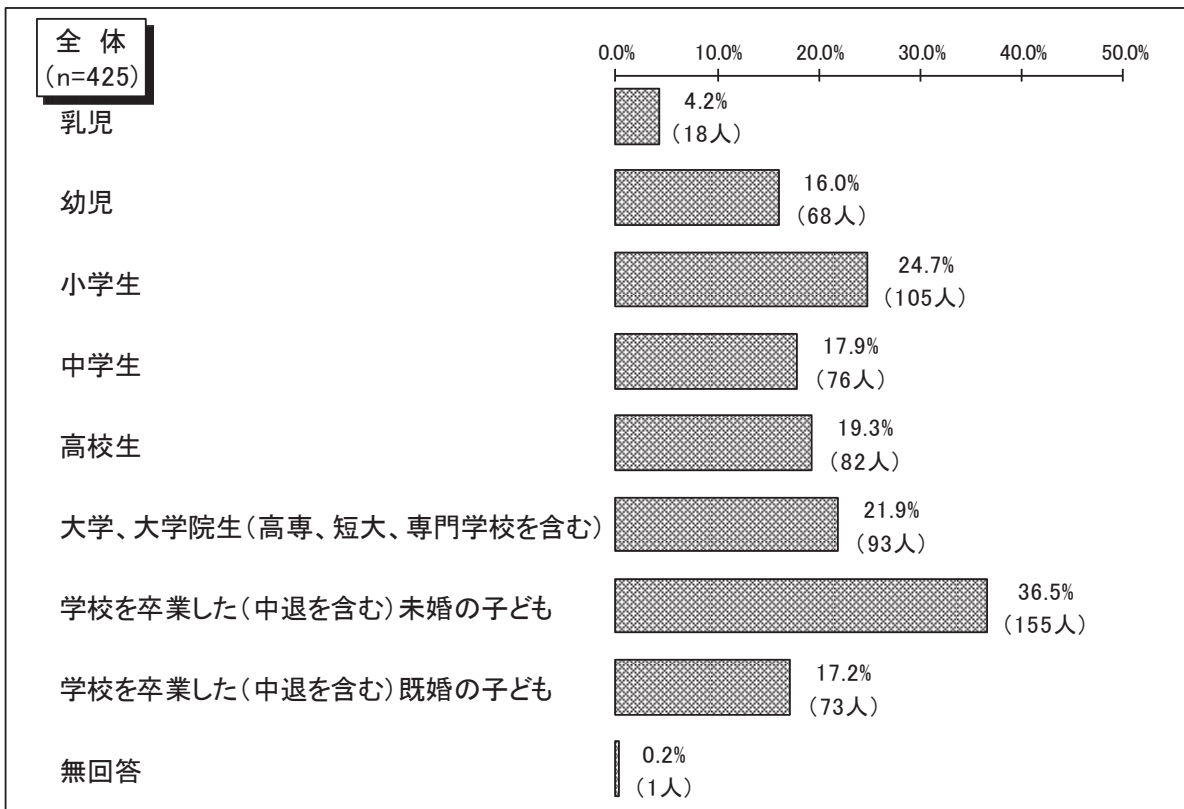
(6) 家族形態



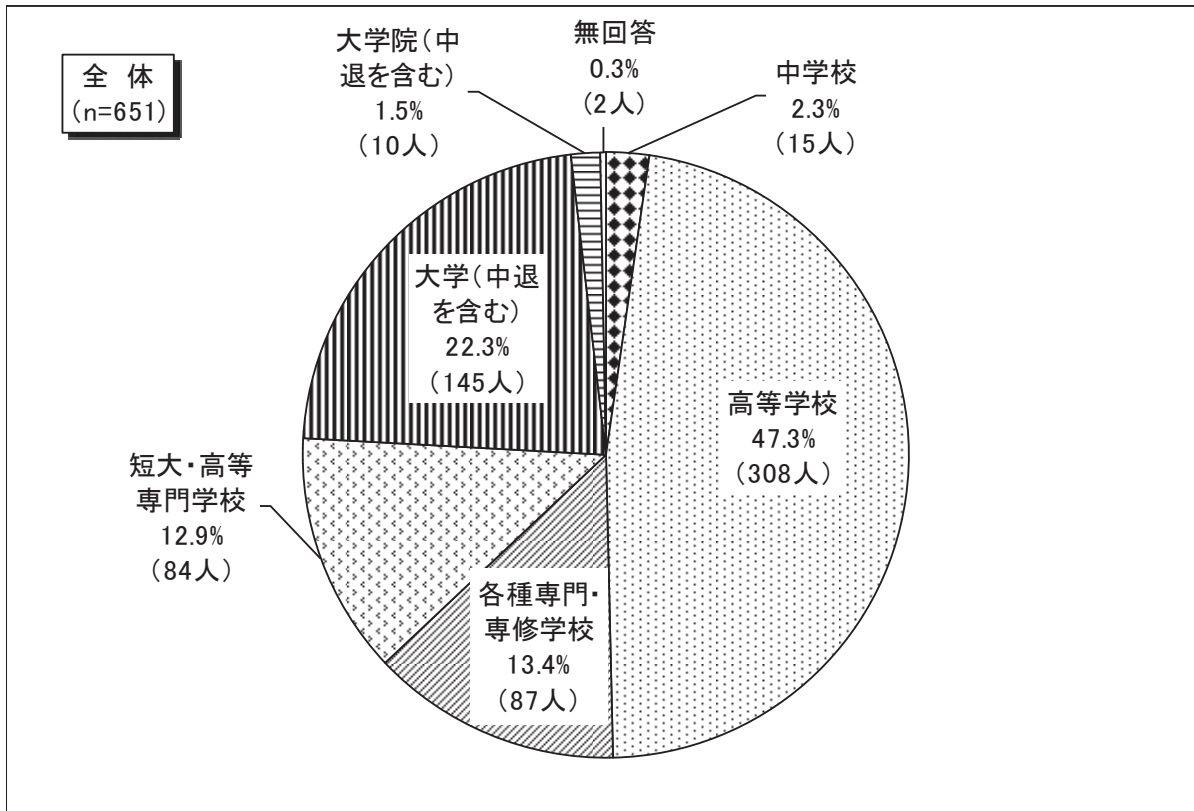
(7) 子どもの有無



*子どもの学齢



(8) 最終学歴



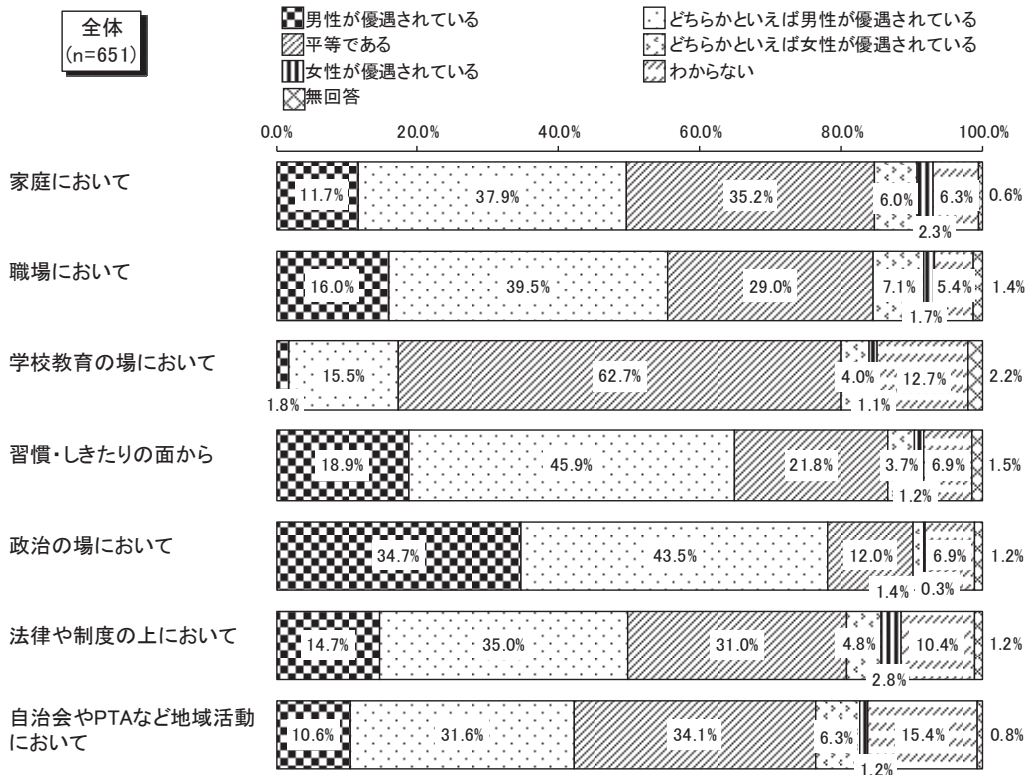
Ⅱ 調査結果

1. 男女共同参画に関する意識

(1) 男女の地位の平等感

問1 あなたは次のような各分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。

①～⑦のそれぞれの項目ごとにお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

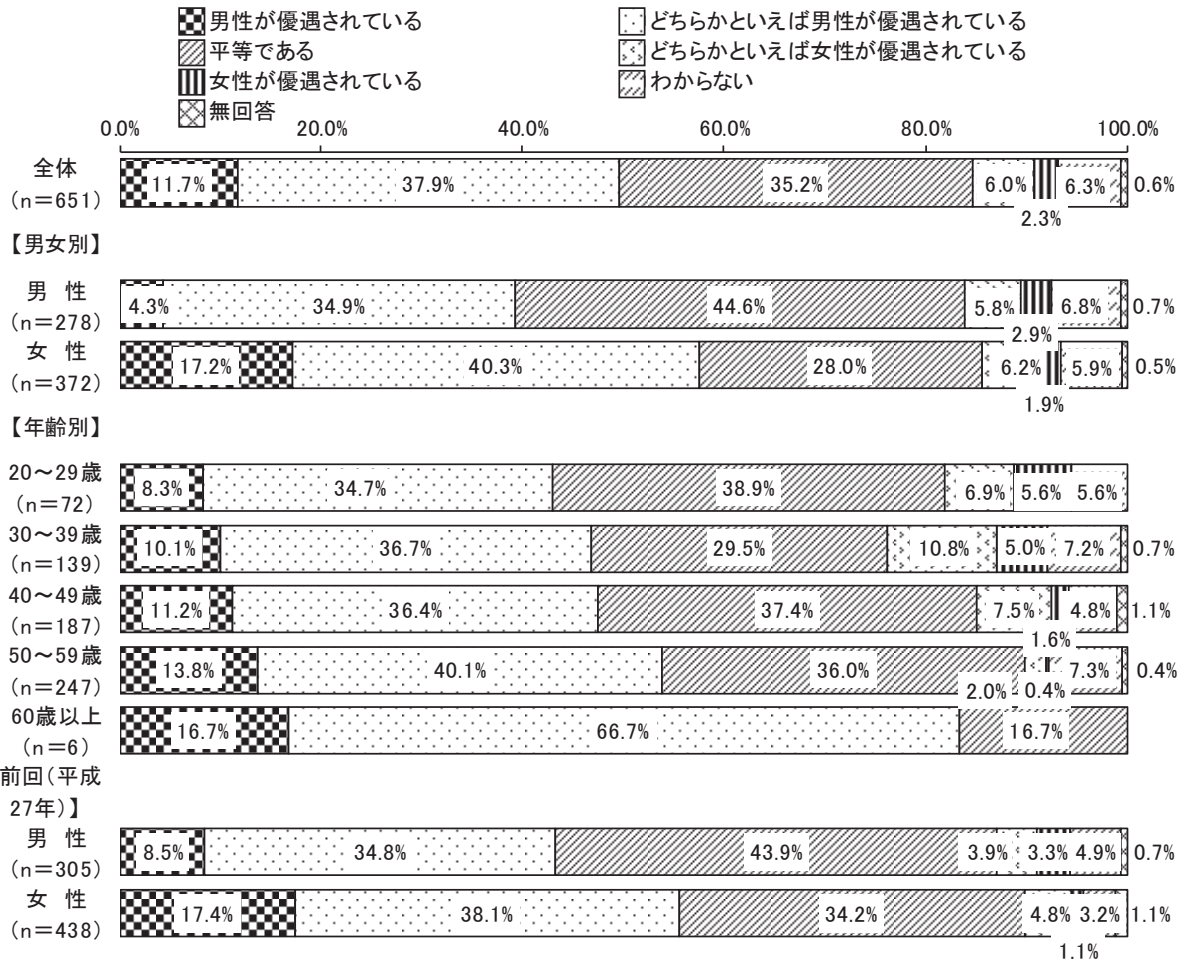


	「男性が優遇されている」	「女性が優遇されている」
①家庭において	11.7%	2.3%
②職場において	16.0%	1.7%
③学校教育の場において	1.8%	1.1%
④習慣・しきたりの面から	18.9%	1.2%
⑤政治の場において	34.7%	0.3%
⑥法律や制度の上において	14.7%	2.8%
⑦自治会やPTAなど地域活動において	10.6%	1.2%

【全体結果】

男女の地位の平等感について、「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、『政治の場において』が78.2%と最も高く、『習慣・しきたりの面から』は64.8%、『職場において』は55.5%といずれも5割を超えているが、『学校教育の場において』は62.7%が「平等である」と回答している。

① 家庭において＜男女別・年齢別＞



	「男性が優遇されている」	「女性が優遇されている」
全 体 (n=651)	11.7%	2.3%
【男女別】		
男 性 (n=278)	4.3%	2.9%
女 性 (n=372)	17.2%	1.9%
【年齢別】		
20～29歳 (n=72)	8.3%	5.6%
30～39歳 (n=139)	10.1%	5.0%
40～49歳 (n=187)	11.2%	1.6%
50～59歳 (n=247)	13.8%	0.4%
60歳以上 (n=6)	16.7%	0.0%

【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性4.3%、女性17.2%)。

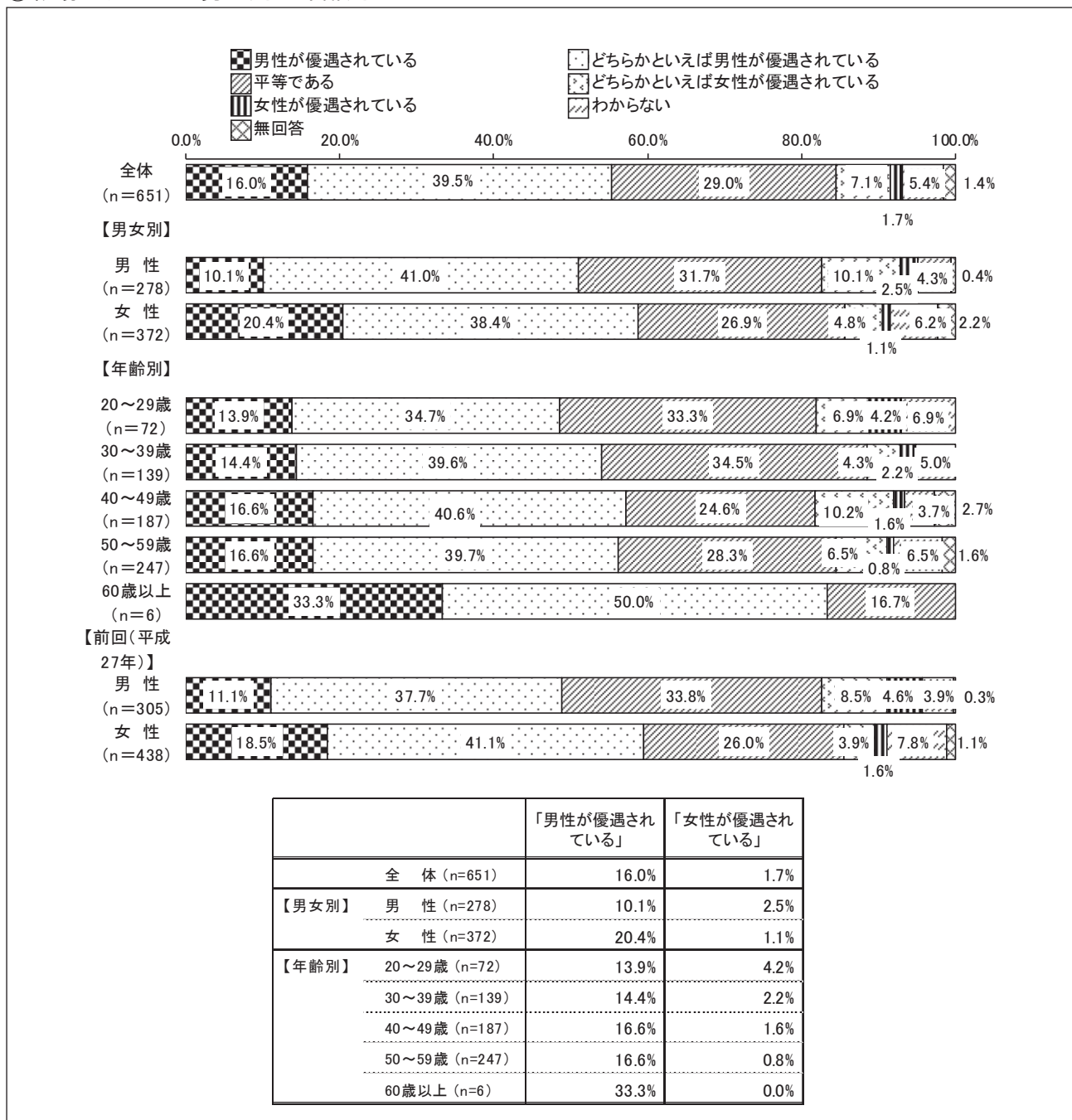
【年齢別】

年齢が高くなるほど、「男性が優遇されている」と回答した割合が高くなっている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、男女とも「男性が優遇されている」と回答した割合は減少している。

②職場において＜男女別・年齢別＞



【男女別】

男女とも、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い（男性 41.0%、女性 38.4%）。

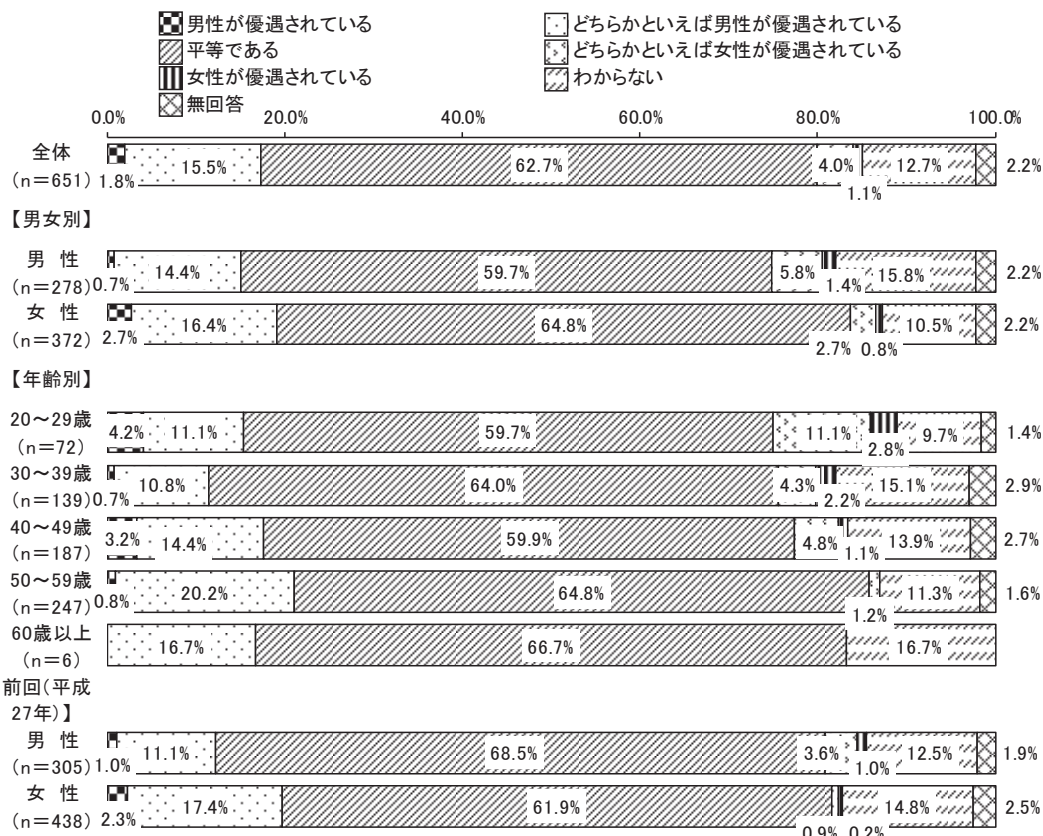
【年齢別】

年齢が高くなるほど、「男性が優遇されている」と回答した割合が高くなる傾向がある。

【前回調査（平成 27 年）比較】

前回調査と比べると、「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した男性の割合は増加し、「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した女性の割合は減少している。

③学校教育の場において〈男女別・年齢別〉



	「男性が優遇されている」	「女性が優遇されている」
全体 (n=651)	1.8%	1.1%
【男女別】		
男性 (n=278)	0.7%	1.4%
女性 (n=372)	2.7%	0.8%
【年齢別】		
20～29歳 (n=72)	4.2%	2.8%
30～39歳 (n=139)	0.7%	2.2%
40～49歳 (n=187)	3.2%	1.1%
50～59歳 (n=247)	0.8%	0.0%
60歳以上 (n=6)	0.0%	0.0%

【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性の方が高く（男性 0.7%、女性 2.7%）、その一方で「平等である」と回答した割合も、男性より女性の方が高くなっている（男性 59.7%、女性 64.8%）。

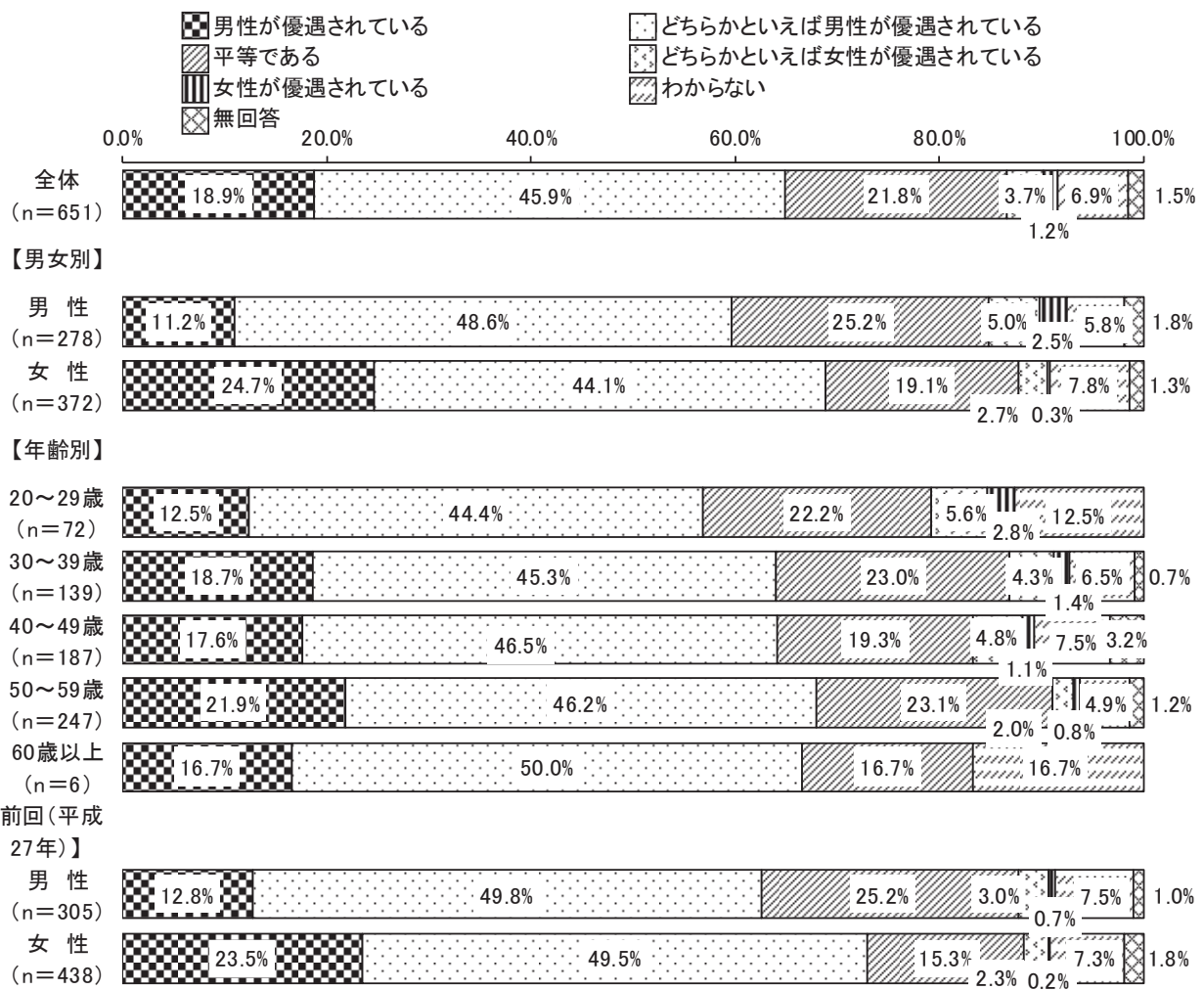
【年齢別】

50～59歳では、「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が2割を超えている（21.0%）。

【前回調査（平成27年）比較】

男女とも、「平等である」と回答した割合が最も高いが、前回調査と比べると、「平等である」と回答した男性の割合は減少している。

④習慣・しきたりの面から〈男女別・年齢別〉



	「男性が優遇されている」	「女性が優遇されている」
全体 (n=651)	18.9%	1.2%
【男女別】		
男性 (n=278)	11.2%	2.5%
女性 (n=372)	24.7%	0.3%
【年齢別】		
20～29歳 (n=72)	12.5%	2.8%
30～39歳 (n=139)	18.7%	1.4%
40～49歳 (n=187)	17.6%	1.1%
50～59歳 (n=247)	21.9%	0.8%
60歳以上 (n=6)	16.7%	0.0%

【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 11.2%、女性 24.7%)。

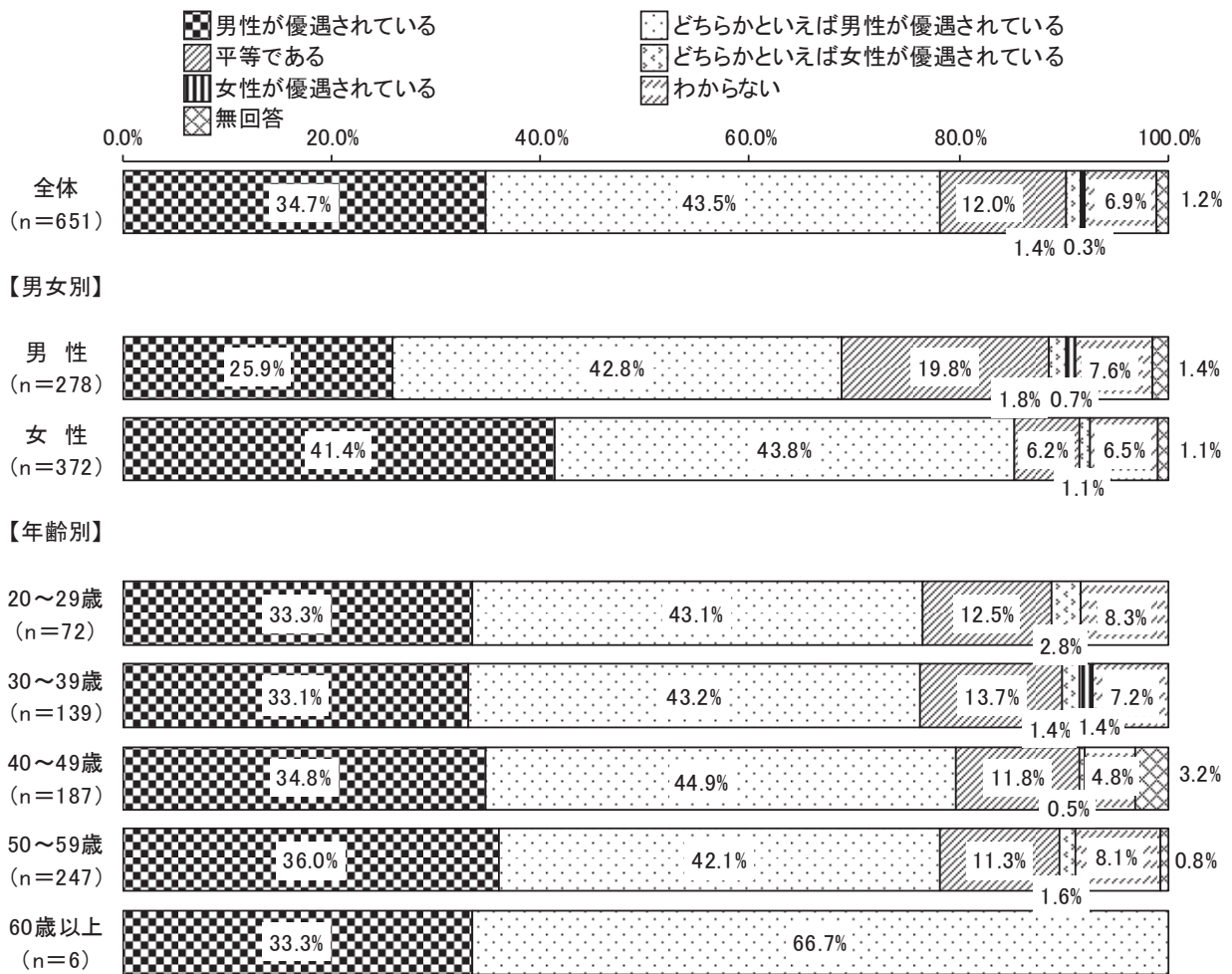
【年齢別】

50～59歳で「男性が優遇されている」と回答した割合が最も高い。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「男性が優遇されている」と回答した男性の割合は減少している。

⑤政治の場において＜男女別・年齢別＞



	「男性が優遇されている」	「女性が優遇されている」
全体 (n=651)	34.7%	0.3%
【男女別】		
男性 (n=278)	25.9%	0.7%
女性 (n=372)	41.4%	0.0%
【年齢別】		
20～29歳 (n=72)	33.3%	0.0%
30～39歳 (n=139)	33.1%	1.4%
40～49歳 (n=187)	34.8%	0.0%
50～59歳 (n=247)	36.0%	0.0%
60歳以上 (n=6)	33.3%	0.0%

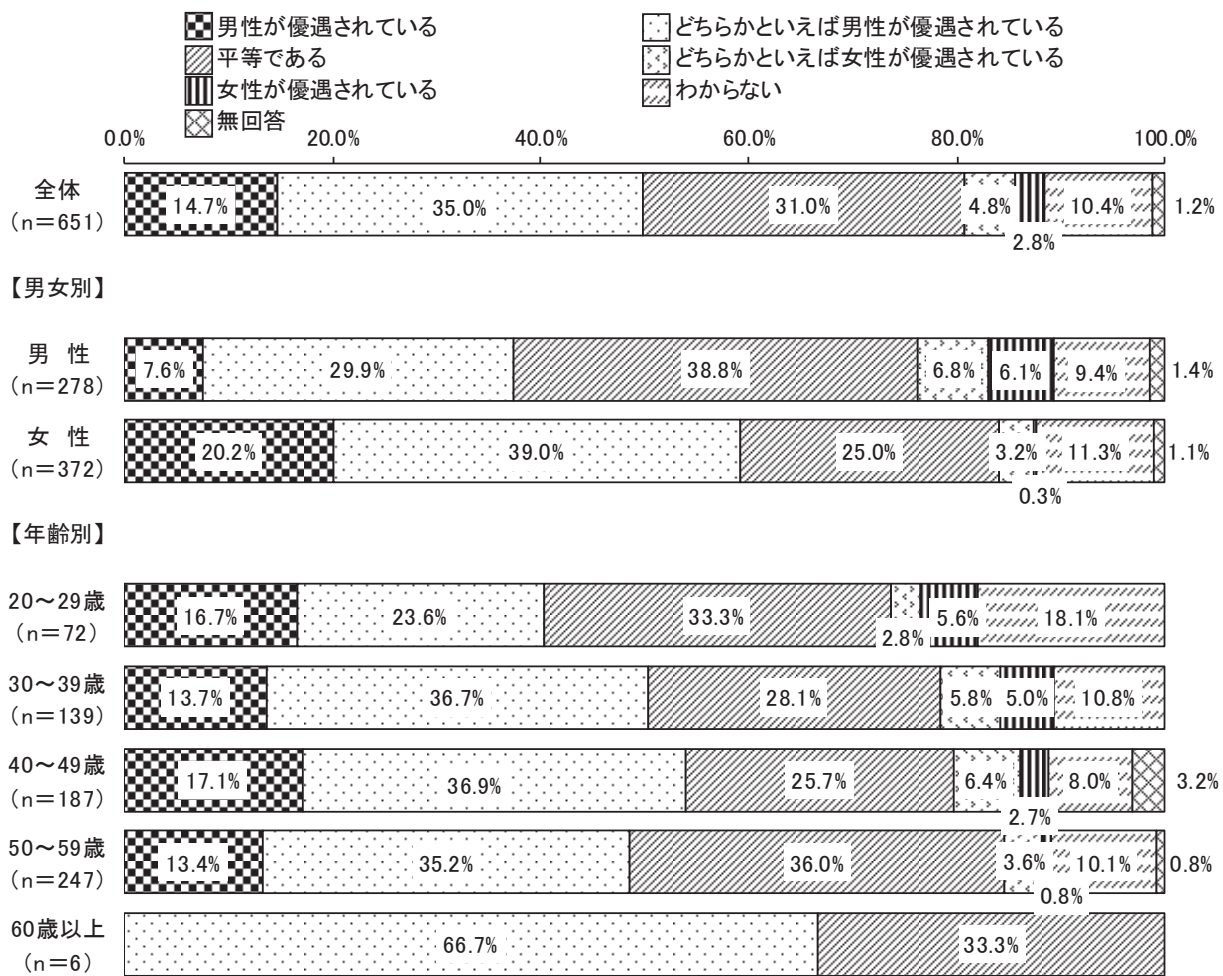
【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 25.9%、女性 41.4%)。

【年齢別】

各年齢で、「男性が優遇されている」と回答した割合が3割を超えている(20～29歳 33.3%、30～39歳 33.1%、40～49歳 34.8%、50～59歳 36.0%)。

⑥法律や制度の上において＜男女別・年齢別＞



	「男性が優遇されている」	「女性が優遇されている」
全体 (n=651)	14.7%	2.8%
【男女別】		
男性 (n=278)	7.6%	6.1%
女性 (n=372)	20.2%	0.3%
【年齢別】		
20～29歳 (n=72)	16.7%	5.6%
30～39歳 (n=139)	13.7%	5.0%
40～49歳 (n=187)	17.1%	2.7%
50～59歳 (n=247)	13.4%	0.8%
60歳以上 (n=6)	0.0%	0.0%

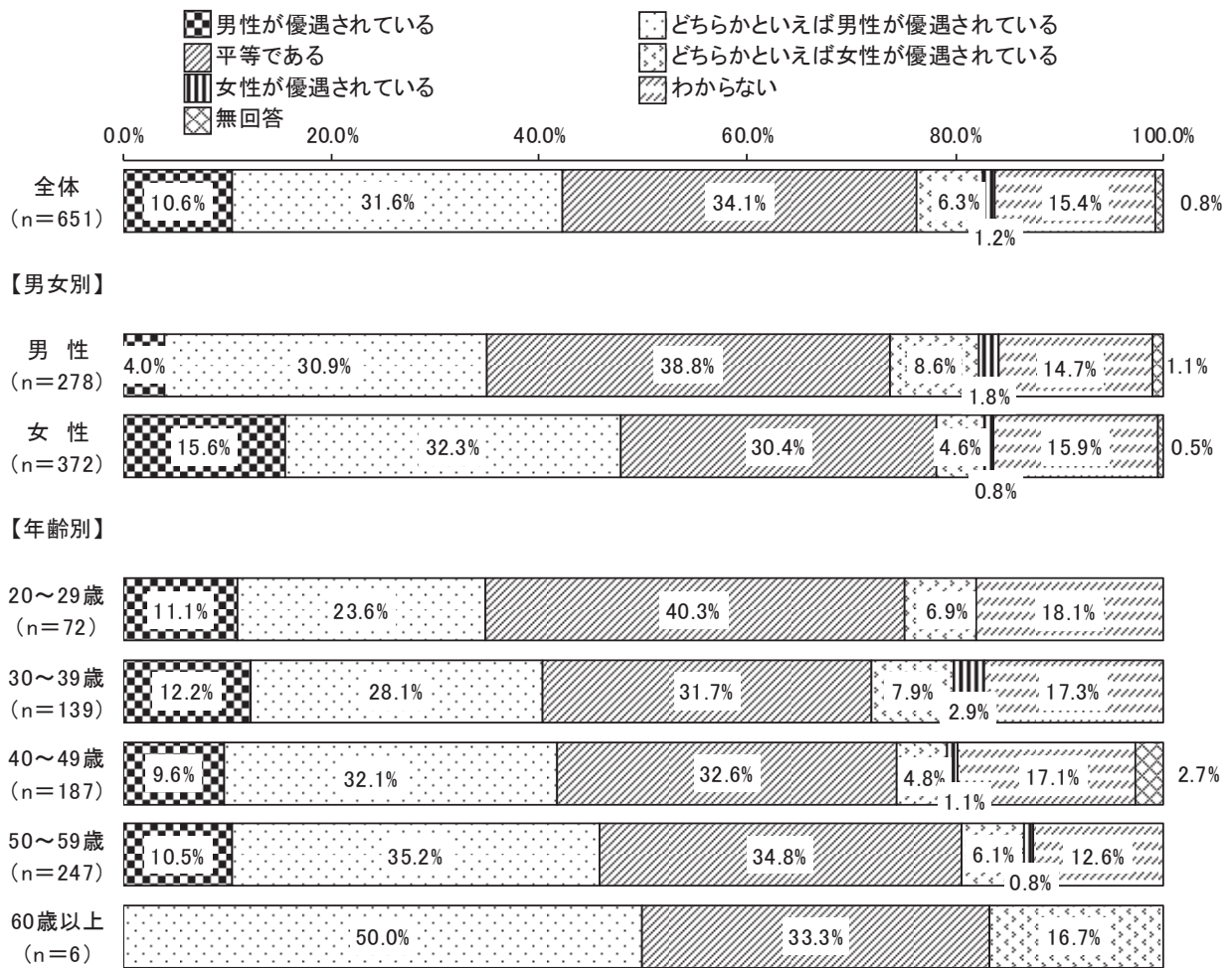
【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性7.6%、女性20.2%)。

【年齢別】

50～59歳で「平等である」と回答した割合が最も高い。

⑦自治会やPTAなど地域活動において＜男女別・年齢別＞



	「男性が優遇されている」	「女性が優遇されている」
全 体 (n=651)	10.6%	1.2%
【男女別】 男 性 (n=278)	4.0%	1.8%
女 性 (n=372)	15.6%	0.8%
【年齢別】 20～29歳 (n=72)	11.1%	0.0%
30～39歳 (n=139)	12.2%	2.9%
40～49歳 (n=187)	9.6%	1.1%
50～59歳 (n=247)	10.5%	0.8%
60歳以上 (n=6)	0.0%	0.0%

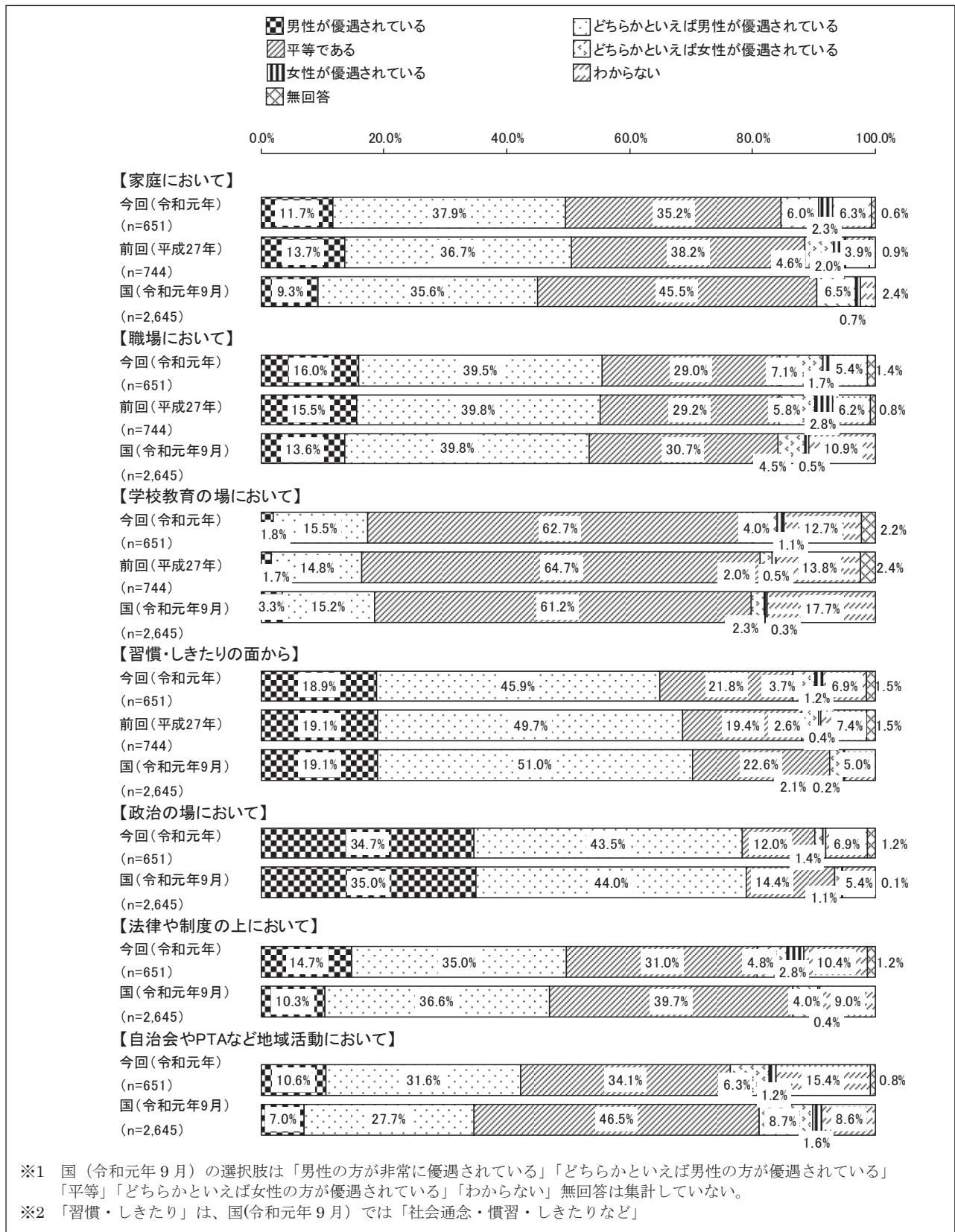
【男女別】

「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 4.0%、女性 15.6%)。

【年齢別】

年齢が高くなるほど、「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が高くなっている。

⑧男女の地位の平等感<前回（平成27年）および国（令和元年）との比較>

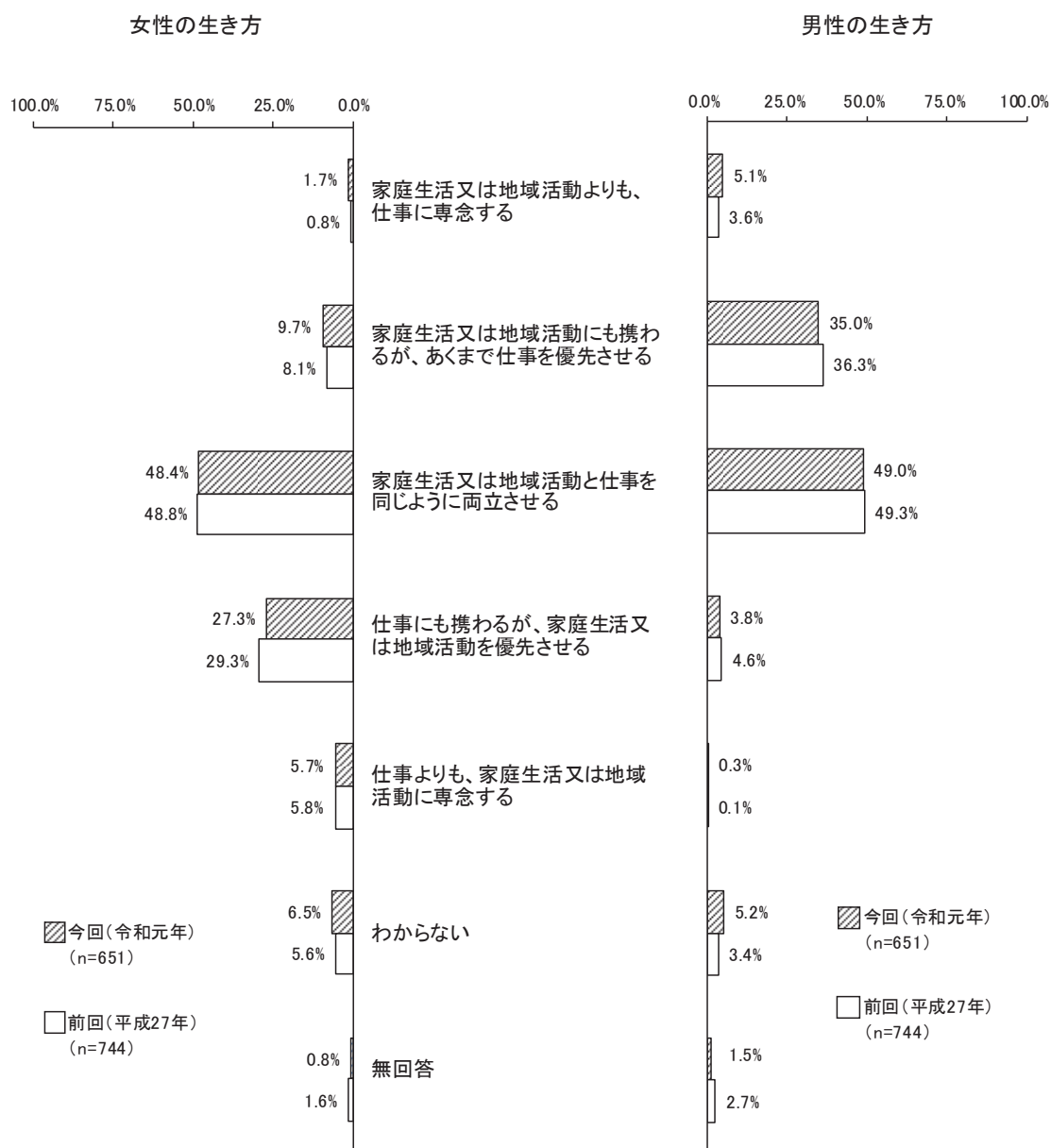


【前回調査（平成27年）及び国（令和元年9月）比較】

前回調査に比べ、『家庭において』は「男性が優遇されている」と回答した割合が減少している。国の調査と比較すると、『法律や制度の上において』や『自治会やPTAなど地域活動において』で「男性が優遇されている」と回答した割合が高い。

(2) 男女の望ましい生き方

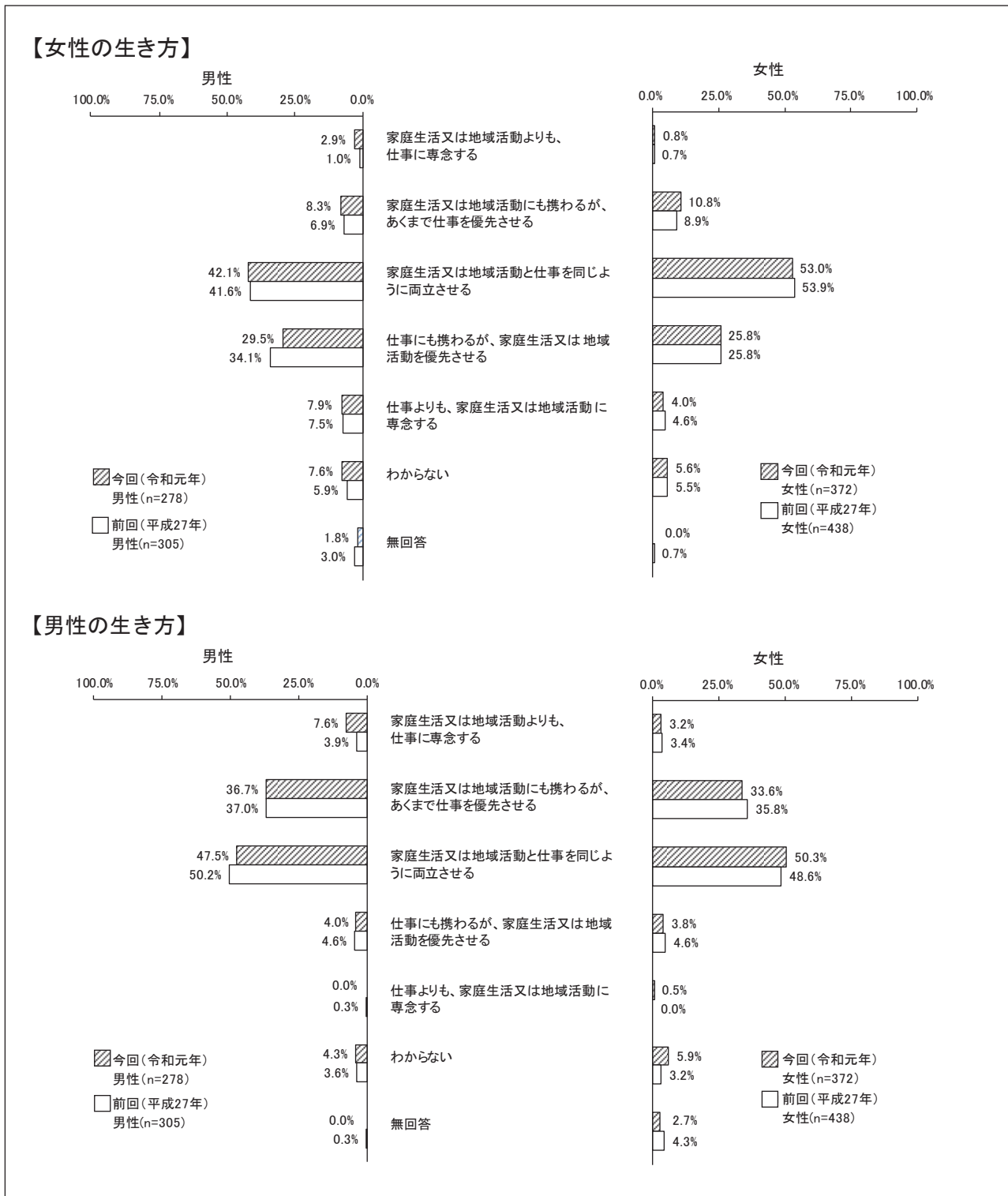
問2 女性及び男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。女性の生き方、男性の生き方両方についてお答えください。
(それぞれ〇は1つだけ)



【全体結果】

「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」生き方が望ましいと回答した割合が、『女性の生き方』で 48.4%、『男性の生き方』で 49.0%と最も高く、2番目に多い回答は、『女性の生き方』としては「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」が 27.3%であったのに対し、『男性の生き方』では「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が 35.0%であった。

①女性及び男性の望ましい生き方<男女別>



【男女別】

『女性の生き方』については、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が男女とも最も高く（男性 42.1%、女性 53.0%）、「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」の割合は女性より男性の方が高くなっている（男性 29.5%、女性 25.8%）。

『男性の生き方』については、男女とも「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が最も高く（男性 47.5%、女性 50.3%）、次いで「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が男女ともに同程度で続いている（男性 36.7%、女性 33.6%）。

②女性及び男性の望ましい生き方<年齢別>

女性の望ましい生き方<年齢別>

	家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する	家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる	家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる	仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる	仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する	わからない	無回答
20～29歳 (n=72)	0.0%	11.1%	45.8%	29.2%	5.6%	5.6%	2.8%
30～39歳 (n=139)	3.6%	7.2%	46.8%	29.5%	5.0%	7.9%	0.0%
40～49歳 (n=187)	1.6%	7.0%	49.7%	28.3%	5.3%	7.0%	1.1%
50～59歳 (n=247)	1.2%	13.0%	48.6%	25.1%	6.5%	5.3%	0.4%
60歳以上 (n=6)	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%

男性の望ましい生き方<年齢別>

	家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する	家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる	家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる	仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる	仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する	わからない	無回答
20～29歳 (n=72)	8.3%	26.4%	51.4%	8.3%	0.0%	5.6%	0.0%
30～39歳 (n=139)	5.8%	34.5%	48.2%	5.0%	0.0%	4.3%	2.2%
40～49歳 (n=187)	4.8%	34.8%	49.7%	3.2%	1.1%	5.9%	0.5%
50～59歳 (n=247)	4.0%	37.7%	48.2%	2.4%	0.0%	5.3%	2.4%
60歳以上 (n=6)	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

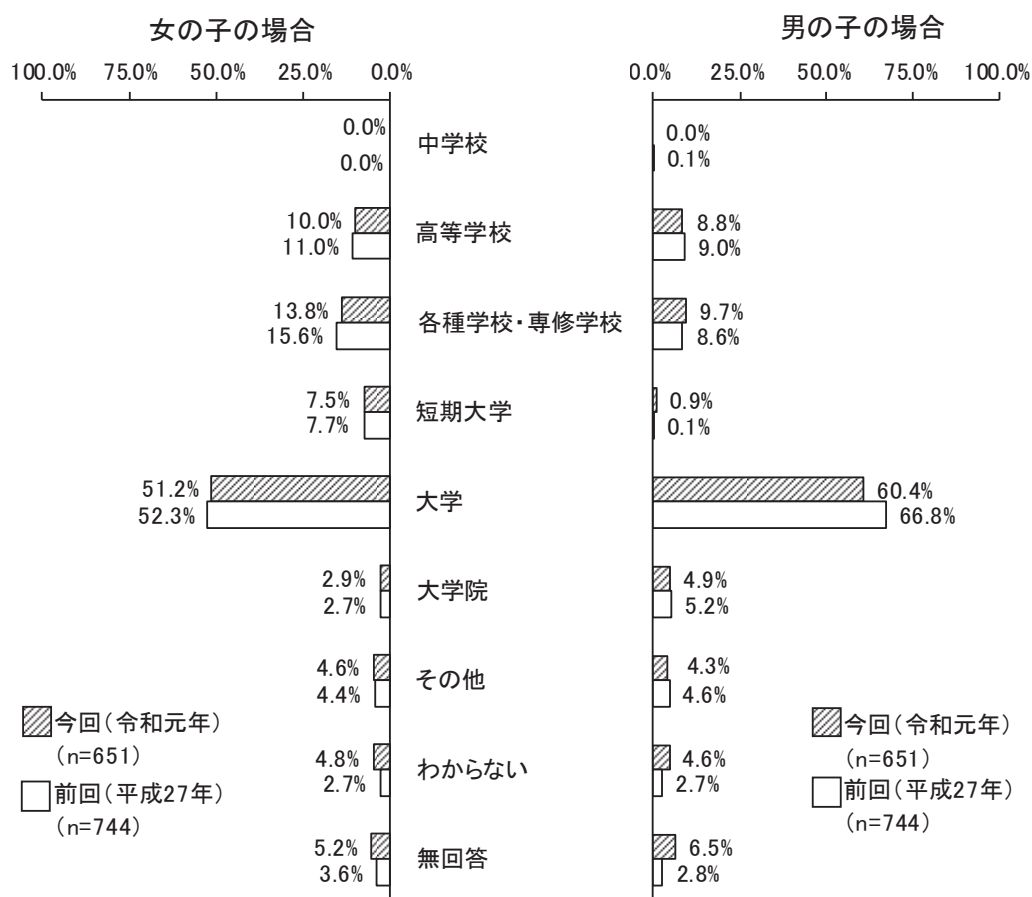
【年齢別】

『女性の望ましい生き方』、『男性の望ましい生き方』については、各年齢とも「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合が最も高い。

『女性の望ましい生き方』で2番目に多いのは、「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」となっているのに対し、『男性の望ましい生き方』では、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」となっている。

(3) 子どもに受けさせたい教育程度

問3 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。
 お子さんがいらっしゃる方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。(それぞれ○は1つだけ)



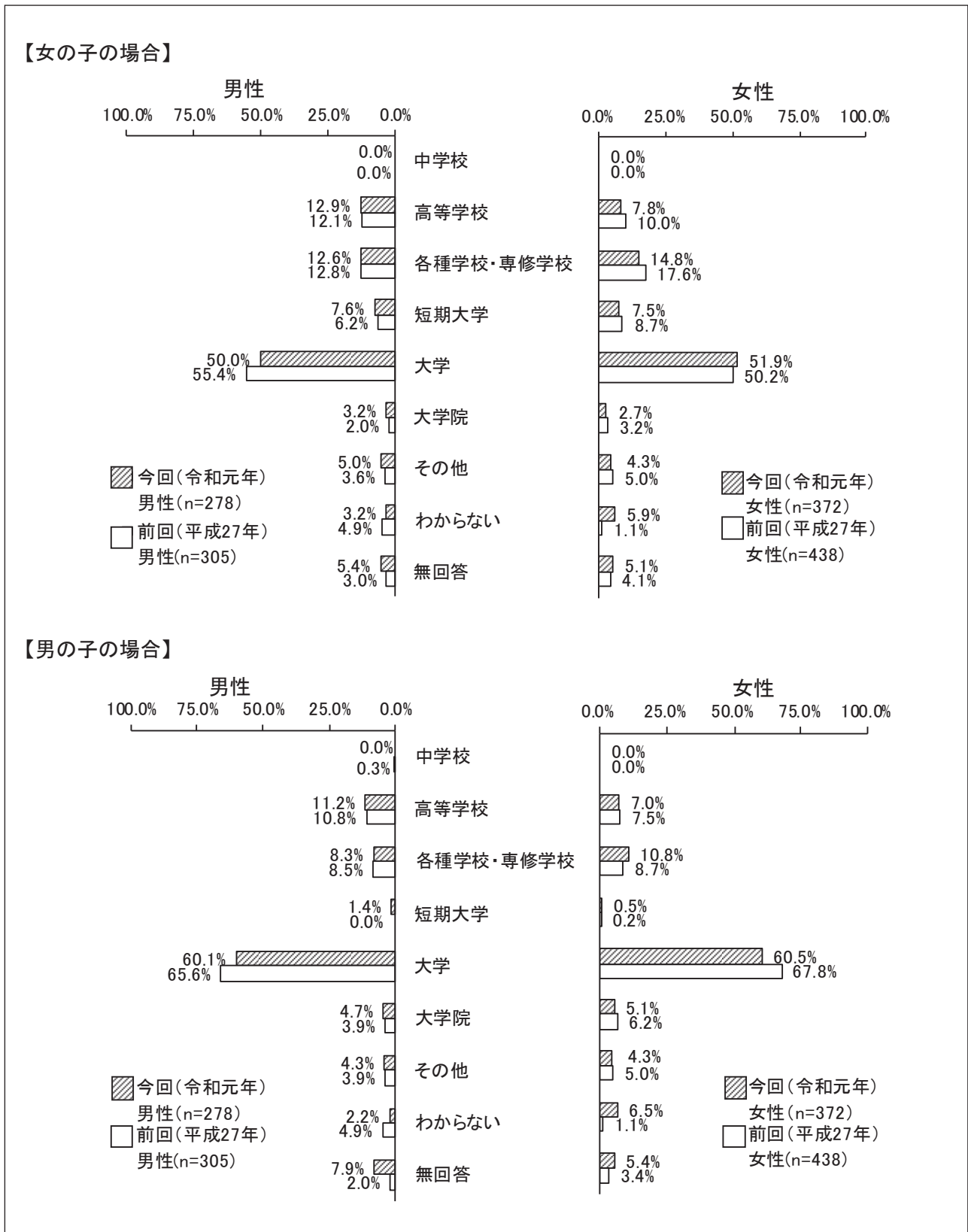
【全体結果】

女の子の場合も、男の子の場合も、「大学」まで教育を受けさせたいと考えている回答者が多い。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、『男の子に受けさせたい教育の程度』を「大学」と回答した割合は、減少している。

①子どもに受けさせたい教育程度 <男女別>

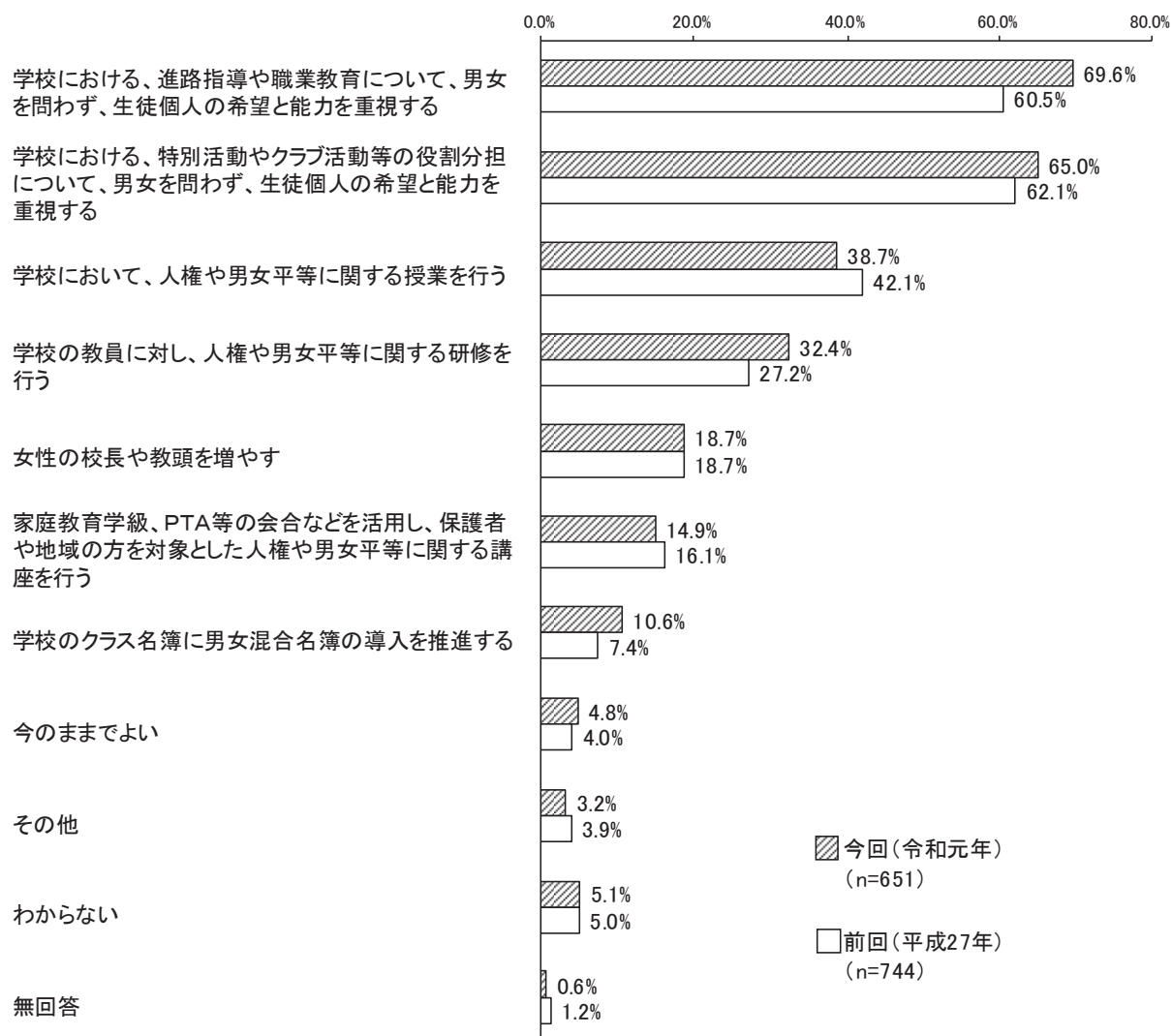


【男女別】

『女の子の場合』に受けさせたい教育の程度は、男女とも「大学」が最も高くなっているが（男性 50.0%、女性 51.9%）、『男の子の場合』に受けさせたい教育の程度を「大学」と回答した割合（男性 60.1%、女性 60.5%）より低くなっている。

(4) 人権や男女平等意識の育成のために必要なこと

問4 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)



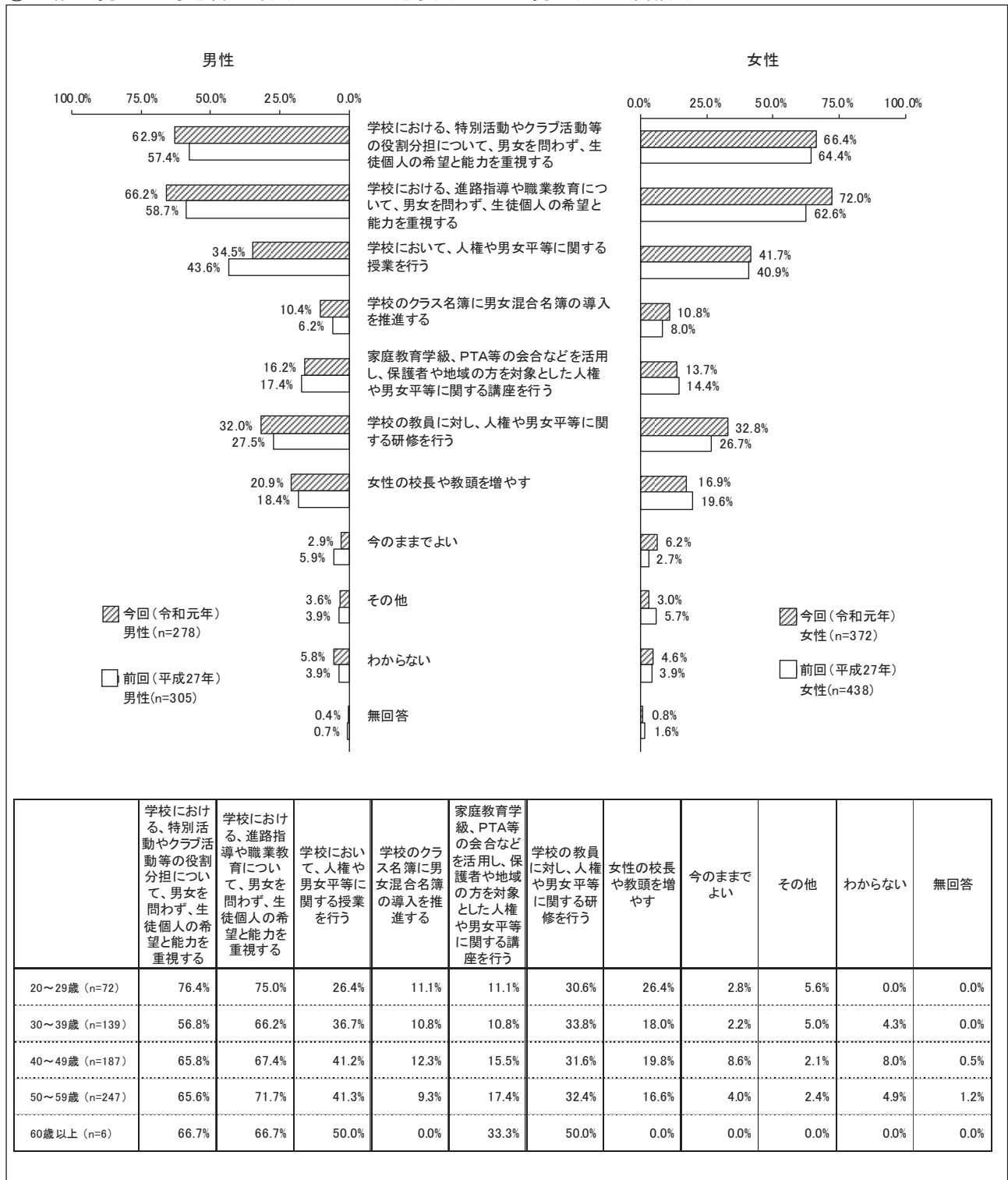
【全体結果】

人権や男女平等意識の育成のために必要なことは、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」が69.6%で最も高く、次いで「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」が65.0%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」、「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」や「学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う」の割合が増加している。

①人権や男女平等意識の育成のために必要なこと<男女別・年齢別>



【男女別】

男女とも、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」が最も多くなっている（男性 66.2%、女性 72.0%）。

【年齢別】

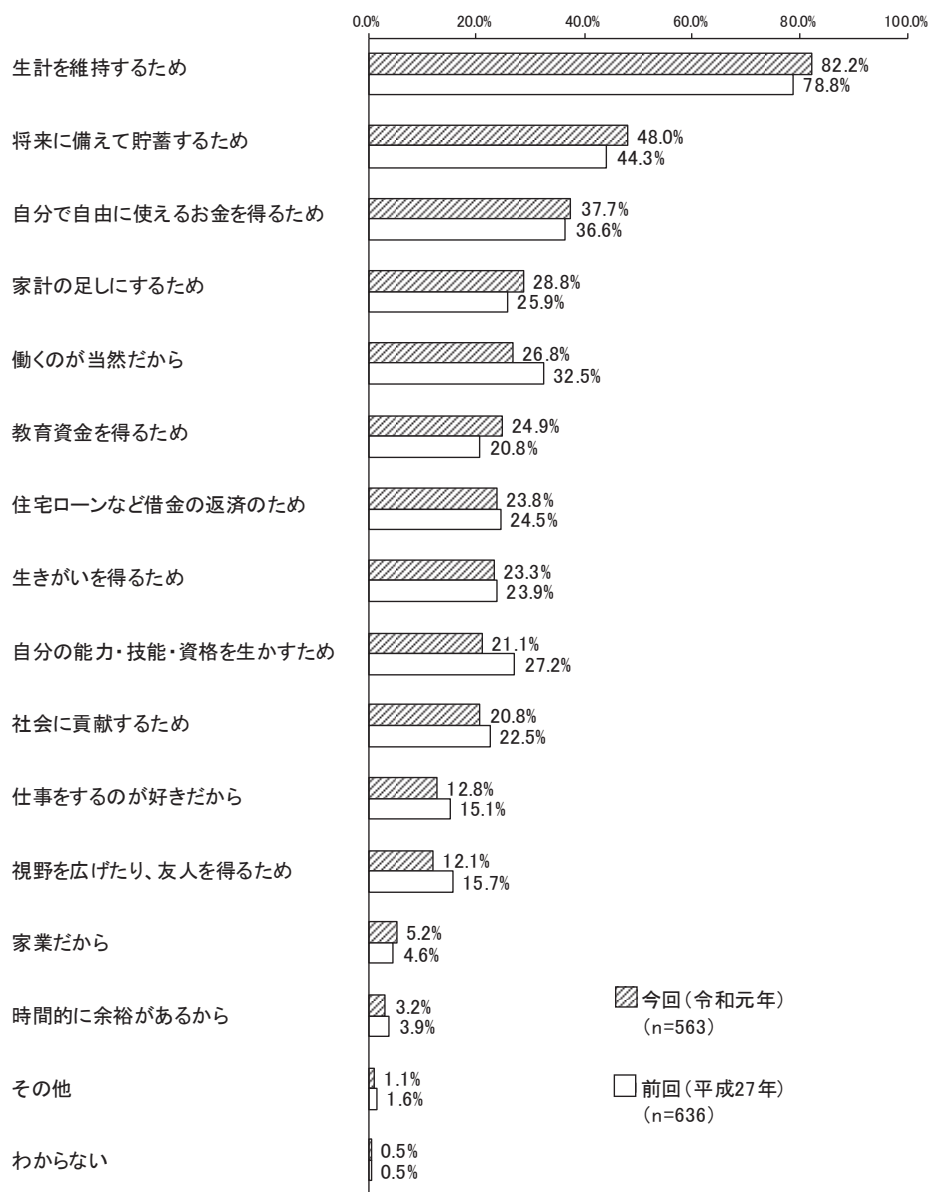
年齢が高くなるほど、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行う」と回答した割合が高い。

2. 仕事・家庭・地域生活に関する意識

(1) 仕事をしている理由

(現在、収入をとまなう仕事をしていらっしゃる方(学生の方のアルバイトは除く)にだけお聞きします)

問5 あなたが仕事をしている理由は何ですか。(〇はいくつでも)



無回答を除いて算出

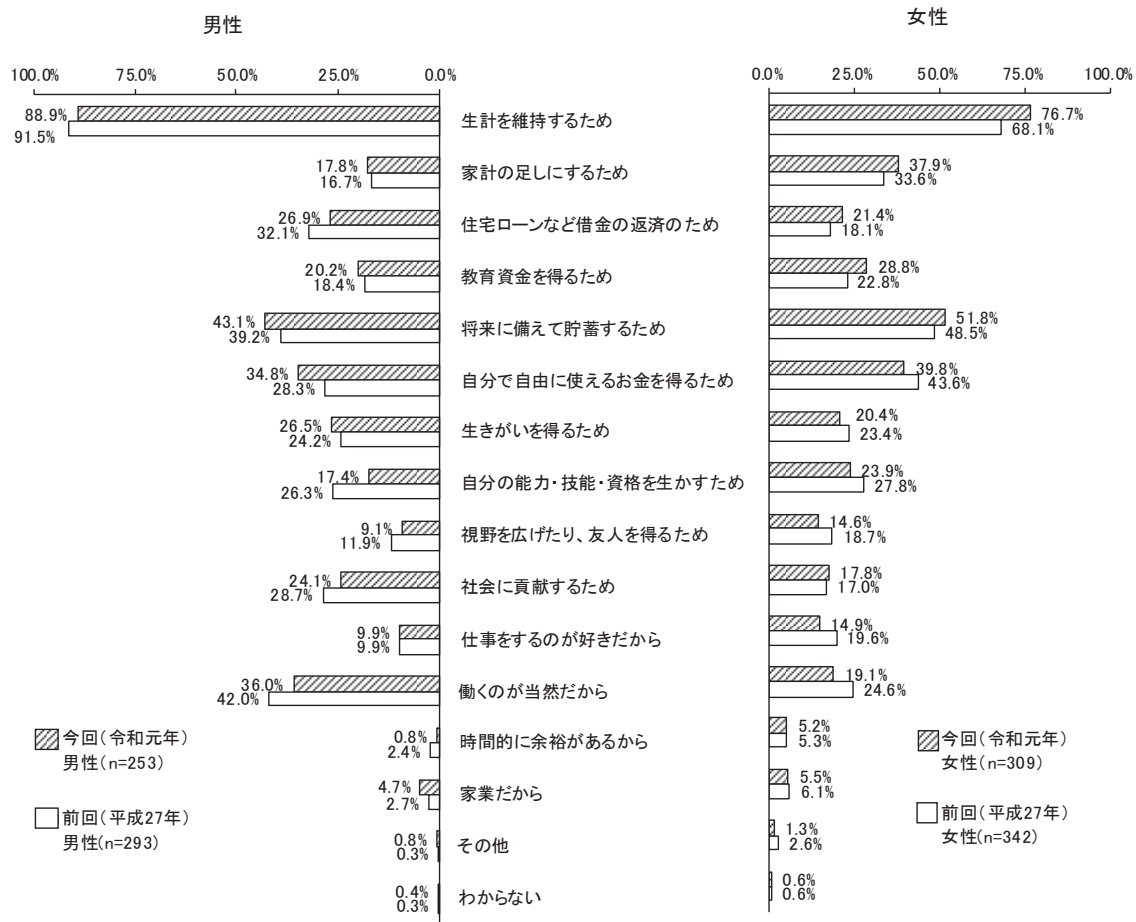
【全体結果】

仕事をしている理由は、「生計を維持するため」が82.2%と最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が48.0%、「自分で自由に使えるお金を得るため」が37.7%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「生計を維持するため」、「将来に備えて貯蓄するため」などで増加している。

①仕事をしている理由<男女別・年齢別>



	生計を維持するため	家計の足しにするため	住宅ローンなど借金の返済のため	教育資金を得るため	将来に備えて貯蓄するため	自分で自由に使えるお金を得るため	生きがいを得るため	自分の能力・技能・資格を生かすため
20～29歳 (n=52)	73.1%	32.7%	15.4%	7.7%	46.2%	63.5%	23.1%	32.7%
30～39歳 (n=126)	83.3%	31.7%	21.4%	29.4%	52.4%	42.1%	17.5%	17.5%
40～49歳 (n=167)	80.8%	34.7%	32.9%	37.7%	47.3%	37.1%	23.4%	22.8%
50～59歳 (n=215)	85.1%	21.9%	20.5%	16.7%	46.5%	29.8%	27.0%	19.5%
60歳以上 (n=3)	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

	視野を広げたり、友人を得るため	社会に貢献するため	仕事をするのが好きだから	働くのが当然だから	時間的に余裕があるから	家業だから	その他	わからない
20～29歳 (n=52)	7.7%	23.1%	7.7%	28.8%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%
30～39歳 (n=126)	7.9%	18.3%	7.9%	31.0%	2.4%	1.6%	0.8%	0.8%
40～49歳 (n=167)	18.6%	21.6%	15.6%	23.4%	5.4%	4.2%	2.4%	0.0%
50～59歳 (n=215)	10.7%	20.5%	14.9%	27.0%	2.8%	8.4%	0.0%	0.9%
60歳以上 (n=3)	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%

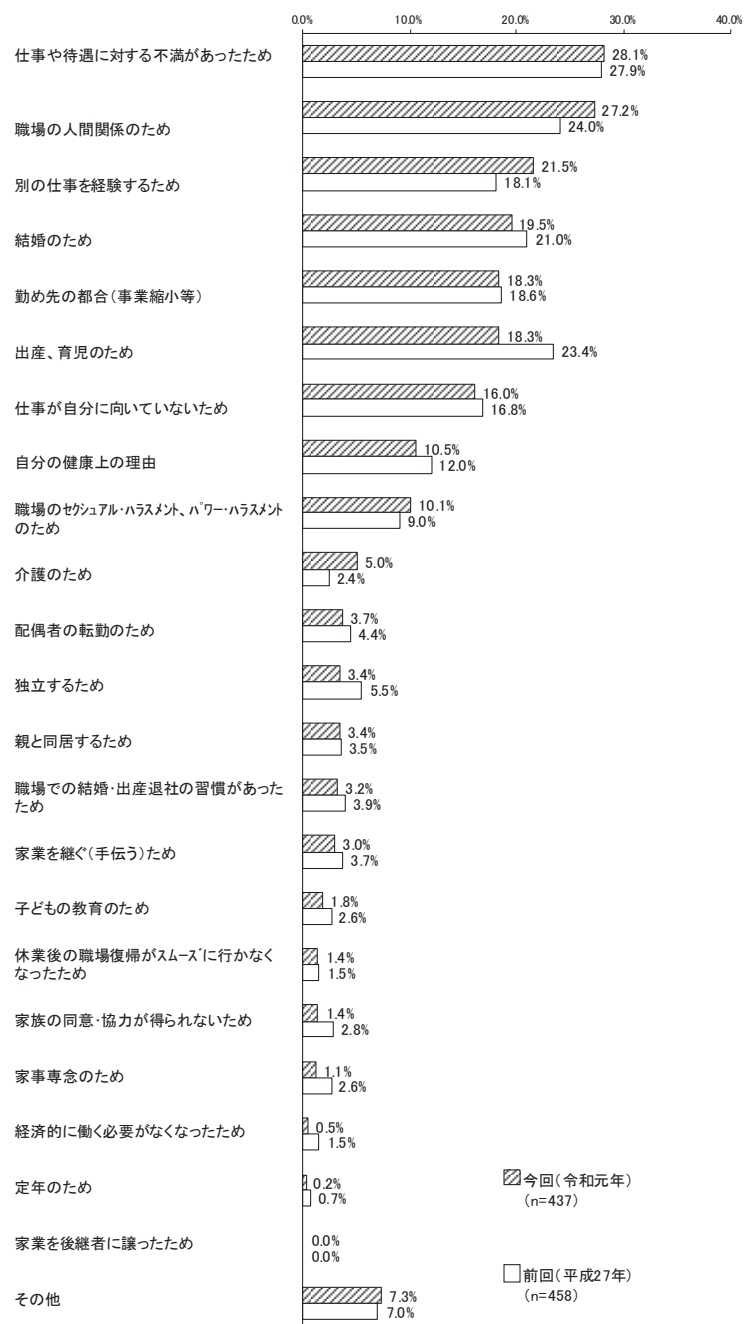
無回答を除いて算出

【男女別】

男女とも、「生計を維持するため」が最も多く（男性 88.9%、女性 76.7%）、次いで、「将来に備えて貯蓄するため」が続いている（男性 43.1%、女性 51.8%）。

(2) 仕事を辞めた理由

(これまでに仕事を退職した経験のある方にだけお聞きします)
 問6 あなたが仕事を辞めた理由は何ですか。(〇はいくつでも)



無回答を除いて算出

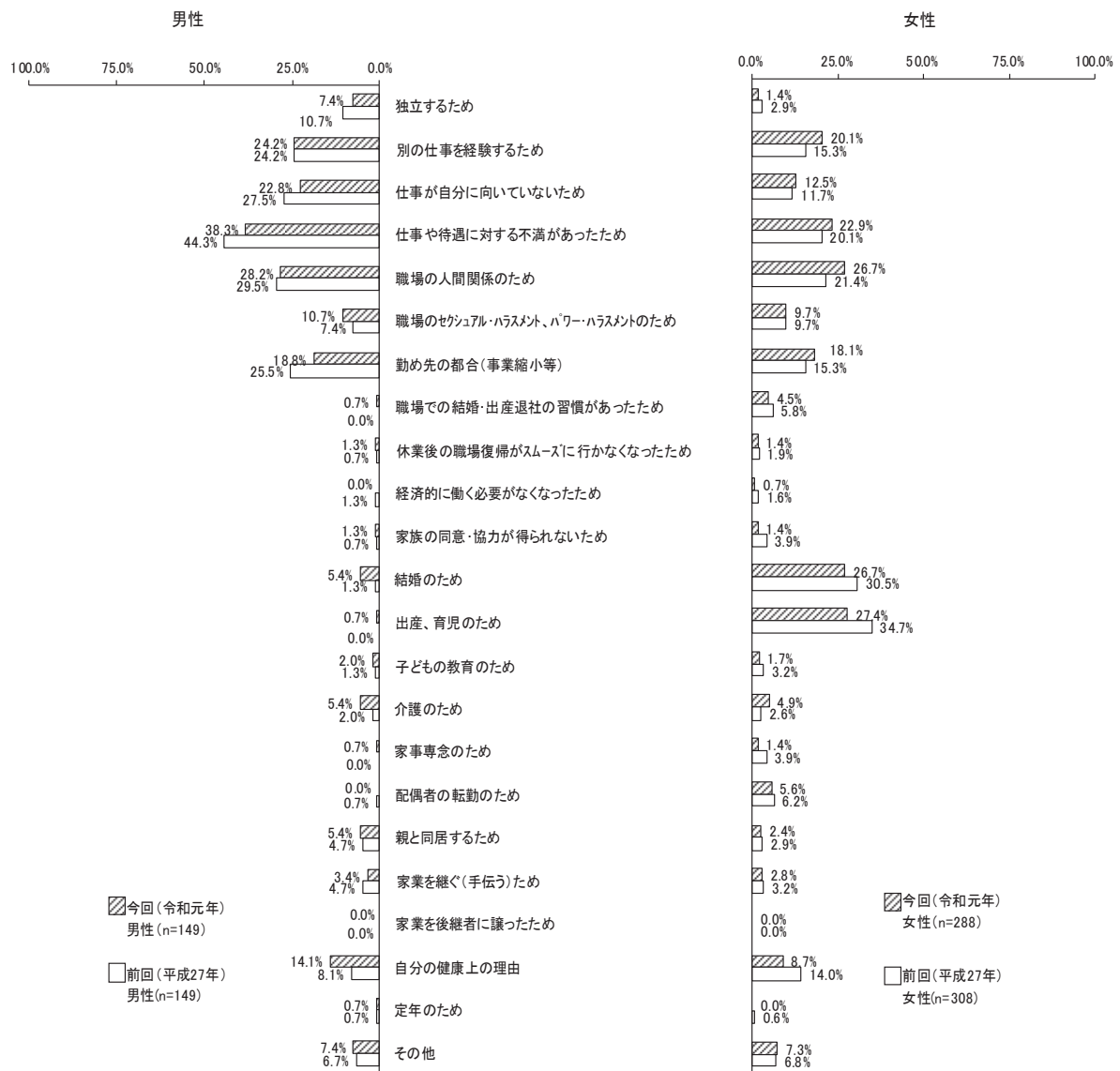
【全体結果】

仕事を辞めた理由は、「仕事や待遇に対する不満があったため」が28.1%で最も多く、次いで「職場の人間関係のため」が27.2%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「出産、育児のため」と回答した割合が減少している。

①仕事を辞めた理由<男女別・年齢別>



	独立するため	別の仕事を 経験する ため	仕事が自分 に向いてい ないため	仕事や待遇 に対する不 満があった ため	職場の人間 関係のため	職場のセク シュアル・ハ ラスメント、 パワー・ハラ スメントのため	勤め先の都 合(事業縮 小等)	職場での結 婚・出産退 社の習慣が あったため	休業後の職 場復帰がス ムーズに行 かなくなっ たため	経済的に働 く必要がな くなったた め	家族の同意・ 協力が得ら れないため	結婚のため
20～29歳 (n=35)	5.7%	42.9%	34.3%	54.3%	48.6%	20.0%	0.0%	0.0%	8.6%	0.0%	0.0%	5.7%
30～39歳 (n=97)	3.1%	23.7%	20.6%	29.9%	33.0%	10.3%	12.4%	4.1%	0.0%	0.0%	1.0%	15.5%
40～49歳 (n=128)	3.9%	21.9%	13.3%	28.9%	23.4%	10.9%	21.1%	2.3%	1.6%	0.0%	1.6%	18.0%
50～59歳 (n=173)	2.9%	16.2%	12.1%	22.0%	23.1%	7.5%	23.7%	3.5%	0.6%	0.0%	1.7%	24.9%
60歳以上 (n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%

	出産、育児 のため	子どもの教 育のため	介護のため	家事専念の ため	配偶者の転 勤のため	親と同居す るため	家業を継ぐ (手伝う) ため	家業を後継 者に譲った ため	自分の健康 上の理由	定年のため	その他
20～29歳 (n=35)	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	17.1%	0.0%	5.7%
30～39歳 (n=97)	22.7%	3.1%	0.0%	0.0%	3.1%	1.0%	1.0%	0.0%	9.3%	0.0%	9.3%
40～49歳 (n=128)	25.0%	2.3%	7.0%	2.3%	6.3%	2.3%	3.1%	0.0%	8.6%	0.0%	4.7%
50～59歳 (n=173)	12.1%	1.2%	7.5%	1.2%	2.3%	6.4%	4.6%	0.0%	11.6%	0.6%	8.1%
60歳以上 (n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%

無回答を除いて算出

【男女別】

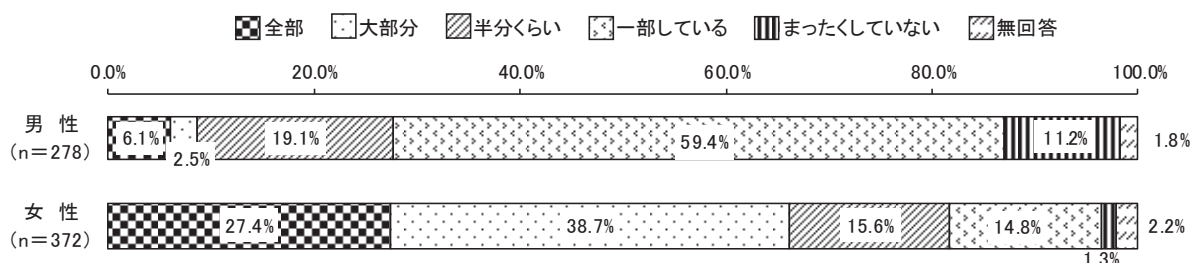
男性では「仕事や待遇に対する不満があったため」が38.3%で最も高く、次いで「職場の人間関係のため」が28.2%、「別の仕事を経験するため」が24.2%、「仕事が自分に向いてないため」が22.8%と続いている。

女性では「出産・育児のため」が27.4%で最も多く、次いで「職場の人間関係のため」、「結婚のため」が26.7%と続いている。

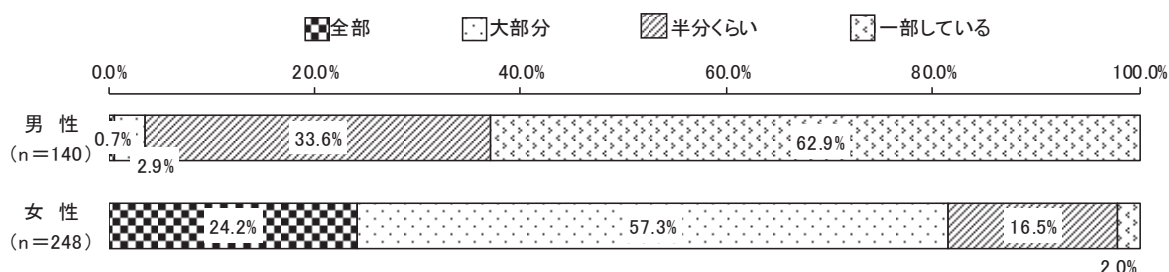
(3) 家事・育児・介護の負担割合

問7 仕事や家庭など、家庭の生活に必要な労働について、あなたはどのくらい分担していますか。①～③のそれぞれについて、一番近いものを選んでください。
(それぞれ〇は1つだけ)

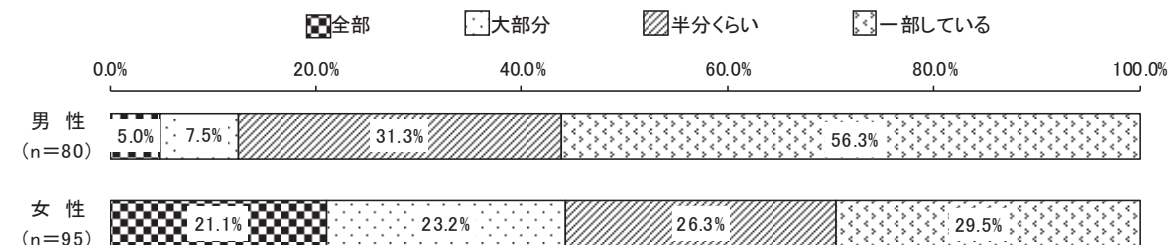
①家事の負担割合



②育児の負担割合 「小さな子どもはいない」及び「無回答」を除外した人数で算出



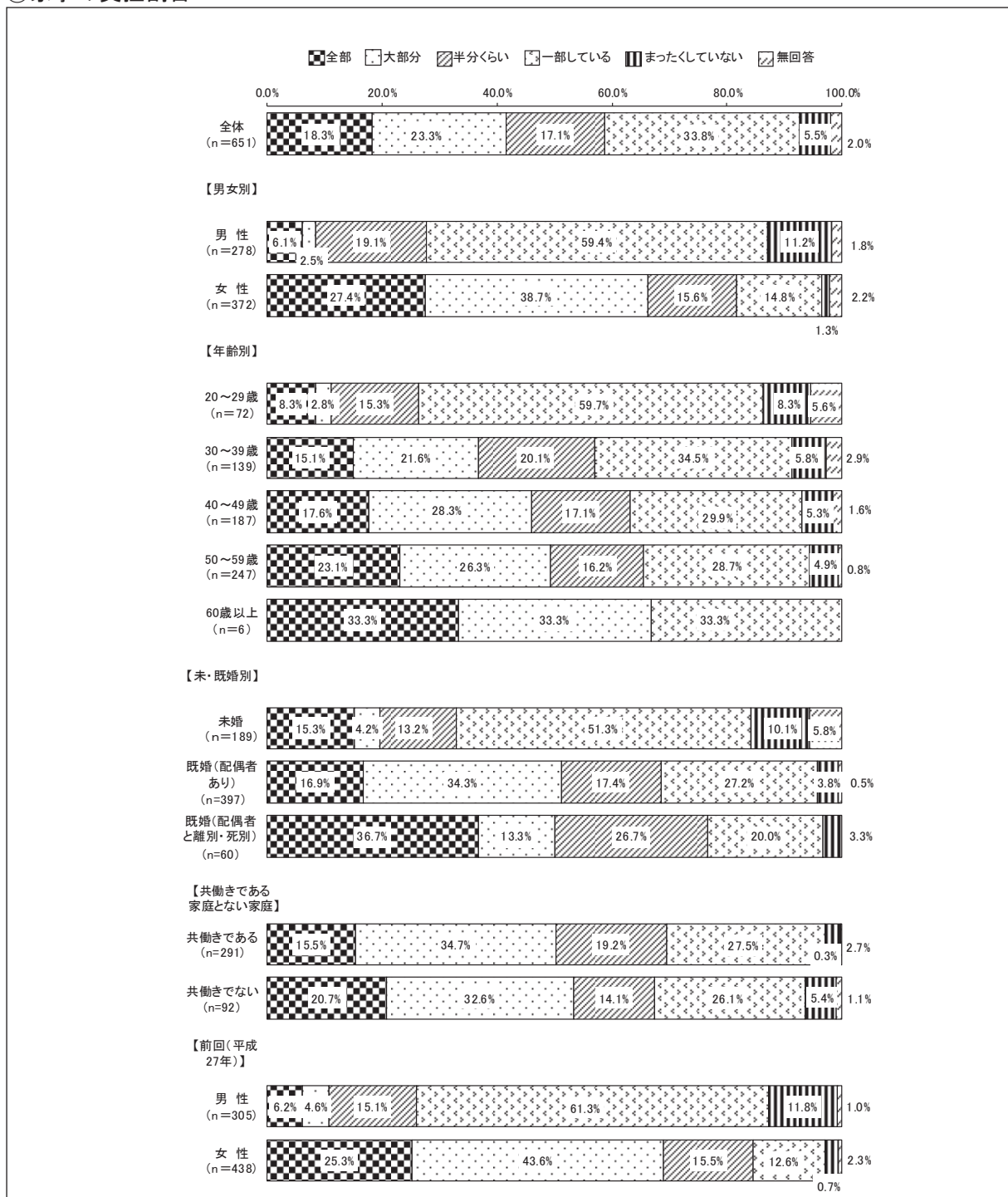
③介護の負担割合 「介護が必要な家族はいない」及び「無回答」を除外した人数で算出



【全体結果】

家事・育児・介護の家庭に必要な労働は、いずれも女性が負担している割合が高いが、『介護の負担割合』は、「全部」又は「大部分」と回答した女性の割合は44.3%と、家事・育児に比べると低い。

①家事の負担割合



【男女別】

『家事の負担割合』を「全部」又は「大部分」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 8.6%、女性 66.1%）。

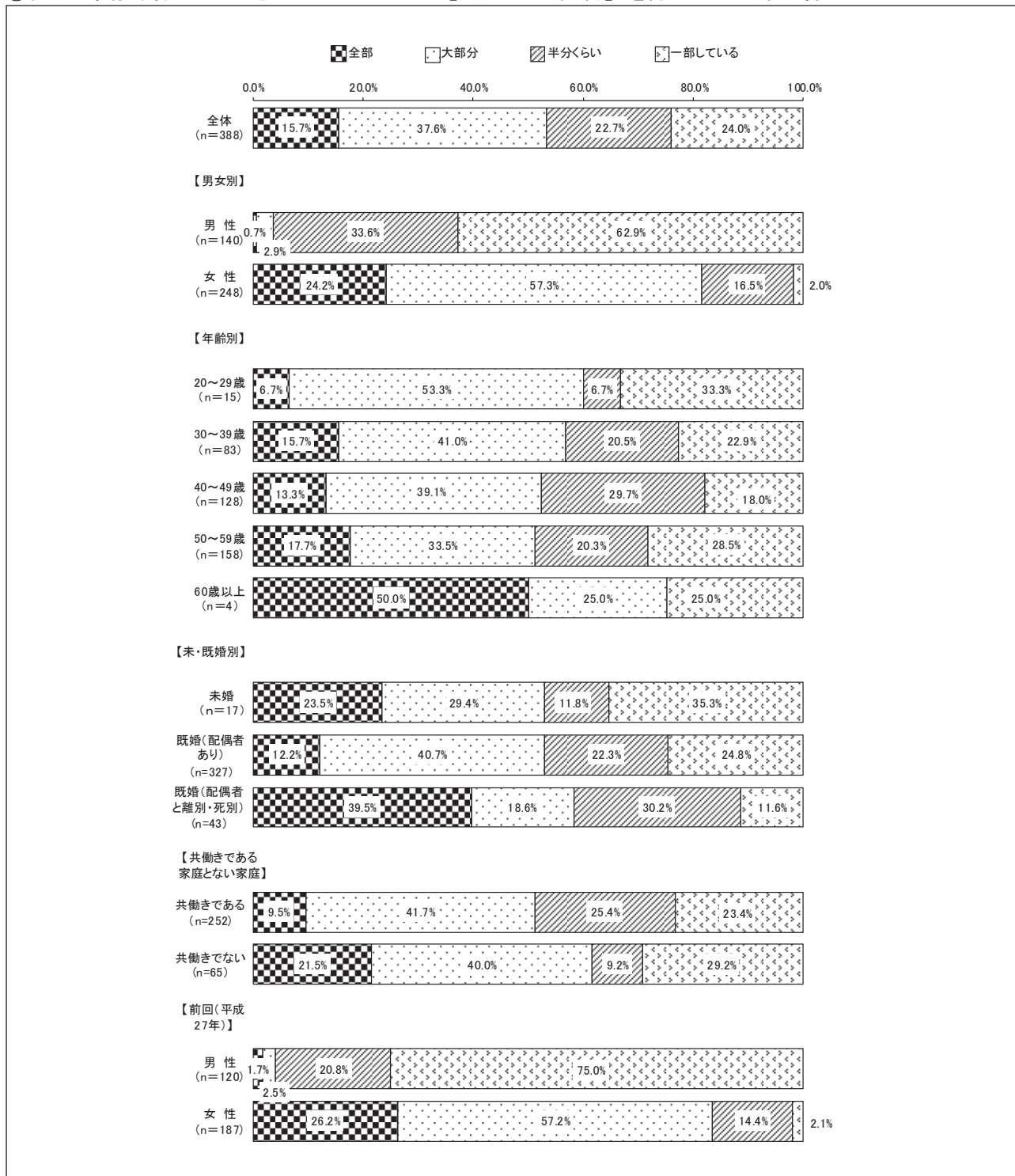
【年齢別】

年齢が高くなるほど、「全部」又は「大部分」と回答した割合が高い。

【共働きである家庭とない家庭】

共働きである家庭とない家庭では、「全部」又は「大部分」と回答した割合はそれほど変わらない。

②育児の負担割合 「小さな子どもはいない」及び「無回答」を除外した人数で算出



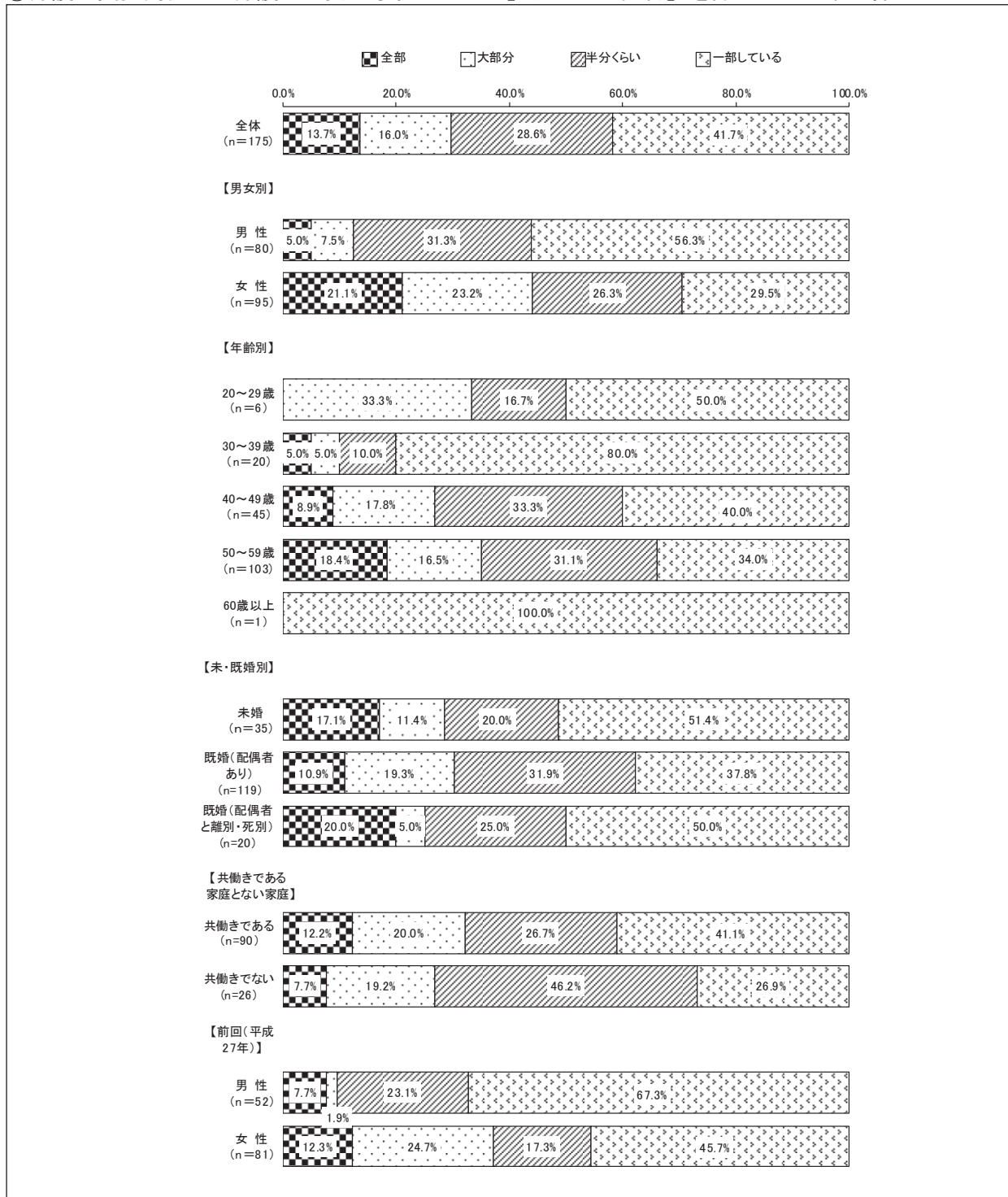
【男女別】

『育児の負担割合』を「全部」又は「大部分」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 3.6%、女性 81.5%）。

【共働きである家庭とない家庭】

共働きである家庭では、「半分くらい」と回答した割合が 25.4%と、共働きでない家庭の 9.2%に比べて高い。

③介護の負担割合 「介護が必要な家族はいない」及び「無回答」を除外した人数で算出



【男女別】

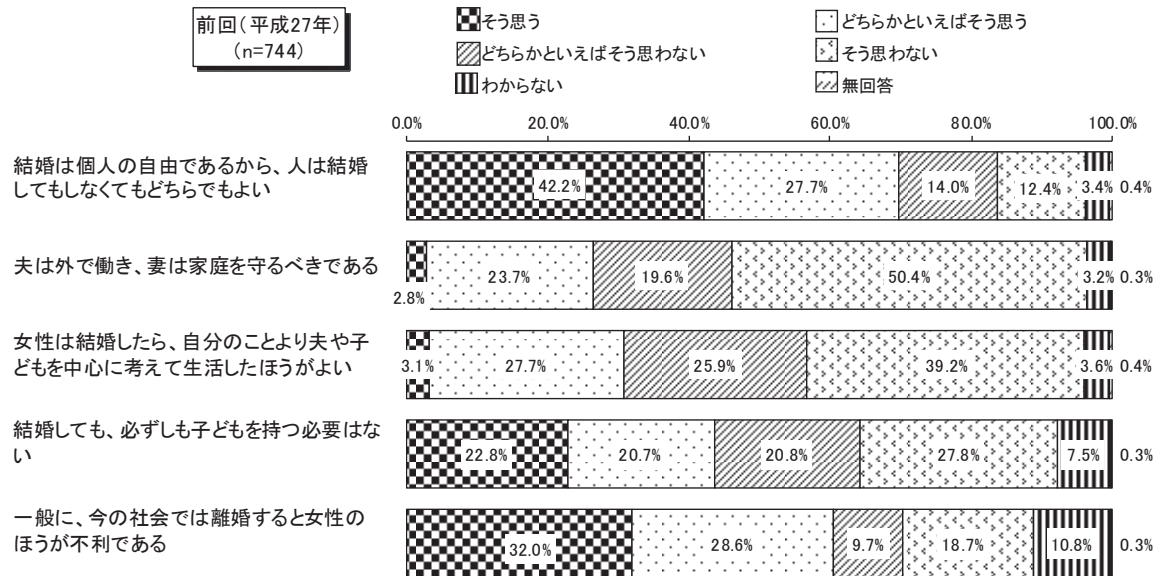
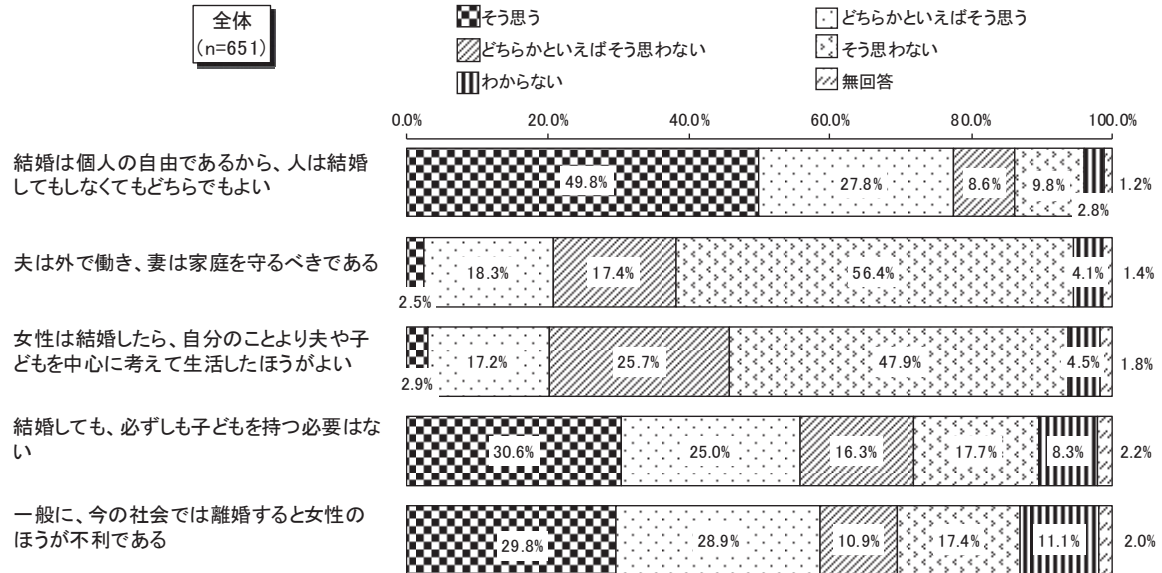
『介護の負担割合』を「全部」又は「大部分」と回答した割合は、女性の方が高い（男性 12.5%、女性 44.3%）。

【共働きである家庭とない家庭】

共働きである家庭とない家庭では、「全部」又は「大部分」と回答した割合に大きな差はないが、共働きでない家庭では「半分くらい」が46.2%と、共働きである家庭の26.7%に比べて高い。

(4) 家庭、結婚観

問8 次にあげた①～⑤の結婚、家庭、離婚に関する考え方について、それぞれあなたのお考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ○は1つだけ)



	「そう思う」「どちらかといえばそう思う」	「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」
結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	77.6%	18.4%
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	20.7%	73.7%
女性は結婚したら、自分のことより夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい	20.1%	73.6%
結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない	55.6%	33.9%
一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である	58.7%	28.3%

* 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」及び「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

【全体結果】

『結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考え方に、77.6%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答している。

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』については、73.7%が「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答している。

『女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい』については、73.6%が「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答している。

『結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない』については、55.6%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答している。

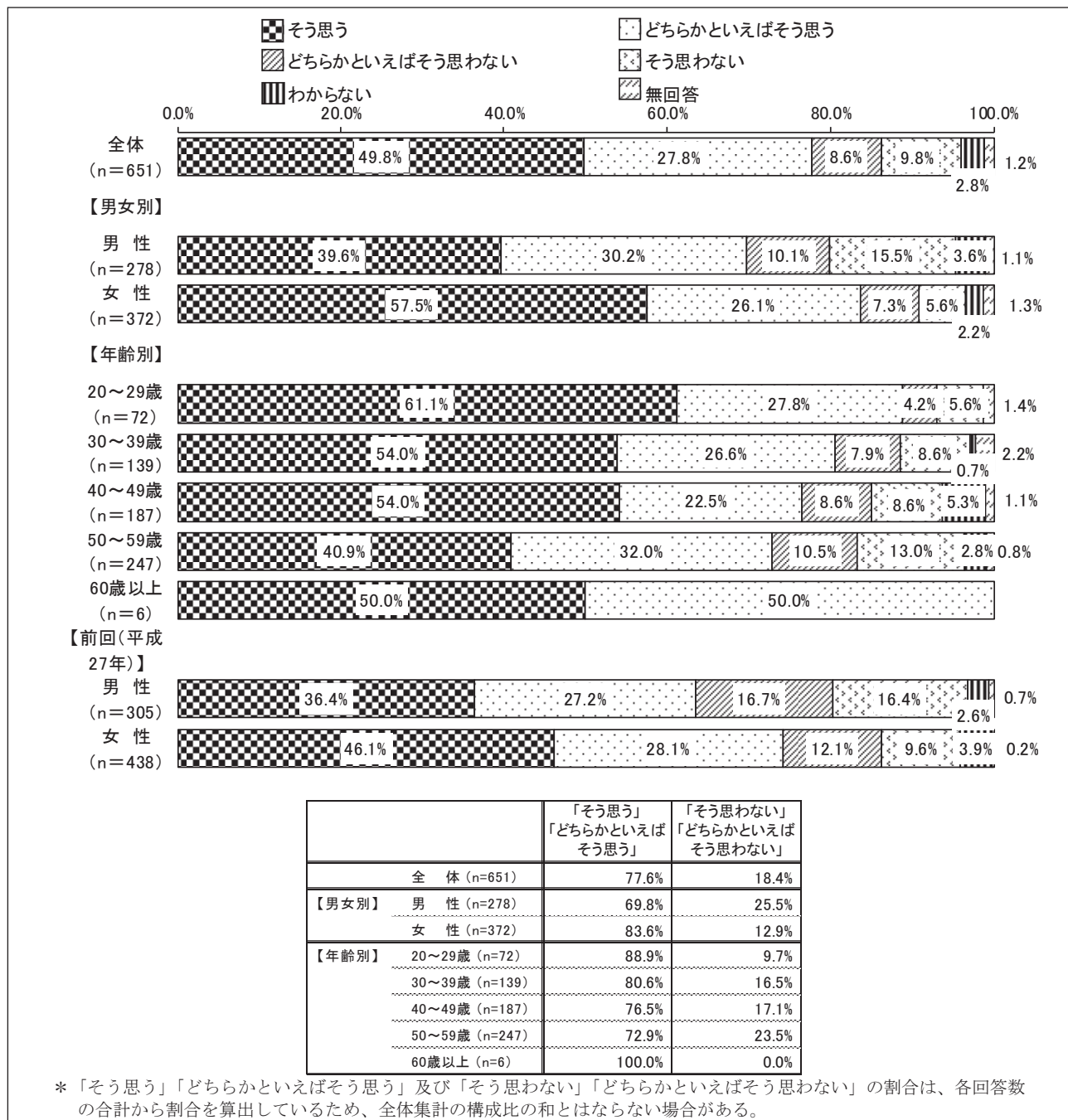
『一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である』については、58.7%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答している。

【前回調査（平成 27 年）比較】

前回調査と比べると、『結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考え方に、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が増加している。

また、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』という考え方についても、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が増加している。

①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい



【男女別】

『結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考え方に、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 69.8%、女性 83.6%)。

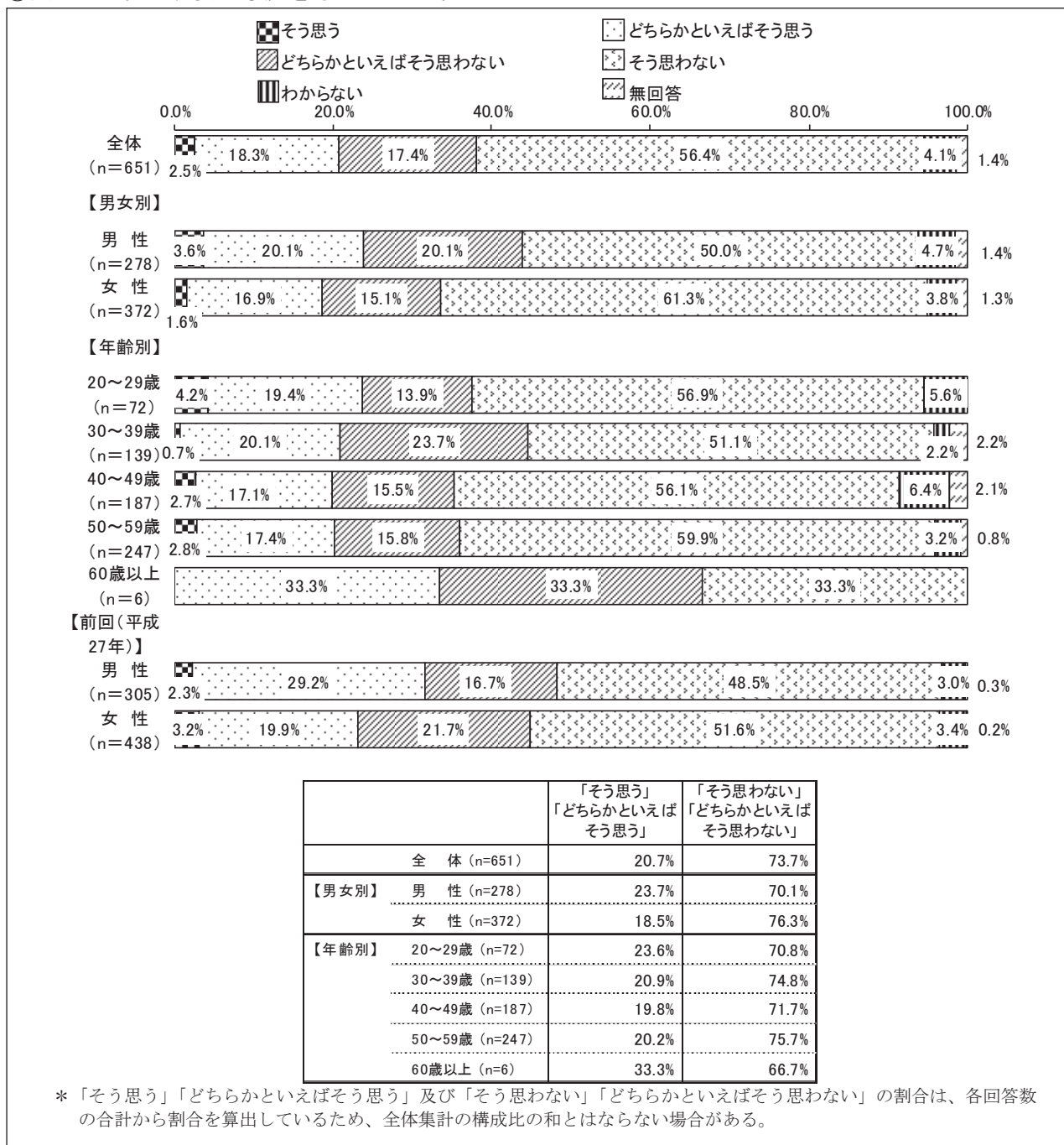
【年齢別】

年齢が若いほど、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高い。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男女とも増加している。

②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



【男女別】

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方に、「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性 70.1%、女性 76.3%）。

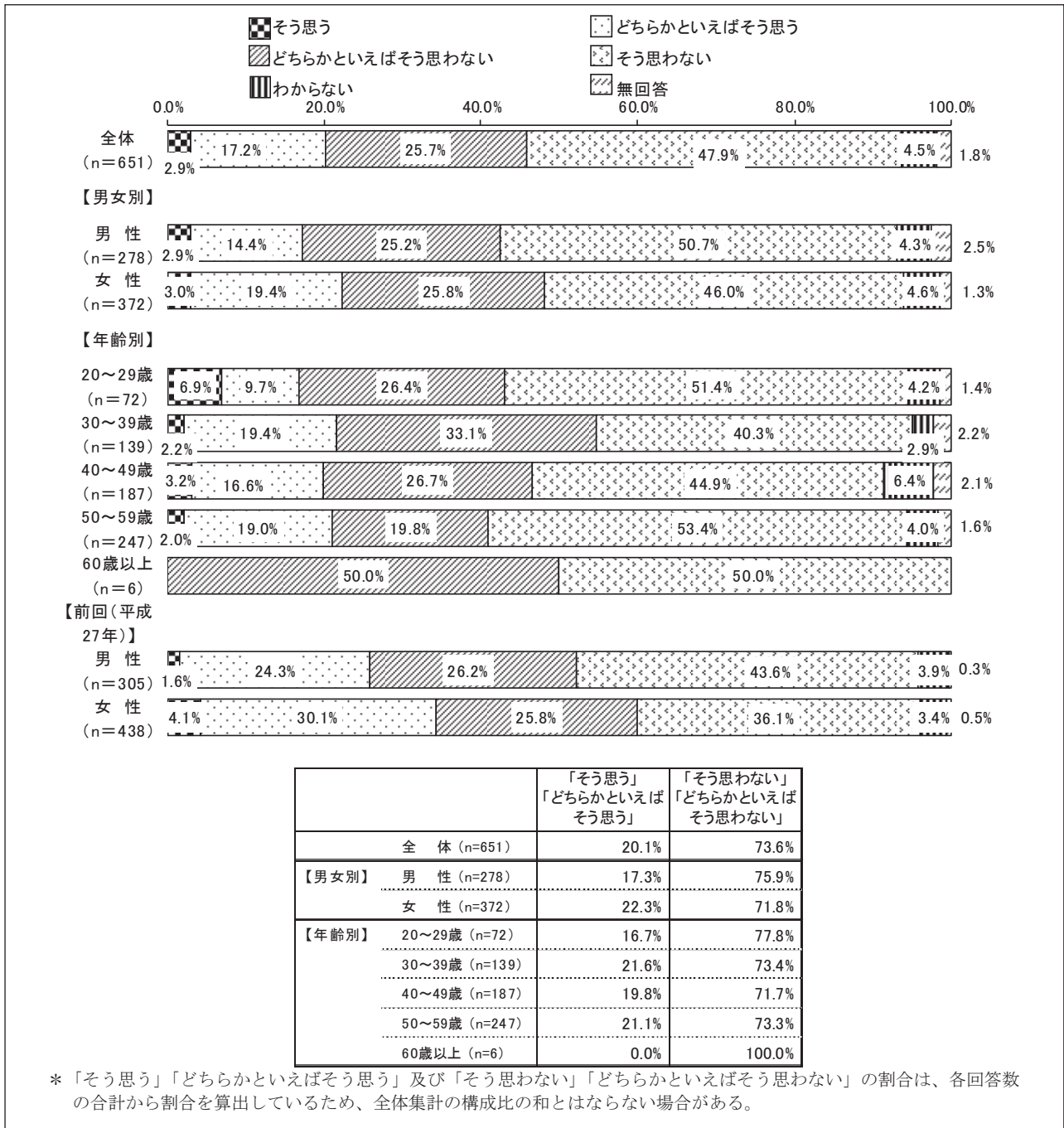
【年齢別】

60歳未満の各年齢とも、「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合が7割を超えている。

【前回調査（平成27年）比較】

前回調査と比べると、「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、男女とも増加している。

③女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい



【男女別】

『女性に結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい』という考え方に、「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、女性より男性の方が高い（男性 75.9%、女性 71.8%）。

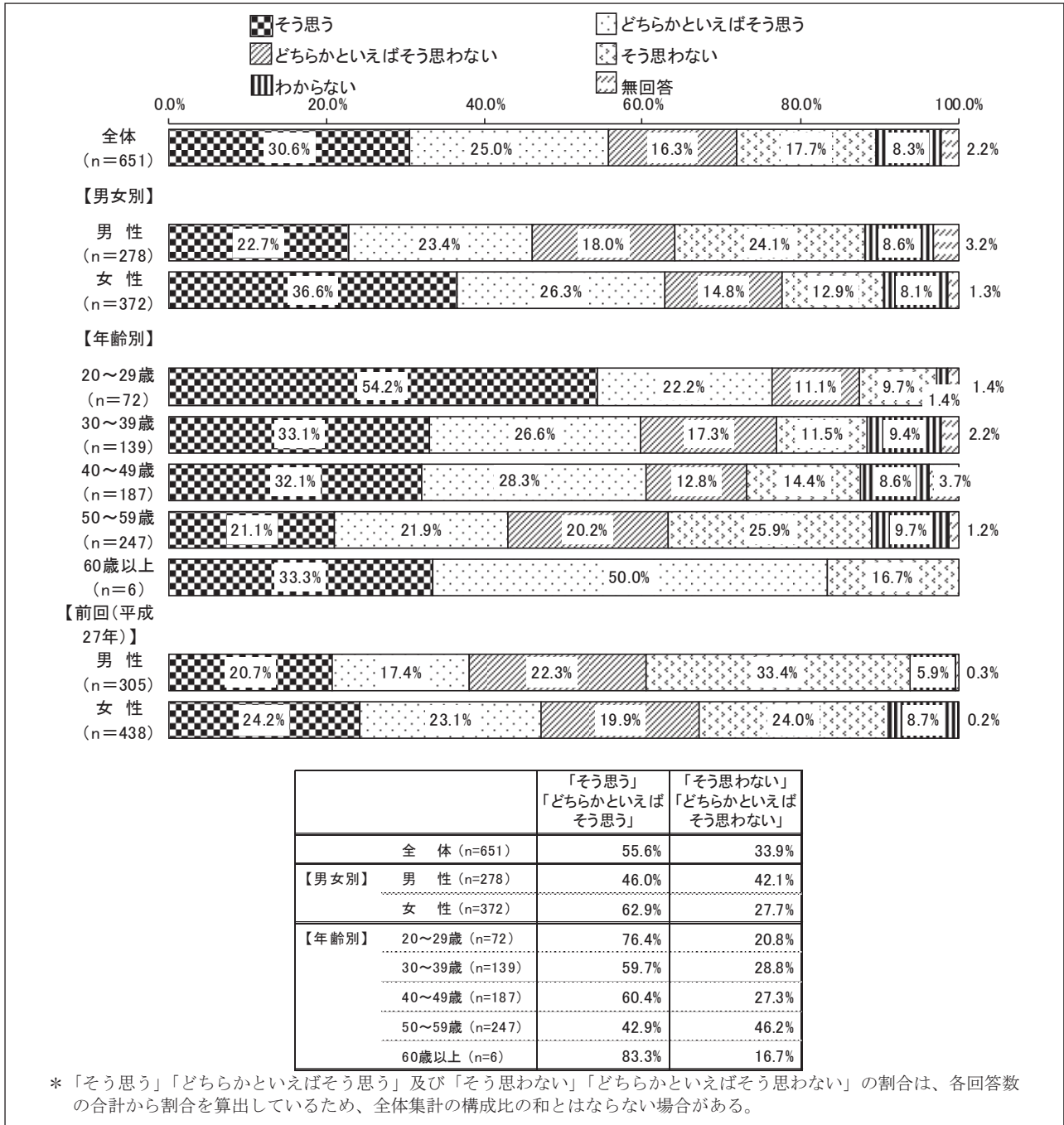
【年齢別】

各年齢とも、「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合が高い。

【前回調査（平成27年）比較】

前回調査と比べると、「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、男女とも増加している。

④結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



【男女別】

『結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない』という考え方に、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性 46.0%、女性 62.9%）。

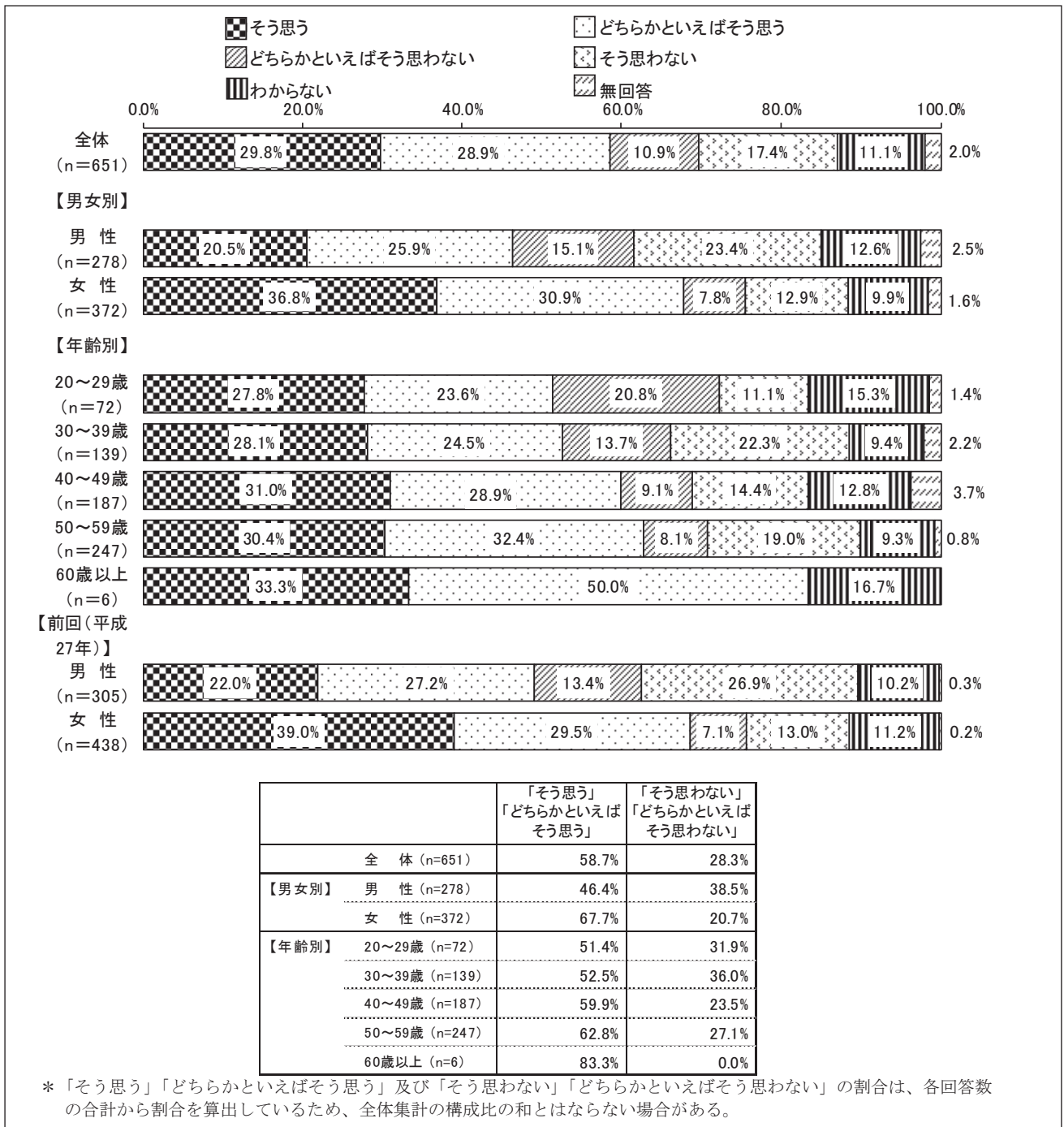
【年齢別】

50～59歳で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」と回答した割合が高い。

【前回調査（平成27年）比較】

前回調査と比べると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男女とも増加している。

⑤一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である



【男女別】

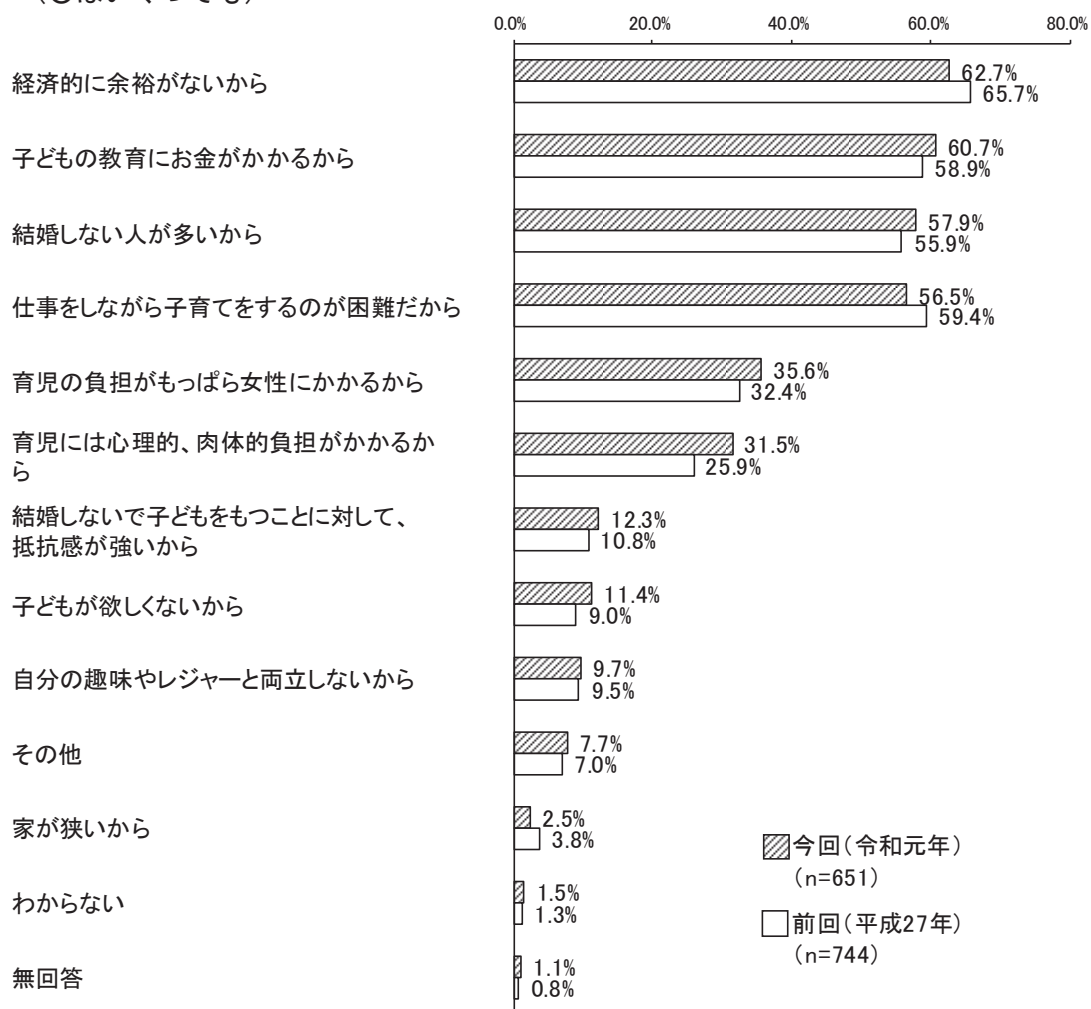
『一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である』という考え方に、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 46.4%、女性 67.7%)。

【年齢別】

年齢が高くなるほど、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高い。

(5) 出生数が減少している理由

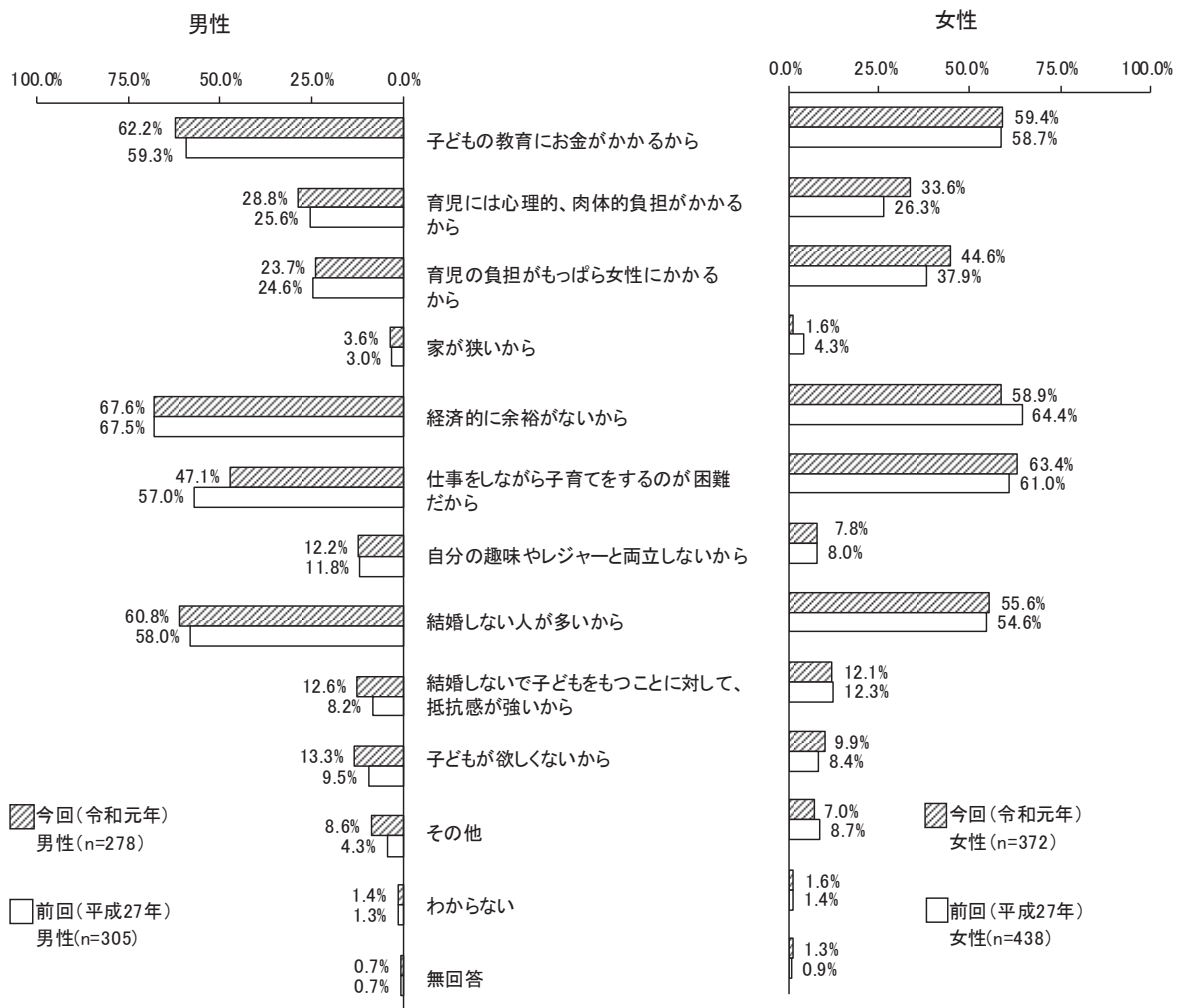
問9 最近、出生数が少なくなっていますが、あなたはその理由は何だと思えますか。
(〇はいくつでも)



【全体結果】

出生数が減少している理由は、「経済的に余裕がないから」が 62.7%で最も高く、次いで「子どもの教育にお金がかかるから」が 60.7%、「結婚しない人が多いから」が 57.9%、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」が 56.5%と続いている。

①出生数が減少している理由<男女別・年齢別>



	子どもの教育にお金がかかるから	育児には心理的、肉体的負担がかかるから	育児の負担がもつばら女性にかかるから	家が狭いから	経済的に余裕がないから	仕事をしながら子育てをすることが困難だから	自分の趣味やレジャーと両立しないから
20～29歳 (n=72)	76.4%	37.5%	36.1%	6.9%	63.9%	61.1%	16.7%
30～39歳 (n=139)	57.6%	35.3%	36.7%	2.9%	60.4%	55.4%	9.4%
40～49歳 (n=187)	61.5%	29.4%	36.4%	2.7%	65.2%	54.0%	10.7%
50～59歳 (n=247)	57.9%	28.7%	34.4%	0.8%	61.9%	57.5%	7.3%
60歳以上 (n=6)	33.3%	50.0%	33.3%	0.0%	50.0%	66.7%	0.0%

	結婚しない人が多いから	結婚しないで子どもをもつことに対して、抵抗感が強いから	子どもが欲しくないから	その他	わからない	無回答
20～29歳 (n=72)	47.2%	16.7%	22.2%	8.3%	0.0%	1.4%
30～39歳 (n=139)	55.4%	14.4%	10.8%	10.1%	0.7%	1.4%
40～49歳 (n=187)	58.8%	11.2%	10.2%	10.2%	1.1%	1.1%
50～59歳 (n=247)	61.1%	10.9%	9.3%	4.5%	2.8%	0.8%
60歳以上 (n=6)	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%

【男女別】

男性では、「経済的に余裕がないから」が 67.6%で最も高く、次いで「子どもの教育にお金がかかるから」が 62.2%、「結婚しない人が多いから」が 60.8%と続いている。







女性では、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」が 63.4%で最も高く、次いで「子どもの教育にお金がかかるから」が 59.4%、「経済的に余裕がないから」が 58.9%、「結婚しない人が多いから」が 55.6%と続いている。

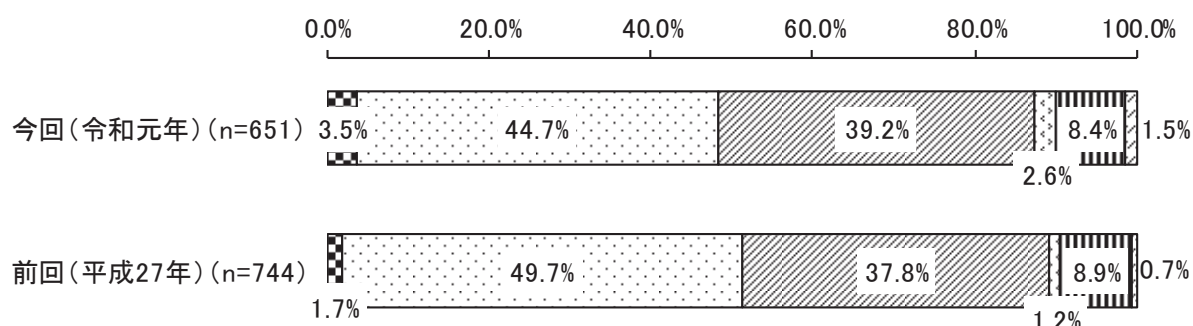
【年齢別】

年齢が若いほど、多くの理由で割合が高く、若い世代ほど育児や出産に不安を持っていることがうかがえる。

(6) 家族の介護方法

問10 あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(〇は1つだけ)

-  行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)
-  ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)
-  特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)
-  その他
-  わからない
-  無回答



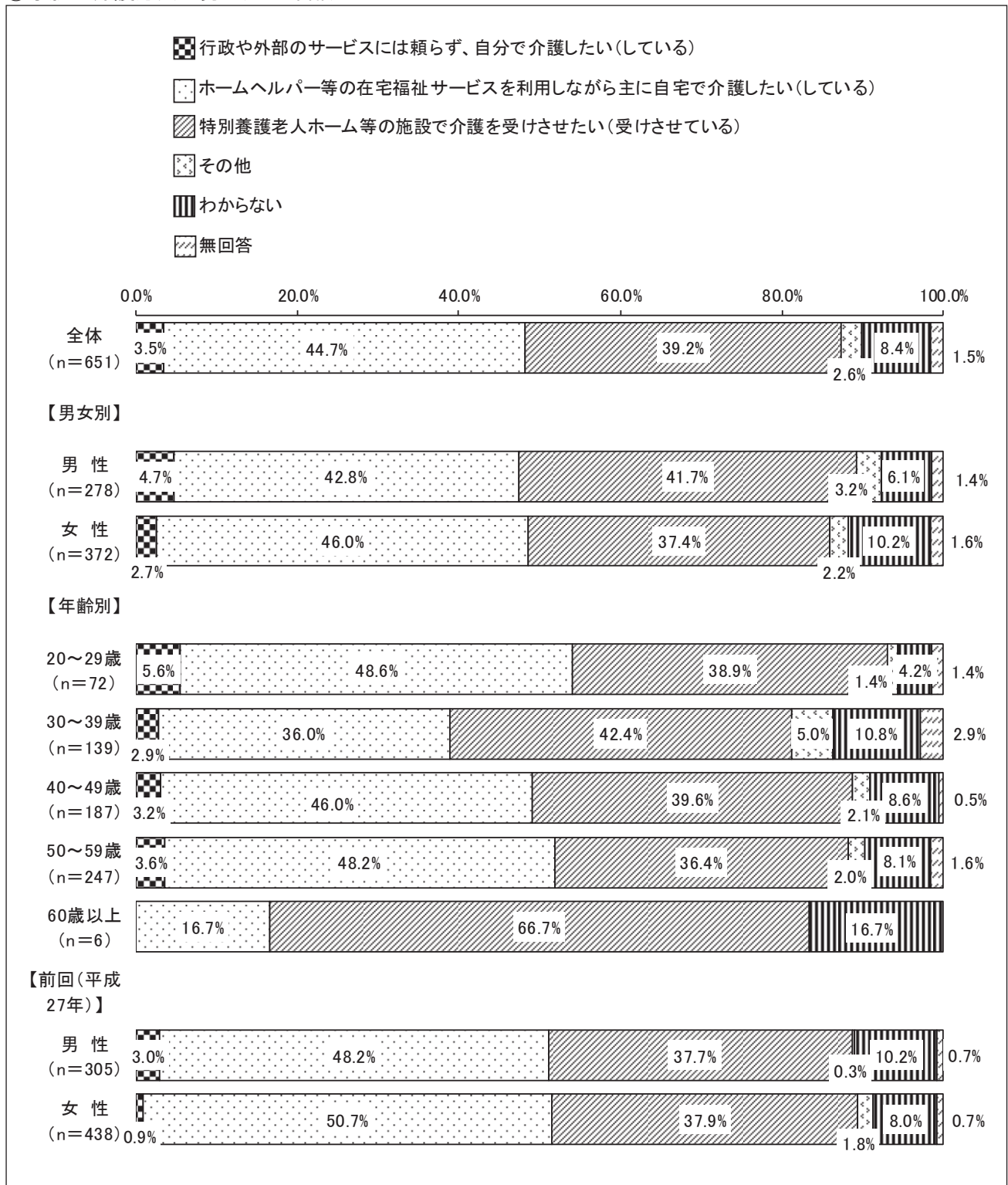
【全体結果】

家族の介護方法として、「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」が44.7%で最も多く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)」が39.2%となっている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」と回答した割合は、減少している。

①家族の介護方法<男女別・年齢別>










【男女別】

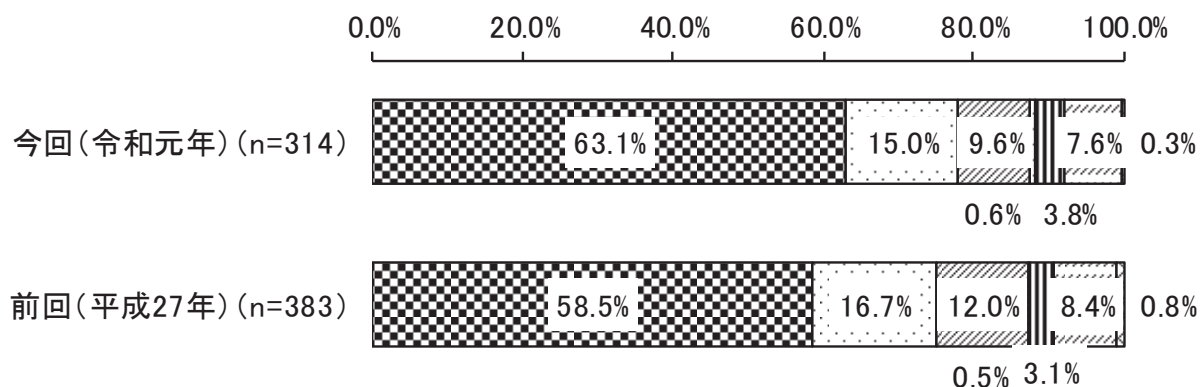
男女とも、「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」の割合が最も高く(男性42.8%、女性46.0%)、次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)」が続いている(男性41.7%、女性37.4%)。

②自宅で介護する主な介護者

(問10で、1「行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)」または
2「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」
を回答した方にだけお聞きします)

問10-1 自宅で介護する場合、家族の中では主に誰が介護することになると思いますか。
(〇は1つだけ)

-  主に、自分が介護すると思う(している)
-  主に、自分の配偶者が介護すると思う(している)
-  主に、その他の家族(女性)が介護すると思う(している)
-  主に、その他の家族(男性)が介護すると思う(している)
-  その他
-  わからない
-  無回答



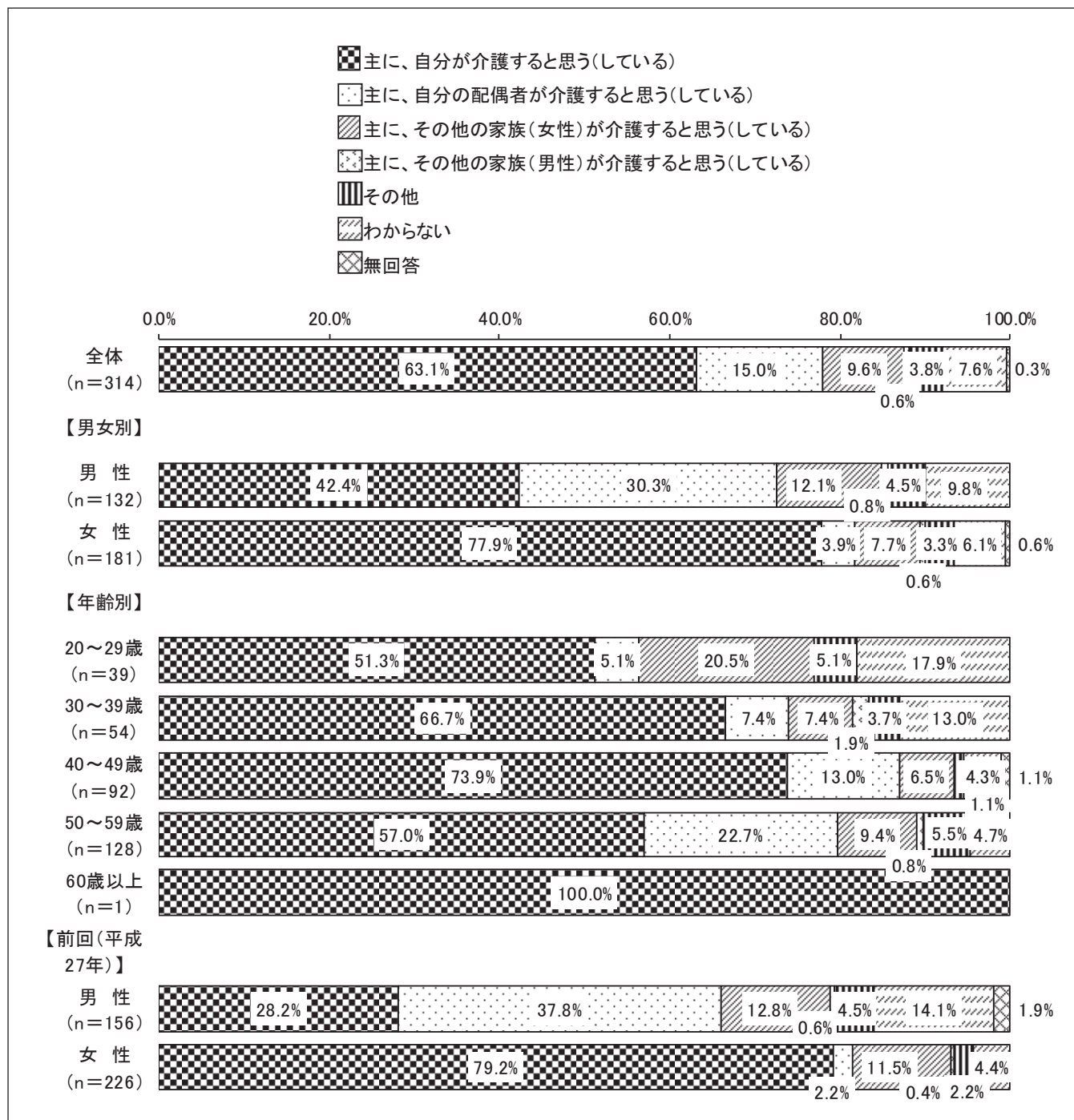
【全体結果】

自宅で介護する場合の主な介護者としては、「主に、自分が介護すると思う(している)」が63.1%で最も多く、次いで「主に、自分の配偶者が介護すると思う(している)」が15.0%となっている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「主に、自分が介護すると思う(している)」と回答した割合が増加している。

③自宅介護する主な介護者＜男女別・年齢別＞









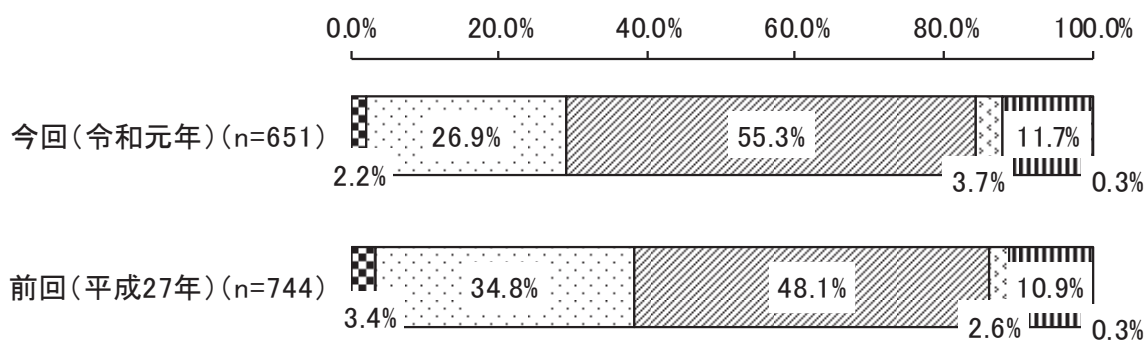
【男女別】

「主に、自分が介護すると思う(している)」と回答した割合は、女性の方が高く(男性 42.4%、女性 77.9%)、「主に、自分の配偶者が介護すると思う(している)」と回答した割合は、男性の方が高い(男性 30.3%、女性 3.9%)。

(7) 自分自身の介護方法

問11 もしあなた自身が、介護をしてもらう状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。(〇は1つだけ)

-  行政や外部のサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい
-  ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい
-  特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい
-  その他
-  わからない
-  無回答



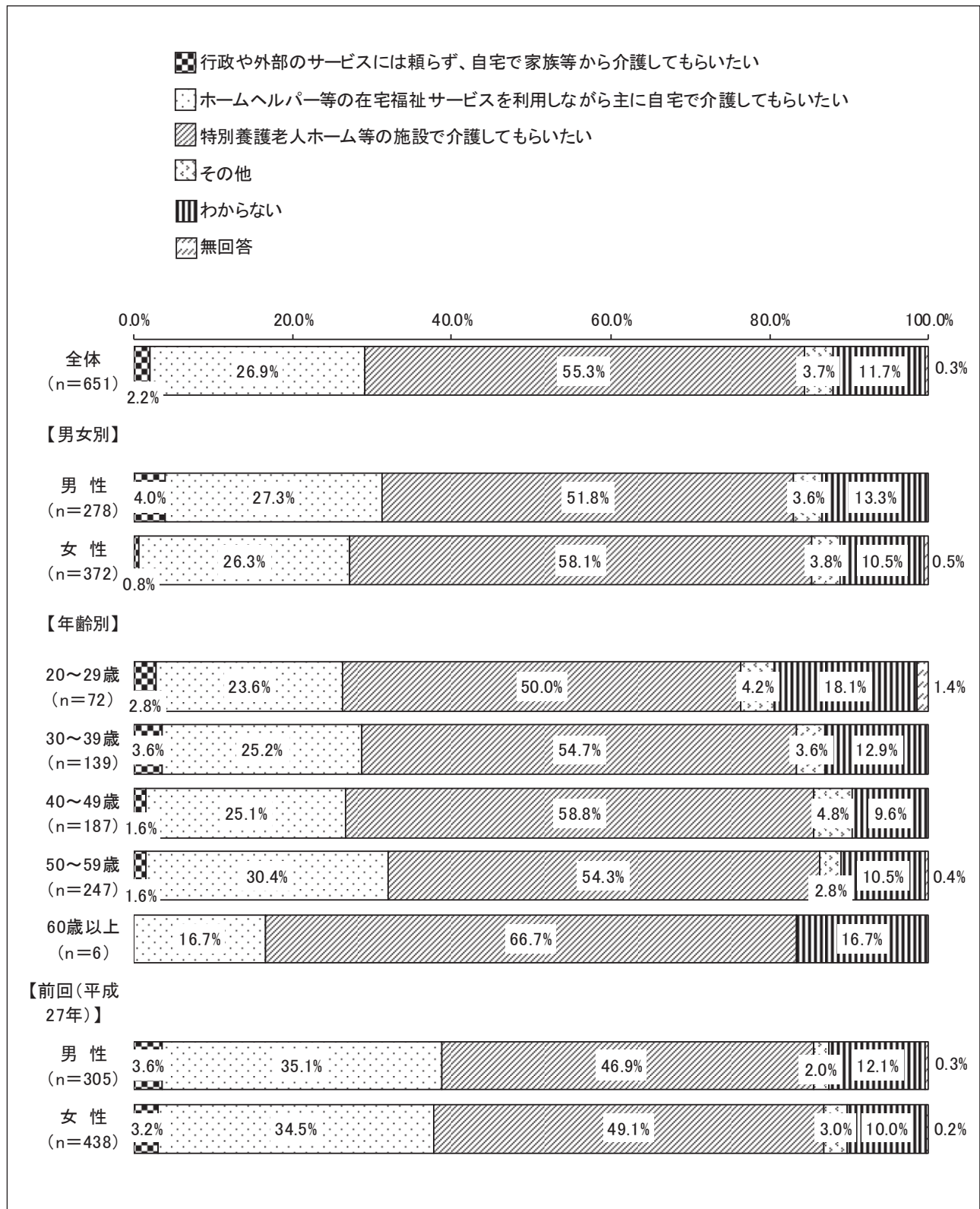
【全体結果】

自分自身の介護方法として、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」が55.3%で最も多く、次いで「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が26.9%となっている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」と回答した割合が減少し、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」と回答した割合が増加している。

①自分自身の介護方法＜男女別・年齢別＞



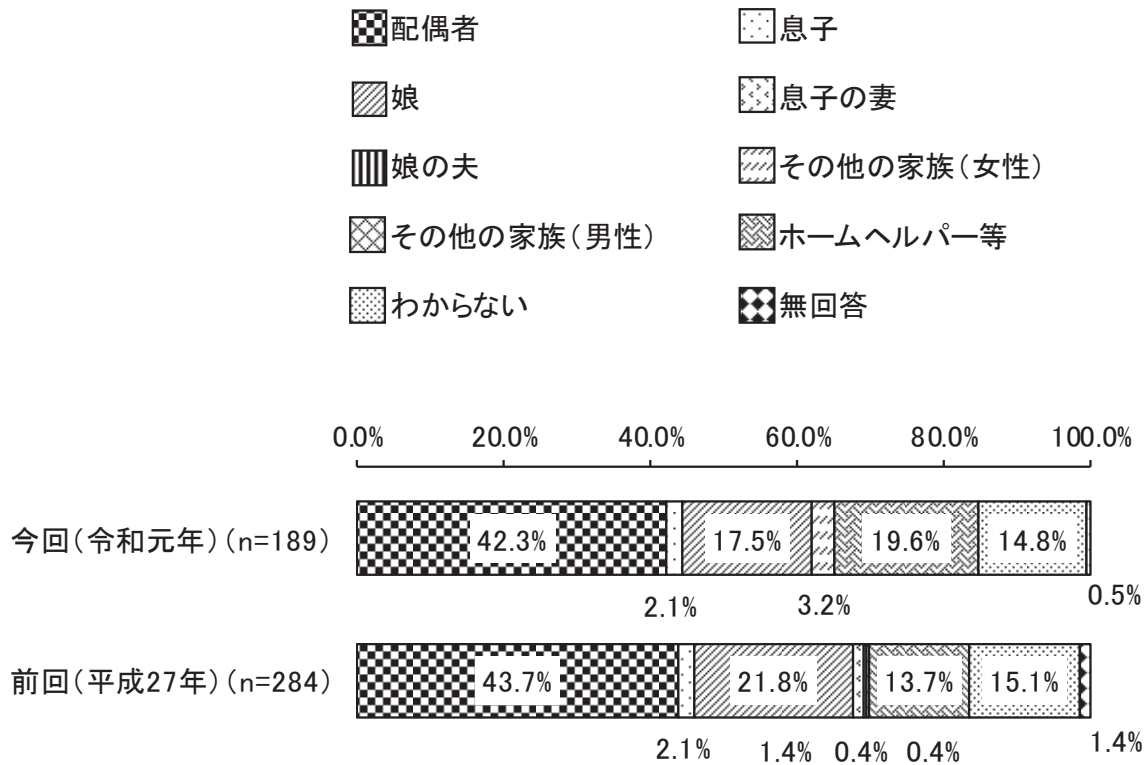
【男女別】

男女とも、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」が最も高く（男性 51.8%、女性 58.1%）、次いで「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が続いている（男性 27.3%、女性 26.3%）。

②介護を頼みたい相手

(問11で、1「行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)」または2「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」を回答した方にだけお聞きします)

問11-1 自宅で介護される場合、主にだれに介護してもらいたいと思いますか。
(〇は1つだけ)



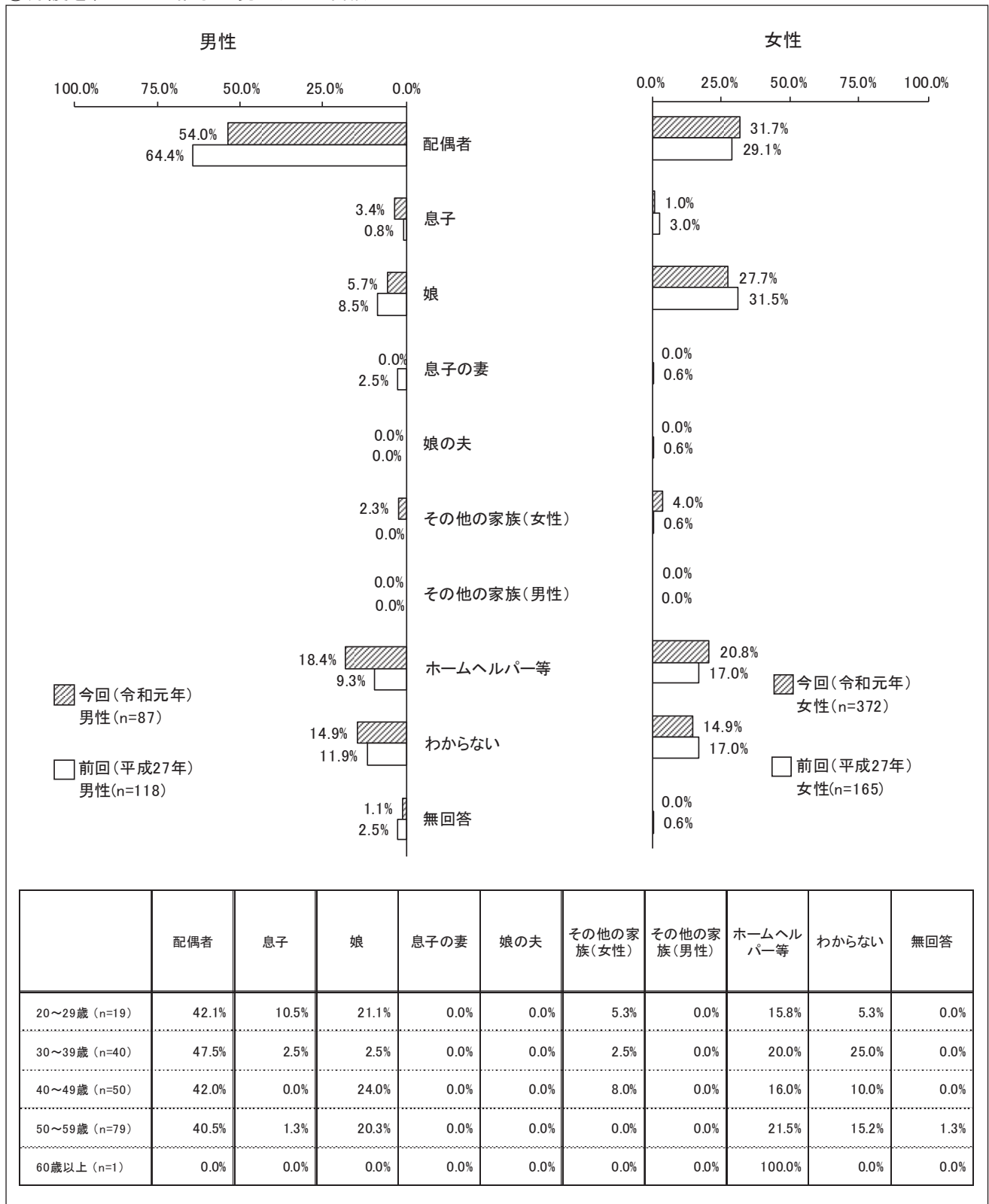
【全体結果】

自分自身の介護を頼みたい相手としては、「配偶者」が 42.3%で最も多く、次いで「ホームヘルパー等」が 19.6%、「娘」が 17.5%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「ホームヘルパー等」と回答した割合が増加している。

③介護を頼みたい相手<男女別・年齢別>

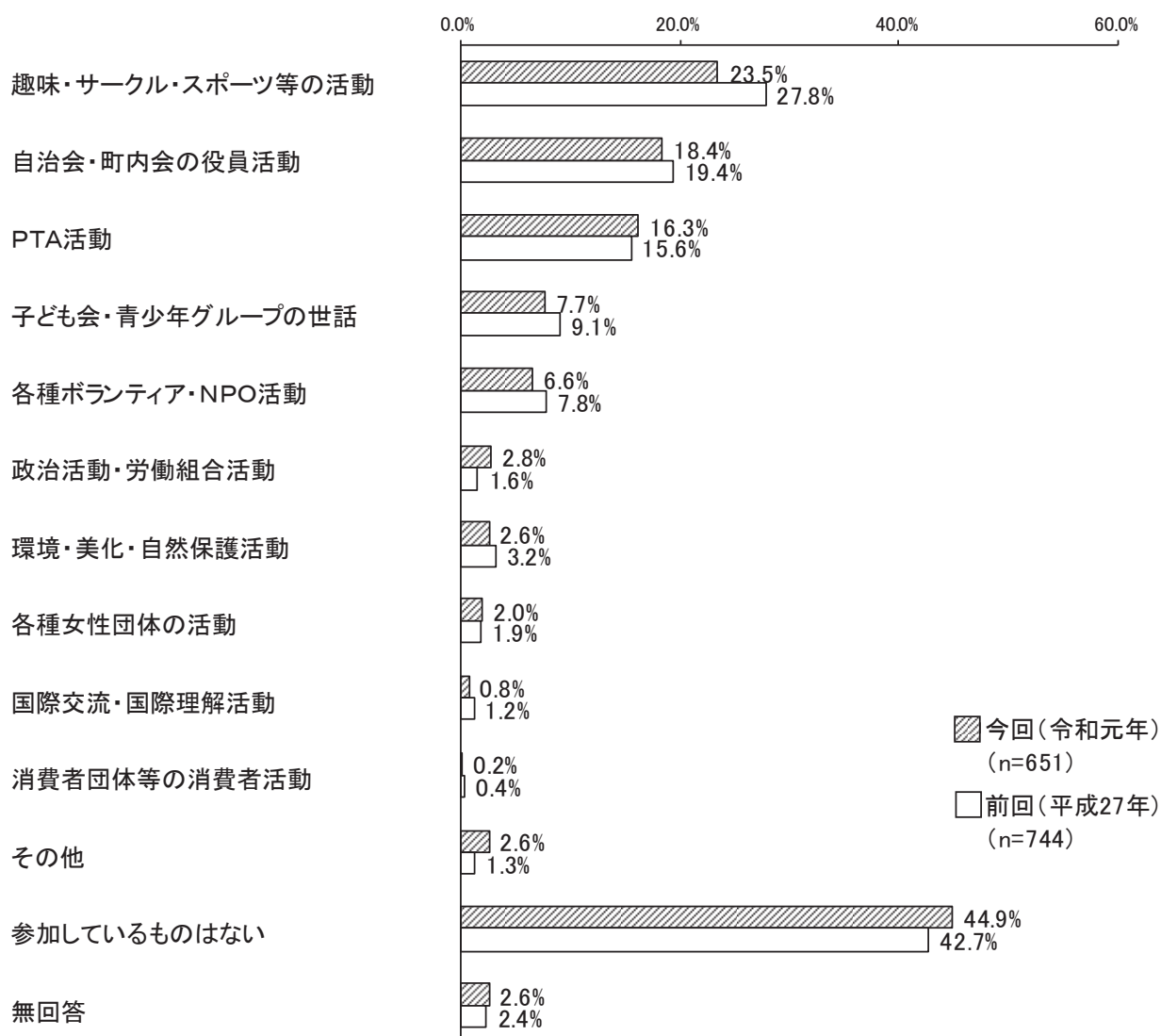


【男女別】

男女とも「配偶者」が最も高く、女性より男性の方が高い（男性 54.0%、女性 31.7%）。
 前回調査と比べると、男女ともに「ホームヘルパー等」と回答した割合が増加している。

(8) 参加している社会活動・地域活動の種類

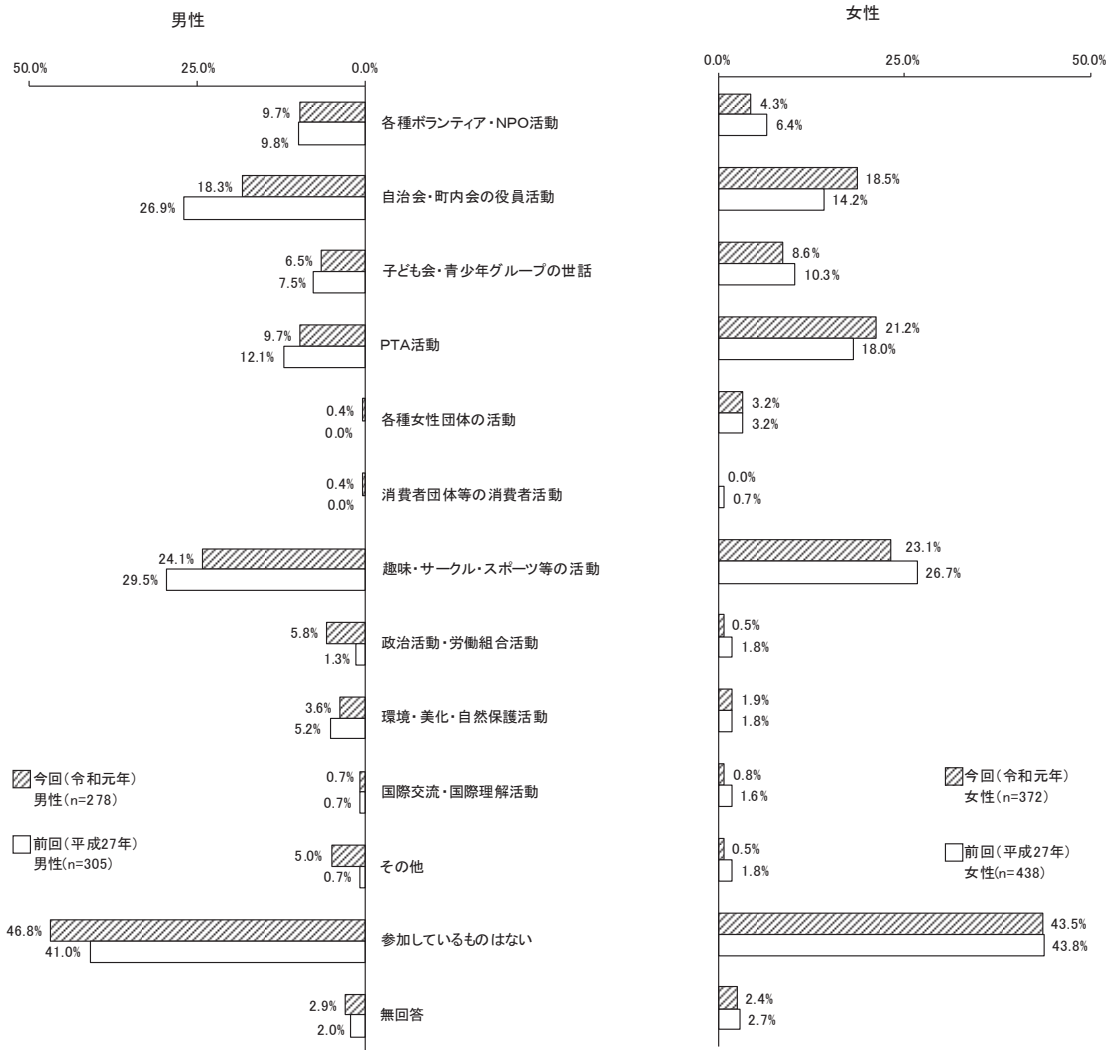
問12 職業以外に、次のような社会活動、地域活動の中で、あなたが参加しているものをすべてあげてください。(〇はいくつでも)



【全体結果】

参加している社会活動・地域活動の種類は、「趣味・サークル・スポーツ等の活動」が23.5%と最も高く、次いで「自治会・町内会の役員活動」が18.4%、「PTA活動」が16.3%と続いている。一方で「参加しているものはない」が44.9%となっている。

①参加している社会活動・地域活動の種類＜男女別・年齢別＞



	各種ボランティア・NPO活動	自治会・町内会の役員活動	子ども会・青少年グループの世話	PTA活動	各種女性団体の活動	消費者団体等の消費者活動	趣味・サークル・スポーツ等の活動
20～29歳 (n=72)	9.7%	6.9%	4.2%	2.8%	0.0%	0.0%	30.6%
30～39歳 (n=139)	5.0%	12.9%	8.6%	23.7%	0.7%	0.0%	21.6%
40～49歳 (n=187)	4.8%	16.6%	14.4%	25.1%	2.7%	0.0%	21.4%
50～59歳 (n=247)	8.1%	25.9%	3.2%	9.7%	2.8%	0.4%	23.9%
60歳以上 (n=6)	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%

	政治活動・労働組合活動	環境・美化・自然保護活動	国際交流・国際理解活動	その他	参加しているものはない	無回答
20～29歳 (n=72)	2.8%	1.4%	1.4%	4.2%	55.6%	0.0%
30～39歳 (n=139)	2.2%	0.7%	0.0%	1.4%	47.5%	5.8%
40～49歳 (n=187)	3.2%	2.1%	0.0%	2.1%	40.6%	2.1%
50～59歳 (n=247)	2.8%	4.0%	1.6%	3.2%	43.7%	2.0%
60歳以上 (n=6)	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%

【男女別】

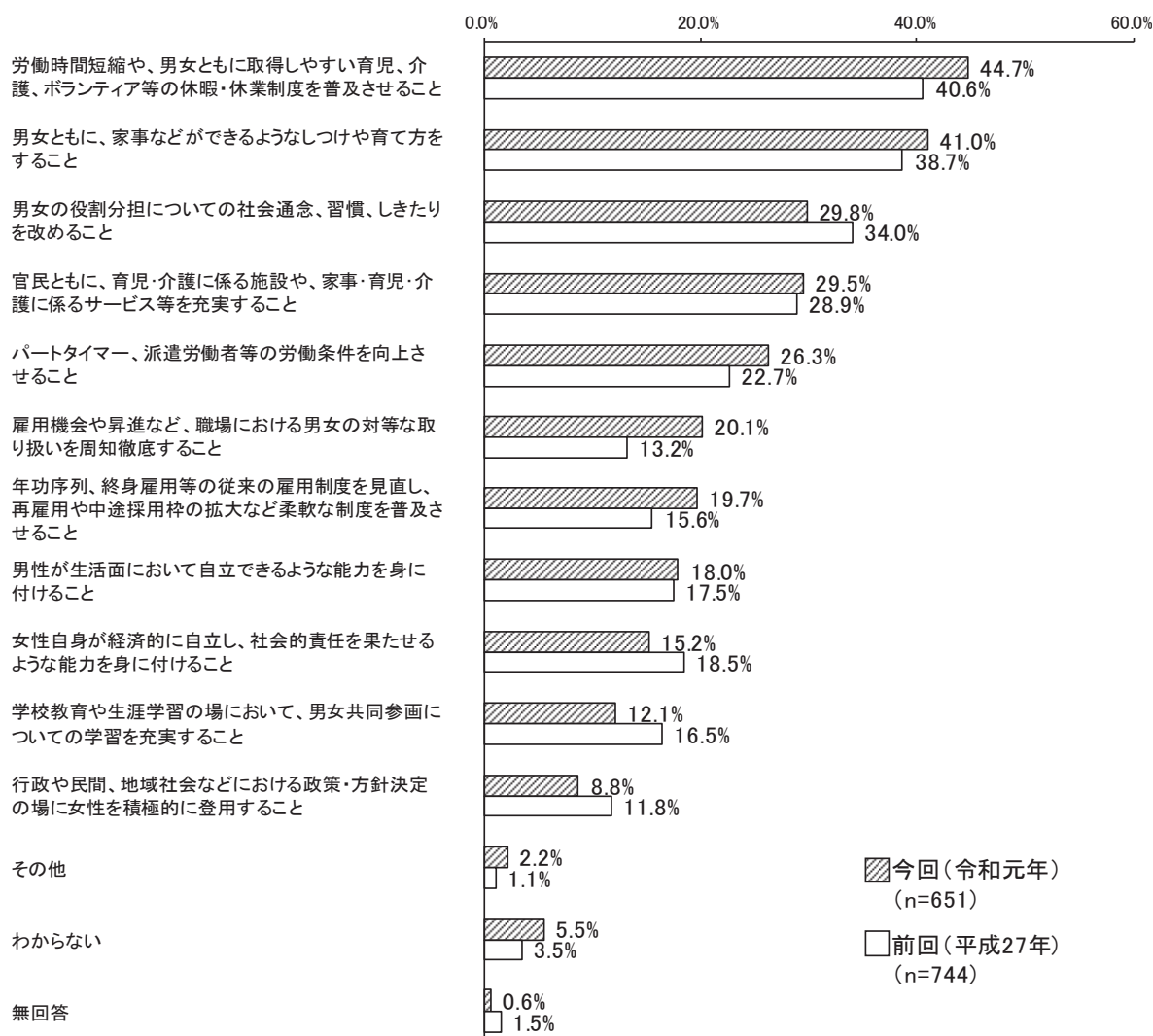
男女とも、「趣味・サークル・スポーツ等の活動」が最も高く（男性 24.1%、女性 23.1%）、次いで男性では「自治会・町内会の役員活動」、女性では「PTA活動」となっている。

【年齢別】

年齢が高くなるほど、「自治会・町内会の役員活動」と回答した割合が高い。

（9）男女が積極的に社会参加していくために必要なこと

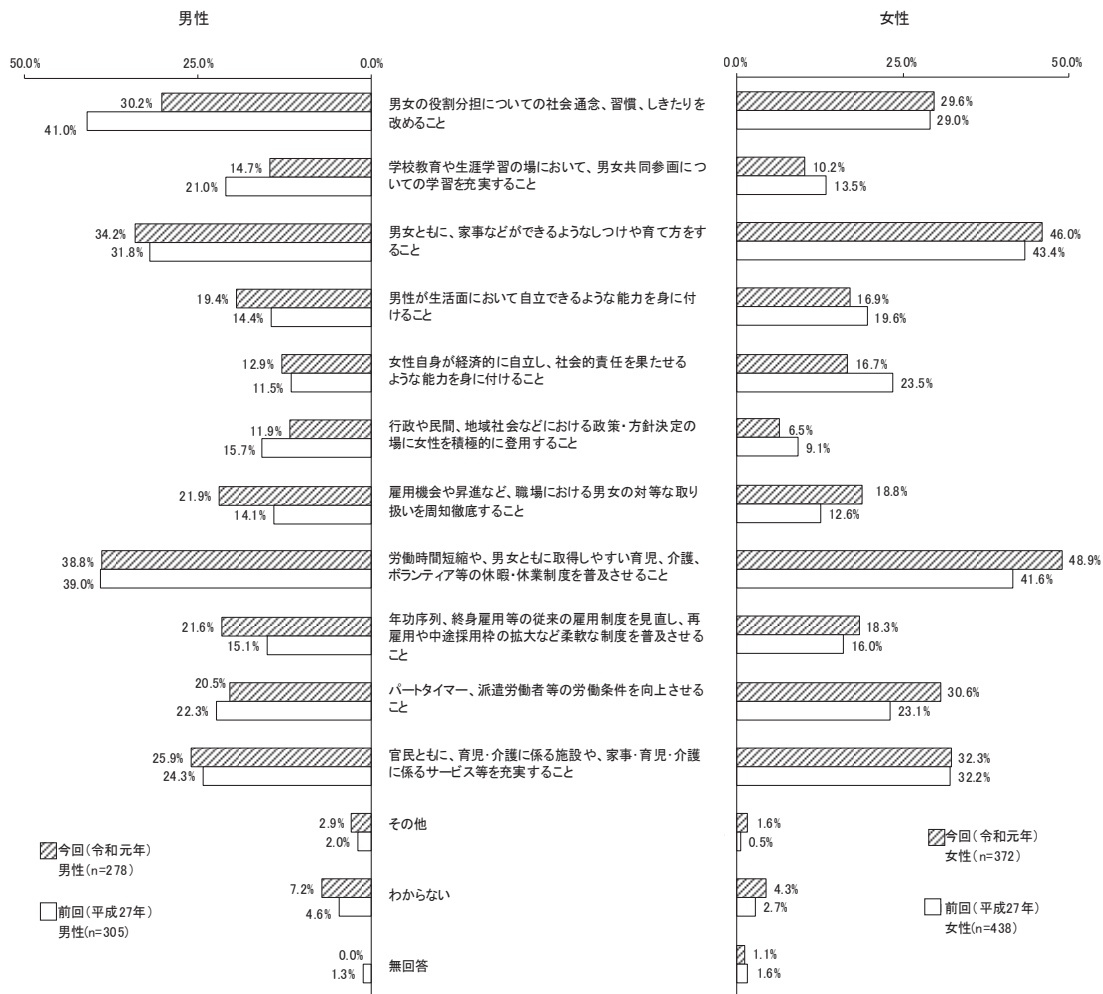
問 1 3 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）



【全体結果】

男女が積極的に社会参加していくために必要なこととしては、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が 44.7%、「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること」が 41.0%と高く、「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」が 29.8%、「官民ともに、育児・介護に係る施設や、家事・育児・介護に係るサービス等を充実すること」が 29.5%となっている。

①男女が積極的に社会参加していくために必要なこと<男女別・年齢別>



	男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること	学校教育や生涯学習の場において、男女共同参画についての学習を充実すること	男女ともに、家事などができようなしつけや育て方をすること	男性が生活面において自立できるような能力を身に付けること	女性自身が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身に付けること	行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定の場において女性を積極的に登用すること	雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを周知徹底すること
20~29歳 (n=72)	40.3%	19.4%	45.8%	15.3%	11.1%	8.3%	22.2%
30~39歳 (n=139)	33.1%	12.9%	46.0%	15.8%	10.8%	5.0%	18.7%
40~49歳 (n=187)	25.1%	9.1%	38.0%	20.9%	16.6%	11.2%	21.9%
50~59歳 (n=247)	28.3%	12.1%	38.9%	18.2%	17.4%	8.9%	19.0%
60歳以上 (n=6)	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	33.3%	16.7%	16.7%

	労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること	年功序列、終身雇用等の従来の雇用制度を見直し、再雇用や中途採用枠の拡大など柔軟な制度を普及させること	パートタイマー、派遣労働者等の労働条件を向上させること	官民ともに、育児・介護に係る施設や、家事・育児・介護に係るサービス等を充実させること	その他	わからない	無回答
20~29歳 (n=72)	54.2%	25.0%	27.8%	18.1%	2.8%	2.8%	0.0%
30~39歳 (n=139)	50.4%	21.6%	25.9%	29.5%	2.2%	3.6%	1.4%
40~49歳 (n=187)	43.9%	20.9%	26.2%	28.3%	2.7%	8.0%	0.0%
50~59歳 (n=247)	39.7%	15.8%	25.9%	34.0%	1.6%	5.7%	0.8%
60歳以上 (n=6)	33.3%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%

【男女別】

男女とも、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が最も多く（男性 38.8%、女性 48.9%）、「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること」と続いている（男性 34.2%、女性 46.0%）。

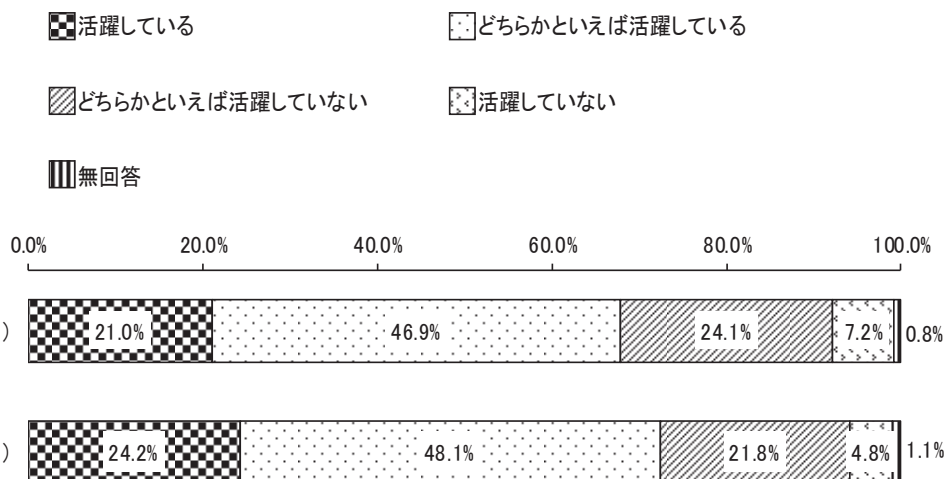
【年齢別】

年齢が若いほど、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」と回答した割合が高い。

3. 女性の活躍に関する意識

(1) 女性の活躍状況

問15 あなた自身、あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(〇は1つだけ)



	「活躍している」 「どちらかといえば活躍している」	「活躍していない」 「どちらかといえば活躍していない」
女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか	67.9%	31.3%

* 「活躍している」「どちらかといえば活躍している」及び「活躍していない」「どちらかといえば活躍していない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

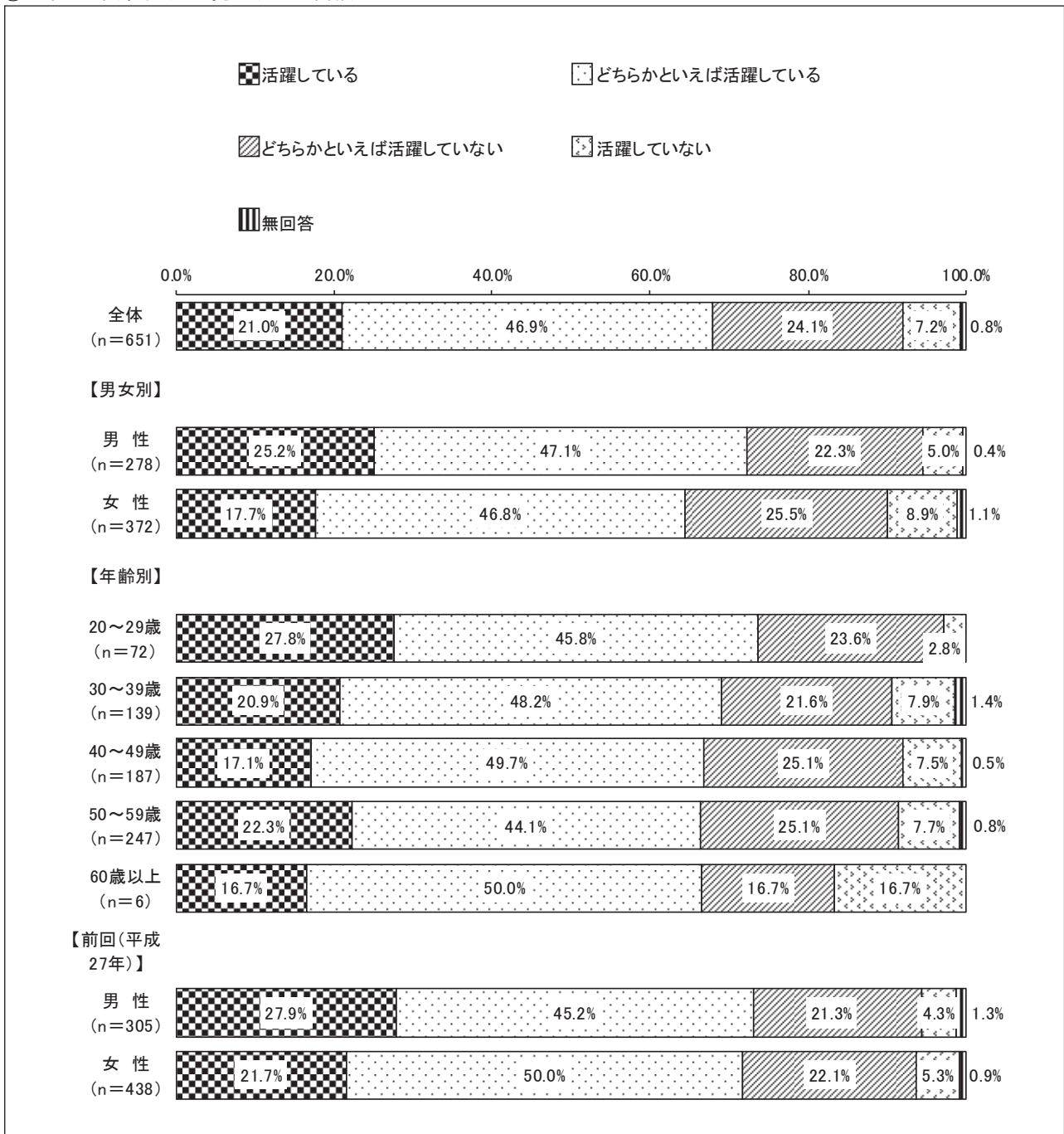
【全体結果】

「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合は67.9%、「どちらかといえば活躍していない」又は「活躍していない」と回答した割合は31.3%となり、約7割は仕事や地域活動で「活躍している」と感じている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合が減少し、「どちらかといえば活躍していない」又は「活躍していない」と回答した割合が増加している。

①女性の活躍状況＜男女別・年齢別＞



【男女別】

女性より男性の方が「活躍している」と回答した割合が高い（女性 17.7%、男性 25.2%）。

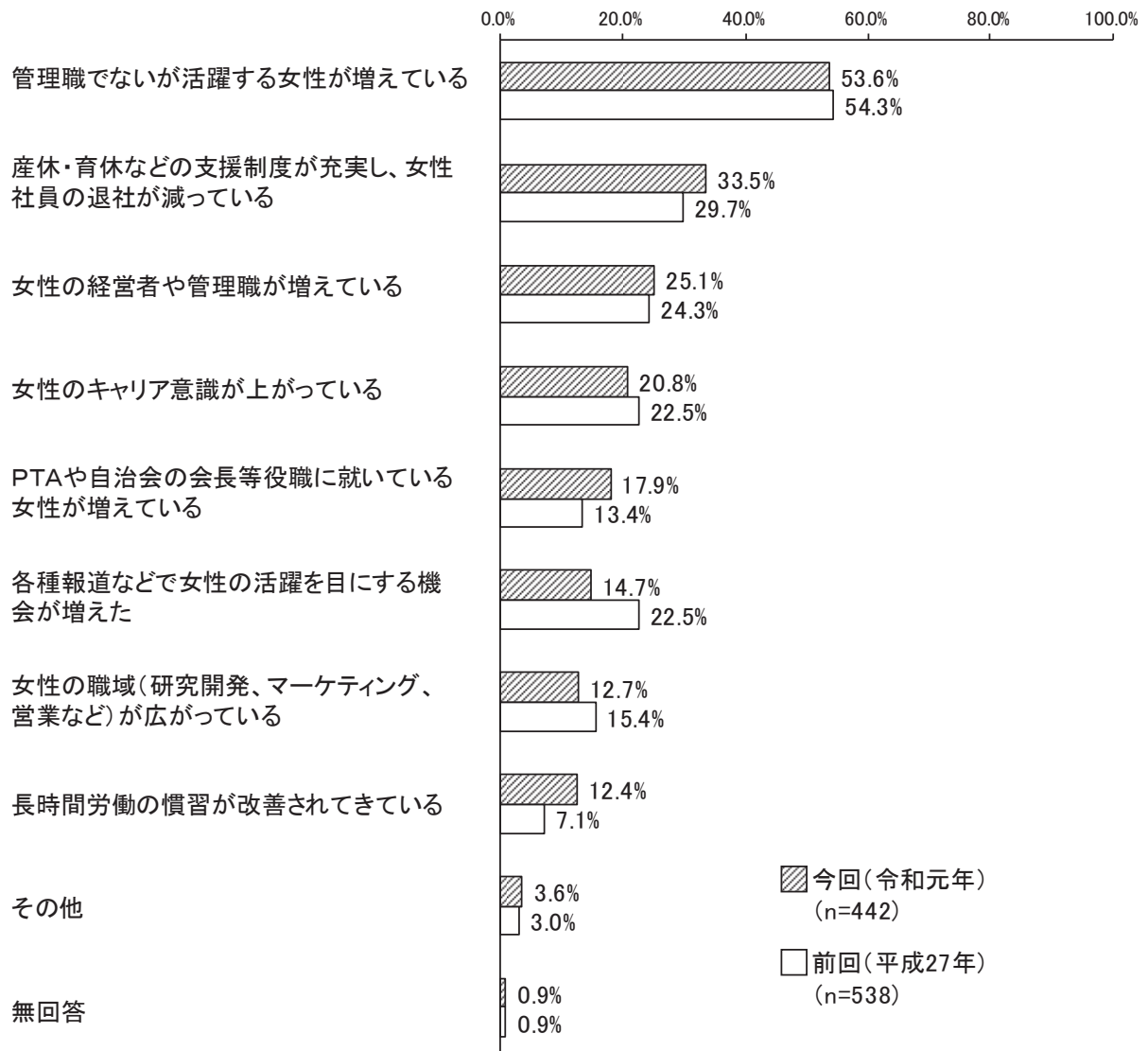
【年齢別】

年齢が若いほど、「活躍している」又は「どちらかといえば活躍している」と回答した割合が高い。

②女性が活躍していると感じる理由

(問15で、1「活躍している」または2「どちらかといえば活躍している」を回答した方にだけお聞きします)

問15-1 活躍していると思う理由は何ですか。(〇は3つまで)



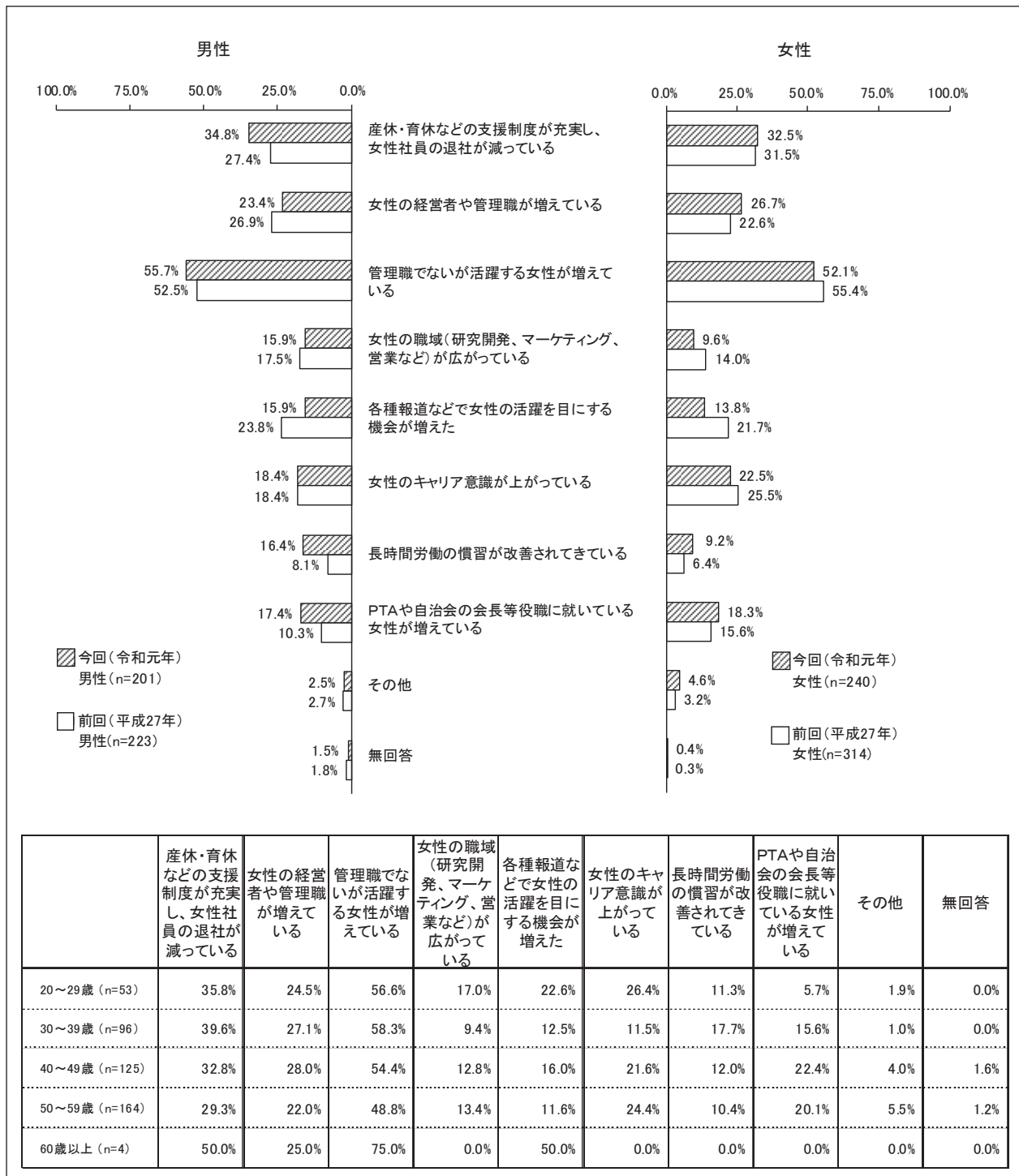
【全体結果】

女性が仕事や地域活動で活躍していると感じる理由としては、「管理職でないが活躍する女性が増えている」が53.6%と最も高く、次いで「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」が33.5%、「女性の経営者や管理職が増えている」が25.1%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」、「女性の経営者や管理職が増えている」、「PTAや自治会の会長等役職に就いている女性が増えている」、「長時間労働の慣習が改善されてきている」と回答した割合が増加している。

③女性が活躍していると感じる理由<男女別・年齢別>



【男女別】

男女とも、「管理職でないが活躍する女性が増えている」が最も高く（男性 55.7%、女性 52.1%）、
「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」が続いている（男性 34.8%、
女性 32.5%）。

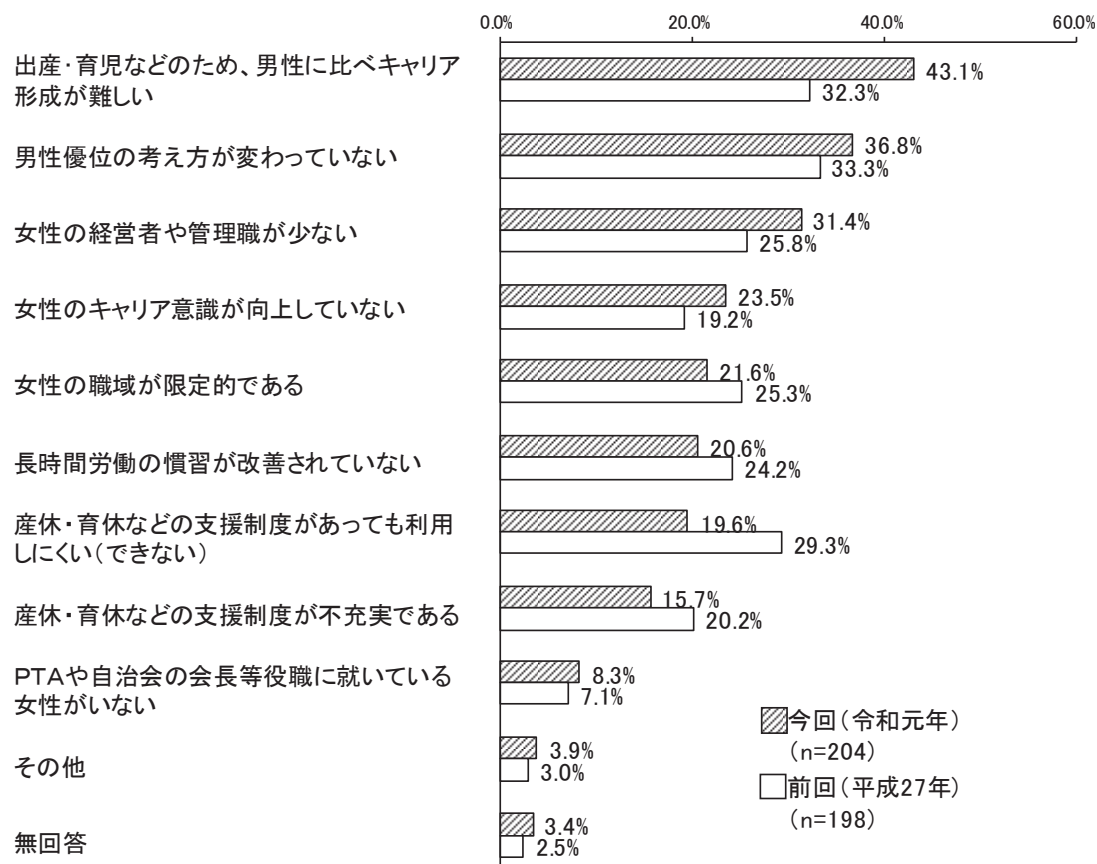
【年齢別】

20～29歳で「女性のキャリア意識が上がっている」、30～39歳で「産休・育休などの支援制度が
充実し、女性社員の退社が減っている」や「長時間労働の慣習が改善されている」と回答した割合
が高い。

④女性が活躍していないと感じる理由

(問15で、3「どちらかといえば活躍していない」または4「活躍していない」を回答した方にだけお聞きします)

問15-2 活躍していないと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)



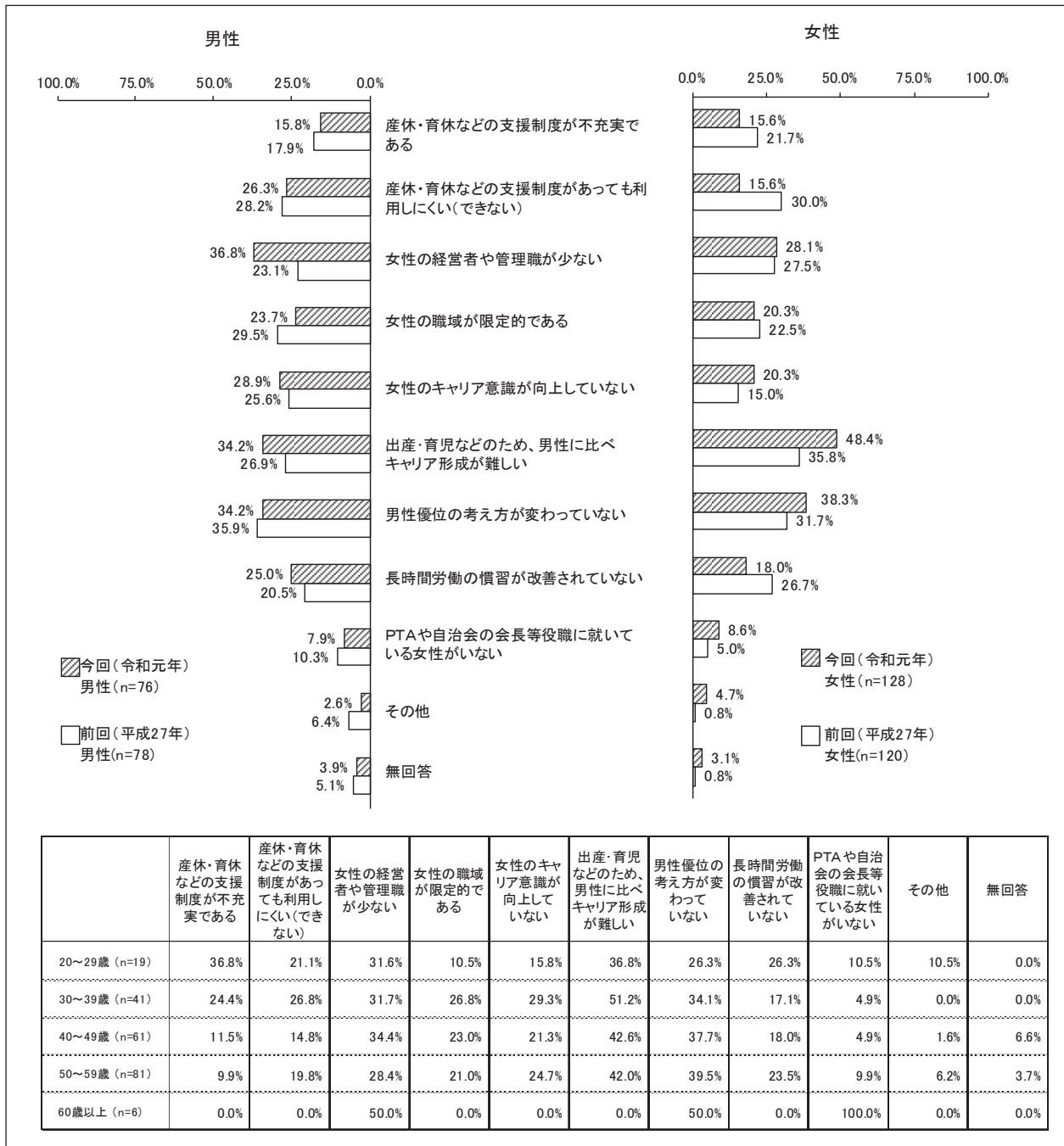
【全体結果】

女性が仕事や地域活動で活躍していないと感じる理由としては、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が43.1%と最も高く、次いで「男性優位の考え方が変わっていない」が36.8%、「女性の経営者や管理職が少ない」が31.4%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」、「男性優位の考え方が変わっていない」、「女性のキャリア意識が向上していない」、「女性のキャリア意識が向上していない」と回答した割合が増加している。

⑤女性が活躍していないと感じる理由<男女別・年齢別>



【男女別】

男性では、「女性の経営者や管理職が少ない」が36.8%、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」と「男性優位の考え方が変わっていない」が同率で34.2%と高い割合になっている。

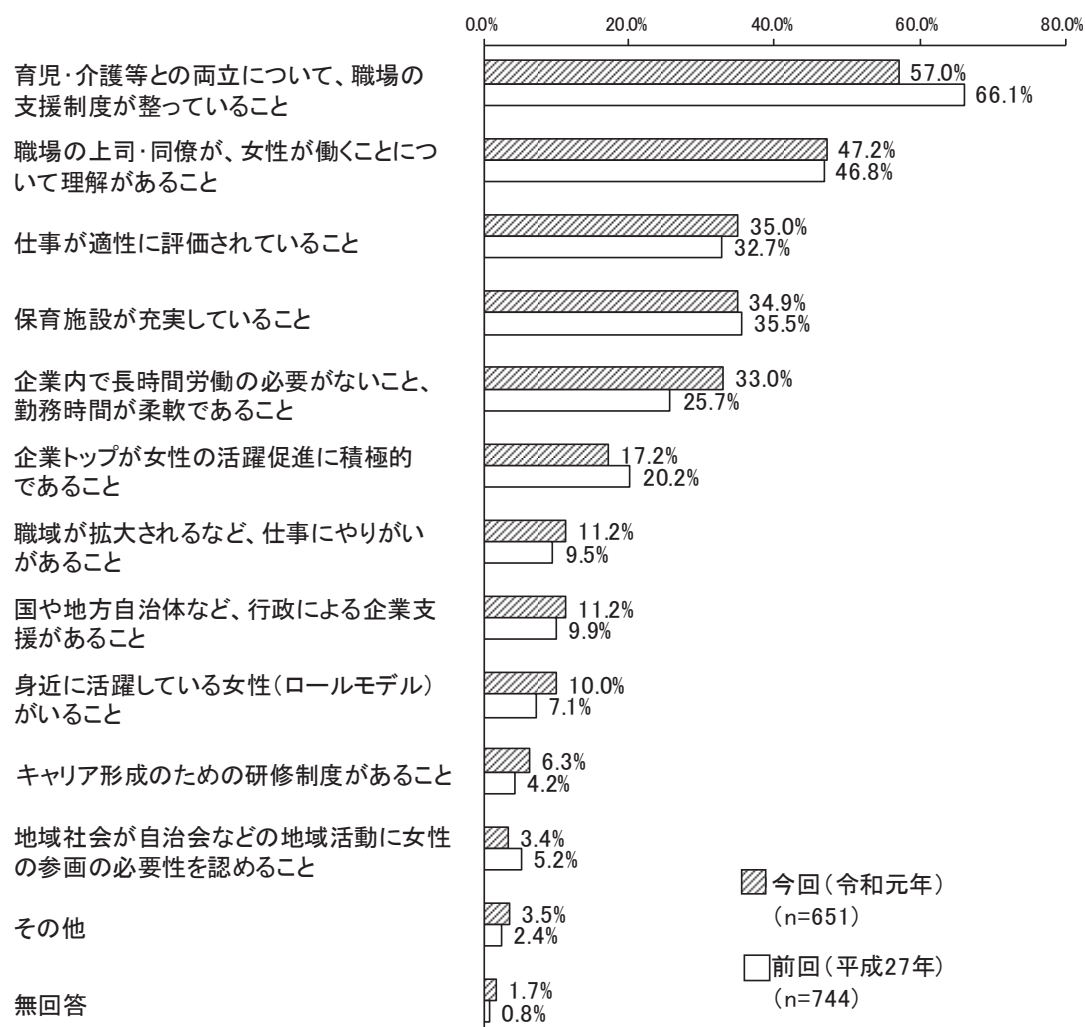
女性では、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が48.4%と最も高く、次いで「男性優位の考え方が変わっていない」が38.3%となっている。

【年齢別】

各年齢とも、「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」と回答した割合が最も高い。

(2) 女性の活躍に必要なこと

問16 女性が活躍するには何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)



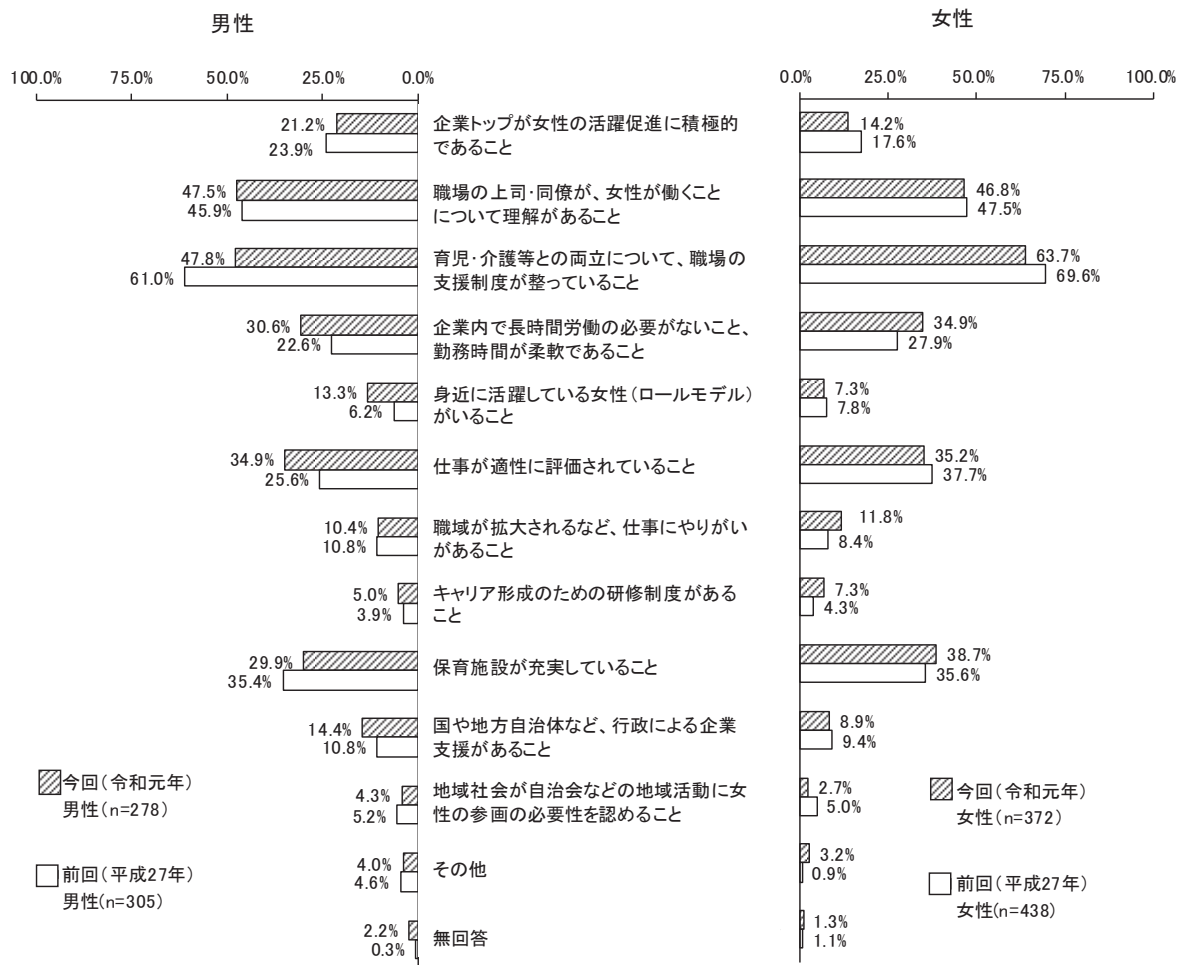
【全体結果】

女性が活躍するために必要なこととしては、「育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること」が57.0%で最も高く、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が47.2%、「仕事が適正に評価されていること」が35.0%、「保育施設が充実していること」が34.9%、「企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」が33.0%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」と回答した割合が増加している。

①女性の活躍に必要なこと＜男女別・年齢別＞



	企業トップが女性の活躍促進に積極的であること	職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること	育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること	企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること	身近に活躍している女性(ロールモデル)がいること	仕事が適性に評価されていること	職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
20～29歳 (n=72)	15.3%	52.8%	62.5%	45.8%	11.1%	30.6%	12.5%
30～39歳 (n=139)	14.4%	53.2%	57.6%	35.3%	12.2%	31.7%	8.6%
40～49歳 (n=187)	15.0%	44.4%	54.0%	35.8%	9.6%	37.4%	13.4%
50～59歳 (n=247)	21.1%	44.1%	57.5%	25.9%	8.9%	35.2%	10.9%
60歳以上 (n=6)	16.7%	50.0%	50.0%	33.3%	0.0%	83.3%	0.0%

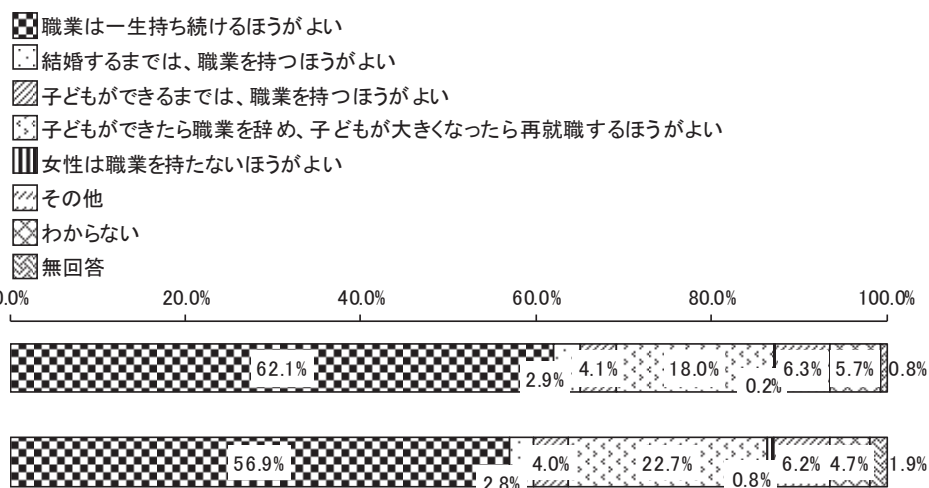
	キャリア形成のための研修制度があること	保育施設が充実していること	国や地方自治体など、行政による企業支援があること	地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること	その他	無回答
20～29歳 (n=72)	8.3%	30.6%	9.7%	1.4%	4.2%	2.8%
30～39歳 (n=139)	6.5%	38.1%	9.4%	4.3%	4.3%	0.0%
40～49歳 (n=187)	8.0%	34.8%	14.4%	2.7%	3.7%	2.1%
50～59歳 (n=247)	4.5%	34.0%	10.5%	4.0%	2.8%	2.0%
60歳以上 (n=6)	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【男女別】

男女とも、「育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること」が最も高く（男性 47.8%、女性 63.7%）、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が続いている（男性 47.5%、女性 46.8%）。

（3）女性が仕事を持つことに対する考え方

問 17 あなたは、女性が職業を持つことについてどうお考えになりますか。
次の中からあなたのお考えに一番近いものを選んでください。（○は1つだけ）



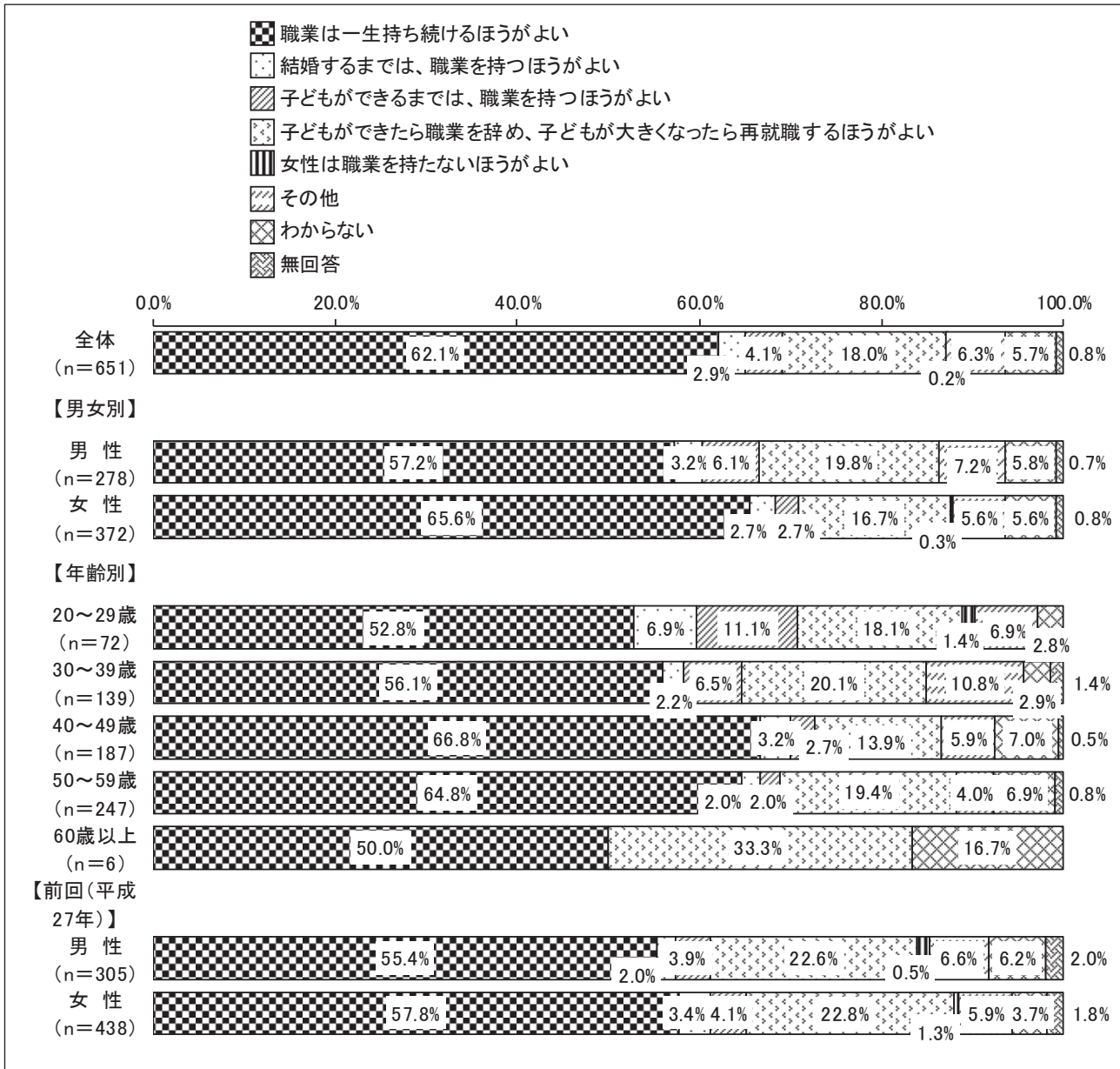
【全体結果】

女性が仕事を持つことについて、「職業は一生持ち続けるほうがよい」が最も多く、62.1%となっている。

【前回調査（平成 27 年）比較】

前回調査と比べると、「職業は一生持ち続けるほうがよい」と回答した割合が増加している。

①女性が仕事を持つことに対する考え方<男女別・年齢別>



【男女別】

男女とも、女性が仕事を持つことについて「職業は一生持ち続けるほうがよい」という考え方が最も多く、前回調査結果よりも増加している(男性 57.2%、女性 65.6%)。

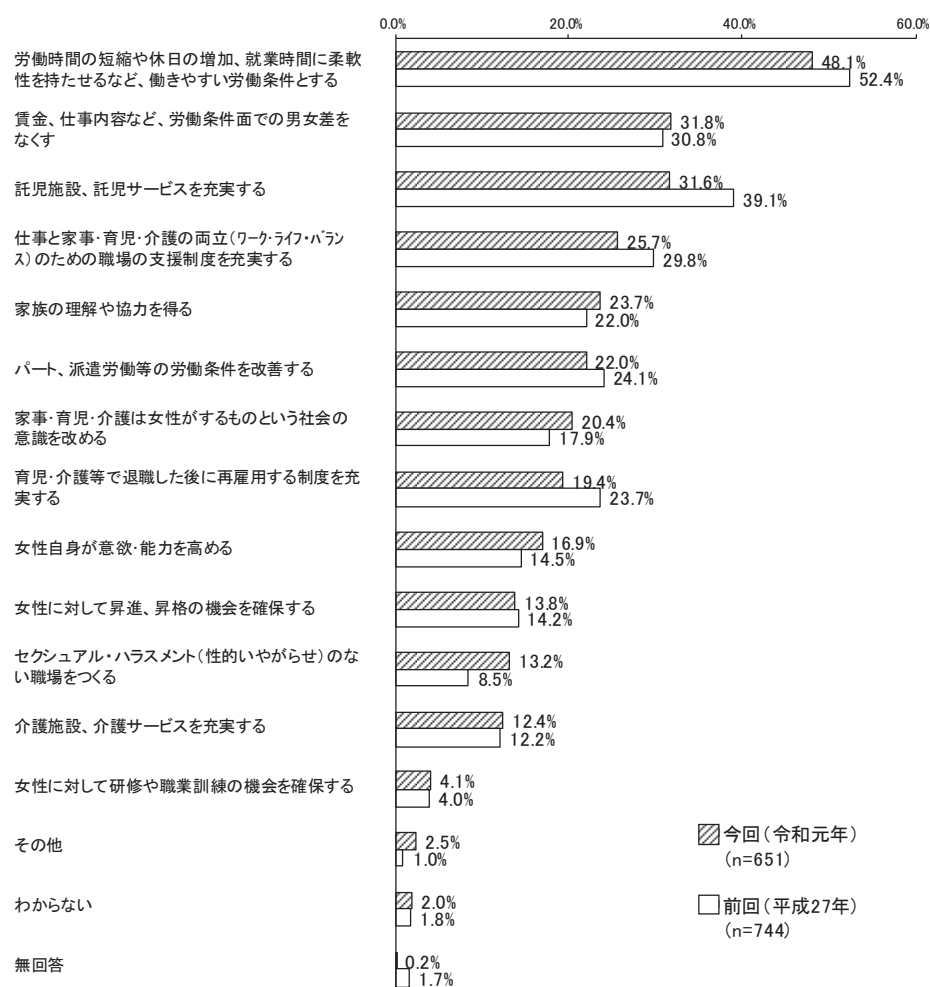
また、「子どもができたなら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい」という考え方は、前回調査結果よりも減少している。

【年齢別】

40～59歳で「職業は一生持ち続けるほうがよい」の割合が6割を超えている(40～49歳 66.8%、50～59歳 64.8%)。

(4) 女性が働き続けるために必要なこと

問 18 女性が働き続けるために必要なことは何だと思いませんか。
特に重要だと思うものを選んでください。(〇は3つだけ)



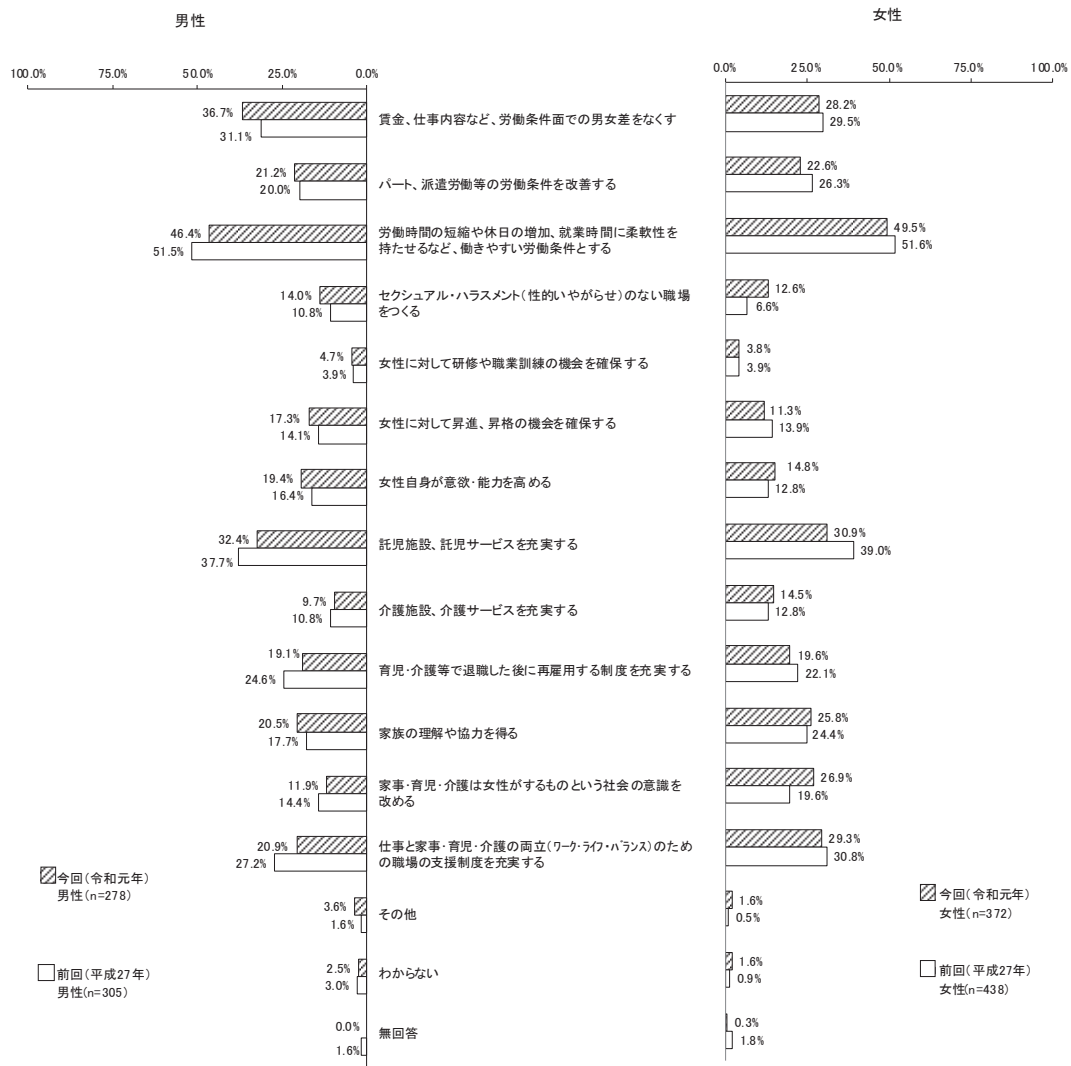
【全体結果】

女性が働き続けるために必要なこととして「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」が 48.1%で最も高く、次いで「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」が 31.8%、「託児施設、託児サービスを充実する」が 31.6%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「託児施設、託児サービスを充実する」と回答した割合が減少している。

①女性が働き続けるために必要なこと<男女別・年齢別>



	賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす	パート、派遣労働等の労働条件を改善する	労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)のない職場をつくる	女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する	女性に対して昇進、昇格の機会を確保する	女性自身が意欲・能力を高める	託児施設、託児サービスを充実する
20~29歳 (n=72)	38.9%	23.6%	48.6%	27.8%	4.2%	18.1%	15.3%	34.7%
30~39歳 (n=139)	32.4%	24.5%	47.5%	12.9%	2.9%	16.5%	17.3%	30.2%
40~49歳 (n=187)	29.9%	19.8%	48.7%	14.4%	4.3%	16.0%	17.6%	33.7%
50~59歳 (n=247)	31.6%	21.1%	47.8%	8.5%	4.9%	9.7%	16.2%	30.0%
60歳以上 (n=6)	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%

	介護施設、介護サービスを充実する	育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する	家族の理解や協力を得る	家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める	仕事と家事・育児・介護の両立(ワークライフ・バランス)のための職場の支援制度を充実する	その他	わからない	無回答
20~29歳 (n=72)	8.3%	19.4%	15.3%	20.8%	27.8%	0.0%	1.4%	0.0%
30~39歳 (n=139)	8.6%	17.3%	22.3%	25.2%	27.3%	5.0%	0.0%	0.0%
40~49歳 (n=187)	12.8%	23.5%	25.1%	19.8%	24.1%	2.7%	2.7%	0.0%
50~59歳 (n=247)	15.8%	17.0%	25.1%	18.2%	25.5%	1.6%	2.8%	0.4%
60歳以上 (n=6)	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%

【男女別】

男女とも、女性が働き続けるために必要なこととして「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」（男性 46.4%、女性 49.5%）が最も高く、次いで男性では「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」（36.7%）、「託児施設、託児サービスを充実する」（32.4%）、女性では「託児施設、託児サービスを充実する」（30.9%）が続いている。

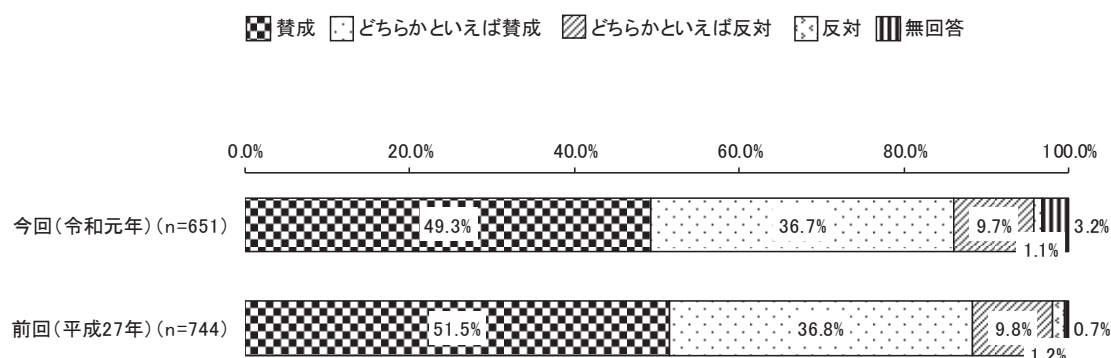
【年齢別】

「賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす」、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」、「仕事と家事・育児・介護の両立（ワーク・ライフ・バランス）のための職場の支援制度を充実する」と回答した割合が各年齢とも高い。

「介護施設、介護サービスを充実する」と回答した割合は 40～59 歳で高い。

（5）男性の育児休暇取得への賛否

問 19 男性の育児休暇取得についてどう思いますか。（○は 1 つだけ）



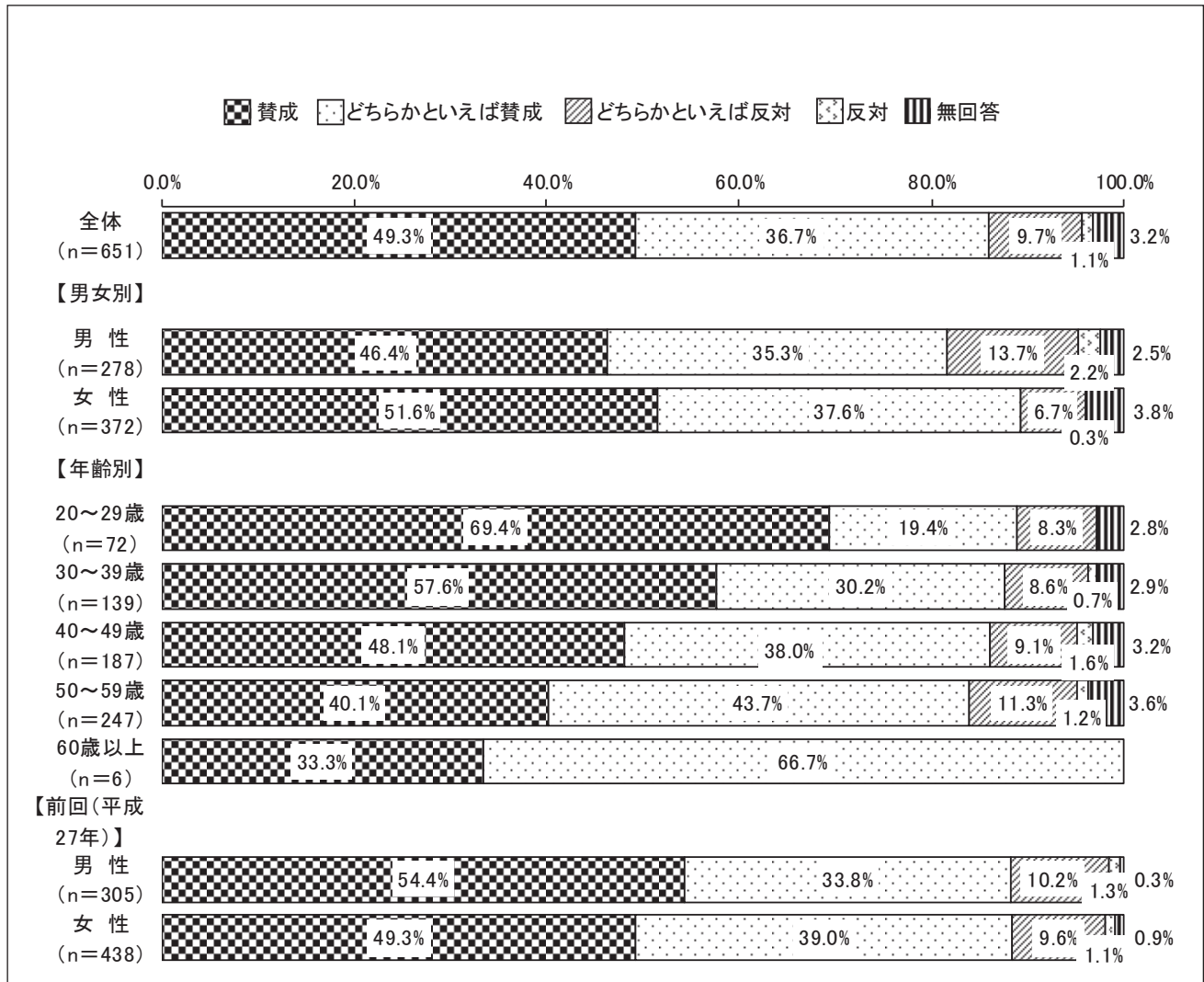
	「賛成」 「どちらかといえば 賛成」	「反対」 「どちらかとい えば反対」
男性の育児休暇取得について どう思いますか	86.0%	10.8%

* 「賛成」「どちらかといえば賛成」及び「反対」「どちらかといえば反対」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

【全体結果】

男性が育児休暇を取得することについて、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は 86.0%であるが、前回調査と比べると減少している。

①男性の育児休暇取得への賛否＜男女別・年齢別＞



【男女別】

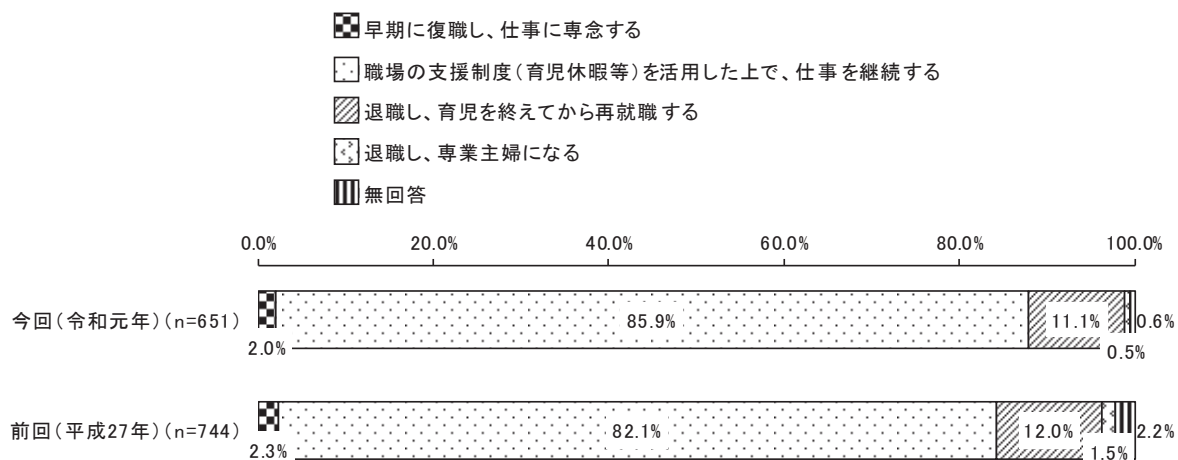
「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 81.7%、女性 89.2%)。

【年齢別】

年齢が若いほど、「賛成」と回答した割合が高い。

(6) 出産・育児の際の望ましい選択

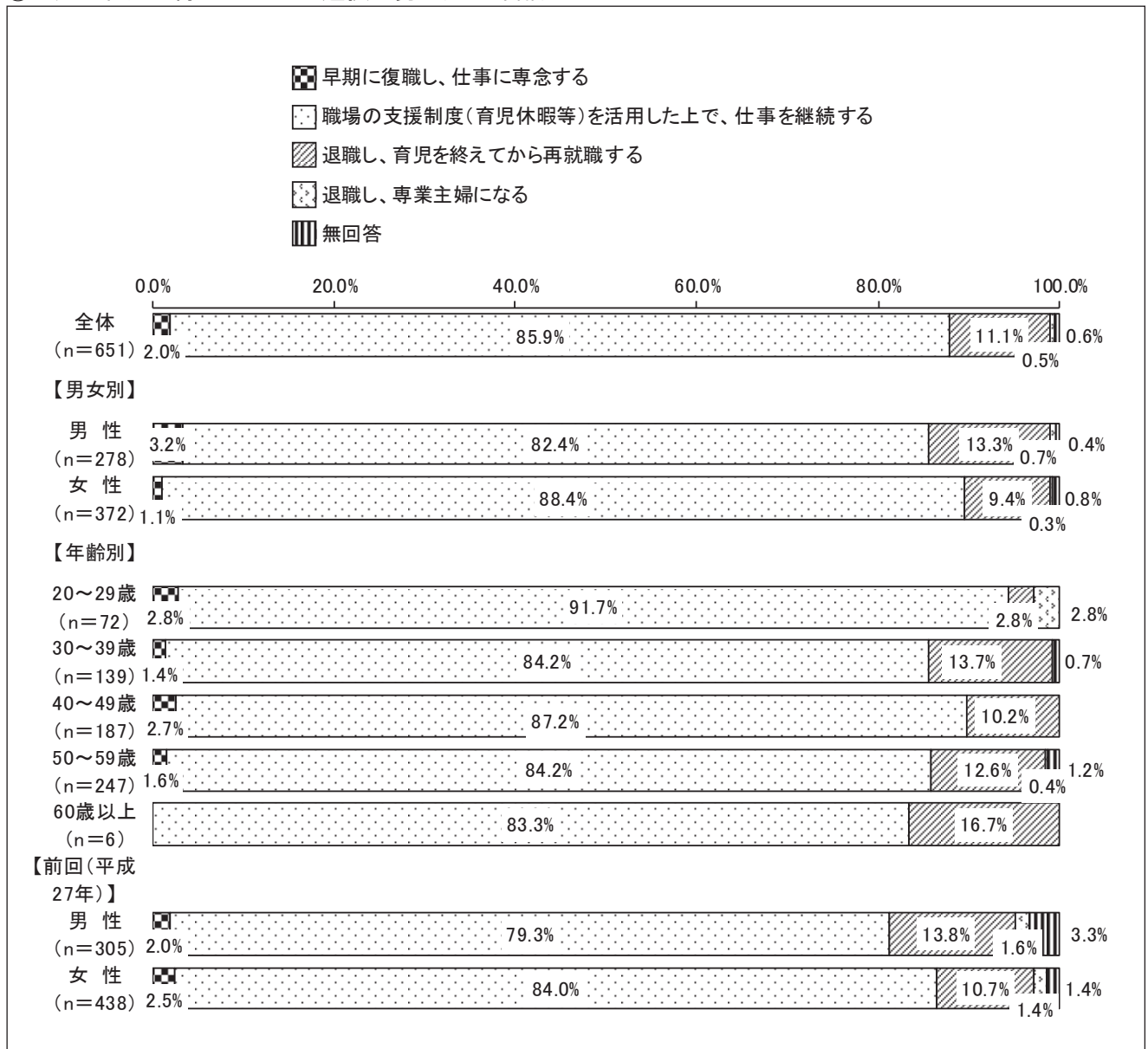
問20 働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいと思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいと思うかは、「職場の支援制度(育児休暇等)を活用した上で、仕事を継続する」が85.9%で最も高く、「早期に復職し、仕事に専念する」と回答した割合は低い。

①出産・育児の際の望ましい選択<男女別・年齢別>



【男女別】

「退職し、育児を終えてから再就職する」と回答した割合は、女性より男性の方が高い(女性 9.4%、男性 13.3%)。

【年齢別】

各年齢とも、「職場の支援制度(育児休暇等)を活用した上で、仕事を継続する」が8割を超えている(20~29歳 91.7%、30~39歳 84.2%、40~49歳 87.2%、50~59歳 84.2%)。

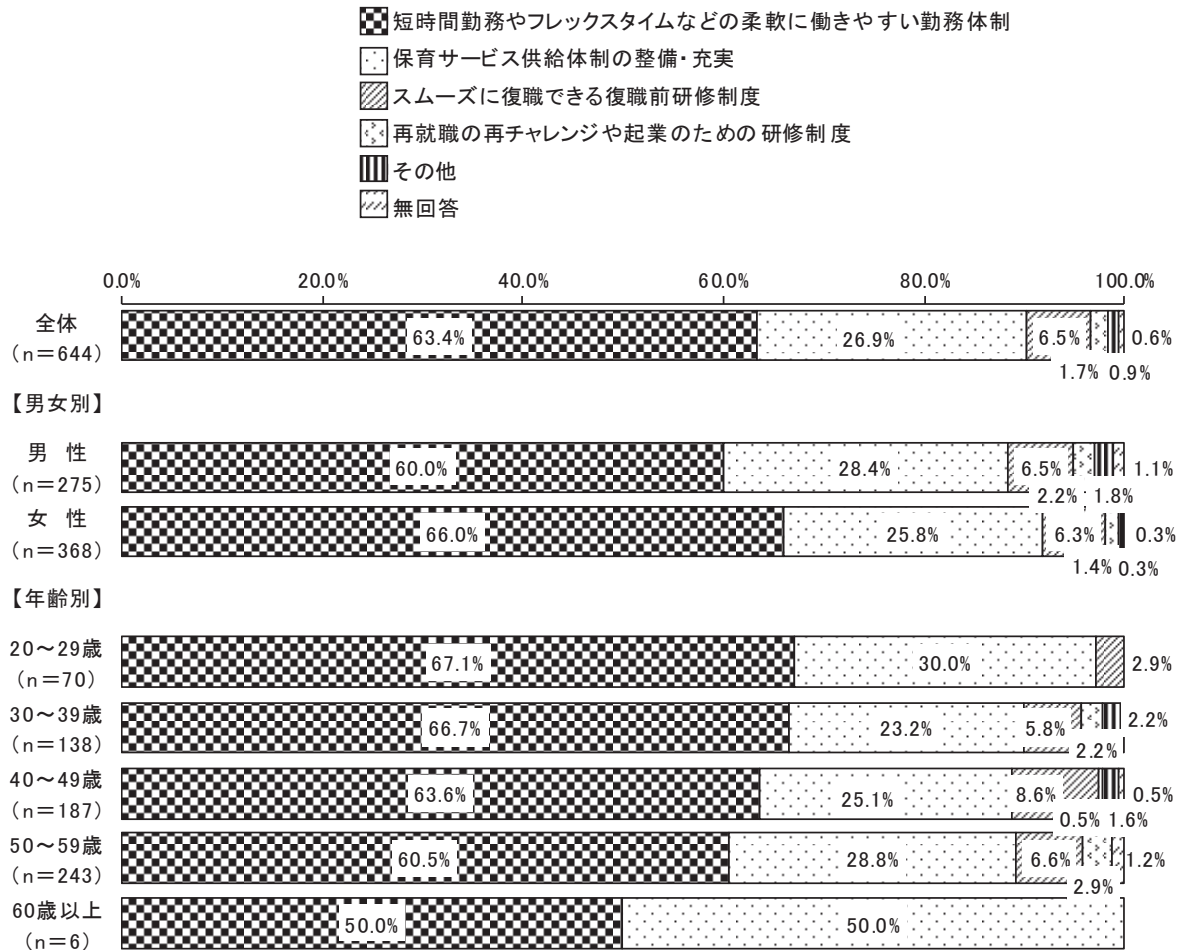
【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、男女とも「退職し、育児を終えてから再就職する」と回答した割合がわずかに減少している。

②復職・再就職する際に必要な支援

(問20で、1「早期に復職し、仕事に専念する」、2「職場の支援制度(育児休暇等)を活用した上で、仕事を継続する」、3「退職し、育児を終えてから再就職する」のいずれかを回答した方にだけお聞きします)

問20-1 復職・再就職する際どのような支援が必要だと思いますか。(○は1つだけ)



【全体結果】

復職・再就職する際に必要な支援としては、「短時間勤務やフレックスタイムなどの働きやすい勤務体制」が最も高い(63.4%)。

【男女別】

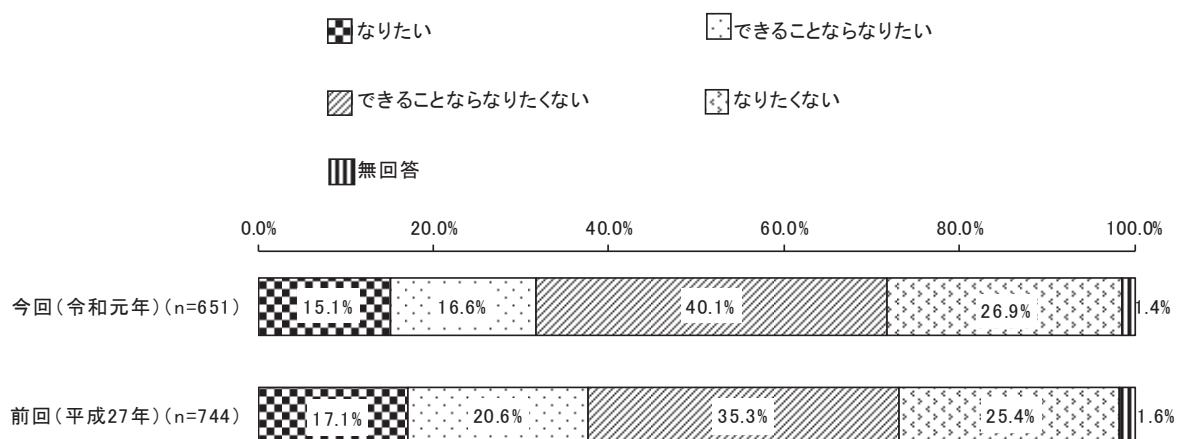
「短時間勤務やフレックスタイムなどの働きやすい勤務体制」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性60.0%、女性66.0%)。

【年齢別】

年齢が若いほど、「短時間勤務やフレックスタイムなどの働きやすい勤務体制」と回答した割合が高い。

(7) リーダー・管理職への意欲

問21 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つだけ)



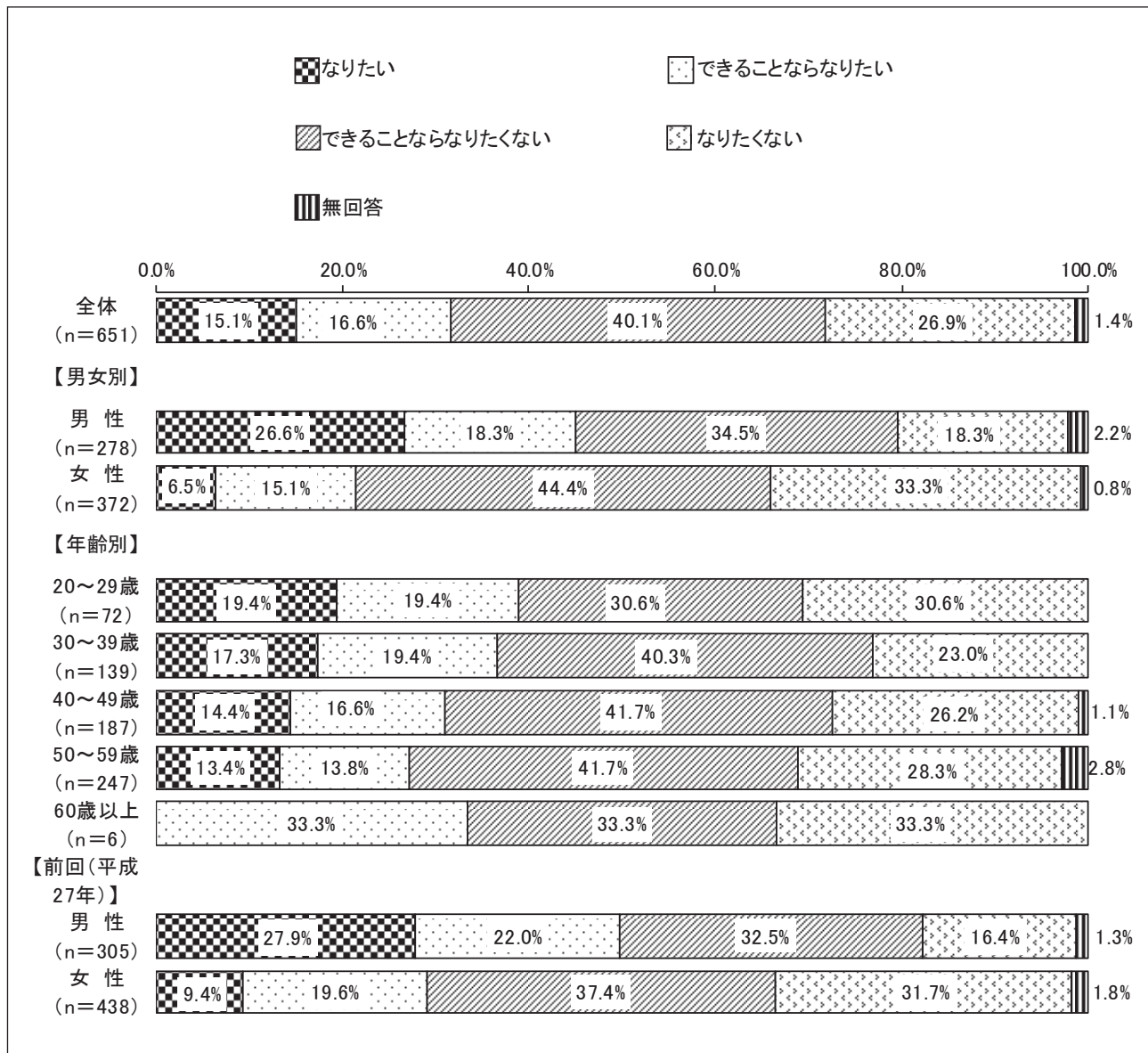
	「なりたい」 「できることなら なりたい」	「なりたくない」 「できることなら なりたくない」
リーダー・管理職になりたい と思いますか	31.6%	67.0%

* 「なりたい」「できることならなりたい」及び「なりたくない」「できることならなりたくない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

【全体結果】

リーダー・管理職に「なりたい」又は「できることならなりたい」が 31.6%、「できることならなりたくない」又は「なりたくない」は 67.0%で、「なりたい」又は「できることならなりたい」を大きく上回っている。

①リーダー・管理職への意欲<男女別・年齢別>



【男女別】

「なりたい」と回答した割合は、女性より男性の方が高い（女性 6.5%、男性 26.6%）。

【年齢別】

年齢が若いほど、「なりたい」と回答した割合が高い。

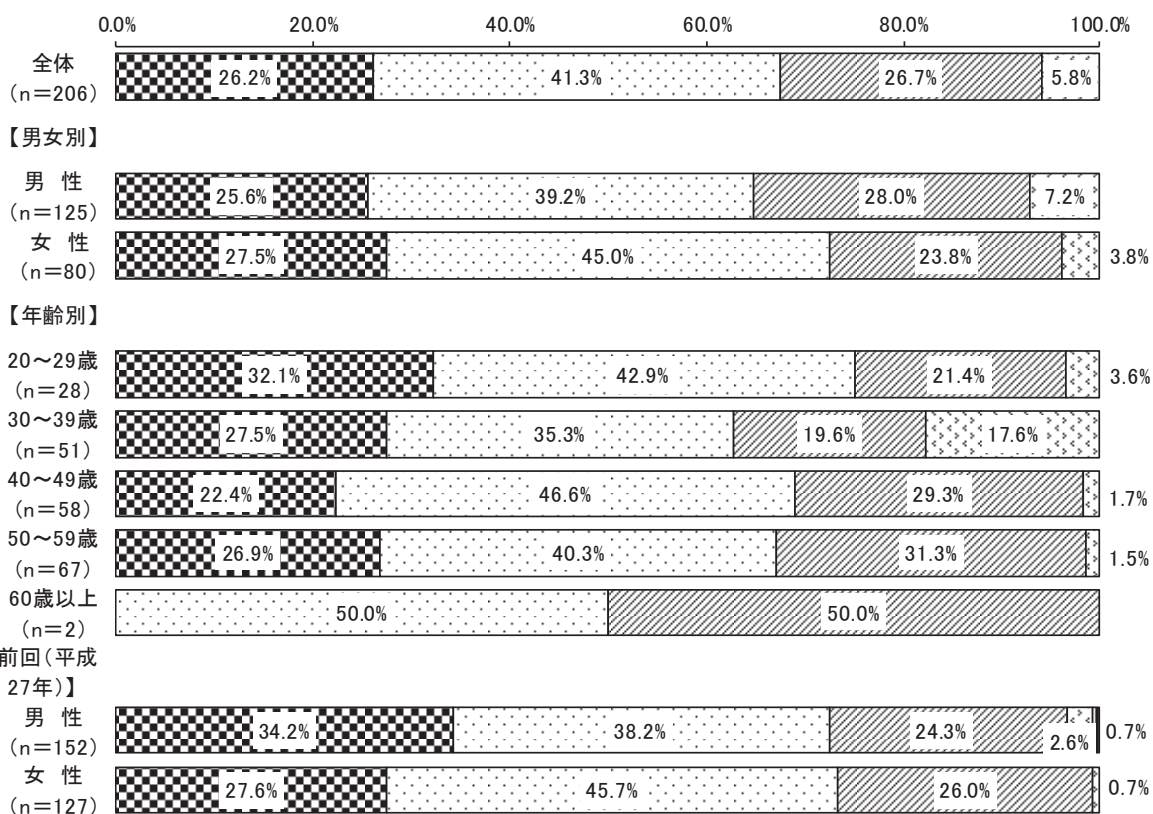
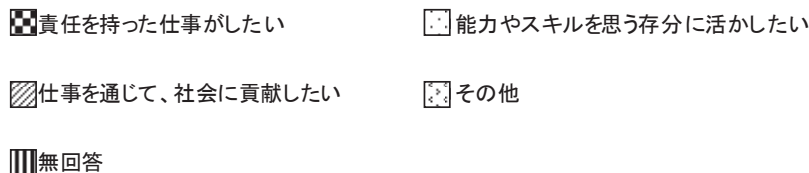
【前回調査（平成27年）比較】

前回調査と比べると、男女とも「なりたい」又は「できることならなりたい」と回答した割合は減少し、「できることならなりたくない」又は「なりたくない」と回答した割合が増加している。

②リーダー・管理職になりたい理由

(問21で、1「なりたい」または2「できることならなりたい」を回答した方にだけお聞きします)

問21-1 なぜなりたいと思いますか。(〇は1つだけ)



【全体結果】

リーダー・管理職になりたい理由としては、「能力やスキルを思う存分に活かしたい」が41.3%で最も高い。

【男女別】

「能力やスキルを思う存分に活かしたい」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性39.2%、女性45.0%)。

【年齢別】

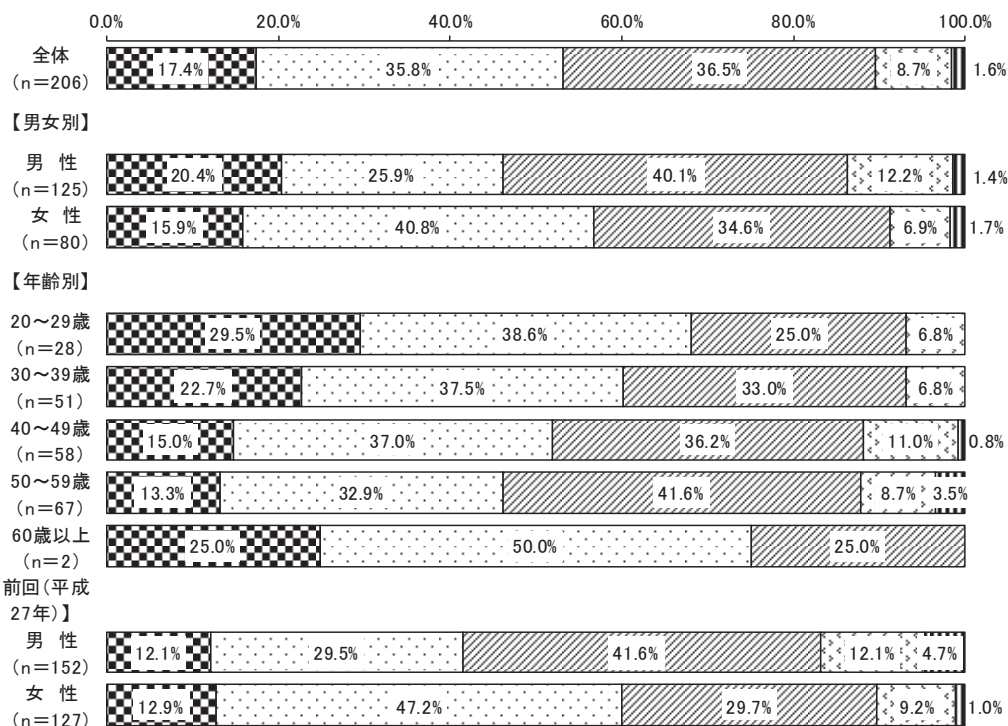
20~29歳、40~49歳で「能力やスキルを思う存分に活かしたい」、40~59歳で「仕事を通じて、社会に貢献したい」と回答した割合が高い。

③リーダー・管理職になりたくない理由

(問21で、3「できることならなりたくない」または4「なりたくない」を回答した方にだけお聞きします)

問21-2 なぜなりたくないと思いますか。(○は1つだけ)

- 責任を持ちたくない
- 能力やスキルが十分でない
- 人間関係で苦労したくない
- その他
- 無回答



【全体結果】

リーダー・管理職になりたくない理由としては、「人間関係で苦労したくない」が36.5%、「能力やスキルが十分でない」が35.8%で、いずれも3割を超える高い割合になっている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、男女とも「責任を持ちたくない」と回答した割合が増加している。

【男女別】

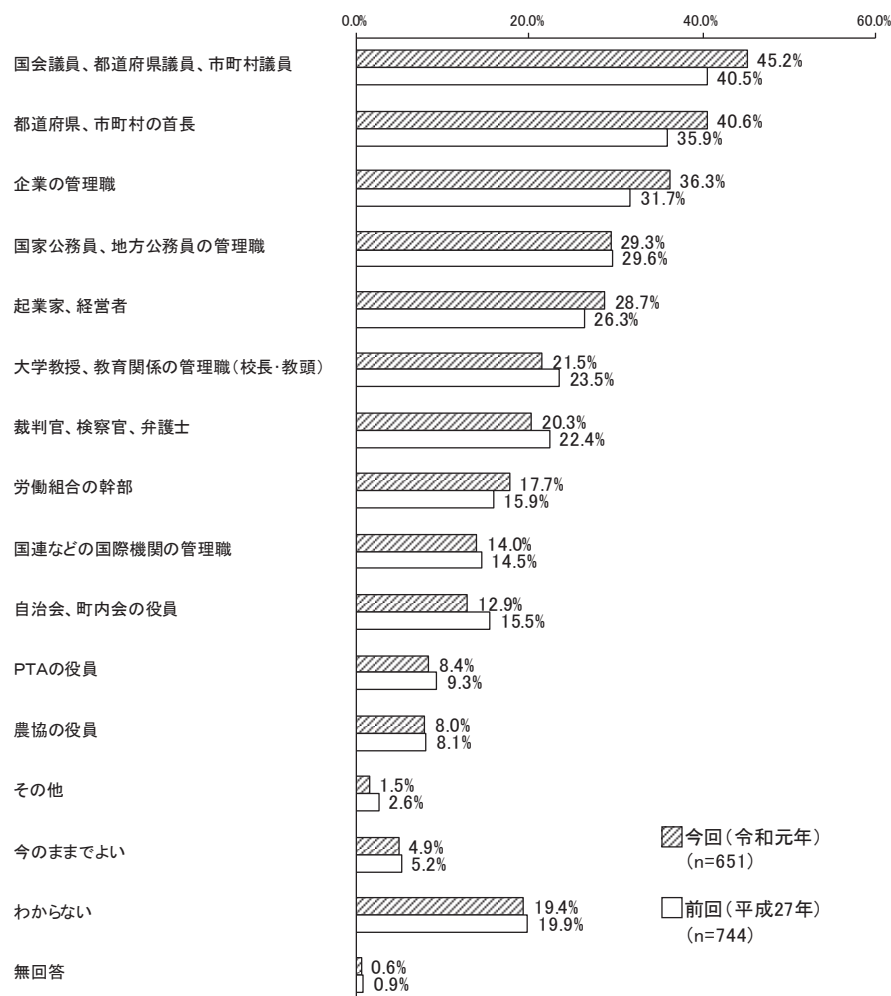
「責任を持ちたくない」、「人間関係で苦労したくない」と回答した割合は、女性より男性の方が高く、「能力やスキルが十分でない」と回答した割合は、男性より女性の方が高い。

【年齢別】

年齢が若いほど、「責任を持ちたくない」、「能力やスキルが十分でない」と回答した割合が高く、年齢が高いほど、「人間関係で苦労したくない」と回答した割合が高い。

(8) 女性の増加を望む役職

問 2 2 本県は、政策、方針決定に関わる役職の女性の割合が全国平均と比べて低い現状にあります。あなたが、次にあげるような政策、方針決定に関わる役職において、今後、女性が増えたといいと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)



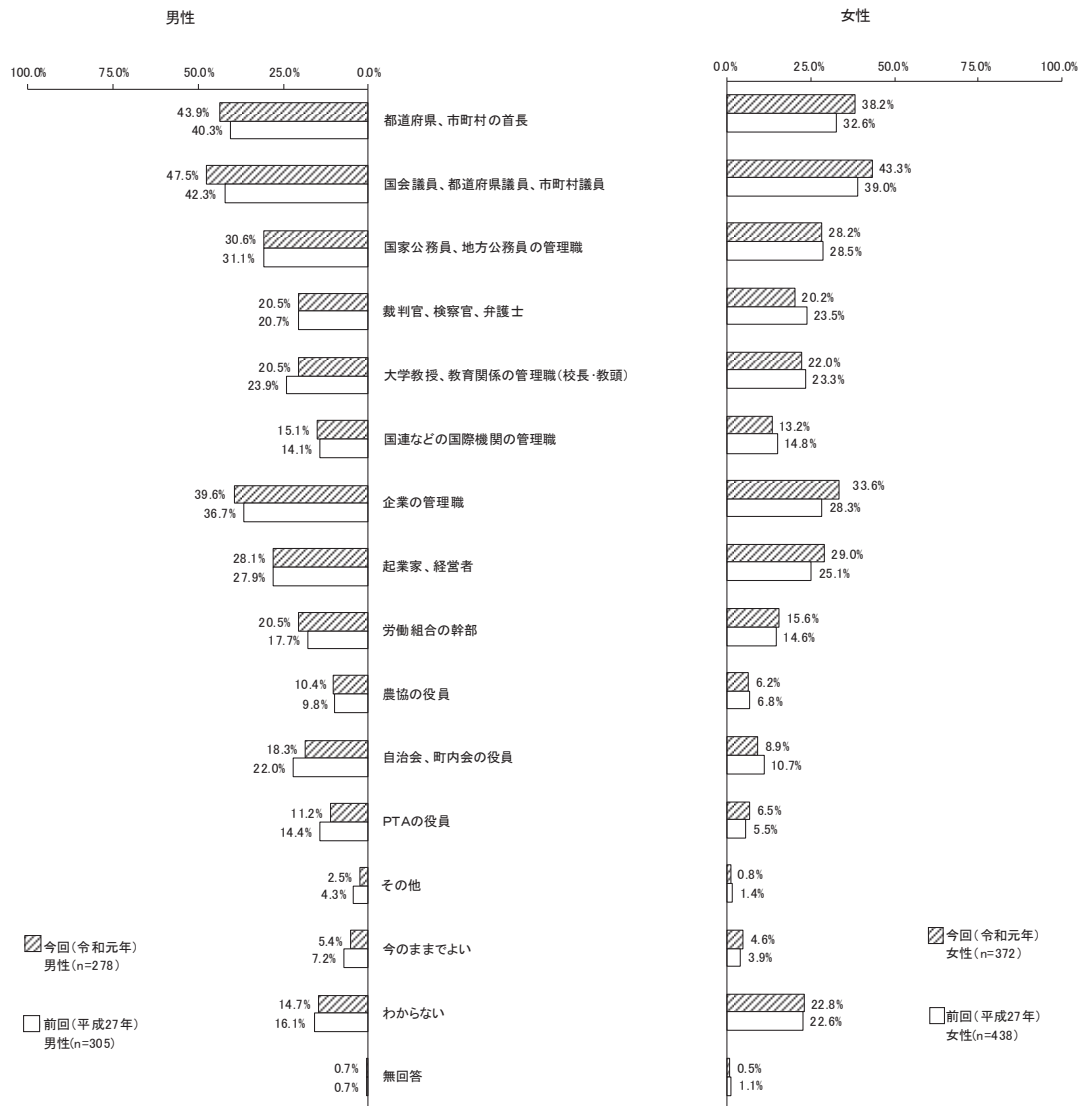
【全体結果】

女性の増加を望む役職として、「国会議員、都道府県議員、市町村議員」が 45.2%で最も高く、次いで「都道府県、市町村の首長」が 40.6%、「企業の管理職」が 36.3%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、女性の増加を望む役職として「国会議員、都道府県議員、市町村議員」、「都道府県、市町村の首長」、「企業の管理職」と回答した割合が増加している。

①女性の増加を望む役職＜男女別・年齢別＞



	都道府県、市町村の首長	国会議員、都道府県議員、市町村議員	国家公務員、地方公務員の管理職	裁判官、検察官、弁護士	大学教授、教育関係の管理職(校長・教頭)	国連などの国際機関の管理職	企業の管理職	起業家、経営者
20～29歳 (n=72)	34.7%	40.3%	31.9%	19.4%	25.0%	12.5%	40.3%	29.2%
30～39歳 (n=139)	46.8%	44.6%	33.8%	20.1%	20.9%	18.0%	35.3%	23.7%
40～49歳 (n=187)	42.2%	47.1%	29.4%	25.7%	26.2%	14.4%	36.4%	29.9%
50～59歳 (n=247)	37.2%	45.7%	26.3%	17.0%	17.4%	12.1%	35.2%	30.0%
60歳以上 (n=6)	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	50.0%	50.0%

	労働組合の幹部	農協の役員	自治会、町内会の役員	PTAの役員	その他	今のままでよい	わからない	無回答
20～29歳 (n=72)	16.7%	8.3%	11.1%	8.3%	2.8%	4.2%	19.4%	1.4%
30～39歳 (n=139)	22.3%	8.6%	11.5%	7.2%	2.2%	3.6%	22.3%	1.4%
40～49歳 (n=187)	19.8%	8.6%	16.0%	11.8%	2.1%	5.9%	17.6%	0.0%
50～59歳 (n=247)	14.2%	7.3%	12.1%	6.5%	0.4%	5.3%	19.0%	0.4%
60歳以上 (n=6)	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%

【男女別】

男女とも、「国会議員、都道府県議員、市町村議員」と回答した割合が最も高く（男性 47.5%、女性 43.3%）、次いで「都道府県、市町村の首長」（男性 43.9%、女性 38.2%）、「企業の管理職」（男性 39.6%、女性 33.6%）と続いている。

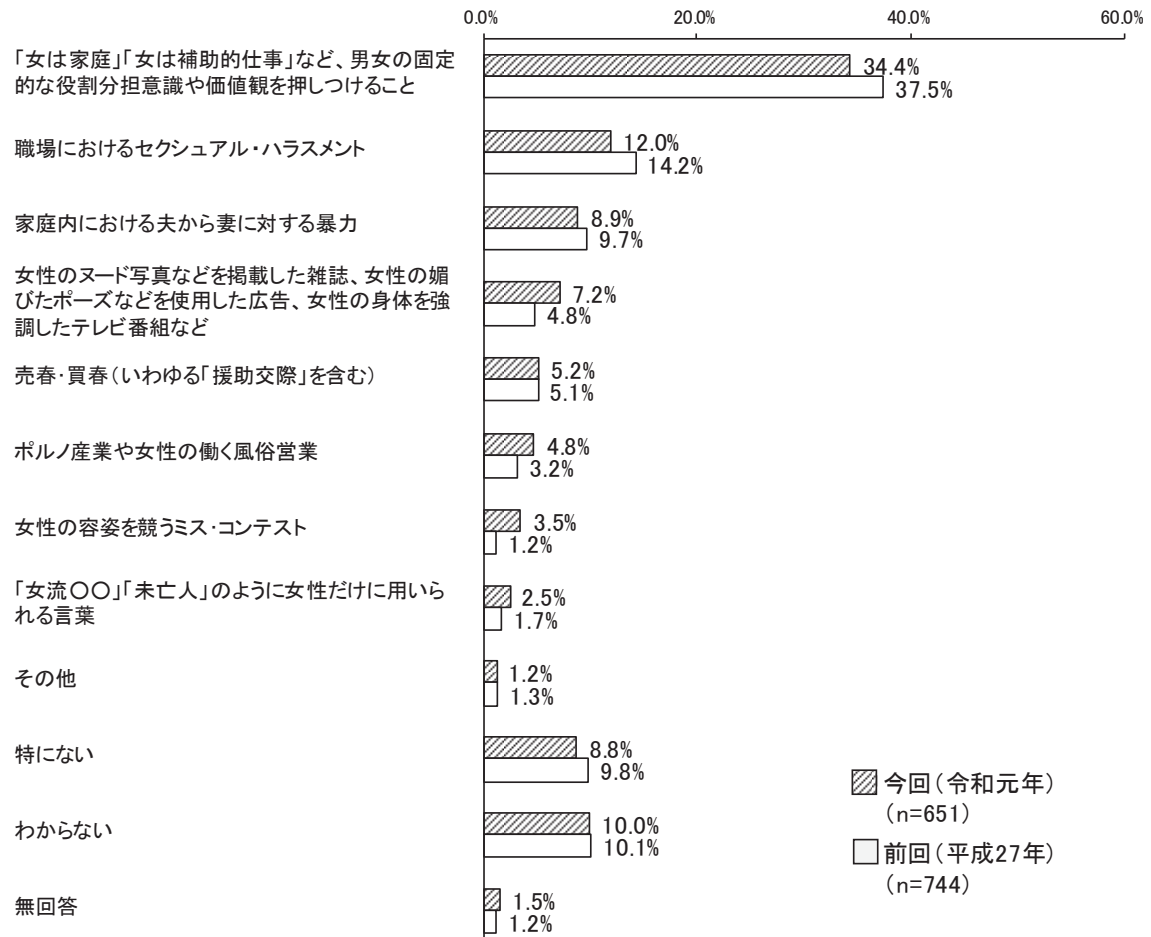
【年齢別】

各年齢とも、「国会議員、都道府県議員、市町村議員」、「都道府県、市町村の首長」、「企業の管理職」、「国家公務員、地方公務員の管理職」と回答した割合が高い。

4. 男女の人権

(1) 女性の人権が尊重されていないと感じること

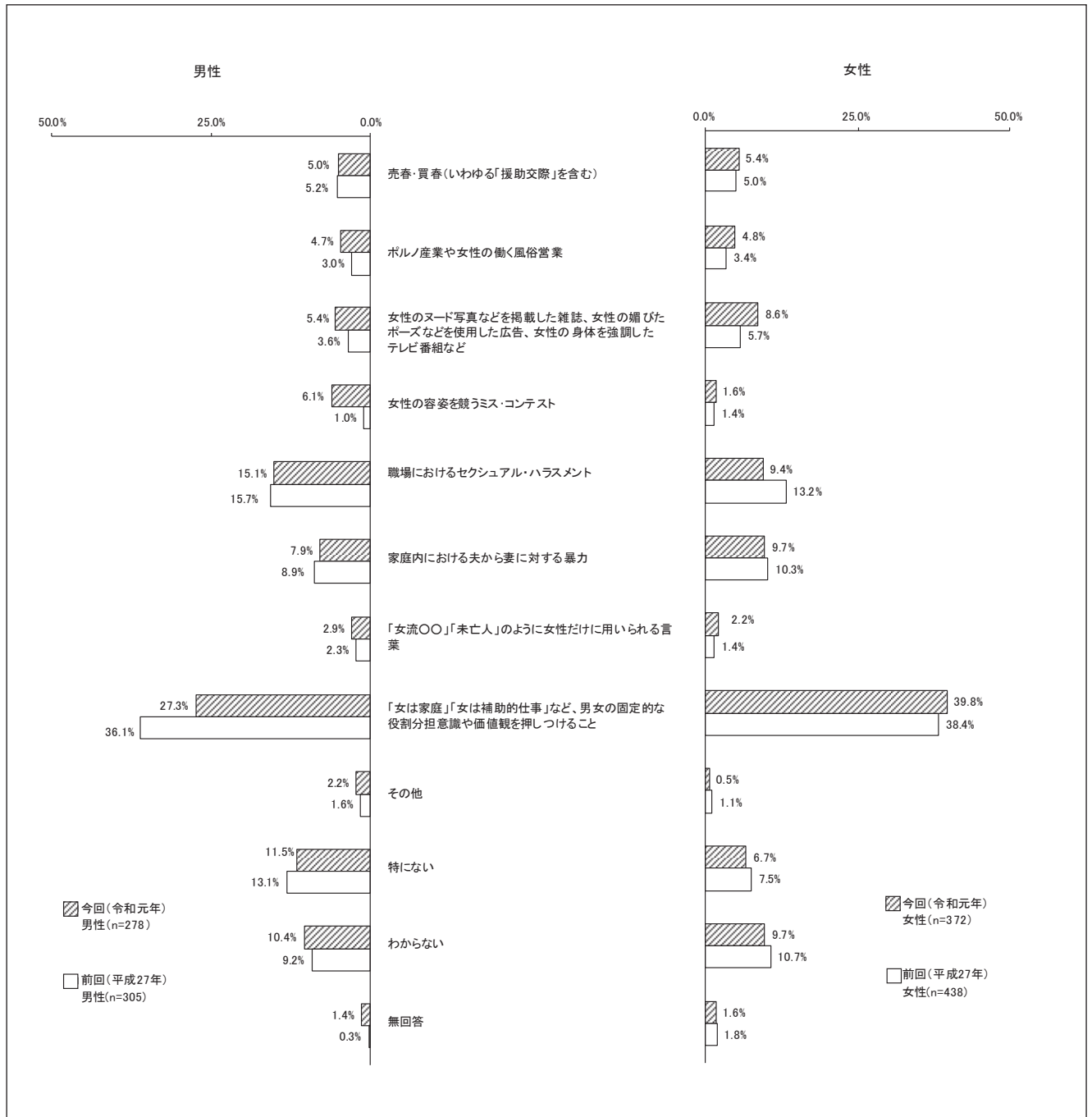
問23 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の中から選んでください。(〇は1つだけ)



【全体結果】

女性の人権が尊重されていないと感じることとしては、『「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること』が34.4%で最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が12.0%となっている。

①女性の人権が尊重されていないと感じること<男女別・年齢別>



	売春・買春(いわゆる「援助交際」を含む)	ポルノ産業や女性の働く風俗営業	女性のヌード写真などを掲載した雑誌、女性の媚びたポーズなどを使用した広告、女性の身体を強調したテレビ番組など	女性の容姿を競うミス・コンテスト	職場におけるセクシュアル・ハラスメント	家庭内における夫から妻に対する暴力	「女流〇〇」「未亡人」のように女性だけに用いられる言葉	「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること	その他	特にない	わからない	無回答
20~29歳 (n=72)	6.9%	6.9%	6.9%	4.2%	11.1%	9.7%	2.8%	30.6%	1.4%	5.6%	13.9%	0.0%
30~39歳 (n=139)	6.5%	7.2%	8.6%	1.4%	10.1%	10.1%	5.0%	36.0%	2.2%	5.8%	6.5%	0.7%
40~49歳 (n=187)	2.7%	3.2%	6.4%	3.7%	15.5%	8.0%	2.1%	33.7%	1.1%	10.2%	11.8%	1.6%
50~59歳 (n=247)	6.1%	4.0%	6.5%	4.5%	10.9%	8.9%	1.2%	34.8%	0.8%	10.5%	9.3%	2.4%
60歳以上 (n=6)	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%

【男女別】

『「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること』と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性 27.3%、女性 39.8%）。

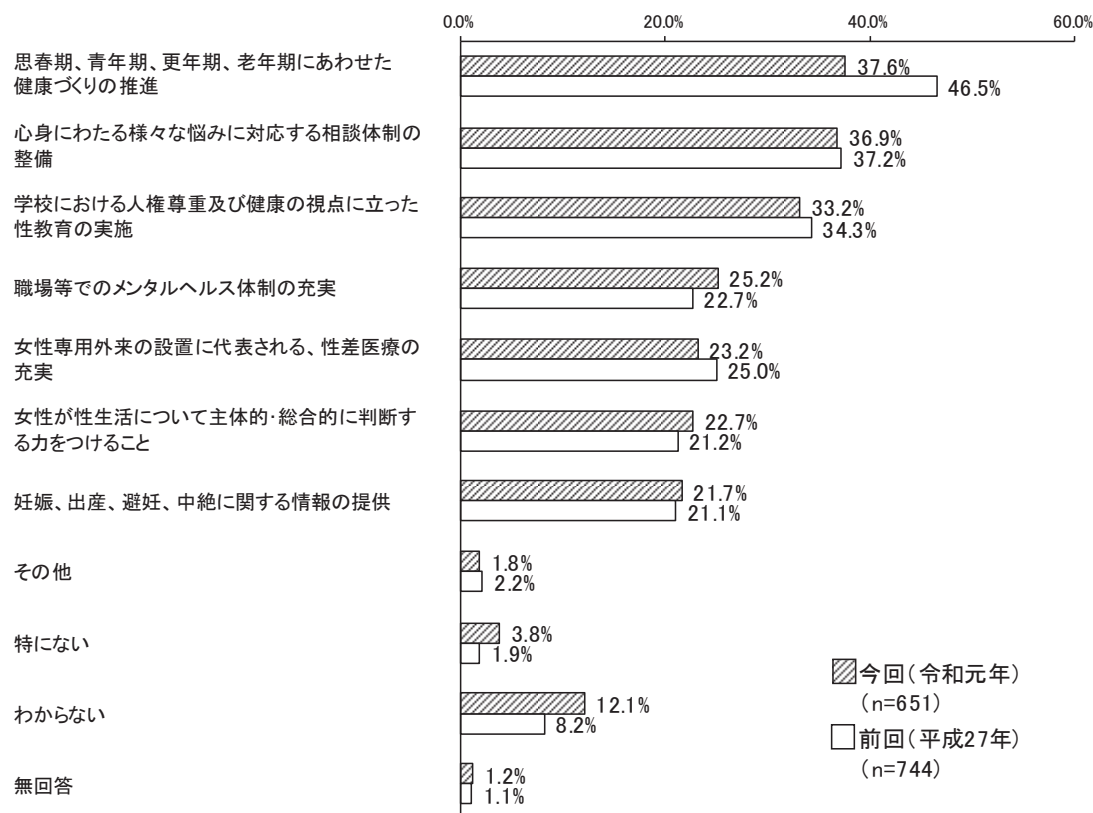
前回調査と比べると、『「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること』と回答した女性の割合は増加しているのに対し、男性の割合は減少している。

【年齢別】

各年齢とも、『「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること』と回答した割合が高い。

(2) 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと

問24 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)



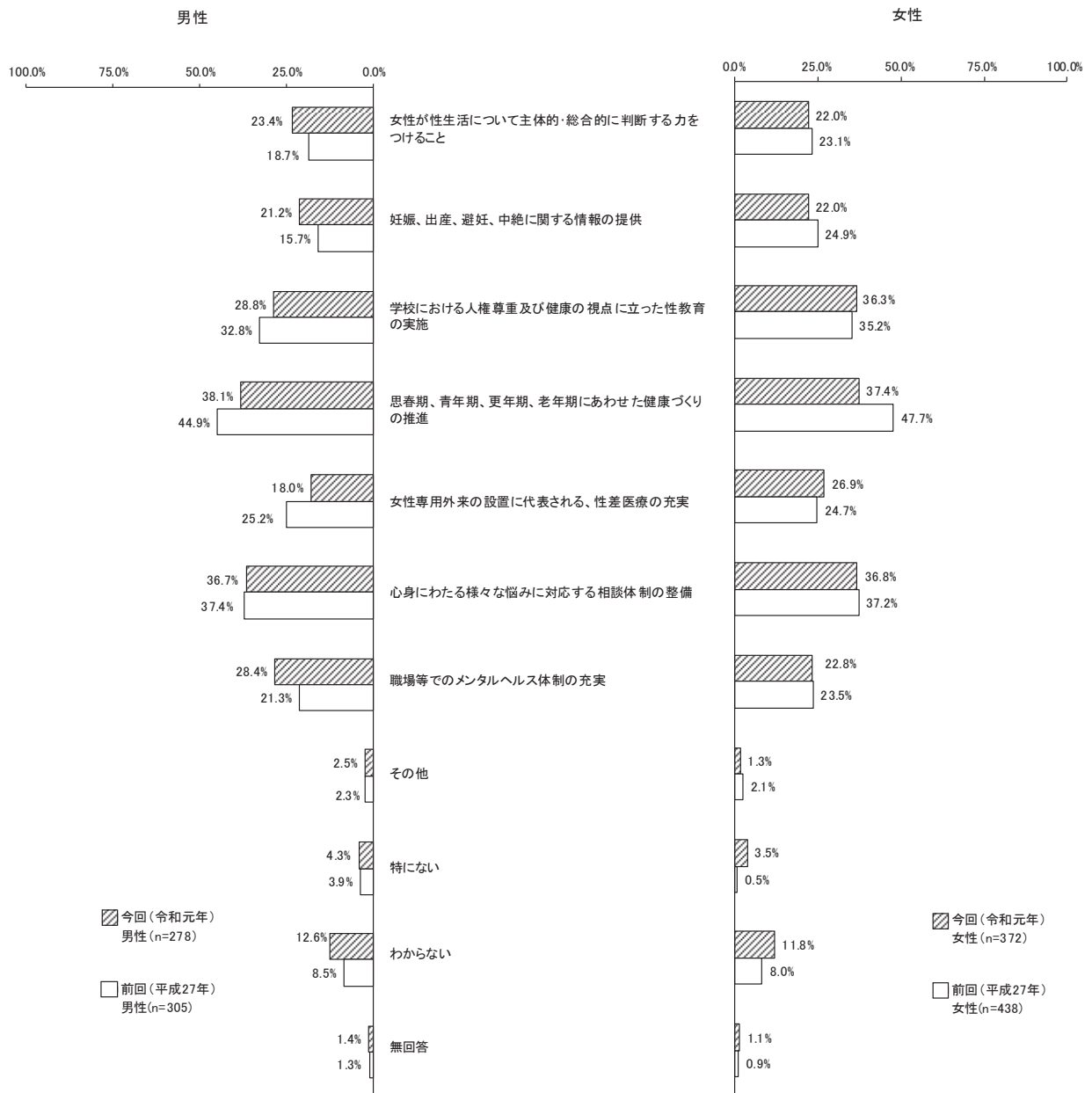
【全体結果】

男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこととしては、「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」が37.6%で最も高く、次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」が36.9%、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」が33.2%と続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」と回答した割合が減少している。

①男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと<男女別・年齢別>



	女性が性生活について主体的・総合的に判断する力をつけること	妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供	学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施	思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進	女性専用外来の設置に代表される、性差医療の充実	心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備	職場等でのメンタルヘルス体制の充実	その他	特にない	わからない	無回答
20～29歳 (n=72)	30.6%	43.1%	30.6%	27.8%	18.1%	40.3%	30.6%	0.0%	1.4%	15.3%	1.4%
30～39歳 (n=139)	22.3%	24.5%	35.3%	36.7%	19.4%	32.4%	26.6%	2.9%	2.9%	14.4%	0.0%
40～49歳 (n=187)	26.7%	18.2%	36.4%	43.3%	26.2%	42.2%	26.7%	2.7%	3.2%	10.2%	1.1%
50～59歳 (n=247)	18.2%	17.0%	30.4%	36.8%	24.3%	35.2%	22.3%	0.8%	5.7%	10.9%	2.0%
60歳以上 (n=6)	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%

【男女別】

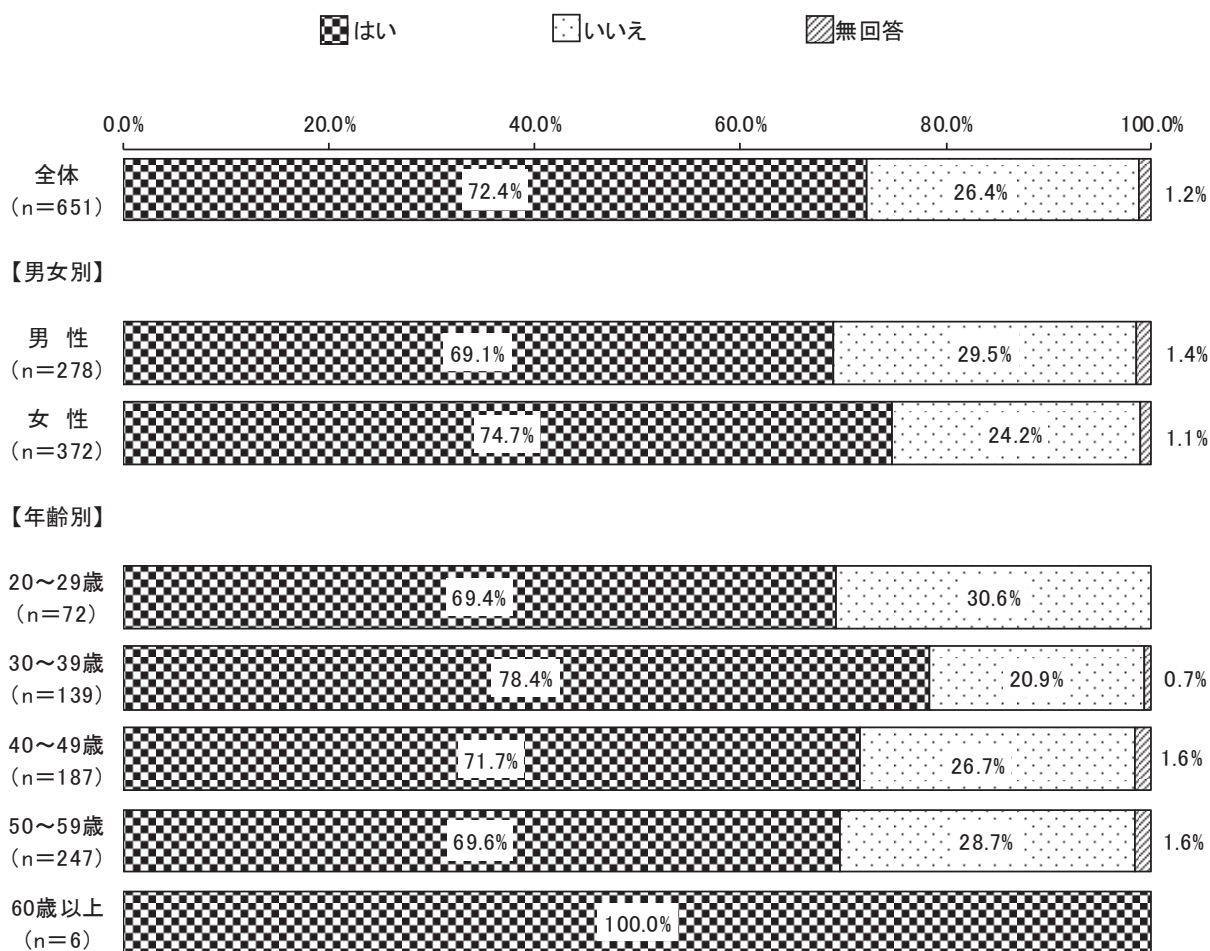
男女とも、「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」が最も高く（男性 38.1%、女性 37.4%）、次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」（男性 36.7%、女性 36.8%）、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」（男性 28.8%、女性 36.3%）と続いている。

【年齢別】

20～29歳では、「妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供」と回答した割合が高く、40～49歳では、「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」と回答した割合が高い。

(3) 性的マイノリティの認知度

問25 あなたは、性的マイノリティ（またはLGBTなど）という言葉を知っていますか。



【全体結果】

性的マイノリティという言葉を知っていますかについては、「はい」が72.4%であったのに対し、「いいえ」は26.4%であった。

【男女別】

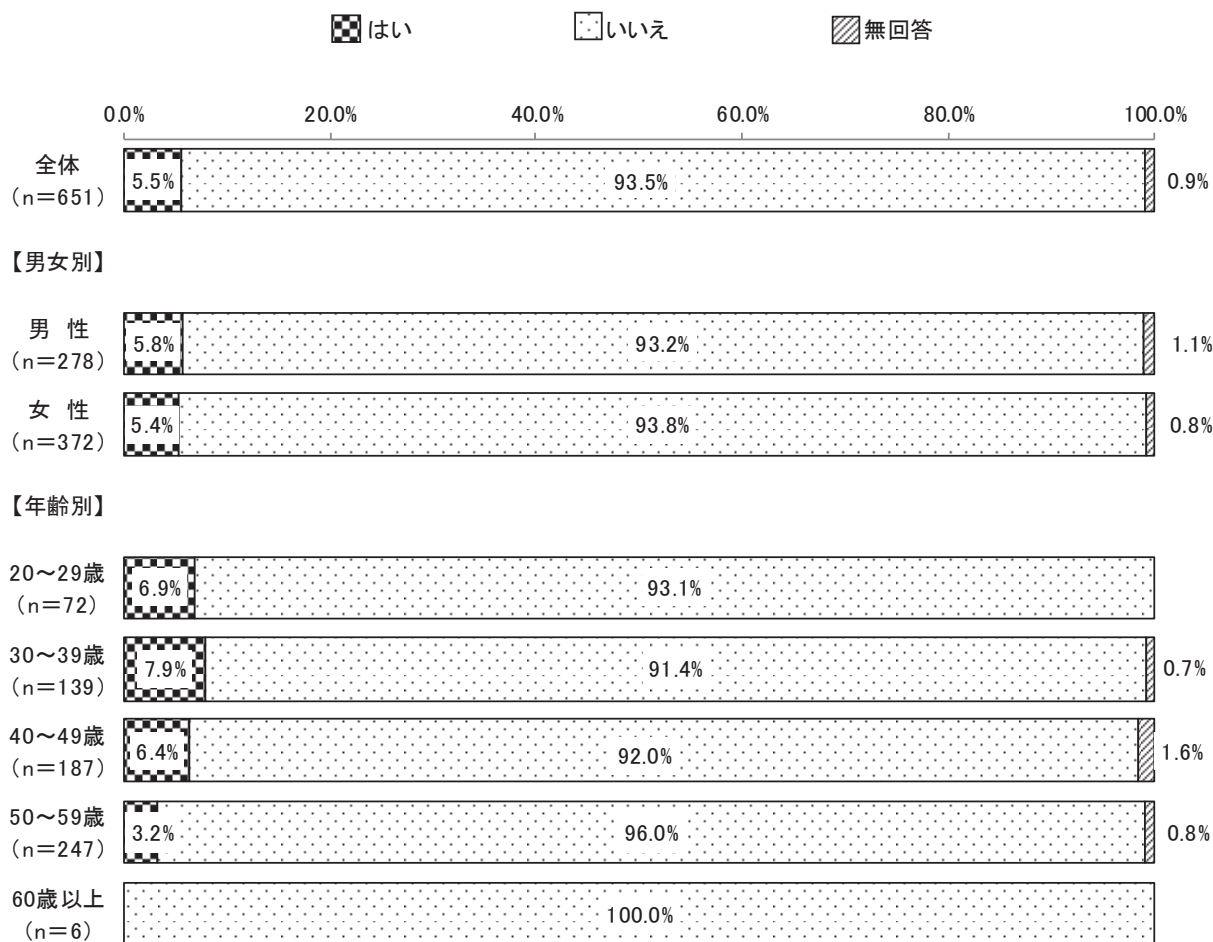
「はい」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性69.1%、女性74.7%）。

【年齢別】

30～39歳で「はい」と回答した割合が最も高い。

(4) 性的指向について悩んだ経験の有無

問26 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。



【全体結果】

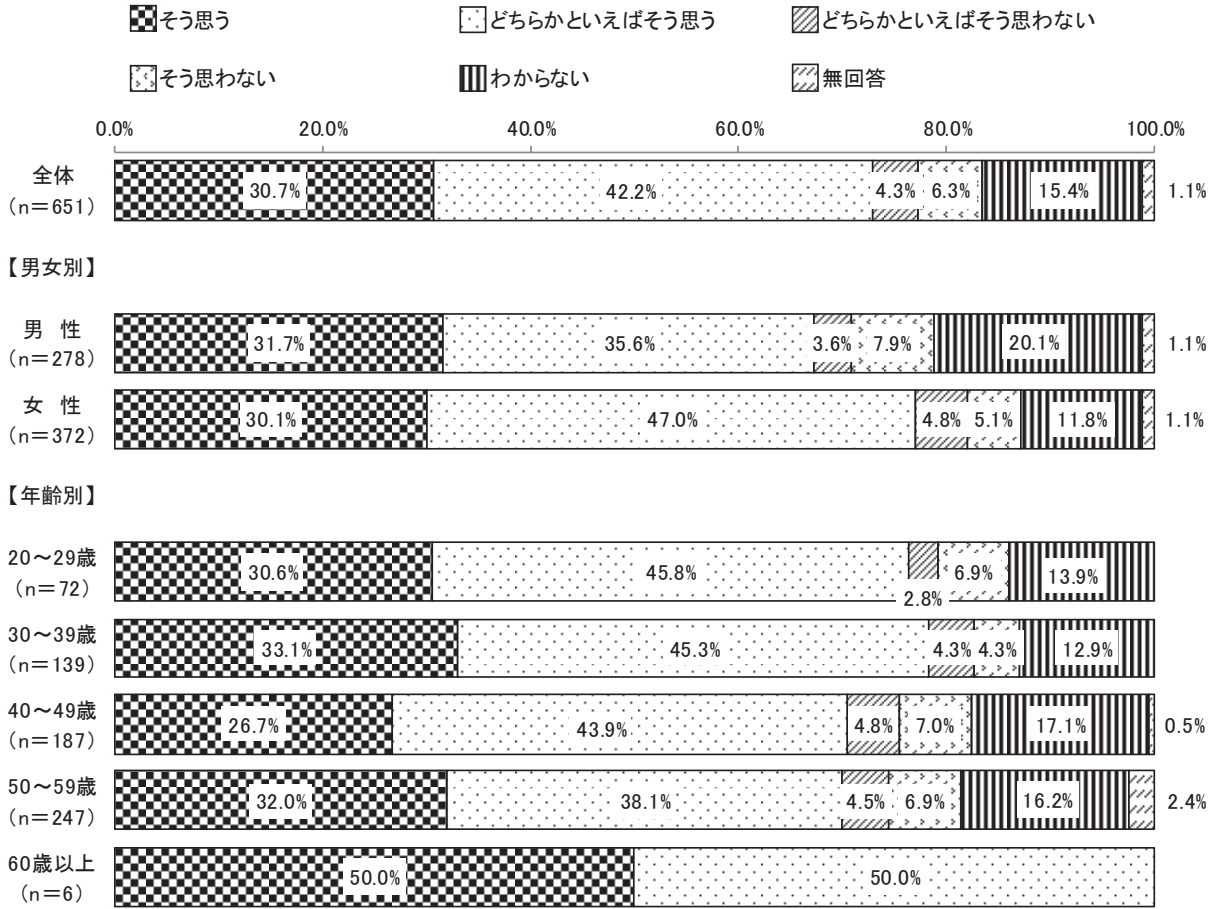
性的指向について悩んだ経験は、「いいえ」の93.5%に対し、「はい」は5.5%と1割未満となっている。

【男女別】

男女で大きな差は見られない。

(5) 性的マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか

問27 現在、性的マイノリティ※(またはLGBTなど)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。(〇は1つだけ)



	「そう思う」 「どちらかといえば そう思う」	「そう思わない」 「どちらかといえば そう思わない」
性的マイノリティの方にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか	73.0%	10.6%

* 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」及び「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

【全体結果】

性的マイノリティの方にとって生活しづらい社会だと思うかについて、73.0%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答している。

【男女別】

「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性67.3%、女性77.1%)。

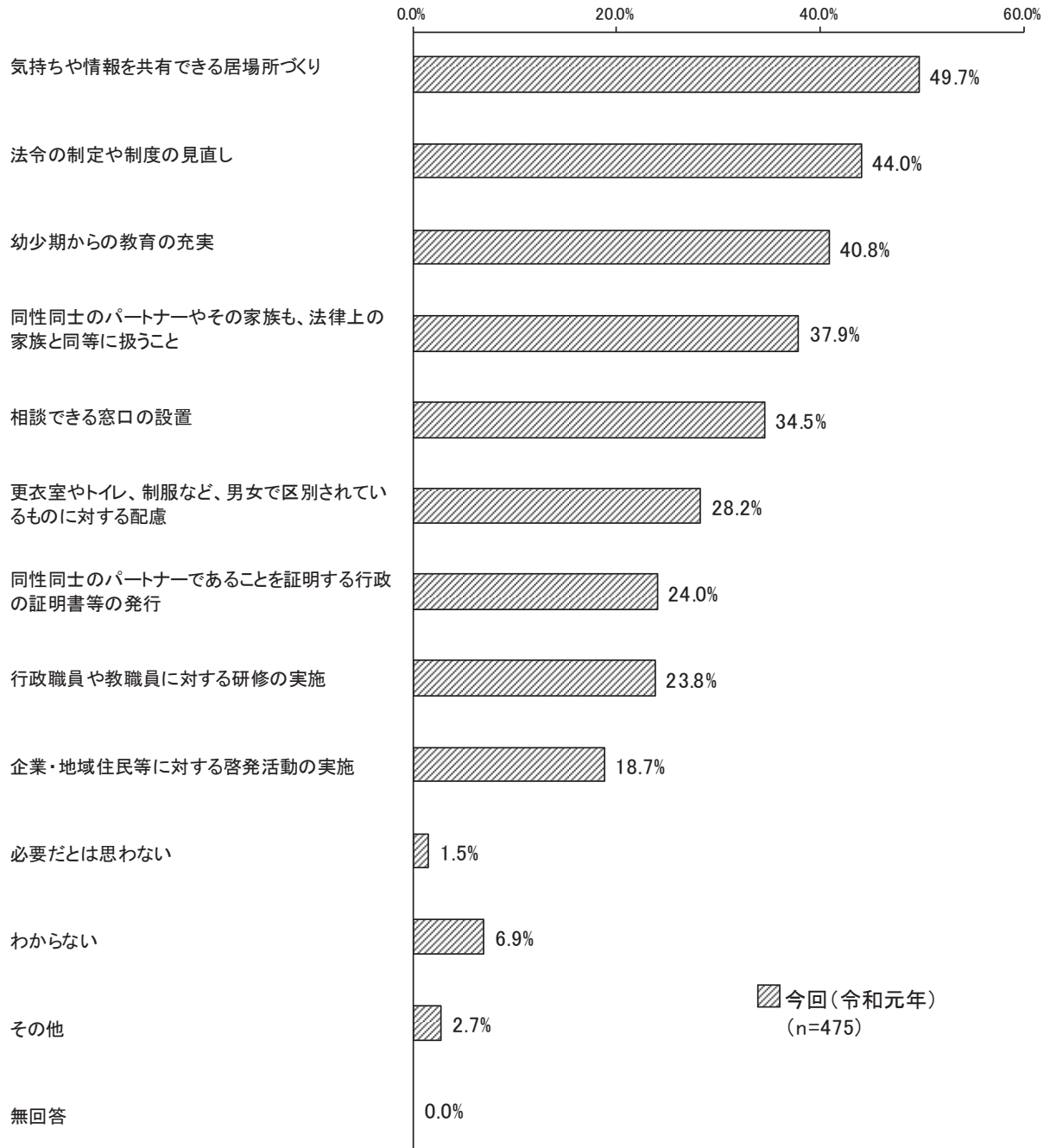
【年齢別】

年齢が若いほど、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高い傾向にある。

①性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策

(問27で、1「そう思う」または2「どちらかといえばそう思う」を回答した方にだけお聞きします)

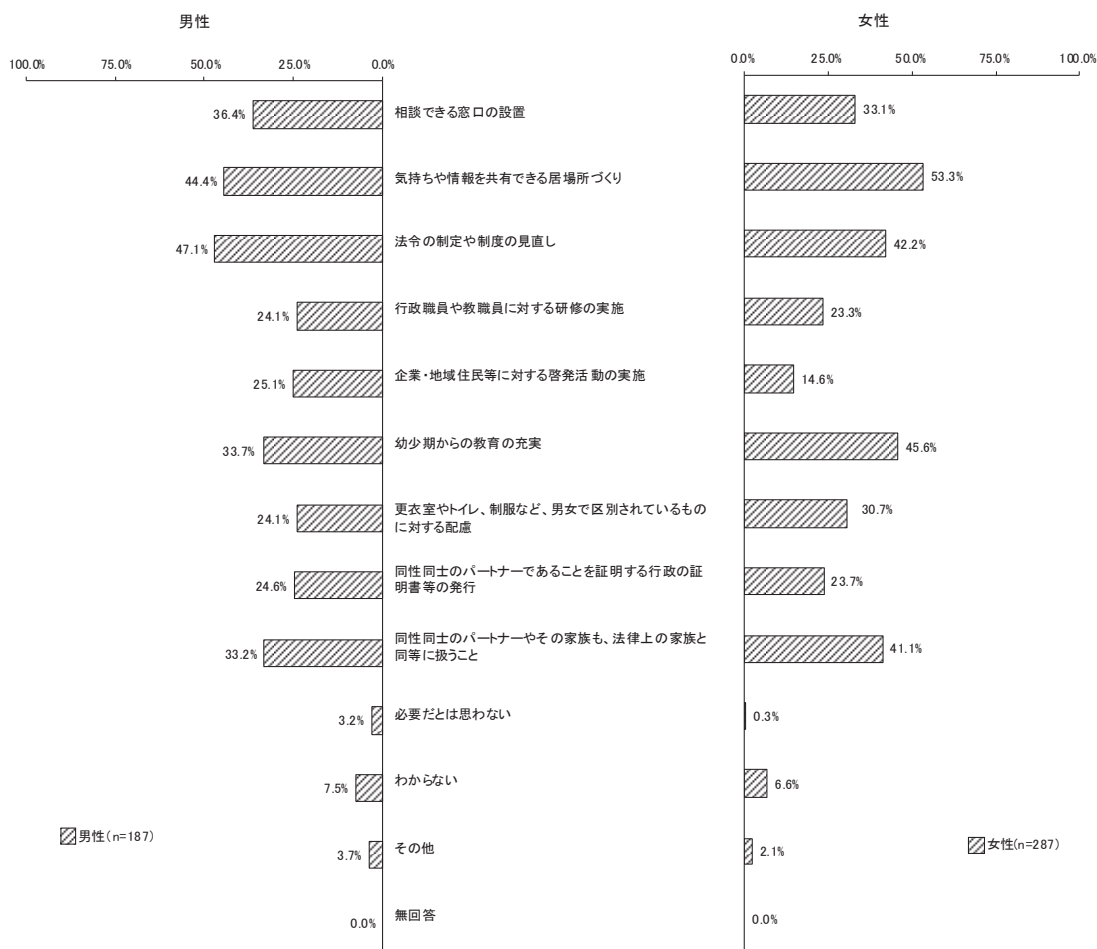
問27-1 性的マイノリティ(またはLGBTなど)の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



【全体結果】

性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策は、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が49.7%で最も高く、次いで「法令の制定や制度の見直し」が44.0%、「幼少期からの教育の充実」が40.8%と続いている。

②性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策<男女別・年齢別>



	相談できる窓口の設置	気持ちや情報を共有できる居場所づくり	法令の制定や制度の見直し	行政職員や教職員に対する研修の実施	企業・地域住民等に対する啓発活動の実施	幼少期からの教育の充実	更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮
20～29歳 (n=55)	30.9%	65.5%	43.6%	23.6%	12.7%	38.2%	38.2%
30～39歳 (n=109)	30.3%	52.3%	45.0%	22.9%	17.4%	44.0%	33.9%
40～49歳 (n=132)	34.8%	54.5%	38.6%	23.5%	19.7%	43.9%	31.8%
50～59歳 (n=173)	37.6%	41.0%	46.2%	24.3%	20.2%	38.2%	19.7%
60歳以上 (n=6)	50.0%	0.0%	83.3%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%

	同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行	同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと	必要だとは思わない	わからない	その他	無回答
20～29歳 (n=55)	36.4%	49.1%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
30～39歳 (n=109)	27.5%	44.0%	1.8%	9.2%	6.4%	0.0%
40～49歳 (n=132)	19.7%	33.3%	0.0%	8.3%	1.5%	0.0%
50～59歳 (n=173)	21.4%	34.7%	2.9%	6.4%	2.3%	0.0%
60歳以上 (n=6)	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【男女別】

男性では、「法令の制定や制度の見直し」が 47.1%、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が 44.4%と、高い割合になっている。

女性では、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が 53.3%で最も高く、次いで「幼児期からの教育の充実」が 45.6%となっている。

【年齢別】

概ね年齢が若いほど、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」と回答した割合が高い。

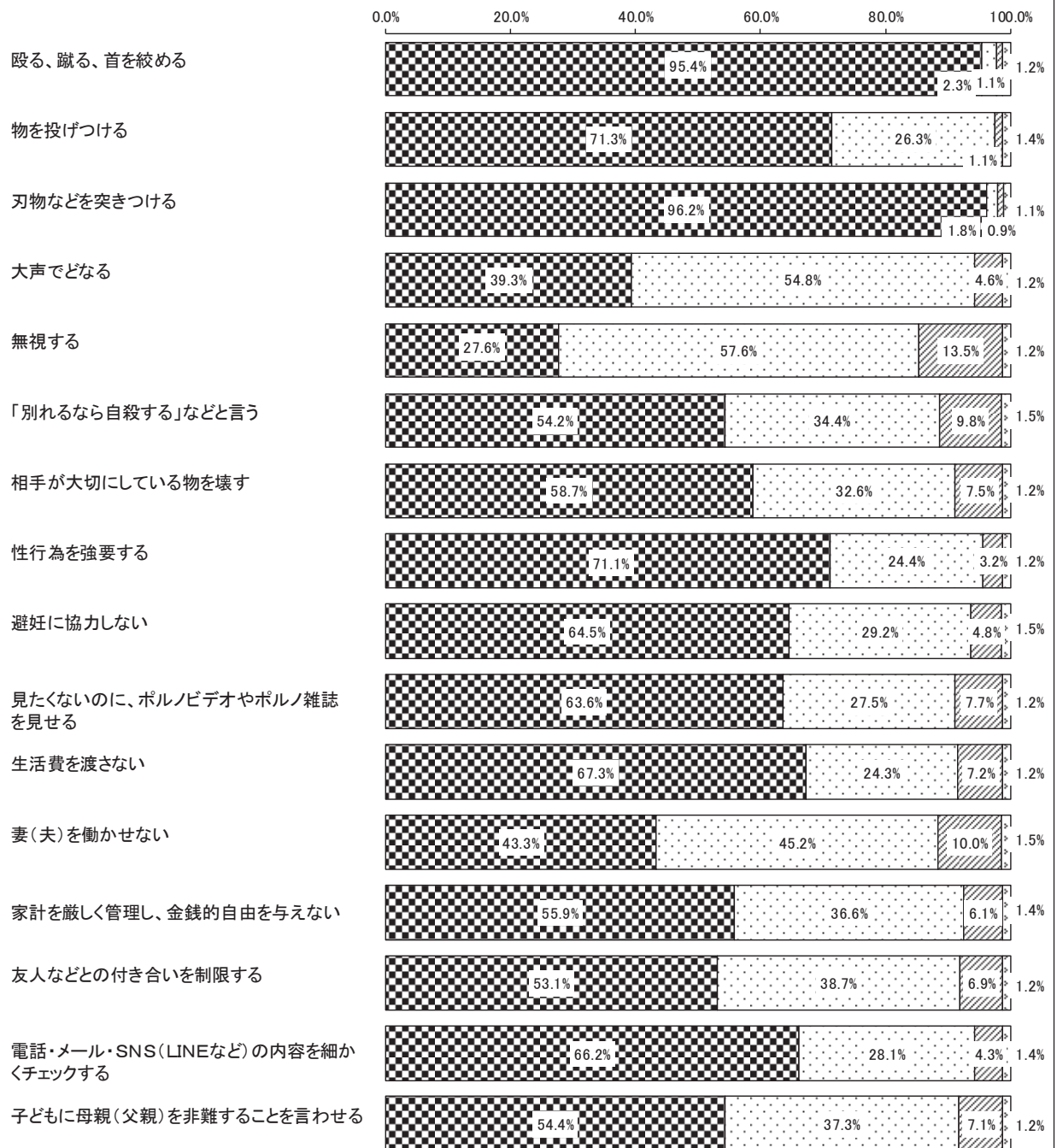
5. 配偶者からの暴力

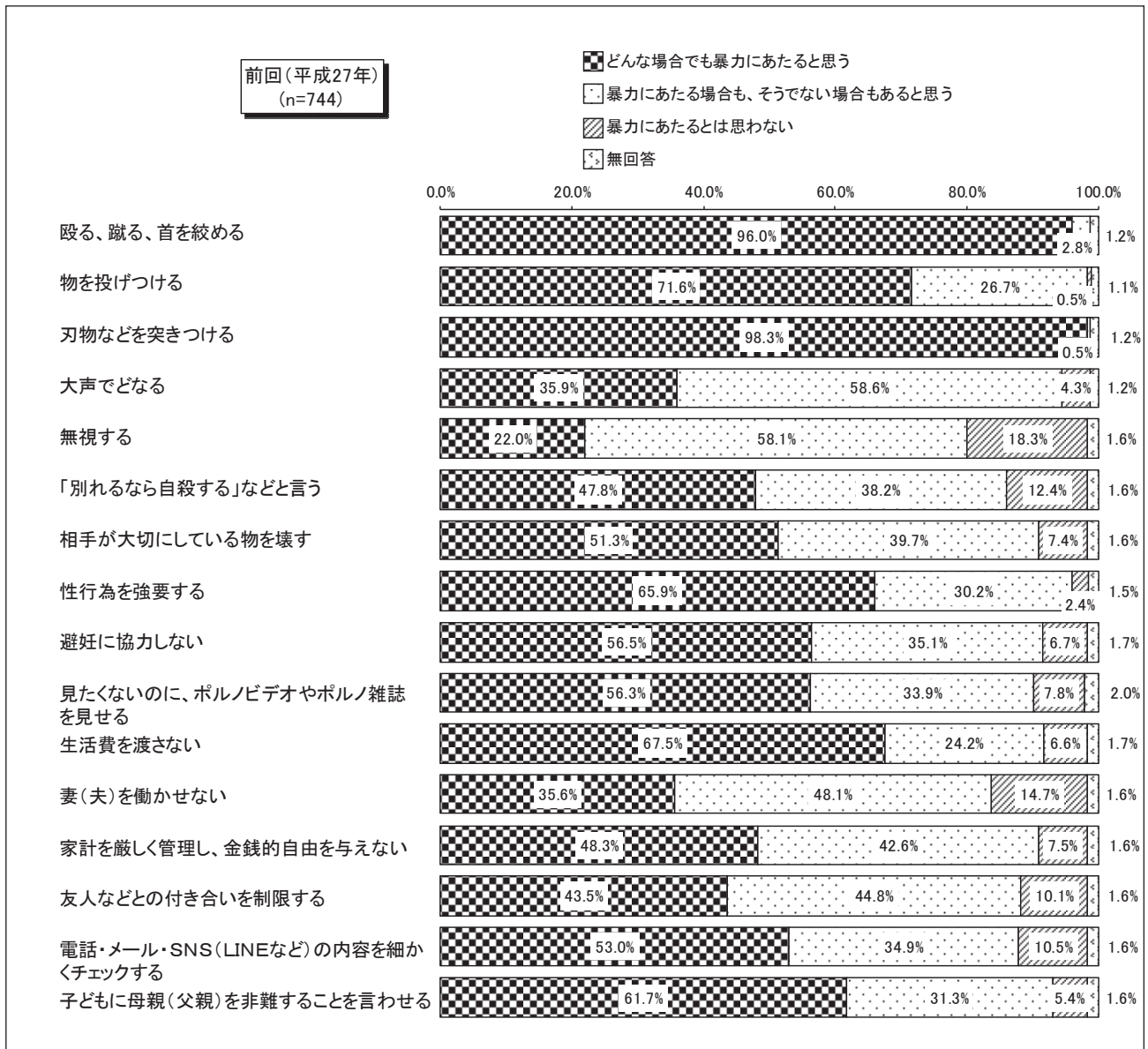
(1) 夫婦間の暴力

問28 あなたは、次にあげた①～⑯のことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。①～⑯のそれぞれについてお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

全体
(n=651)

- どんな場合でも暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- ▨ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答





【身体的暴力】

夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思うかどうかについて、『刃物などを突きつける』が96.2%、『殴る、蹴る、首を絞める』が95.4%、『物を投げつける』が71.3%と、身体的に危害を加えることや危害を加える恐れがあることは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

【経済的暴力】

『生活費を渡さない』が67.3%、『家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない』が55.9%と、経済的に生活の安全・安心を脅かすことは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

【精神的暴力】

『相手が大切にしている物を壊す』が58.7%、『子どもに母親(父親)を非難することを言わせる』が54.4%、『「別れるなら自殺する」などと言う』が54.2%、『大声でどなる』が39.3%、『無視する』が27.6%と、言動や態度で精神的に相手を傷つけることも暴力と思っているが、子どもも含め、相手が大切にしている物を侵害することを、より暴力であると思う割合が高くなっている。

【社会的暴力】

『電話・メール・SNS（LINEなど）の内容をチェックする』が66.2%、『友人などとの付き合いを制限する』が53.1%、『妻（夫）を働かせない』が43.3%と、社会生活をする上での人間関係や行動を制限することは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

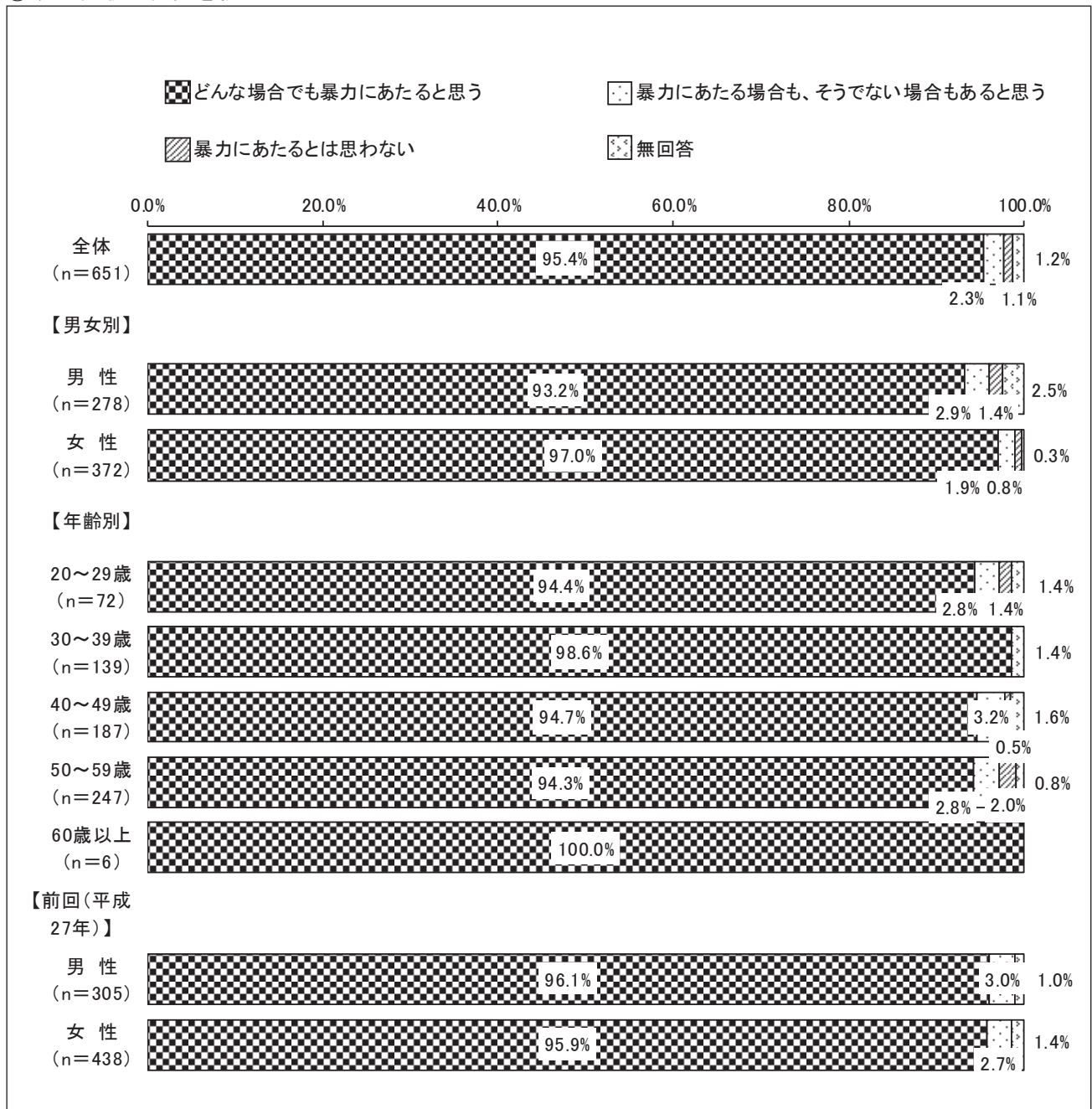
【性的暴力】

『性行為を強要する』が71.1%、『避妊に協力しない』が64.5%、『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』が63.6%と、性的な強制、いやがらせは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思う割合が高い。

【前回調査（平成27年）比較】

前回調査と比べると、多くの項目で暴力であると思う割合は、より高くなっている。

①殴る、蹴る、首を絞める



【全体結果】

『殴る、蹴る、首を絞める』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、95.4%となっている。

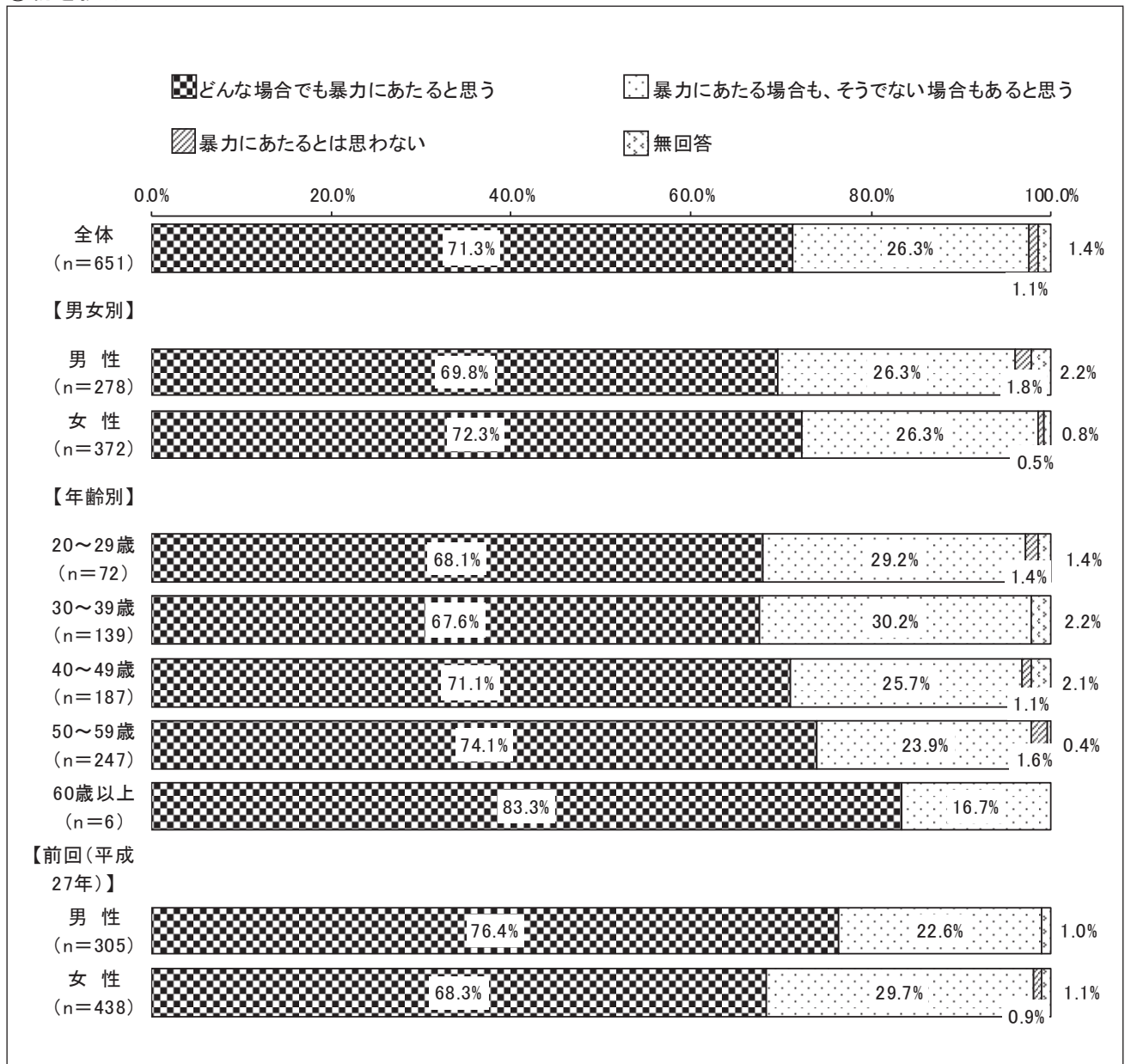
【男女別】

男女とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

②物を投げつける



【全体結果】

『物を投げつける』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、71.3%と、高い割合になっている。

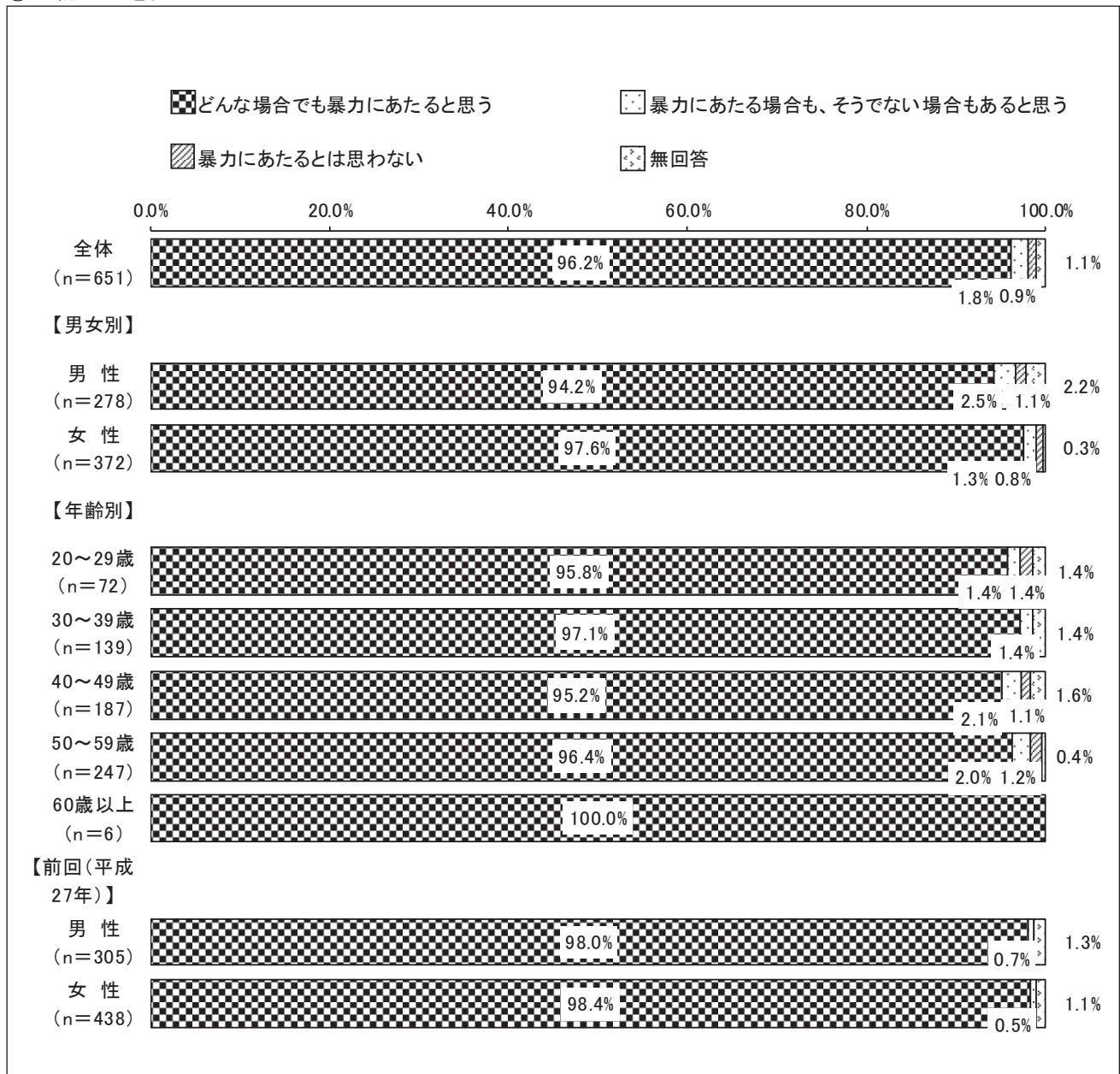
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 69.8%、女性 72.3%)。

【年齢別】

概ね年齢が高くなるほど、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

③刃物などを突きつける



【全体結果】

『刃物などを突きつける』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は96.2%で、ほとんどの回答者が「暴力」と思っている。

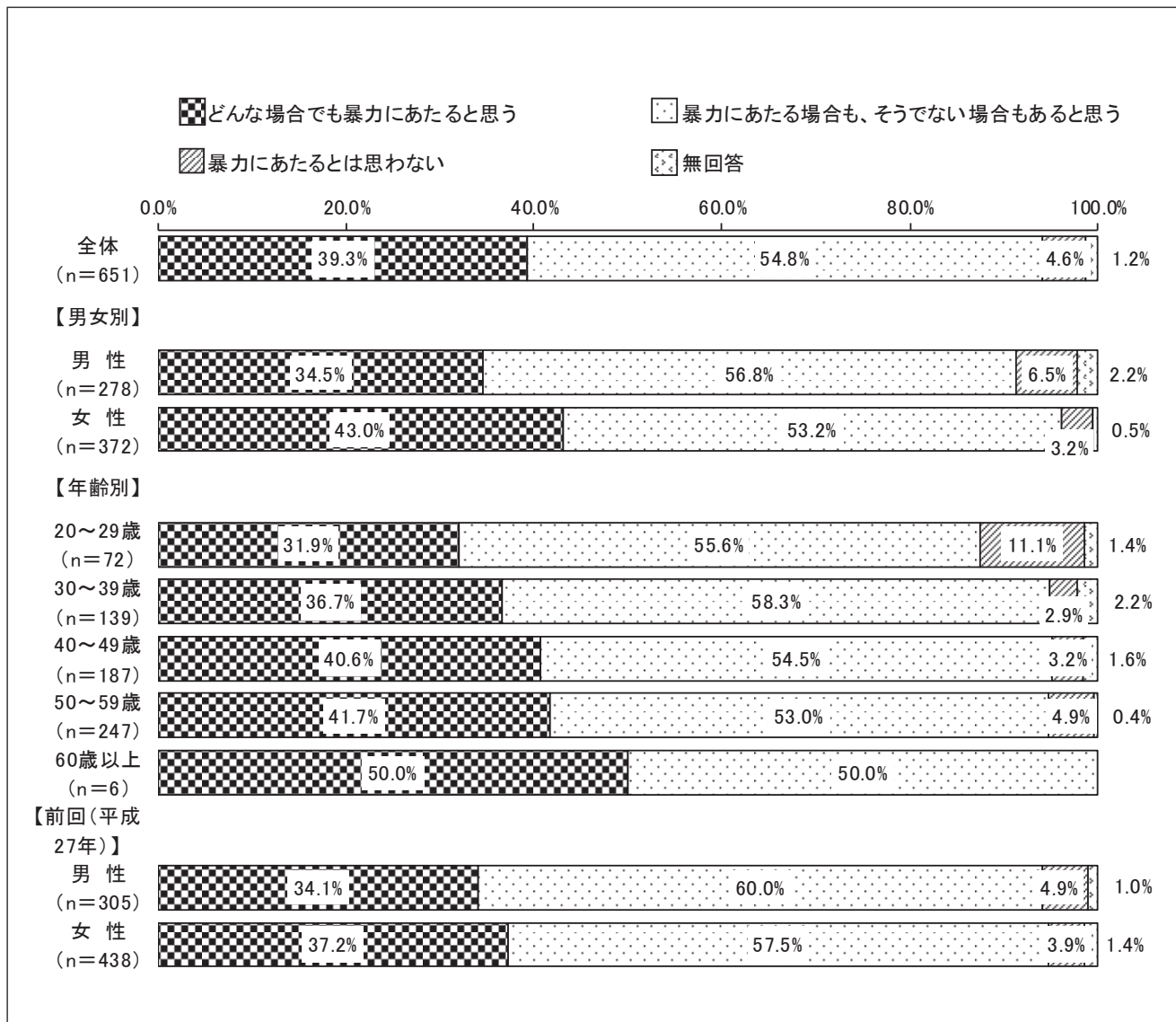
【男女別】

男女とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

【年齢別】

各年齢とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

④大声でどなる



【全体結果】

『大声でどなる』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の39.3%に対し、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は54.8%となっている。

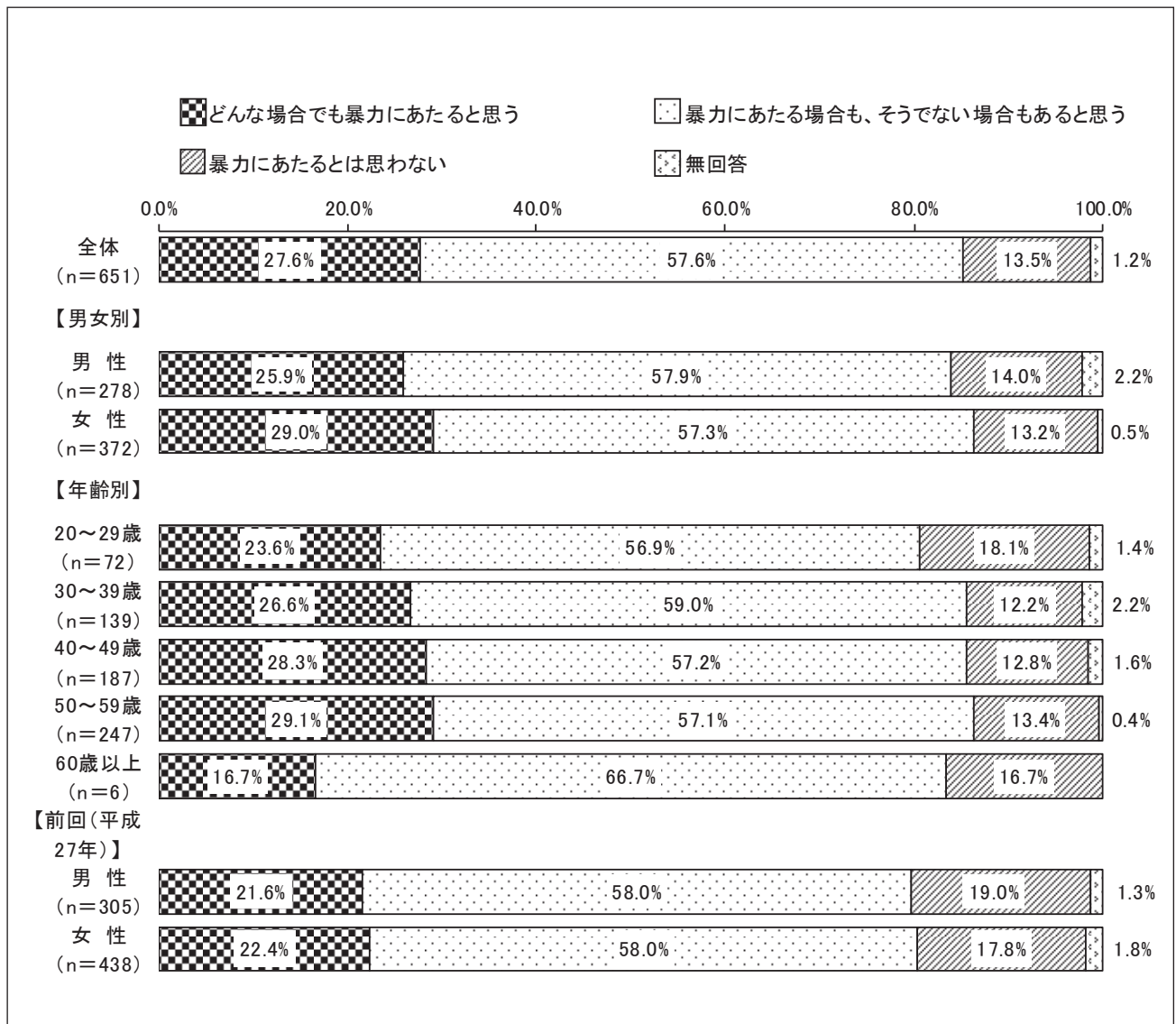
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性34.5%、女性43.0%)。

【年齢別】

年齢が高くなるほど、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑤無視する



【全体結果】

『無視する』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 27.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 57.6%、「暴力にあたるとは思わない」が 13.5%となっている。

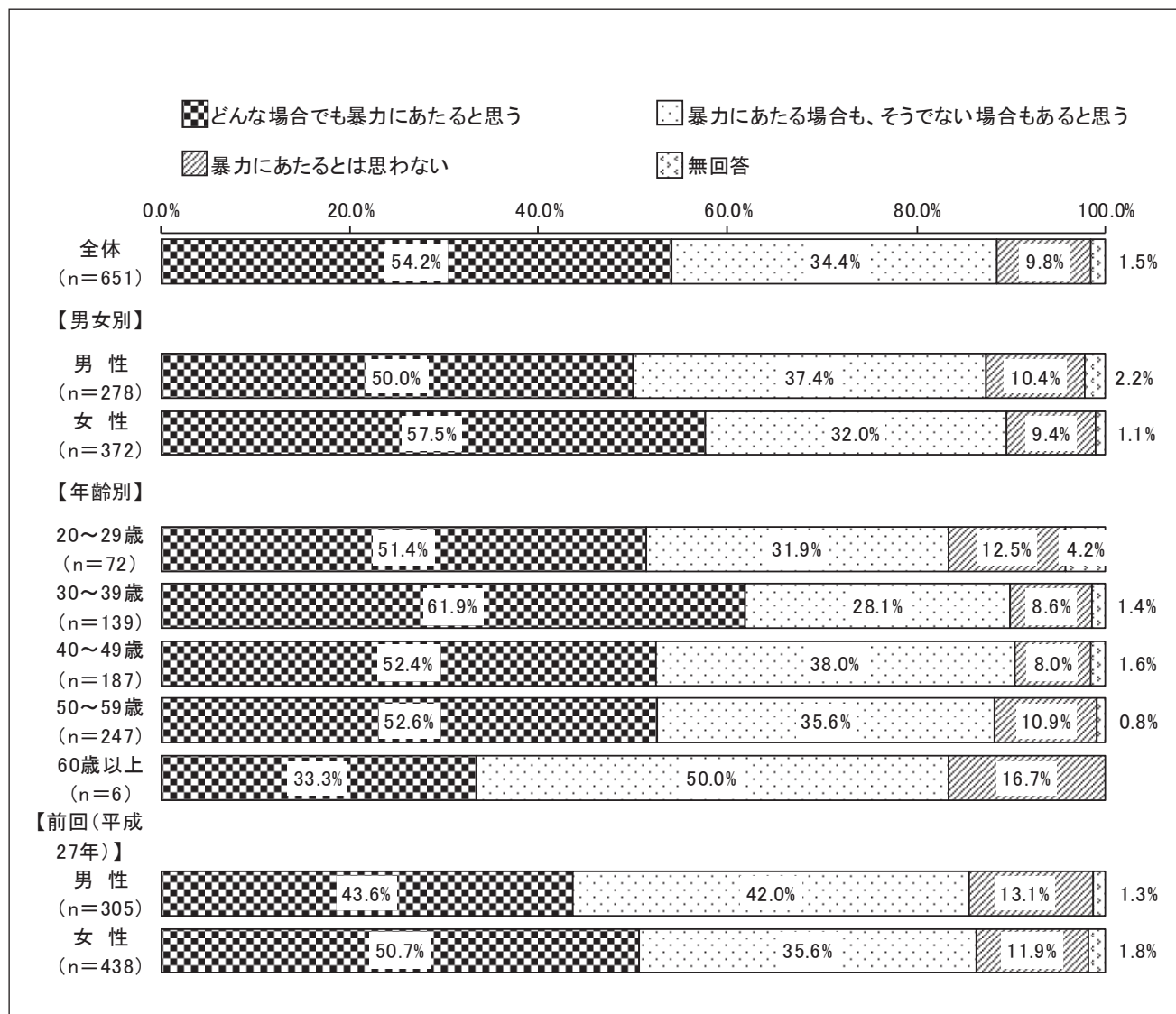
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、男性より女性の方が高く（男性 25.9%、女性 29.0%）、前回調査と比べると、男女とも増加している。

【年齢別】

年齢が若いほど、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が低い。

⑥「別れるなら自殺する」などと言う



【全体結果】

『「別れるなら自殺する」などと言う』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が54.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が34.4%、「暴力にあたるとは思わない」が9.8%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

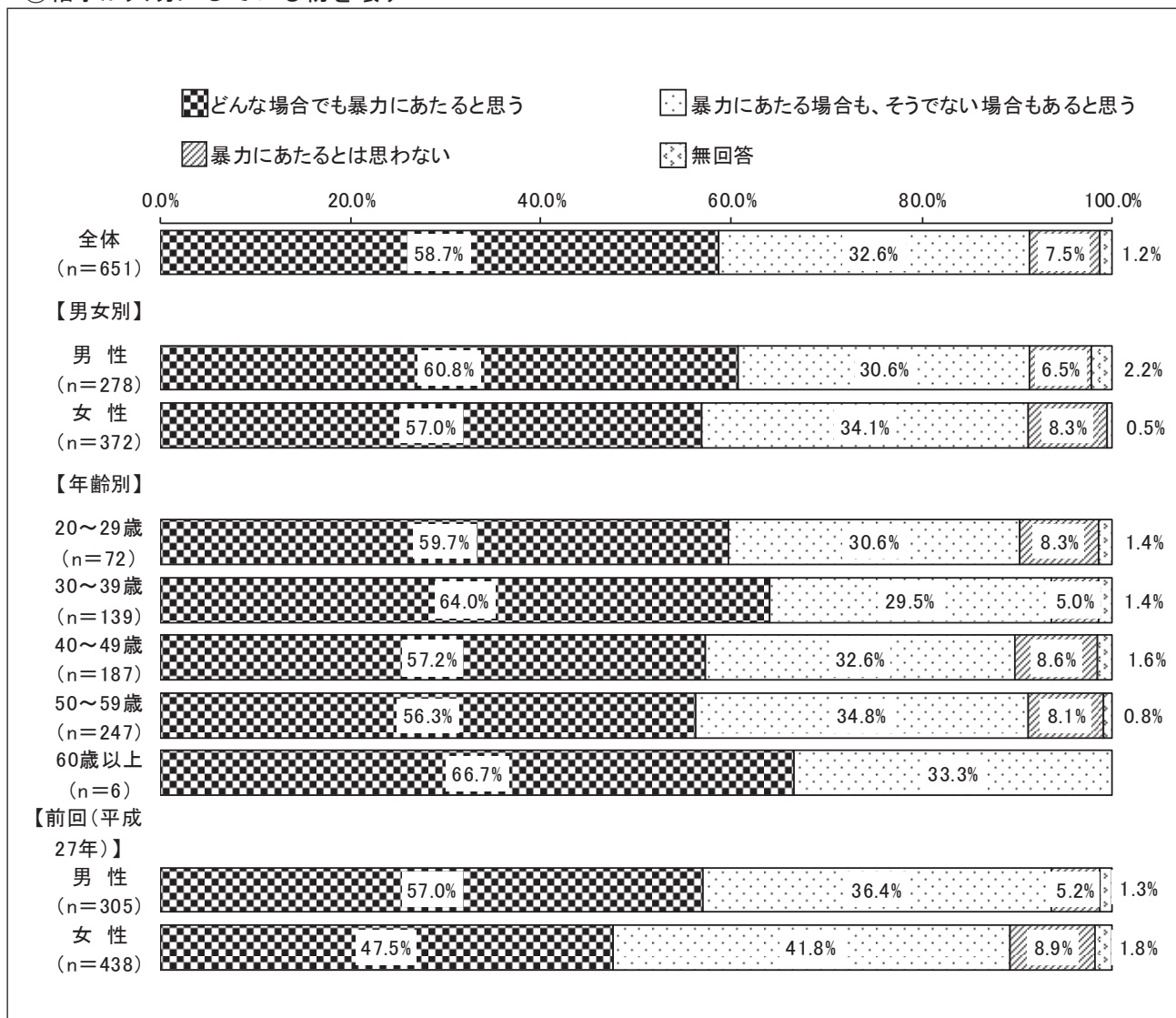
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高く(男性50.0%、女性57.5%)、前回調査と比べると、男女ともに増加している。

【年齢別】

30～39歳では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑦相手が大切にしている物を壊す



【全体結果】

『相手が大切にしている物を壊す』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 58.7%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 32.6%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

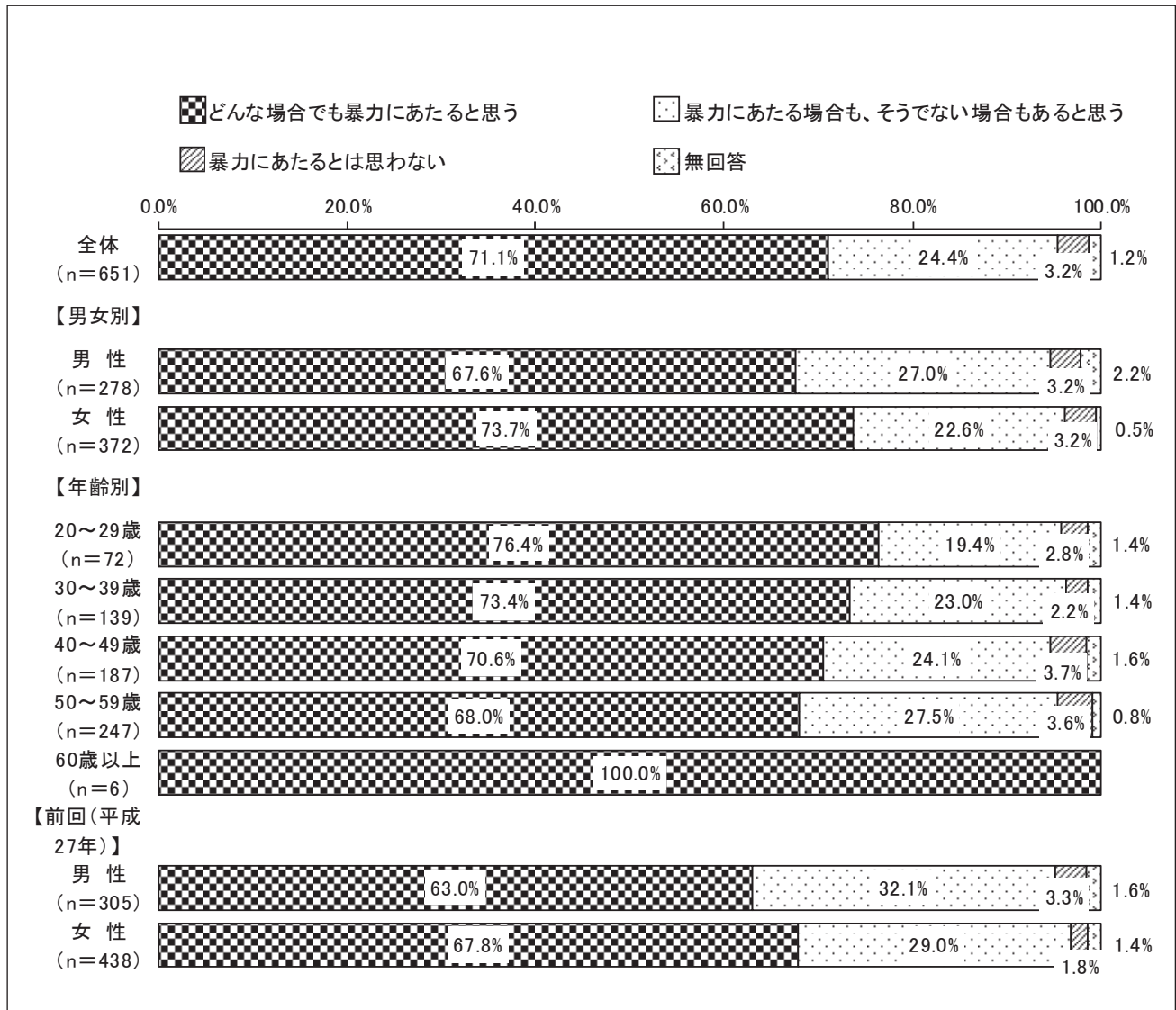
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、女性より男性の方が高く(男性 60.8%、女性 57.0%)、前回調査と比べると、男女ともに増加している。

【年齢別】

30～39歳では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑧性行為を強要する



【全体結果】

『性行為を強要する』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が71.1%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が24.4%と、「暴力」と思う割合が高い。

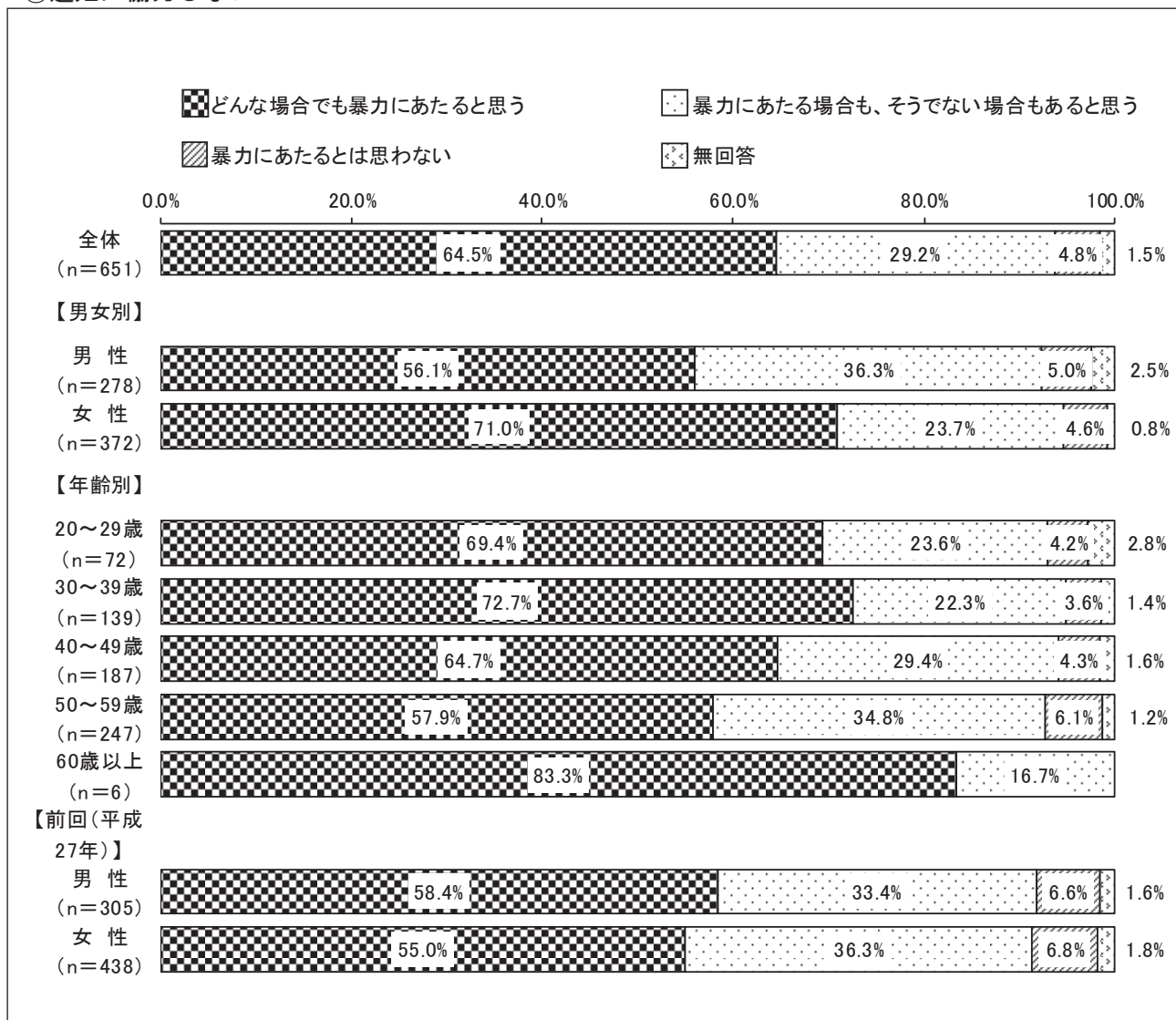
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高く(男性67.6%、女性73.7%)、前回調査と比べると、男女とも増加している。

【年齢別】

年齢が若いほど、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑨避妊に協力しない



【全体結果】

『避妊に協力しない』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が64.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が29.2%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

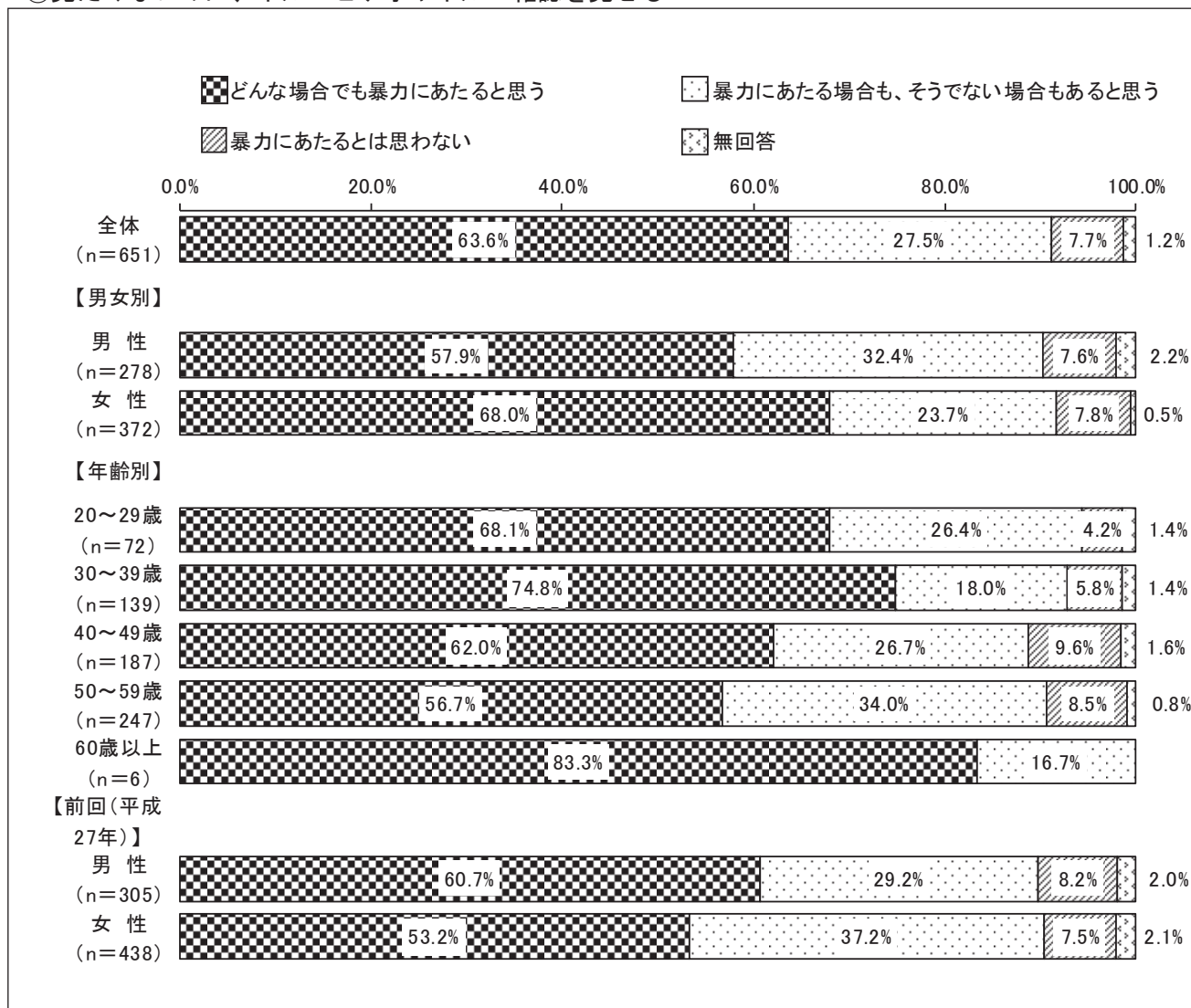
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高く(男性56.1%、女性71.0%)、前回調査と比べると、女性は大きく増加している。

【年齢別】

30～39歳では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑩見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



【全体結果】

『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 63.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 27.5%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

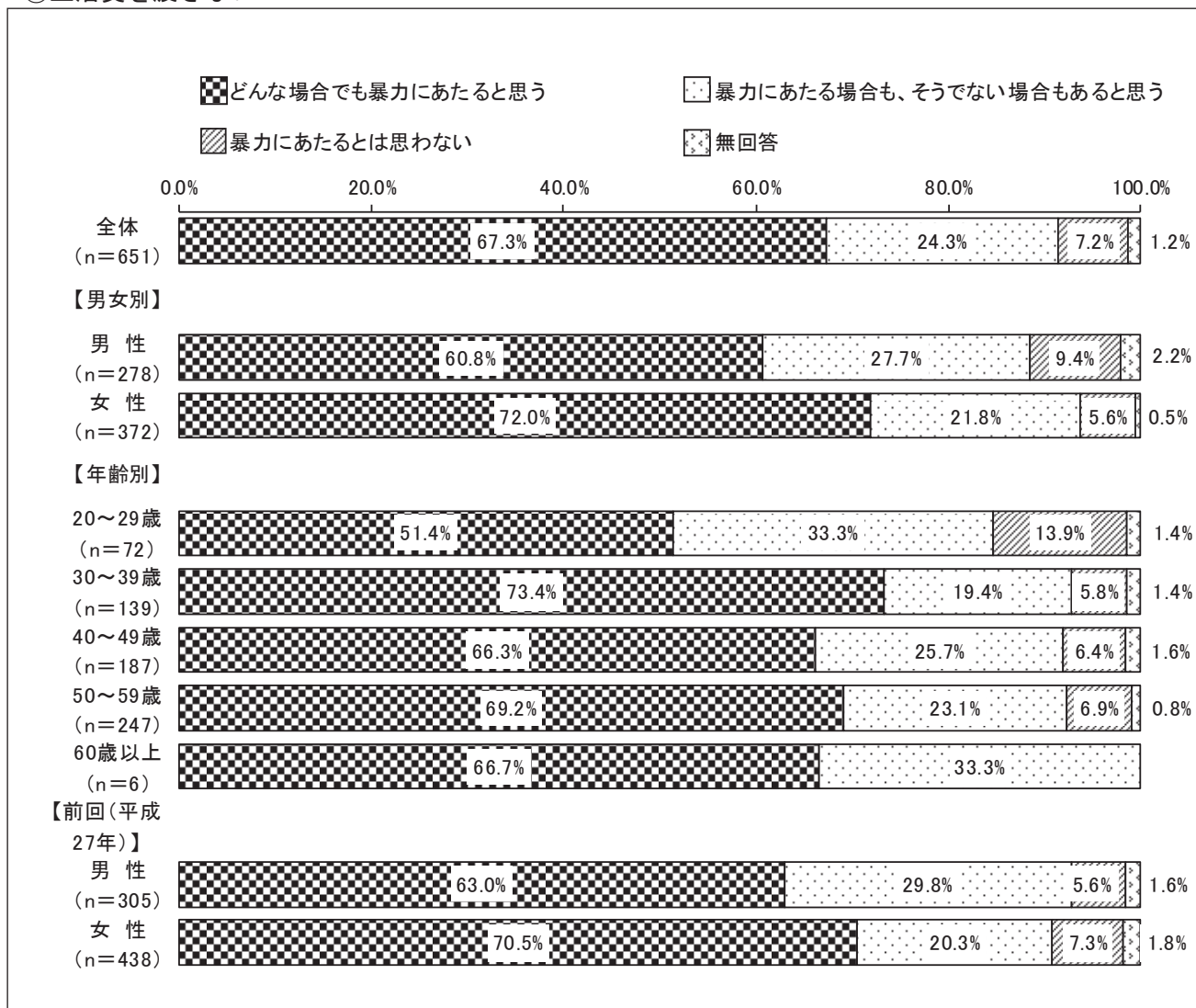
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高く(男性 57.9%、女性 68.0%)、前回調査と比べると、女性が増加している。

【年齢別】

30～39歳では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑪生活費を渡さない



【全体結果】

『生活費を渡さない』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が67.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が24.3%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

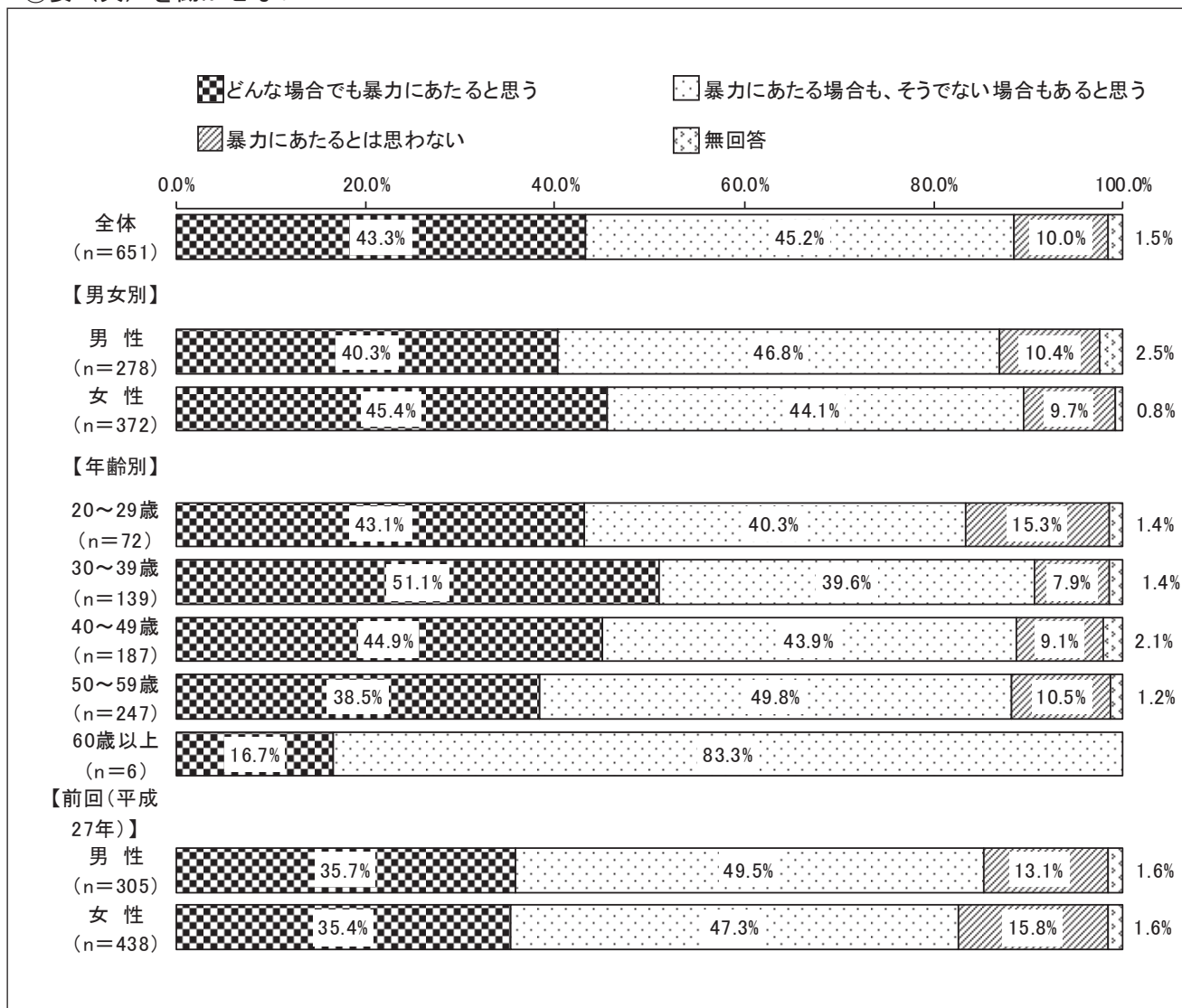
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性60.8%、女性72.0%)。

【年齢別】

30～39歳では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑫妻（夫）を働かせない



【全体結果】

『妻（夫）を働かせない』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が43.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が45.2%、「暴力にあたるとは思わない」が10.0%と、暴力にあたるかどうかはケースバイケースと回答した人が多い。

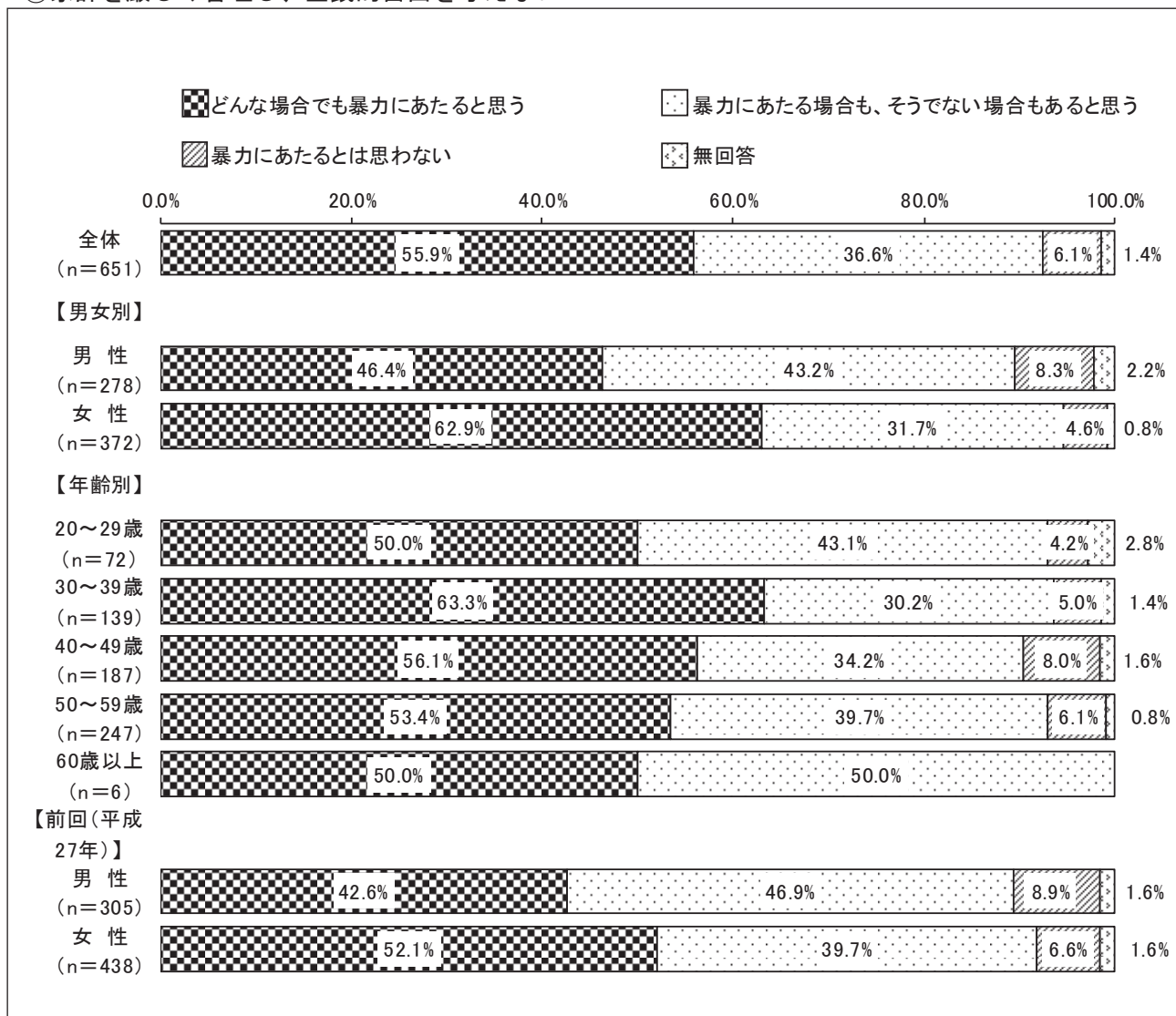
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高く（男性40.3%、女性45.4%）、前回調査と比べると、男女とも増加している。

【年齢別】

30～39歳では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑬家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない



【全体結果】

『家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 55.9%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 36.6%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

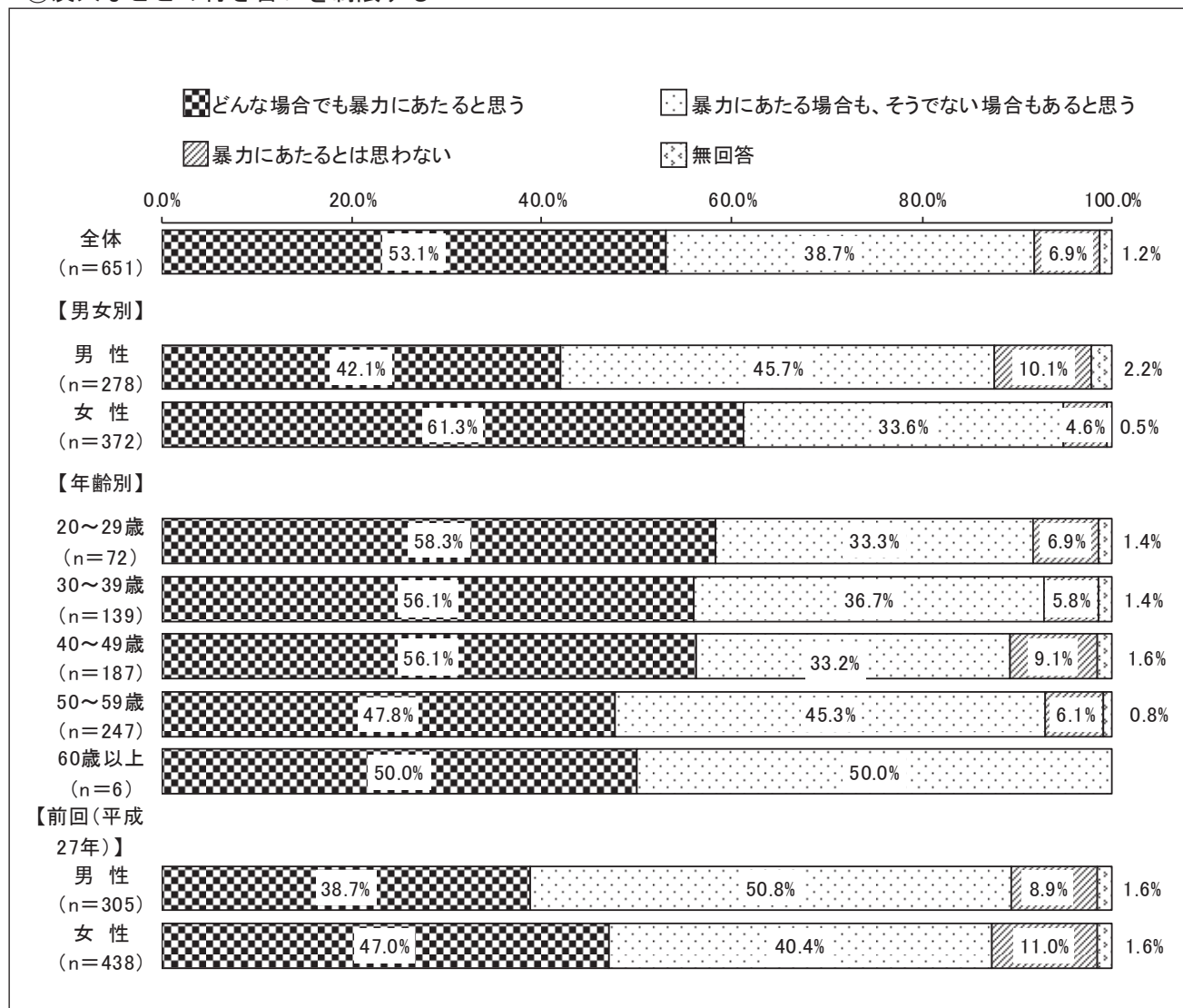
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高く（男性 46.4%、女性 62.9%）、前回調査と比べると、男女とも増加している。

【年齢別】

30～39歳では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高い。

⑭友人などとの付き合いを制限する



【全体結果】

『友人などとの付き合いを制限する』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が53.1%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が38.7%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

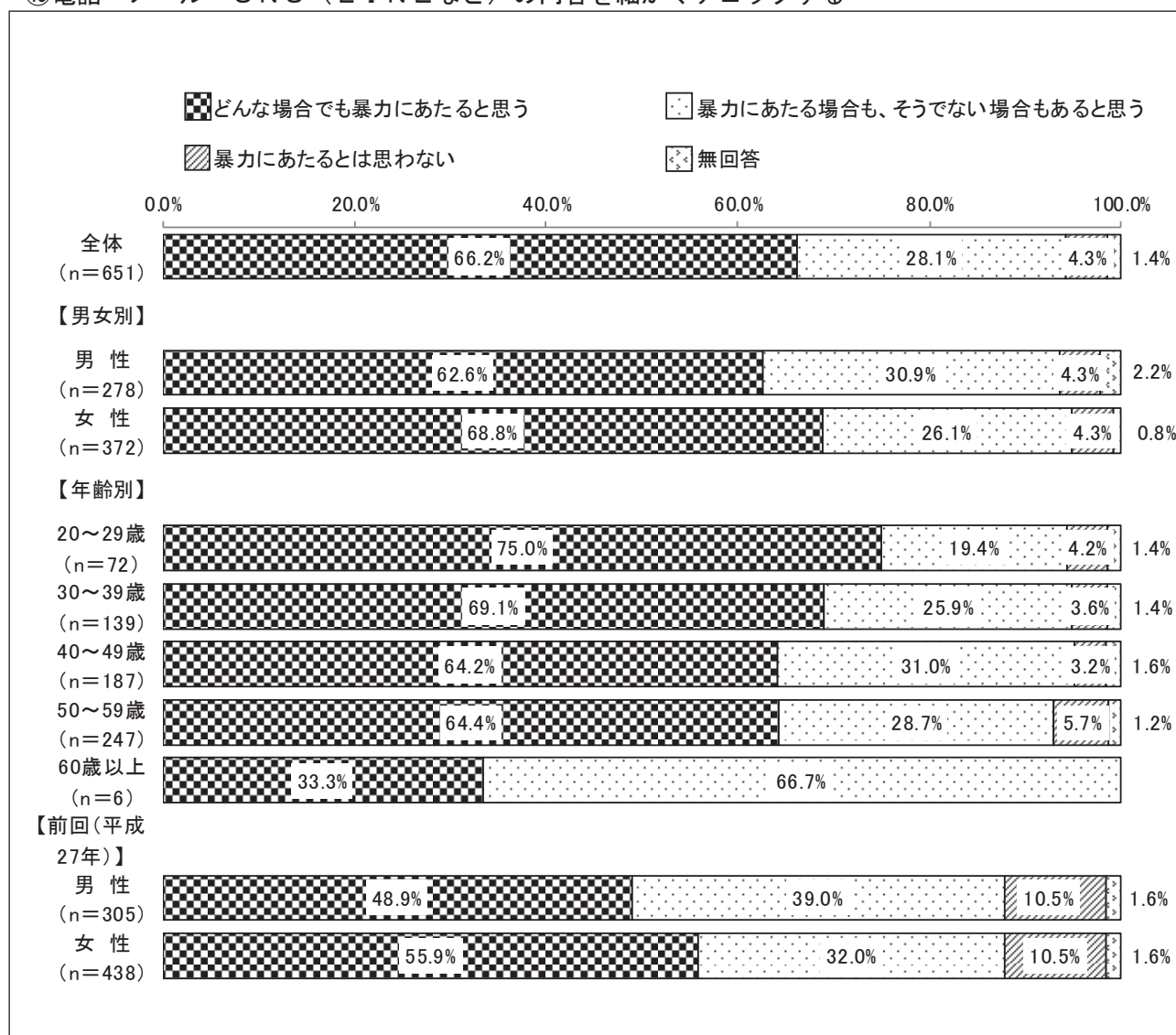
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高く(男性42.1%、女性61.3%)、前回調査と比べると、男女とも増加している。

【年齢別】

年齢が若いほど、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合が高くなる傾向が見られる。

⑮電話・メール・SNS（LINEなど）の内容を細かくチェックする



【全体結果】

『電話・メール・SNS（LINEなど）の内容を細かくチェックする』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が66.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が28.1%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

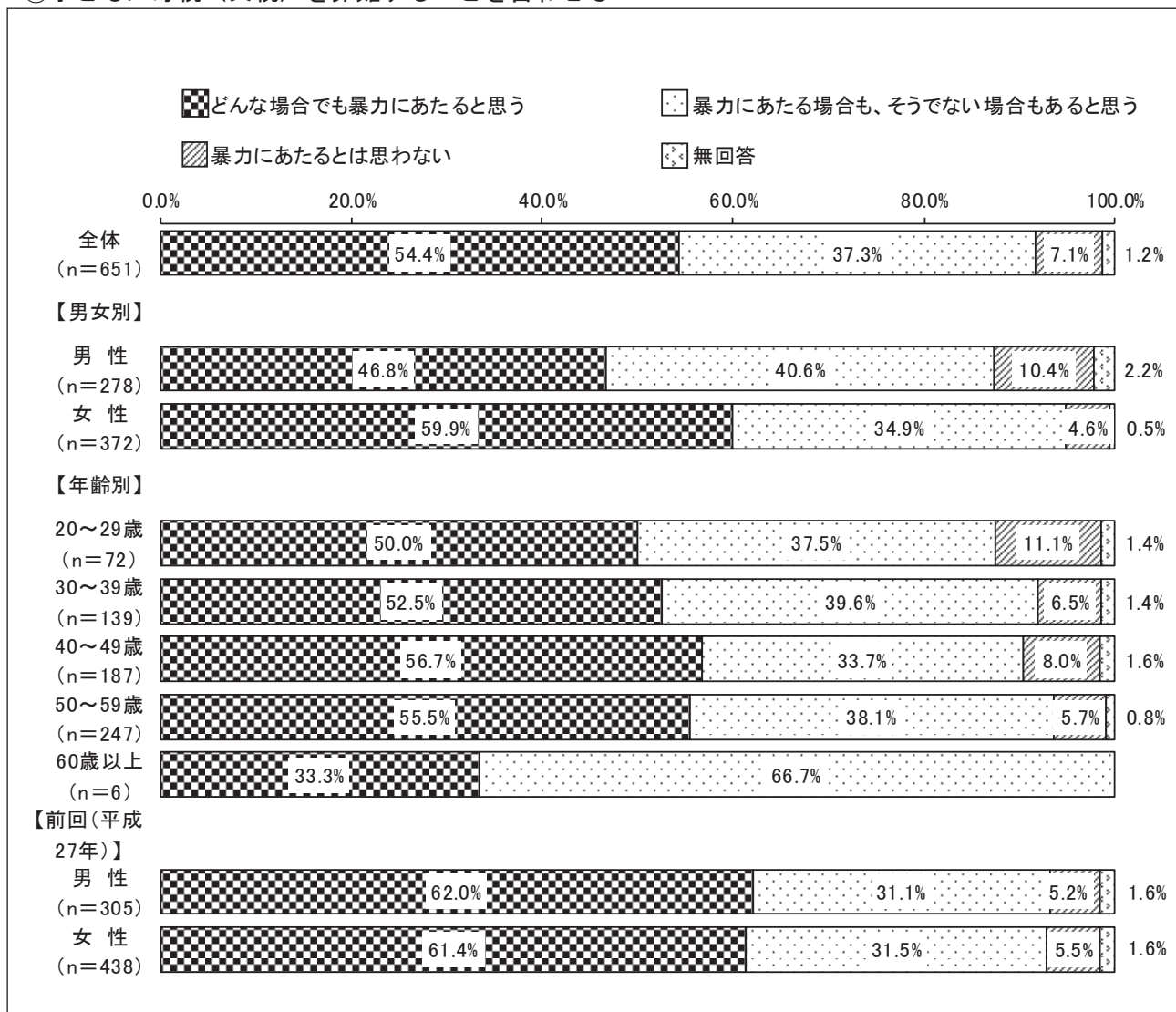
【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性62.6%、女性68.8%）。

【年齢別】

年齢が若くなるほど、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなる傾向が見られる。

⑩子どもに母親（父親）を非難することを言わせる



【全体結果】

『子どもに母親（父親）を非難することを言わせる』について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 54.4%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 37.3%と、「暴力」と思う割合が半数以上となっている。

【男女別】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、男性より女性の方が高い(男性 46.8%、女性 59.9%)。

【年齢別】

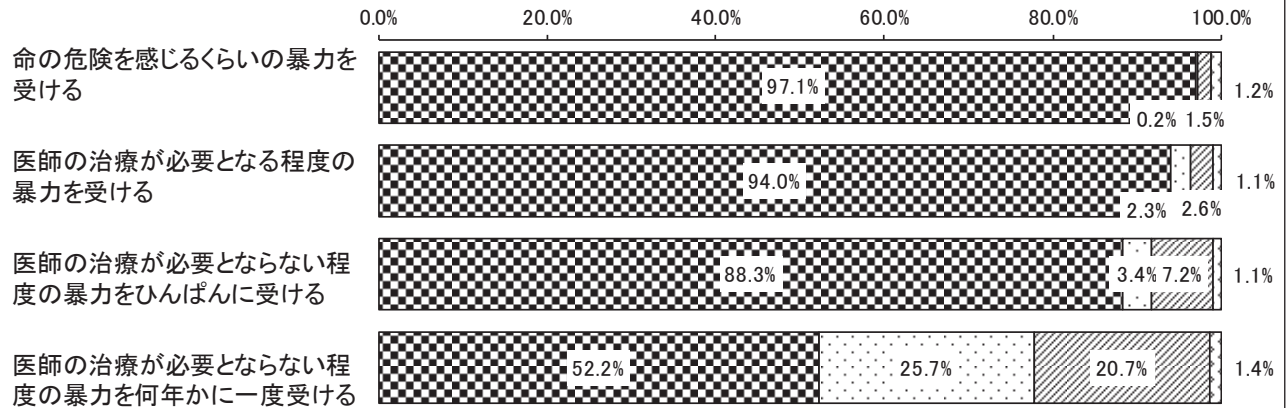
各年齢で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が半数以上となっている。

(2) 夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入

問 29 あなたは、次にあげた①～④のようなことが夫婦の間で行われた場合、警察などの公的な機関が解決に向けて関わるべきだと思いますか。①～④のそれぞれについてお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

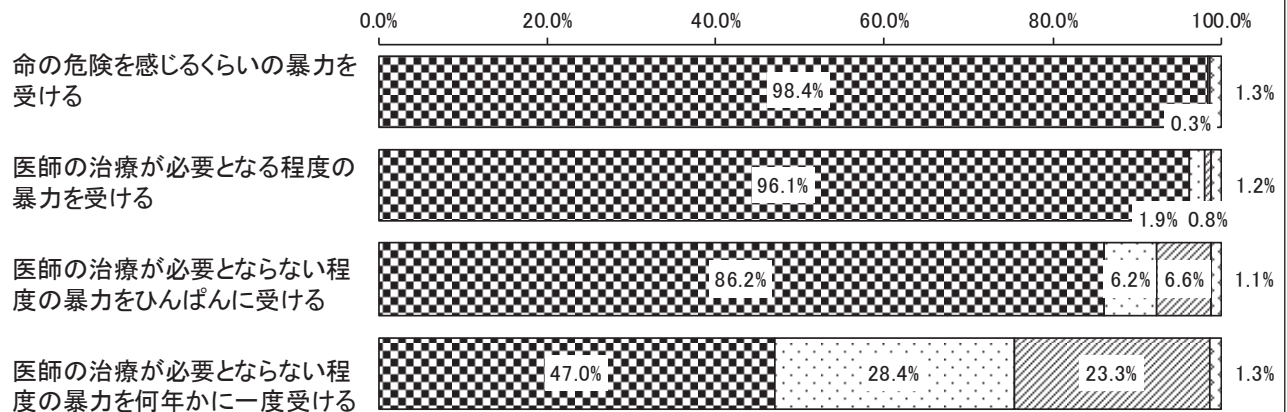
全体
(n=651)

- 警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである
- 警察などの公的な機関は関わるべきではない
- ▨ わからない
- 無回答



前回(平成27年)
(n=744)

- 警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである
- 警察などの公的な機関は関わるべきではない
- ▨ わからない
- 無回答



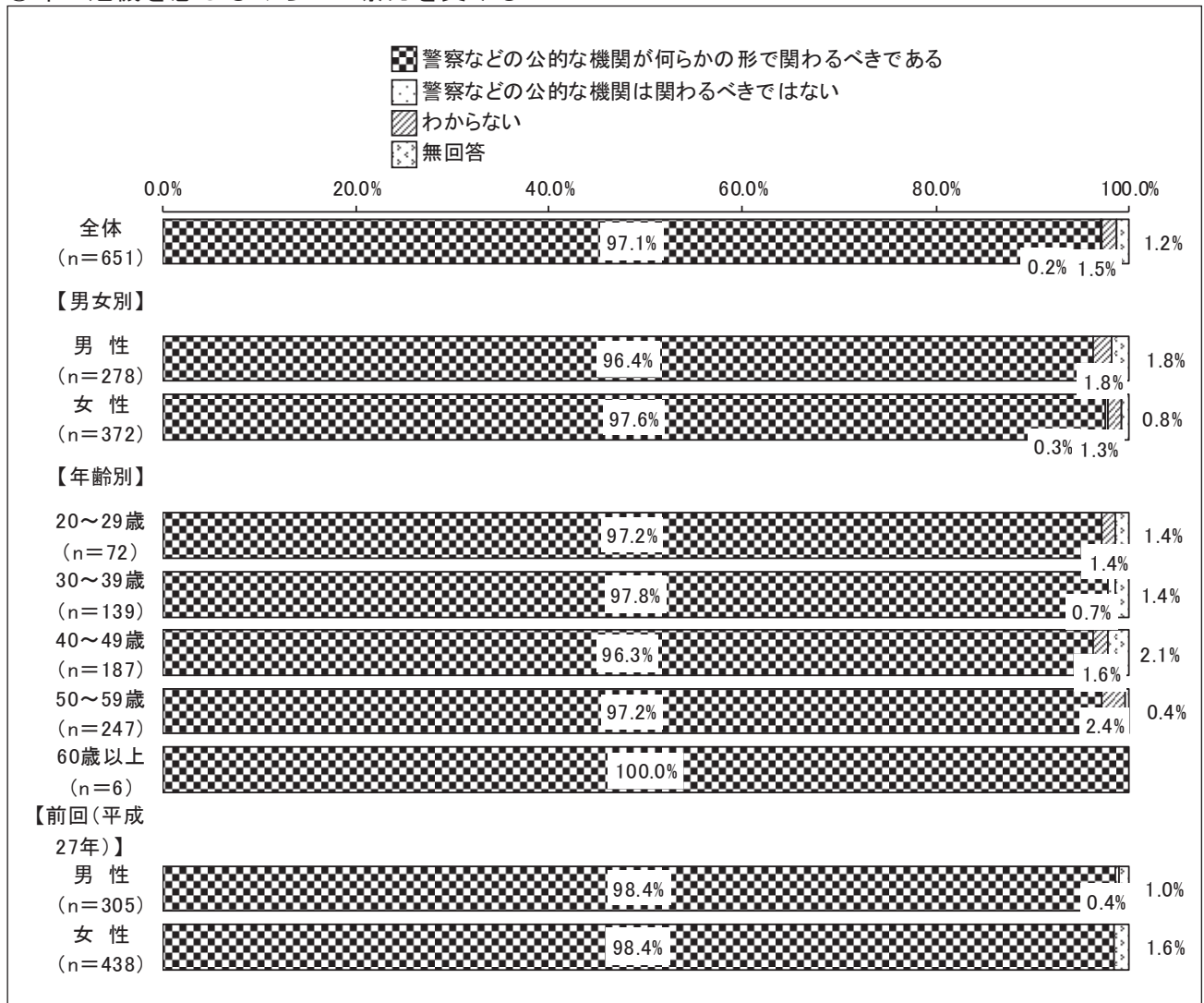
【全体結果】

夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入について、『命の危機を感じるくらいの暴力を受ける』が 97.1%、『医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける』が 94.0%と高く、『医師の治療が必要とされない程度の暴力をひんぱんに受ける』が 88.3%、『医師の治療が必要とされない程度の暴力を何年かに一度受ける』が 52.2%となっている。

【前回調査(平成27年)比較】

『医師の治療が必要とされない程度の暴力を何年かに一度受ける』について、「警察などの公的な機関が関わるべき」と回答した割合が増加している。

①命の危機を感じるくらいの暴力を受ける



【全体結果】

『命の危機を感じるくらいの暴力を受ける』について、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」が97.1%と、大半の回答者が「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思っている。

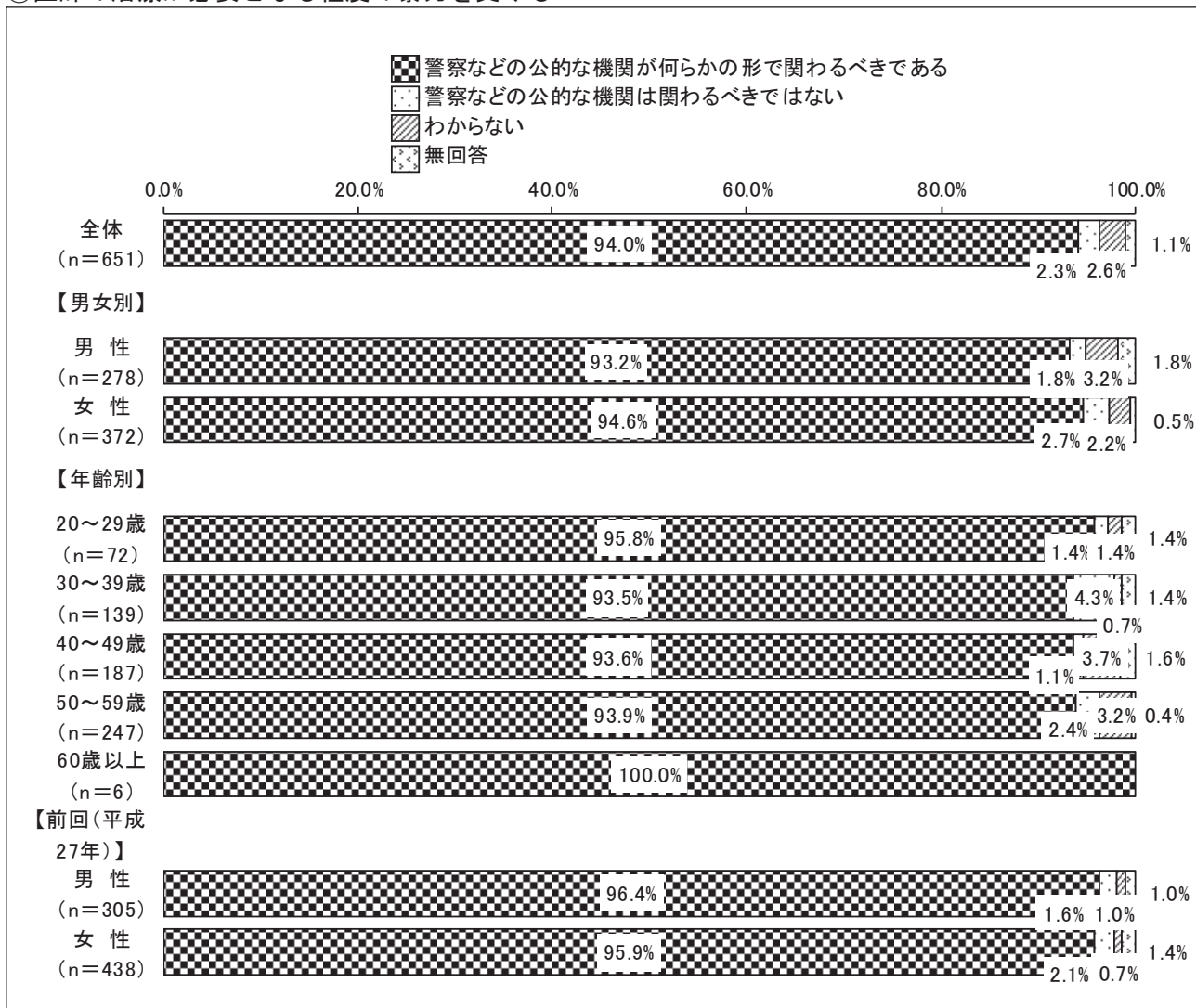
【男女別】

男女とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思う割合が非常に高い。

【年齢別】

各年齢とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思う割合が非常に高い。

②医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける



【全体結果】

『医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける』について、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」が 94.0%と、大半の回答者が「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思っている。

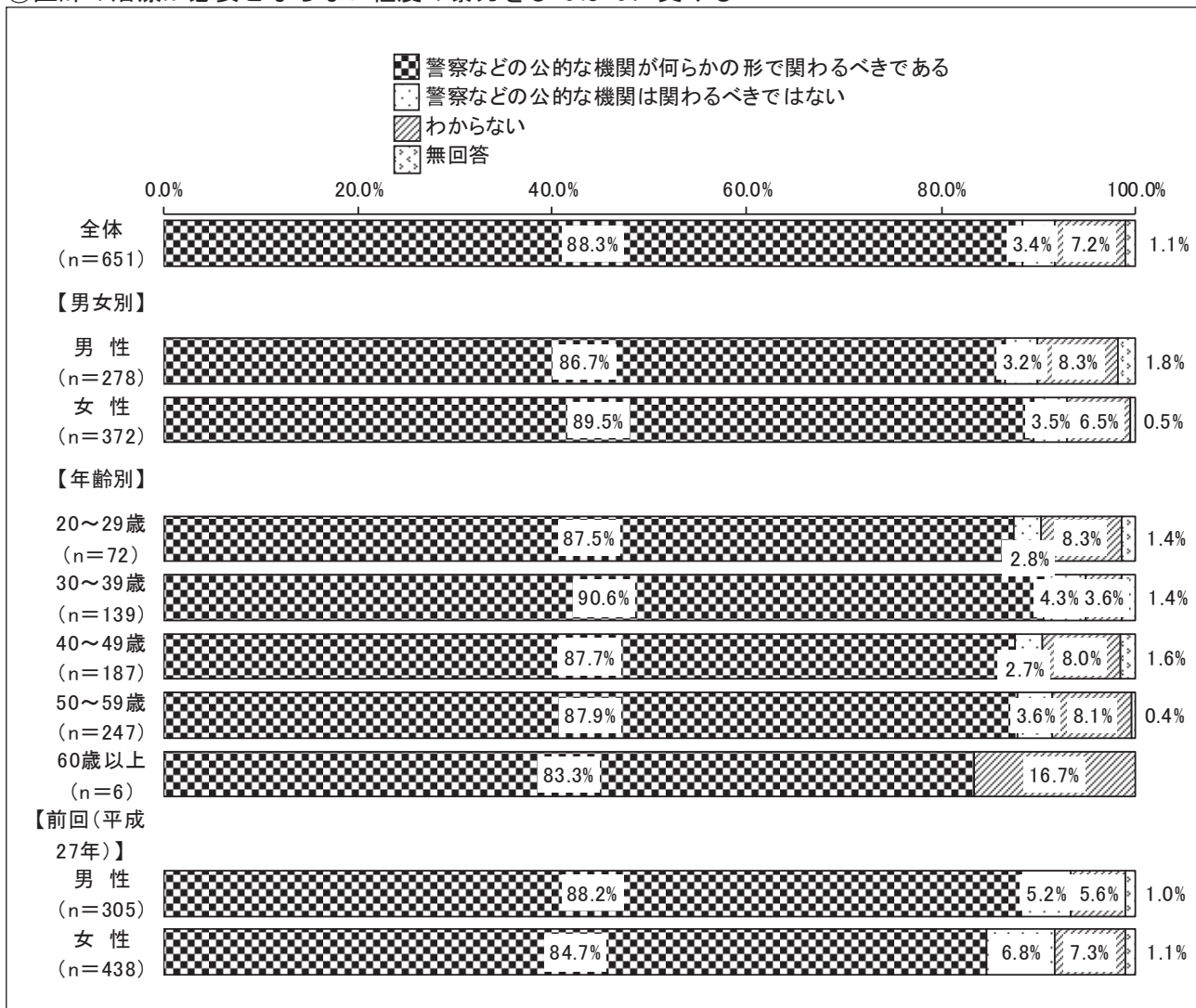
【男女別】

男女とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思う割合が非常に高い。

【年齢別】

各年齢とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思う割合が非常に高い。

③医師の治療が必要とされない程度の暴力をひんぱんに受ける



【全体結果】

『医師の治療が必要とされない程度の暴力をひんぱんに受ける』について、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」が88.3%と、大多数の回答者が「警察などの公的な機関が関わるべき」と思っている。

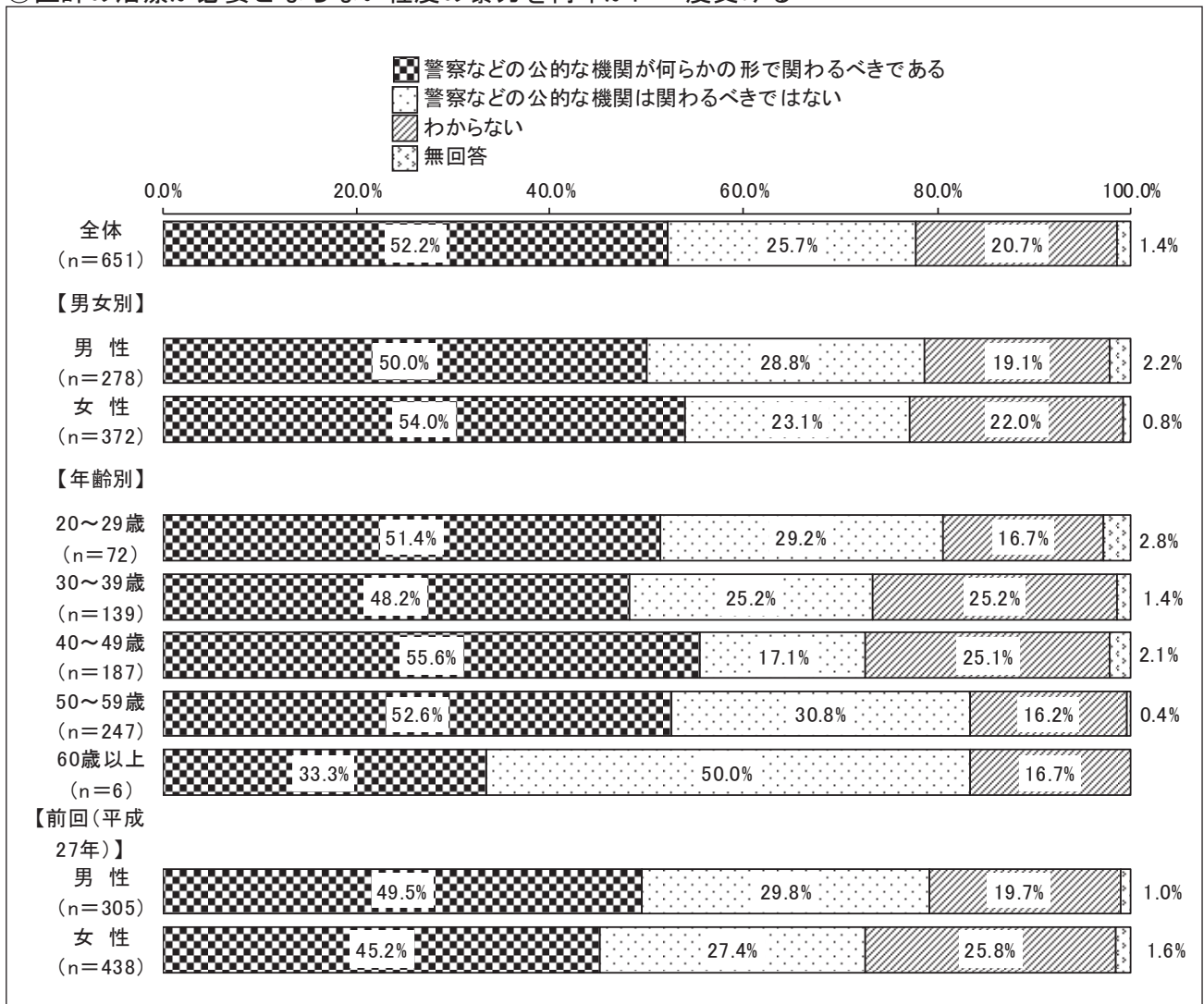
【男女別】

男女とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思う割合がかなり高い。

【年齢別】

各年齢とも、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思う割合がかなり高い。

④ 医師の治療が必要とならない程度の暴力を何年かに一度受ける



【全体結果】

『医師の治療が必要とならない程度の暴力を何年かに一度受ける』について、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」が52.2%と、半数以上の回答者が「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思っている。

【男女別】

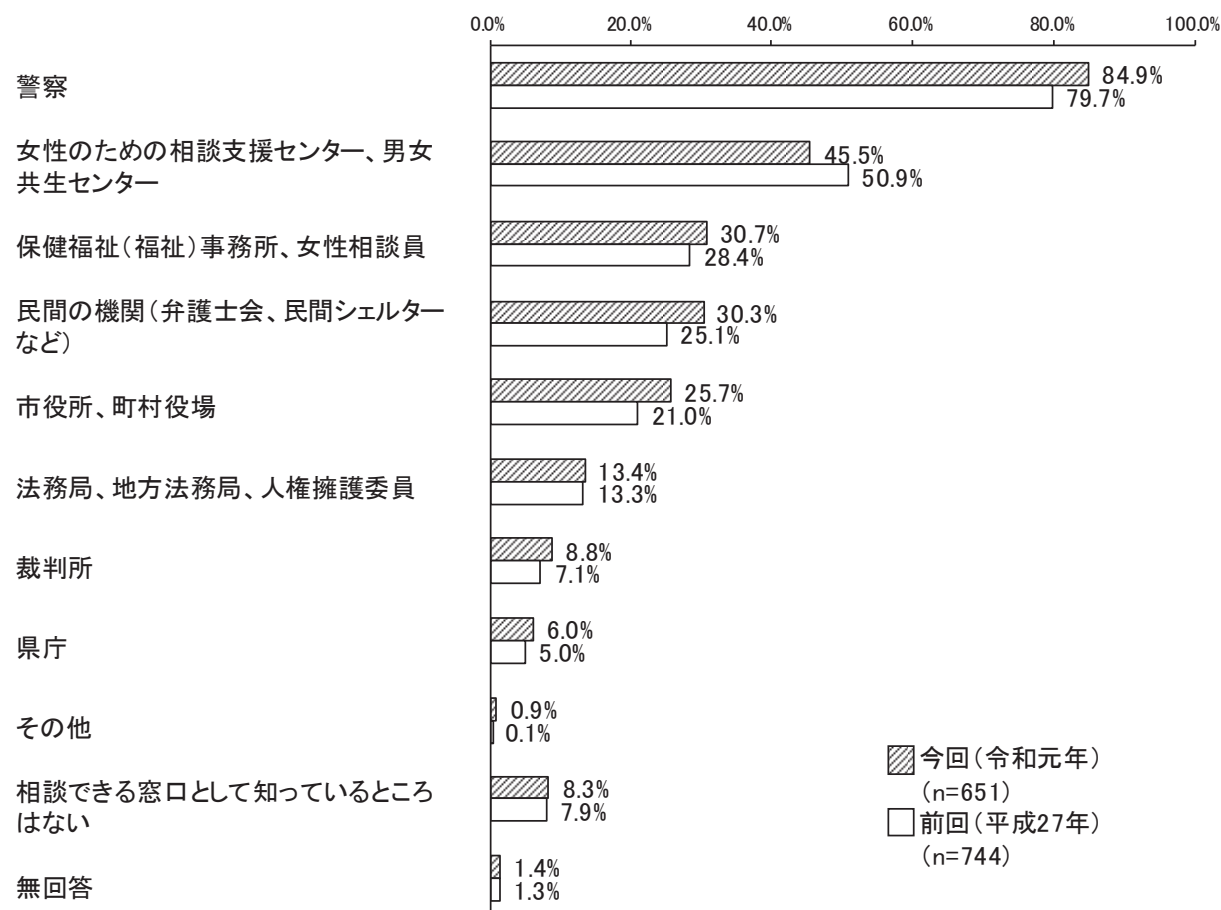
「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思う割合は、男性より女性の方が高く（男性50.0%、女性54.0%）、前回調査と比べると、男女ともに増加している。

【年齢別】

40～49歳で、「警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべき」と思う割合が高い。

(3) 配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況

問30 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。あなたがお存じのものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



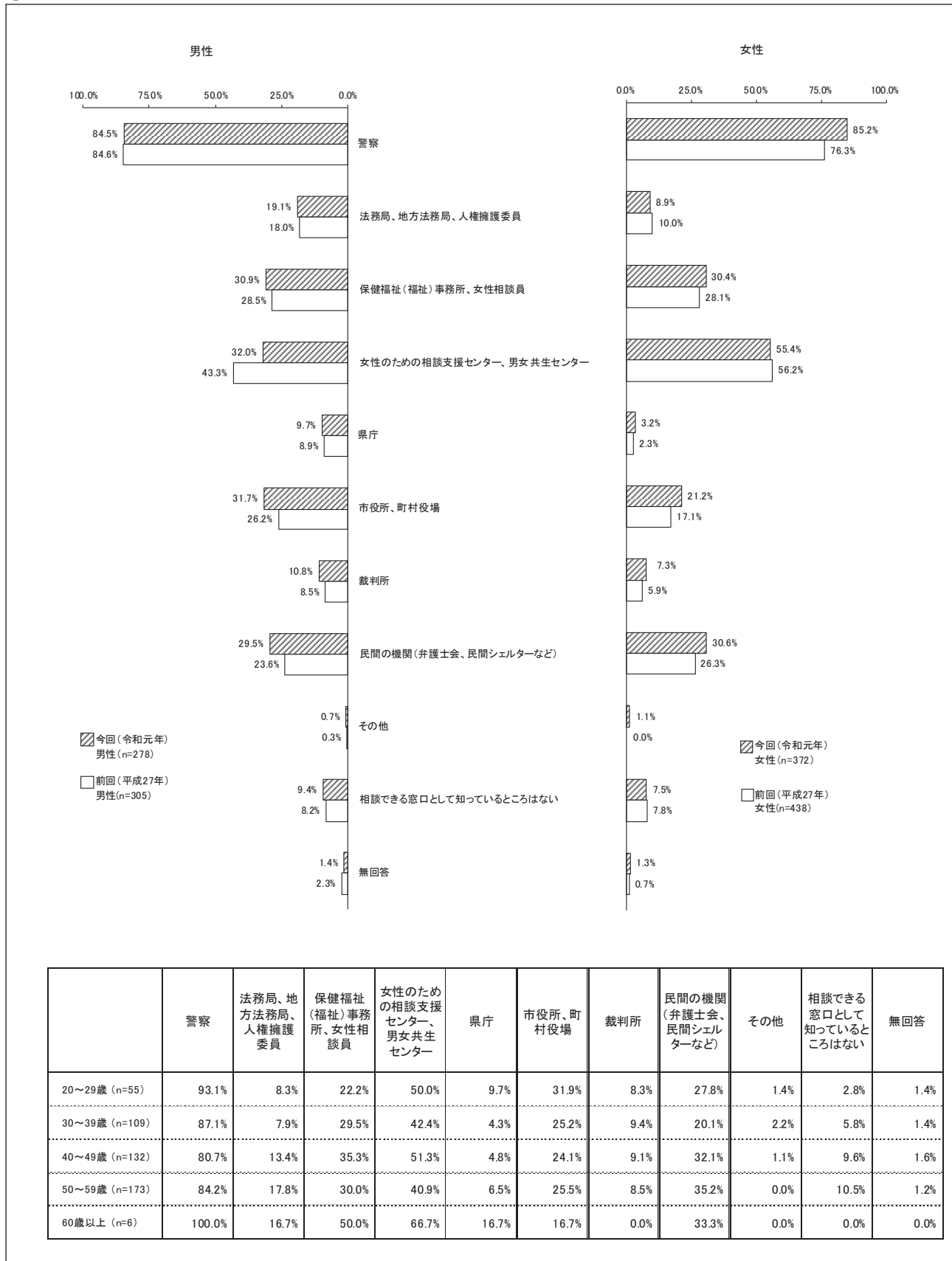
【全体結果】

配偶者からの暴力に関する相談窓口としては、「警察」が 84.9%で最も高く、次いで「女性のための相談支援センター、男女共生センター」が 45.5%で続いている。

【前回調査(平成27年)比較】

前回調査と比べると、ほとんどの相談窓口の認知度が高くなっている。

①配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況<男女別・年齢別>

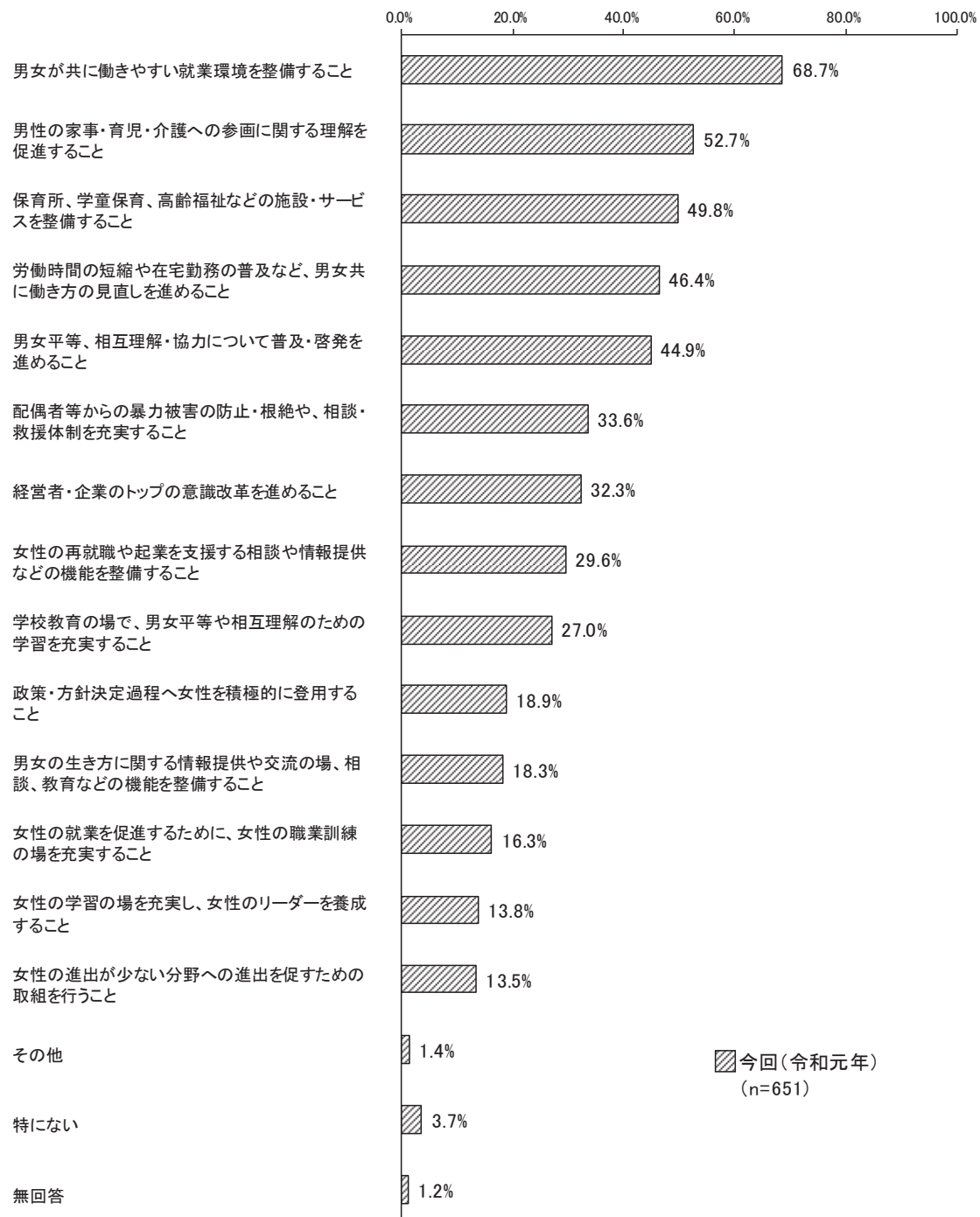


【男女別】

男女とも、「警察」が最も高く(男性 84.5%、女性 85.2%)、次いで「女性のための相談支援センター、男女共生センター」の認知度が高い(男性 32.0%、女性 55.4%)。

6. 男女共同参画の推進

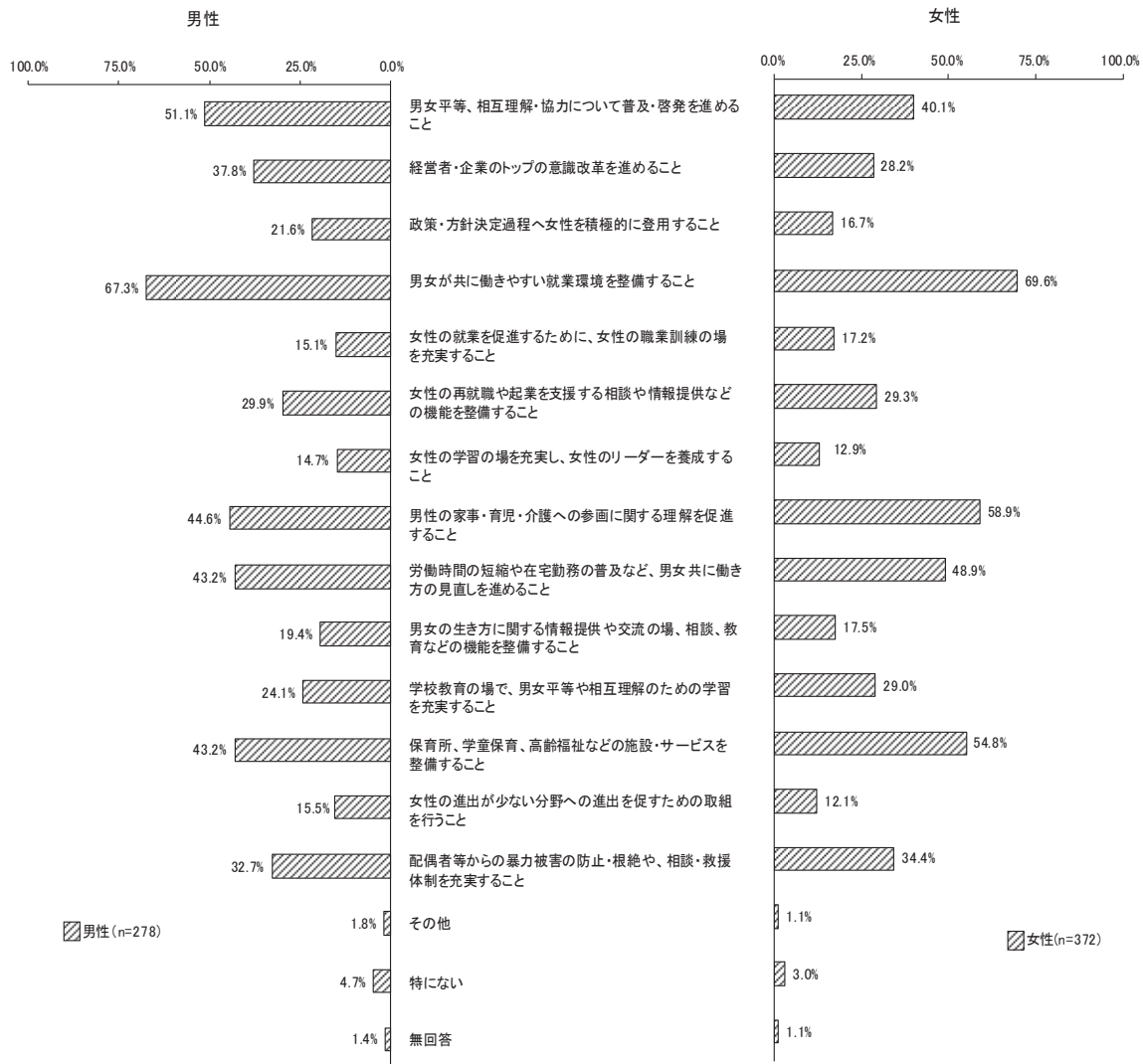
問3 1 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、県や市町村は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



【全体結果】

男女共同参画社会の実現に向けて力を入れていくべきことについて、「男女が共に働きやすい就業環境を整備すること」が68.7%と最も高く、次いで「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」が52.7%、「保育所、学童保育、高齢福祉などの施設・サービスを整備すること」が49.8%で続いている。

①男女共同参画社会の実現に向けて力を入れていくべきこと<男女別・年齢別>



	男女平等、相互理解・協力について普及・啓発を進めること	経営者・企業のトップの意識改革を進めること	政策・方針決定過程へ女性を積極的に登用すること	男女が共に働きやすい就業環境を整備すること	女性の就業を促進するために、女性の職業訓練の場を充実すること	女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの機能を整備すること	女性の学習の場を充実し、女性のリーダーを養成すること	男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進めること
20～29歳 (n=55)	45.8%	33.3%	15.3%	70.8%	16.7%	40.3%	19.4%	61.1%	52.8%
30～39歳 (n=109)	41.7%	33.8%	15.1%	71.9%	16.5%	28.8%	15.8%	57.6%	54.7%
40～49歳 (n=132)	43.9%	27.8%	19.3%	69.0%	14.4%	25.1%	10.7%	51.3%	51.3%
50～59歳 (n=173)	48.2%	34.0%	21.5%	66.0%	17.4%	30.4%	13.8%	48.2%	36.0%
60歳以上 (n=6)	0.0%	50.0%	33.3%	66.7%	16.7%	33.3%	0.0%	66.7%	50.0%

	男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの機能を整備すること	学校教育の場で、男女平等や相互理解のための学習を充実すること	保育所、学童保育、高齢福祉などの施設・サービスを整備すること	女性の進出が少ない分野への進出を促すための取組を行うこと	配偶者等からの暴力被害の防止・根絶や、相談・救援体制を充実すること	その他	特にない	無回答
20～29歳 (n=55)	22.2%	25.0%	45.8%	20.8%	34.7%	0.0%	0.0%	1.4%
30～39歳 (n=109)	16.5%	30.2%	54.0%	10.8%	42.4%	3.6%	0.7%	0.7%
40～49歳 (n=132)	20.3%	27.3%	51.9%	14.4%	34.8%	1.6%	3.7%	1.1%
50～59歳 (n=173)	17.0%	25.9%	47.4%	12.6%	27.5%	0.4%	6.5%	1.6%
60歳以上 (n=6)	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

【男女別】

男女とも、「男女が共に働きやすい就業環境を整備すること」と回答した割合が最も高く、男性は67.3%、女性は69.6%となっている。次いで、男性は「男女平等、相互理解・協力について普及・啓発を進めること」が51.1%、「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」が44.6%と続いており、女性は「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」が58.9%、「保育所、学童保育、高齢福祉などの施設・サービスを整備すること」が54.8%と続いている。

【年齢別】

年齢が若いほど、「男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること」と回答した割合が高い。

7. 地域の慣習

問14 あなたが住んでいる地域で、男性と女性を差別しているようなしきたりや慣習がありますか。ありましたら、具体的にご記入ください。

(※明らかな誤字・脱字の訂正等を除き、原文のまま掲載しています。)

【町内会・自治会など】に関する回答

- ◇ 学校のPTA活動は9割が女性である。(女性ならではの問題が生じ、面倒である。)(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 町内会の集会で、女の人の意見は無視、又は否定される。うんうんと肯定することだけ求められる。(そういう人しかいなかった。)(女性・40～49歳・県北地域)
- ◇ 地区の集会などあった時に意見を言うのは、主に男性。女性が出席する割合も少ない。奥さんが集会などに積極的に出ると、「なまいき、女のくせに」という声が出てくる。奥さんは家を守る、公な事は男性が関わるというような風習がまだまだ根深く残っている。(女性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 消防団に入れるのは男性のみ。(女性・20～29歳・県中地域)
- ◇ 消防団は男性しかいない。(男性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 行政区長が男性のみ。(男性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 自治会、町内会の会長は男性しかいないのはおかしい。(男性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 男性だけで、女性が出席できない山の神講と権現講という集まりがあります。(男性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 行政区での掘り上げ作業に女性が出ると、「なんで、旦那さんが出ないのか」と言われる。神社からのお札を各戸に配るとき、「男性がまわらない」と言われる。(女性・60歳以上・県中地域)
- ◇ しきたり、慣習が定着している。今尚定着しているのは、男性が無知だからだ。(男性・30～39歳・県南地域)
- ◇ 地区の役員は主に男性。特に女性の方から、役員をしたいという希望はなし。しかし、PTA役員は女性が多い。(女性・50～59歳・県南地域)
- ◇ 女性区長が少ない。男性がやるべきとの慣習があるようです。男女共同参画・女性の活躍促進をもっともっと進めて、女性がやりやすい、入りやすい、行いやすいシステムにしていただきたいですね。(男性・50～59歳・会津地域)
- ◇ 地域の女性は婦人会に入るのが当たり前となっており、婦人会は男性が主導する行事等のサポートをすることがほとんどで、男性のサポートをするのが当然という風潮となっている。(女性・20～29歳・南会津地域)
- ◇ 地域の消防団に弟が入れと言われて断った際、私が入ると言ったら、「女はダメだ」と言われた。(女性・40～49歳・いわき地域)

【家庭内の習慣】に関する回答

- ◇ 長男と結婚したら、その家を継ぐのが当たり前だと言われる。(他に仕事をしている妻も一緒に)。「男なんだから」とか、「女なんだから」という話もよくされる。特に年配の方に多いと思う。(女性・30～39歳・県北地域)

- ◇ 家に客人が来ると、給仕等は女性というか、嫁の仕事。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 長男が家業を継ぐ。(女性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 長男の嫁は、親と同居するのが当然と思っている親が多い。(女性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 地域伝統行事、家事。(女性・20～29歳・会津地域)
- ◇ 家事は女性がする。料理は女性の仕事。(女性・20～29歳・いわき地域)
- ◇ 盆と正月に、親戚・家族が集まり宴会をする際の準備や片付けを母親・女姉妹で行うこと。「もてなし」をするのは女性。(女性・40～49歳・いわき地域)
- ◇ 親(父)によく「女のくせに」と言われた。(女性・40～49歳・いわき地域)
- ◇ 介護は嫁がしてしかるべきという考え方。自分がまだ介護を必要とする状態ではない時から、嫁にそう洗脳するような言動を日常よく聞く。自分の実家(田舎)では、誰の世話にもならず、健康で長生きしようと高齢者は意欲的に体や脳にいいことしているのに、なんて遅れているのだろうと思うと、腹が立つことがよくある。(女性・50～59歳・いわき地域)

【祭り事】に関する回答

- ◇ 祭りの準備を女性だけで行い、祭りに参加するのは男性のみである。(女性・20～29歳・県北地域)
- ◇ 神社への(新年の)お参りは、女性禁止。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ お祭りに、女性が参加できない。(不浄なものとみなされているらしい。)(女性・40～49歳・県北地域)
- ◇ お祭りの神輿は男性が多い。(男性・40～49歳・県中地域)
- ◇ 神社のお祭りで奉納される小獅子は、男の子しか入れない。(女性・40～49歳・県中地域)
- ◇ お子安講(おこやすこう)という、45才未満の婦人の集まりが年1回ある。伝統的に明治時代以前から続いており、差別ではないが、その昔、農村の婦人は農作業などの労働力とされ、神様を拝むと称して、骨休めに年1回女性だけが集まったのだと推測される。(男性・40～49歳・県南地域)
- ◇ 20才以上の女性は参加できない相馬野馬追。地域によって男女に対する意識が違う。幼児期から「長男は～」、「嫁は～」、「〇〇家はこうでなくてはならない」等、根強く男女差に対する教育を受けている地域がある。特に海岸部や山間部等、過疎が進んでいるような地域に多い。(女性・30～39歳・相双地域)
- ◇ 仕事でも地鎮祭の際にも、「女は血が出て汚いから参加するな」と言われた。(女性・40～49歳・いわき地域)

【職場】に関する回答

- ◇ 事務職、男性は私服、女性は制服。(女性・40～49歳・県北地域)
- ◇ 職場は女性優位である(病院)。(男性・40～49歳・県北地域)
- ◇ 社員のお茶やお酌を女性にさせる。(女性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 娘が通う幼稚園で結婚する(した)保育士は退職しなければいけない。(男性・40～49歳・県中地域)
- ◇ まだまだ男性は外で働き、女性は家庭という習慣が残っているし、男性が育児休暇などを取ったら白い目で見られているような気がする。(女性・50～59歳・県中地域)
- ◇ (食品店の)求人をみても、女性はレジ打ち、男性は品出しが多い。接客も男性を導入してほしい

です。(差別とは違いますが。)(女性・30～39歳・会津地域)

- ◇ 女性の給与が少ないのに、細かい仕事(掃除、その他)がありすぎる。(女性・50～59歳・会津地域)
- ◇ しきたりや慣習というより、年寄り衆の思考が問題。男が茶を汲んでもよいのでは？(男性・30～39歳・いわき地域)
- ◇ 会社内で未だに女性(特に高校卒)には事務的業務しか与えておらず、大学卒でもないと、昇進(管理職)できない。(男性・50～59歳・いわき地域)

【葬儀】に関する回答

- ◇ 近所、親戚の葬儀の際、食事の支度、お茶出しは女性がやるものと皆思っている。男性はただ談笑しているだけ。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 葬式では、女性は手伝い。集まりでは、男性は出るけど女性は出ないとか。(女性・30～39歳・県南地域)
- ◇ 葬儀の参列者について(呼び出し)、女性の実父母の葬儀であっても、男性(夫)が先順序になる。喪主も男性がつとめることが多い。(女性・30～39歳・いわき地域)

【その他の事柄】に関する回答

- ◇ 具体的に表現することはむずかしいですが、男だから、女性だからと言葉に出す人があまりにも多い。男女共同とはいっても、体調的に違う部分があるので、むずかしいと思う。(女性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 子の学校書類など、記入しているのは母親なのに、保護者氏名は父親の名を書く。自分と夫と50%50%で全ての家事をやっていたのに、夫の親世帯と同居するようになったら、夫はやらなくてよくなった。(親が私にやるよう言う。)夫も親にやってもらうことに、全く抵抗感がないため、役割がゴチャゴチャになった。(女性・40～49歳・県南地域)

8. 自由意見・要望

男女共同参画の推進、女性の活躍促進のための対策等について、ご意見、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

(※明らかな誤字・脱字の訂正等を除き、原文のまま掲載しています。)

【男女共同参画の施策全般】に関する意見

- ◇ 在宅でできる仕事の促進とセキュリティ等の環境整備。会社に体力がないと男女雇用機会均等法をうまく運用できない現実への対応。(男女共同参画は)そもそも促進すべきではないと思う。ノルマ達成の為に女性管理職乱立による男性管理職の減少→世帯収入不足による望まない共働き世帯の増加→子どもへの接触時間が減る。接触時間と非行は「相関関係がある」と思うのが理由。(男性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 公的機関に解決できるようなものではないと考えます。解決できるのは、民間団体ではないかと考えます。(男性・30～39歳・県北地域)
- ◇ アンケートを取るだけでなく、本当に実際に動いて欲しい。失敗しても前に進む意志を地域の方々に提示しなければ、何も動かないと思います。(男性・40～49歳・県中地域)
- ◇ ずっと言われている男女共同参画。今まで何もしていないのが良く分かります。これからも変わらないのではと不安な気持ちです。言うだけで気持ち(気力)が見えません。民間の社員なら「くび」です。(男性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 少子化が進み、男性だとか女性だとか、全てにおいて言っている現状ではないと思います。できる人がやる。できない人は、別のできることをやる。全盲の娘さんが末期ガンの父を自宅でお世話していた番組を見ました。日本の政治力の低下に悲しくなります。行政のお仕事をされている皆様に期待するばかりです。(女性・60歳以上・県中地域)
- ◇ がんばってください。女性も男性も活躍できる日本にしてください。そして、「結婚したい!」、「子どもを産みたい!」と思える、「子育てしながら働きたい!」と思える毎日が送れるような、日本にしてください。(女性・30～39歳・県南地域)
- ◇ 県及び市町村は、プランを立て実行すべき。たとえ空振りになっても、この問題は急務であり、着実な歩みを要するが故に「大成功」を求めなくていいと考える。心身共に住みやすい生きやすい街づくり、環境づくりが、県レベルでの人口減少へのカウンターになると腹をくくるべきではなかろうか。全国的なモデルケースとなるくらいに、大々的にやればいい。しっかりと予算もつけて。そしてその部署に女性を登用する。(男性・30～39歳・県南地域)
- ◇ アンケートだけでは、実際の事がわからないので、もっと県、市町村が積極的に職場や地域社会を訪れて、職場の方や地域に住んでいる方の声を聞くべきではないですか。そうしないと、この問題は解決できないと思います。福島県は、行動がいつも遅いです。このままでは、全国に遅れをとるばかりです。(男性・30～39歳・県南地域)
- ◇ 政治家に年寄りが多い。もう少し若返り、若い人の意見を取り入れてほしい。少子高齢化対策にもっと税金を使ってほしい。税金のムダ使いが多い。(男性・40～49歳・県南地域)
- ◇ 自分も含めてなのですが、氷河期世代が少子化を進めていると感じております。まだ、この世代にできることがあると思いますので、何かしらの対策をしていただけたら、と思います。(男性・40～49歳・県南地域)

- ◇ このアンケートをするほど進んでいないのか、むしろ私たちの感覚ではもはや普通のことすぎて、質問内容におどろいた。すべてがあまりにも前時代すぎる。女性に限らず、人間すべてに必要なことなのではないでしょうか。(女性・30～39歳・会津地域)
- ◇ 統計だけ取って終わるのだけはやめてほしい。大きく、すぐに変えることは難しいと思いますが、一歩でも近づけられたらと思います。(女性・50～59歳・相双地域)

【人権尊重と男女平等】に関する意見

- ◇ この意識調査の質問に、性差別、職業差別を感じます。あなた方が、考えを改めてみてはいかがでしょうか。(男性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 近年、女性の社会進出が増え、活躍できる場も多くなって来たように思う。しかし、未だに女性蔑視の声を耳にする。政治の中枢を担う閣僚が発言したり、会社によっては幹部が全員男性であることが良い例である。女性は結婚して子どもを産んだら会社を辞めたり、長期休暇を取るから、上の役職には合わないのではと考えるのだろうか。国や会社の環境整備がきちんとできていないから、少子化が進んでいるのではないだろうか。女性達になぜ結婚して子どもを産まないかを問うより、そうなるように仕向けたのは誰なのかを考えるべきだと思う。(女性・20～29歳・県中地域)
- ◇ 男女共に働きやすい社会環境を進めて、労働意欲を向上させていくことが大切だと思います。そのためには、人権を侵害するような発言や行動をしないことだと思います。(男性・20～29歳・県中地域)
- ◇ 「女性の」をあまりにも強調されているので、女性が差別されている感がありました。現在、企業がブラックやホワイトと非難されることが多々見受けられますが、男女問わず本人が正当に評価されれば、性別の差別もなくなり、ブラックやホワイト企業でも就業に問題はなくなります。ただ個人の能力や意識が与えられた現状で満足し、卑屈による向上の拒否により、意欲の低下がおこれば、今までと変わらない現状が続くと思われまます。出る杭は打たれるというように、女性ばかりの職場は問題が山積みようです。(男性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 行政のような組織は、共同参画しやすい分野であると思う。そのような分野はどんどん伸ばし、そうでない分野にまで強要するのはやめるべき。平等という言葉の主語をみんなではなく、〇〇さんはおきかえて、分野、分野で考える必要があると思う。行政は、主語のない目標等が多すぎる。(男性・40～49歳・県中地域)
- ◇ 男性、女性の身体構造は異なり、その役割は違うのかもしれない。社会で活躍するには、男女差ではなく個人の能力ではないかと思う。このような調査をしていること自体、全く進んでいない県であると思う。(女性・40～49歳・県中地域)
- ◇ 今は、女性も多様な生き方があると思います。男性も同じだけど、自分のことも大切にしたい。心も身体も、仕事も、家庭も、育児も、介護も、助けて欲しい時は、声を出すこと。周りも、どんな小さなことでもいいので、何ができるか共に考え、サポートできることがあったらやってみる。女性活躍というけれど、相互の理解と思いやり、これがなければ、男性も女性も、難しい時代だと思います。(女性・40～49歳・県中地域)
- ◇ 個性と自由は皆それぞれ。自分で責任を持って生活できる社会を目指したいですね。(女性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 働く社会ではなく、育児や子ども達の教育、道徳、規律などを重視することも、これからの社会の

課題だと思えます。外国人が多くなる未来、価値観の違いはでてくると思いますが、倫理観など根本的に失われていることが心配です。諸々の問題は、男女というよりも、人間としての意識や良識の有り方だと思えます。(女性・50～59歳・県中地域)

- ◇ 男性から女性への暴力についてはもちろんですが、女性が男性へ暴力をふるって、面白おかしくするようなTVの映像についても、いかがなものかと思う。(女性・20～29歳・県南地域)
- ◇ 今は、男性が「不審者扱い」や「痴漢の冤罪」、「女性専用車両」、「レディースデー」などの点で、恵まれていません。時に、こういったことで、男性が不満に思っています。「男女平等とは何か」、女性に対する意見だけでは、仕方ありません。(男性・40～49歳・県南地域)
- ◇ 男女平等に全てを扱うのには無理がある気がする。偏見でなくほんの一つの例として、例えば男性は力仕事に強みがあり、女性は母性に強みがある。協力、カバーが大切だが役割分担でうまくいくような気がする。昨今、女性活躍促進に世の中が神経質になりすぎているせいか、男性の立場が理不尽に弱い時が見られる。冤罪なのにパワハラ、セクハラ呼ばわりされたりする例もでてきている。共同参画の推進は大いに賛成であるが、バランスが大事なのでは。(男性・40～49歳・県南地域)
- ◇ 農山村の暮らしでは、力仕事が欠かせないため、男性の仕事が多くある。そのため、家事は女性が行っていることが多い。それが昔ながらの慣習と近いため、何となく古い考え方が抜けないところがある。しかし、性別による社会的役割によって、生きづらいつながりが生じている。性別や能力の違いなど、個性をありのままに大事にして、不格好OK、やり直しOKの社会になってほしい。全国と比較するのではなく、福島でその土地で個人が輝けるよう政策してほしい。(女性・40～49歳・県南地域)
- ◇ 世間で目にする、男女平等を掲げたスローガンやプロパガンダは往々にして、女尊男卑であったり、平等と言っておきながら矛盾していたりします。女性の社会での活躍や進出に男性の理解や協力は必要ですが、女性達自身も理性的な言動を会得しなければ、相互理解を深めることはできません。男女共同参画社会は素晴らしいですが、本当の意味での男女同権をより多くの大人が認識できるようにしてほしいです。特に団塊ジュニアより上の世代が。(女性・20～29歳・会津地域)
- ◇ 男女とも性差別をするような意識を持たないことが大切だと思う。行政などの支援も必要とは思いますが、まずは自分自身が信念や理念、目標を持ち生活していくことが必要だと思う。(女性・50～59歳・会津地域)
- ◇ 福島県では昔からの長男に対する根強い想いがあると思えます。私達30代が受けた家庭教育の中には、今でいう虐待と思われるような教育を受けてきた者もいます。そういった家庭には妻(子からすれば母)に対するDVもあり、それを見て育ってきた者もいます。そういった男女差別がある中で育った人たちの意識や考えを改める必要があると思えます。未だに、言ってもわからないのはたたくしかない、そんな言葉を口にする人も少なくはないのです。(女性・30～39歳・相双地域)
- ◇ 家庭生活の中の労働分担が男女平等でなければ、女性が外で仕事に力を入れることは難しいと思います。女性が外でも頑張っていて、家でも頑張っていては、正直苦しむのは女性だけです。昔からの日本人男性の家庭でのあり方のような考えが少なからずあるとすれば、改善するのはとても難しいことだと思います。(女性・30～39歳・相双地域)
- ◇ 人間は平等です。ただ男と女に別れるだけで、現代社会では、男女が逆転しつつあります。個々の長所・短所をいかしつつ、人として充実して生きればよいのでは。世界的に男女平等とか騒いでいますが、よく見れば犠牲になっているのは、子ども達ではないでしょうか。個人の考えです。(女性・50～59歳・相双地域)

- ◇ 男女共同参画社会をつくるには、たくさん問題があると思います。男性として女性としての考え方や、一人一人の環境によっても理解し合えない問題など、人との関係性を築くための課題があると感じています。男女ともに人としての人権を与えられ生きて行けることを再確認できるような社会になることを願っています。(女性・40～49歳・いわき地域)
- ◇ 問24の設問のとおり、男女は違います。無理に平等化するのは矛盾があると思います。もちろん、社会進出したい女性の支援は必要かもしれませんが、支援されること自体、差別になっているかと思えます。母性本能を優先させたい女性もいると思います。家長の稼ぎだけで生活出できない今の社会も考えられるべきことかと思えます。(男性・50～59歳・いわき地域)
- ◇ 現在教育の場では道徳を教えても、きちんとした心理学は教えていない。男女共同参画の推進のためには、時代や国によって変わる道徳よりも、まともな心理学を教えるべきだと思う。しかも、教員などではなく、もっと深く学んだ医師や臨床心理士などから小学校の頃から教育すべきと。人は何故いじめるのか、差別するのかなど、全て心理学を学ばないと理解しにくいと感じている。(女性・50～59歳・いわき地域)

【男女共同参画の意識】に関する意見

- ◇ 男性がもっと大人にならなければ、男女共同参画社会なんて実現しないと思います。女性はあなたの母ではないということ、きちんと理解してほしい。Q31で8番を選択したけど、「理解を促進」ではなく当然の事と思う社会にならないと、女性だけががんばらなければならない社会になっていくだけ。そこを気づいてほしい。(女性・40～49歳・県北地域)
- ◇ 都市と違って、田舎はまだ昔の習慣、考え方が根強く残っており、私の様な都会から結婚で入って行くと「よそ者が」など、意見ひとつ言っても言われました。田舎はまだ考え方が「男性主」というのが残っております。新しい地域とは別に、変化させるのが難しい所が残っております。なかなか若い方に公の場所を譲らない現状もあり、都市部とは違う部分があります。公の場所に出る定年でもあれば別ですが、難しい現実が残っております。(女性・50～59歳・県北地域)
- ◇ まだまだ男は仕事、女は家庭の考えが主流なので、これが変われば、女性も仕事しやすくなると思う。会社の考えは、男はずっと働いてくれる、女性は一時期間だけと考えがちなので、この考えが変われば、女性も働きやすくなると思う。(女性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 女性は結婚や出産時に仕事を退職する。この流れが変わらない限り、何も変わらないと考える。社会的な意識はそうだが、本人の意識も改革しなければ、変わらない。(男性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 各々個人の性格が伴う(意識等)と思います。(男性・40～49歳・県中地域)
- ◇ 男性の考え方が変わらないことには、無理だと思います。(女性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 持って生まれた性格や育った環境などで、人の行動や考えがあるので。個人の価値観を変えるのは相当むずかしいのではと思います。(女性・50～59歳・相双地域)
- ◇ 男性(女性)には向かない仕事(役割)とか、子どものいる人には向かない仕事(役割)という考え方そのものが差別なのだと思う。ふるいにかけて残った者で会社(社会生活)を行おうとしたら、あっという間に人材不足になってしまう。どんな条件を持った人でも、何かしら活躍できる、役立てられるようになったら、それは当人のみならず社会の力になると思う。(女性・40～49歳・いわき地域)

【男女共同参画を推進する教育】に関する意見

- ◇ 共学、別学、それぞれに子どもを入学させました。共学での男女差別があまりにもひどい。別学の方が、まだ自分でやるという意思があった。学校、特に高校の生む性の教育が大事であると思っています。生む性をないがしろにしがちで、特に女の子が自分の体を大事にしないように思います。(女性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 妊娠・出産・育児を妨げになるものと思わせない就労体系を確立させ、実績を積み上げたうえでの学校教育の充実を図っていただきたい。教育が全てだと思うが、現実社会をみたとき、子どもたちを失望させないように努力していきたい。(男性・40～49歳・県南地域)
- ◇ 家族の理解と協力があれば、女性は仕事と家庭、育児を両立することができます。しかし、多くの場合、家族(夫や、夫の親、実親など)からの理解は得られません。そのため、フルタイムの仕事を諦めてしまいます。(例「子どもがお利口なら出かけてもいい。」「しつけをしておけ!」等。就労することを“出かける”“外に出る”という表現をされることは女性だから。)この考えを変えるためには、小学校からの教育や校則を変えていくべき。男子、女子の名簿を分ける、並び方を分ける等、男女区別する必要はない。(女性・40～49歳・会津地域)
- ◇ 男は仕事、女は家庭で育った世代は今さら考え方は変わらないと思います。今の子ども達への教育に力を入れた方がよいと思います。(女性・30～39歳・いわき地域)

【女性活躍の促進】に関する意見

- ◇ 女性のスキル向上の場をつくることと、女性のスキルを正しく評価できる世の中にする。女性は特に、容姿が綺麗である・そうでないに対する差別が男性よりも大きいと感じる。(男性・20～29歳・県北地域)
- ◇ 女性活躍推進関連で役職を与えるといった報道を目にしたが、無意味で的外れと思う。短絡的な考えだと思った。キャリアアップしたい人もいるだろうが、生活のためだけに働いている人もいる。リーダーになることだけがイコール活躍しているのではなく、産休・育休を終えて復職した時、戦力になれる環境があれば女性の活躍も広がるのではないかと思う。名ばかりの役職はいらない。(女性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 結果の平等ではなく、機会の平等を実現するためには、男女の性差による職業の偏りが(結果として)生じるのは当然と思う。女性活躍のためには、あるポストに女性ありきで女性をあてるのではなく、育児サービスの充実を図り、機会の均等を目指すべき。その結果としての偏りまでを正そうとすると、社会の歪み(不経済や男女の対立を煽ること)につながると思う。(男性・20～29歳・会津地域)
- ◇ 大切な事は、女性であるとも実力のある者を見合った登用をする事。女性が少ないからといって、無理に実力のない女性を登用する必要はないと思われます。(男性・30～39歳・相双地域)
- ◇ 女性をトップに置くから、女性が活躍するのではなく、女性が活躍して、トップの女性が増えるのです。(男性・50～59歳・相双地域)
- ◇ 「女性枠」などというものは設けなくても、力のある女性なら選ばれると思います。そもそも、「女性枠」を工面するために本来やるべき仕事がおろそかになってしまうこともあり、無駄でしかない

かと。(男性・30～39歳・いわき地域)

【子育て・介護支援】に関する意見

- ◇ 単身赴任などで夫が不在の場合、家庭、子育てのすべてが母親の負担となるため、仕事に出ることができない。多子世帯であれば、尚更大変になる。子どもが幼稚園、学校に行っている日中だけできる仕事があれば良いと思う。周りのお母さんたちも、それを望んでいるが、そんな仕事など、ほぼゼロなので、小学校高学年や中学生になるまで働けないと悩んでいる。何か対策があれば、してほしい。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 家のことは女性が、という考えがまだまだあります。介護を自宅でするために職を失うことがないように、介護施設(ショートステイではなく、永久的に入所できる施設)を増やしてほしいです。また、その利用料金が高くて、親を預けられない、ということがないように保育料金と同じような料金体系を考えてほしいです。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 企業に保育所などの整備を進めていき、復職の際に保育施設なども保障されていると女性も仕事をやめずに続けられたり、復職する時も安心できると思う。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 育休・産休中の給料面で6割の支給は、経済的にも厳しい。支給も2カ月ごととなると、共働きだった場合、2人で生計を立てている為、不足。子どもを産むことでやりくりが負担になると感じる。(男性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 女性の活躍促進のためには、保育所の待機児童の問題や、条件を満たさないと入所できなかつたり、気軽に子どもを預ける場所がないのはすごく困ります。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 働く女性にとって、保育施設の充実が切実な願いです。現在、私自身の子どもは入所できていますが、同じ職場の後輩社員は待機組です。職場への完全復帰ができず、時短勤務、更に子どもや自身の体調不良で休む事が多く、私を含め周りはフォローに苦勞し、このままでは後輩も周りもダメになります。保育施設増、病後児保育、保育時間の延長、施設の休日を少なく(盆・正月)等、働く女性が預けられる環境が必要です。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 子どもが病気の時に行政で預かりをしてくれる場所があれば、仕事を休まず出勤できる。責任ある仕事につける要因となる。(男性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 女性が働きに出て、活躍できて、男性も家事や育児を担うことは重要であると思うものの、子育てに関して、父親は母親に到底敵わない。(男性・30～39歳・相双地域)
- ◇ 公共で受け入れてもらえる老人福祉施設がもう少し多くあれば良いと思う。(男性・50～59歳・相双地域)
- ◇ 役人を減らした分、税金を下げずに、子育て、介護を無料でできる制度を進めるべきと考えます。(女性・40～49歳・いわき地域)
- ◇ 保育施設の充実、介護施設の充実を図ってもらい、仕事を続けられる環境をつくってもらいたいと切に願います。(女性・40～49歳・いわき地域)
- ◇ 男が外で働き、女性は家庭を守る・・・という慣習でも良いと思う。「貴方、子育てお願いね、私は外で稼いで来るから」と言える給与を女性が持っているとしたら、相当優秀な人に限られるのが現実。男が育児休暇など取ったら、職場に戻った途端、自分の居場所がなくなっているのも現実・・・。(妹の旦那の職場がそう。その分野の上場企業で誰でも名前を知っている。)せめて、女性が安心して子どもを産める世の中になってほしい。少子化に歯止めをかけるのが、先決だと思う。(女性・50～59歳・いわき地域)

【職場環境】に関する意見

- ◇ 職業によって向き不向きがあるので、無理に平等にしようとするのはやめたほうが良いと思います。雇用の機会がならされるのは良いけれど、男女の偏りは当然出てくるものだと思います。(男性・20～29歳・県北地域)
- ◇ 子どもを持つ女性が働くうえで、一番困るのは、子どもが急に具合が悪くなった時に休まなければいけないことだと思います。急な休みでも取りやすいよう、もっと雇用を増やし、ヘルプとなる人材を常にキープするなどの対策があれば良いと思います。働きたい意欲があっても、子どもが小さいとすぐ具合が悪くなることも多く、それを懸念して働かない女性も多いと思います。働きやすい労働条件の改善がもっと進めば良いと思います。(女性・30～39歳・県北地域)
- ◇ 職場で実際にパワハラやセクハラをしている本人は気付かないことが多いし、悪いと思っていないことがほとんど。被害に合っている人は、声を挙げることは難しいと思う。周り(同僚や上司)が協力して声を上げる必要がある。家庭では、男性の会社の休みや福利厚生充実の差により、女性に協力できる範囲に差があり、夫婦共に仕事と家庭の両立はその家庭により違うと考える。実際に自分が職場のパワハラと仕事・家庭の両立で悩み、つらく苦しいので。(女性・40～49歳・県北地域)
- ◇ たてまえばかりです。病院での男性スタッフの差別は酷い。特に医療職に多い。何とかしてほしい(SOS)。(男性・40～49歳・県北地域)
- ◇ 労働時間の短縮、在宅勤務の普及を特に優先して欲しい。(男性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 私自身、子育ても終わり、長年パートで同じところで働いておりますが、娘が結婚し、子ども(1歳6か月1人)を、保育園に預けながら働いている姿を見ますと、本当に大変だと思います。保育士をやっていますが、もっと賃金が高くなってほしいと切に思います。(女性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 小さな子どもを育てる職業婦人が多くなり、時間短縮や日曜勤務免除、夜勤免除の若い女性が増え、働きやすくなりました。しかしその反面、残った仕事を遅い時間までこなし、日曜や夜勤が多くなった中年の女性が増えていることも事実です。若い女性のワーク・ライフ・バランスばかりでなく、高齢でも一生懸命働いている女性のワーク・ライフ・バランスも考えて下さい。夜勤が増え、日・祝日も勤務が増えて、つらいです。(看護師)(女性・40～49歳・県中地域)
- ◇ 産後の女性の雇用の継続。(待遇は変わらない。)(男性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 社会が皆、活躍したい訳ではないと思いますが、活躍したいという女性が社会の中でのびのび生きられるサポートが必要だと思います。夫や子どもや保育園に謝りながら、仕事をしている女性がたくさんいると思います。具体的には、職場環境の改善を図っていただくと、お母さん方も働きやすくなると思います。職場に託児サービスがあっても良いと思います。(女性・20～29歳・県南地域)
- ◇ 子どもの行事はほとんどが母親が行くので、仕事をしていると有給を使って休んで参加します。子どもが多いと休むのが増えて、有給が無くなってしまいます。学校が週休2日で会社は週休2日でない場合、家族の協力が必要になります。協力が無理な場合は、パート等の短い時間で働くしかありません。女性がフルで働くのは、男性に比べて大変です。(女性・40～49歳・県南地域)
- ◇ 女性の社会進出(仕事をする)、出産、介護(在宅をすすめている)、女性は役割が多すぎます。男性の介入も必要かと思いますが、仕事をする上で、ある程度責任を持ち、仕事を優先する事も必要な事があります。女性も仕事をするには、仕事を優先しなくてはならない事もあります。共働きだ

と、それをサポートしてくれる「何か」がないと無理です。(女性・50～59歳・県南地域)

- ◇ フレックス制を積極的に取り入れるべき。(女性・20～29歳・会津地域)
- ◇ 育児休暇後、仕事に復帰する上で、子どもが小さいうちはフルタイムで働くのは難しい(フルタイムで働く上で、子どもが小さいうちは夜勤はできない(夜は託児できない))ため、パートタイマー、労働時間の短縮の内容を充実させてほしい。男性が育休を取りやすい環境をつくってほしい。日中だけの仕事で働かせてもらえるような環境をつくってほしい。(女性・20～29歳・会津地域)
- ◇ 仕事を続けながら、家事・育児・介護をすることができる就業環境を整備してほしいと思います。(女性・30～39歳・会津地域)
- ◇ ほとんどの企業の産休については約1年ですが、1年で復帰は短いと思います。2年での復帰の産休手当が欲しいです。復帰後、子どもの体調不良で職場に迷惑をかけて、職場の雰囲気が悪くなってしまいます。(女性・30～39歳・会津地域)
- ◇ 女性が子育てしながら仕事を続けることに関しては賛成だが、時短で働く場合の他の社員への負担があるもの忘れないで欲しい。特に独身者の負担が重くなる。仕事が増えても残業代が出ないのが現実。その為、人間関係が悪くなり、復職しても辞めてしまう人もいる。会社としては人件費を一番切り詰めたいとは思いますが、人員の見直しをして欲しい。少しゆとりができれば、気分的にも楽になるし、人にもやさしくなれるので。(女性・50～59歳・相双地域)
- ◇ 年金をもらいながら仕事ができる企業があれば良いと思う。(男性・50～59歳・相双地域)
- ◇ 昭和時代を生きた年代の方は、男女平等の考え方はあまりなく、女性の方が苦勞している。現在は、男性も育児をする姿が増え、女性が働きに出なければ、家計が成り立たない部分を理解している男性も多くなっていると思う。今後、「平等」がもっと増えていって欲しい。働きやすい環境は、年配の人の(上司の)やり方、考え方で変わる。(女性・30～39歳・いわき地域)
- ◇ 家庭を持つ身として、各家庭に合ったワーク・ライフ・バランスがあるので、行政、企業ともに臨機応変な対応と考えを持つことが望ましいと思います。(男性・30～39歳・いわき地域)
- ◇ 男女共同参画を推進するには、企業規模を大きく大企業化しなければならない。日本企業は中小企業が多すぎるため、個々の負担が多く、女性が活躍できない。高度成長期を支えてきた町工場を美化する時代はもう終わり。中小企業をなくすべき。そして、環境の整った企業で、男女共に活躍する必要がある。(男性・40～49歳・いわき地域)

【その他の事柄】に関する意見

- ◇ 仕組みをいろいろ変えても、給料を上げて下さい。ぜいたくしたいのではなく…、基本給がそもそも低い。(女性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 男女共同参画の推進、女性の活躍は賛成ですが、職場や地域活動での不利な立場の時に「女性だからできません」等の別な意味での女性優遇は認められなくなると思います。(男性・50～59歳・県北地域)
- ◇ 専業主婦をもとめる男性のみを集めたホームページを作成してほしい。又は紹介してほしいです。(女性・20～29歳・県中地域)
- ◇ 質問の内容がちぐはぐなものが多く、調査としては不十分に思える。ケース分けが必要な質問は選択肢が極端になりがちなので、自由記入を増やした方がよい。(男性・30～39歳・県中地域)
- ◇ 1. 質問の選択肢が柔軟性に欠けて硬直化している。問 17, 28 など。2. 1の理由から、決められた答

えを選ばされて、その流れで政策決定されそう。3. 今後の男女の共同参画は…色々と考えがありますが、空欄が不足しているので。(男性・40～49歳・県中地域)

- ◇ 先日、ニュースで「引きこもり女性」の問題が取りあげられていたが、その基準が専業主婦ならほとんどが該当するのでは、という内容で驚いた。専業主婦は「生産性ゼロ」、「社会貢献度ゼロ」と見なされやすいが、そのせいで存在自体が軽んじられてきているように感じる。「家庭を守る」ことが職業か否かは難しい問題だが、家庭を守ることが引きこもりと見なされたり、金銭や労働に置き換えられて考えられることには問題があるように思う。専業主婦が男女参画の分野で置いていかれないように、考えていただきたいと切に願います。(女性・50～59歳・県中地域)
- ◇ 今回のアンケートには回答するのに微妙な内容の質問がいくつかありましたが、子どもからの目線で考えると、幼少期など成長過程において母親の存在がとても重要であり、そのためには、社会への進出を抑制しなければならない時期があるのは、男性よりも女性の方が圧倒的に多く(長く)、そのために社会で活躍できない(しにくい)のは、差別という意味ではなく、仕方ない部分であると考えます。だからと言って、男性が育児に参加しなくていいという理由にはならず、デリケートな問題だと思います。(男性・50～59歳・会津地域)
- ◇ どうか大切な命をお守りくださいますようお願いいたします。(女性・50～59歳・いわき地域)
- ◇ 税金のすべてが高額であり、平等感がない税金制度である。共働き世帯での納税額の見直しが必要。(男性・50～59歳・いわき地域)

付. 調査票様式



男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査 ～ご協力をお願い～

県民の皆様には、日頃から県政の推進にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、福島県では、「ふくしま男女共同参画プラン」に基づき、県民や事業者の皆様と協働し、連携を図りながら男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めております。

人口減少・高齢化の進行、地域社会や家族形態の変化など、社会情勢が急速に変化する中、女性が活躍できる社会づくりの重要性が増しております。

つきましては、今後の施策の参考とさせていただくために、県内にお住まいの20歳以上の方2,000人を無作為に抽出させていただき、男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査を実施することといたしました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。

令和元年11月

福島県生活環境部男女共生課

ご回答にあたってのお願い

- この調査は、個人を対象にしていますので、お送りした封筒に書かれている**あて名の方ご自身**がご記入ください。(ご本人による記入が困難な場合は、ご家族などがご本人から聞き取って代筆をお願いします。)
- この調査は、無記名でお願いします。また、この調査票に記入された内容は統計的に処理しますので、**内容が外部に漏れたりしてご迷惑をおかけしたりすることは決してございません**。どうぞありのままをお答えください。
- 特にことわり書きがない限り、全ての質問にお答えください。
- 回答は問1から順に、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○をつけてお答えください。なお、質問によっては、1つだけ選んでいただく場合と、複数選んでいただく場合もありますので、各質問に従ってお答えください。
- 質問の回答で、「その他」を選んでいただいた場合は、()内にその内容を具体的にご記入ください。
- 誤った番号に○をつけた場合は、はっきりと×により消して、改めて正しい番号に○をつけてください。
- ご記入いただいた調査票は、お手数でも三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、**11月25日(月)**までにご投函くださいますようお願いいたします。(お名前を書いていただく必要はありません)

本調査について、お問い合わせなどございましたら、下記までご連絡をお願いします。

福島県生活環境部男女共生課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7188 (直通)

FAX：024-521-7887

【はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。】

(フェイスシート)

F1 あなたのお住まいは次のどの地域ですか。

- | | | | |
|--------|--------|---------|---------|
| 1 県北地域 | 3 県南地域 | 5 南会津地域 | 7 いわき地域 |
| 2 県中地域 | 4 会津地域 | 6 相双地域 | |

お住まいの地域がおわかりにならない場合は、以下に市町村名をご記入ください。

()

F2 あなたの性別(自認する性)をお知らせください。

- | | |
|-----|-----|
| 1 男 | 2 女 |
|-----|-----|

F3 あなたの年齢をお知らせください。

- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1 20～29歳 | 3 40～49歳 | 5 60歳以上 |
| 2 30～39歳 | 4 50～59歳 | |

F4 あなたの現在のご職業は何ですか。

複数の職業をお持ちの方は、主にあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

【自営業】

- 1 農・林・漁業(農業・林業・漁業の自営者、家族従業者)
- 2 商・工・サービス業(小売店・飲食店・理髪店などの自営者、家族従業者)
- 3 自由業(開業医・弁護士・芸術家・茶華道の師匠などの自営者、家族従業者)

【勤め人】 ※雇用形態についても併せてお答えください。

- 4 役員・管理職(民間会社・官公庁の課長級以上) **雇用形態は**



1 常勤(フルタイム) 2 パートタイム(パート、アルバイト、嘱託その他) 3 その他

- 5 専門技術者(勤務医・看護師・研究員・教員・栄養士・保育士・技術者など)

1 常勤(フルタイム) 2 パートタイム(パート、アルバイト、嘱託その他) 3 その他

- 6 事務職(一般事務職・司書など)

1 常勤(フルタイム) 2 パートタイム(パート、アルバイト、嘱託その他) 3 その他

- 7 労務・技能職(技能工・調理師・自動車運転手・労務員など)

1 常勤(フルタイム) 2 パートタイム(パート、アルバイト、嘱託その他) 3 その他

- 8 販売・サービス業(外交員・販売員・理美容師・飲食店の接客員など)

1 常勤(フルタイム) 2 パートタイム(パート、アルバイト、嘱託その他) 3 その他

【その他】

9 主婦・主夫

10 学生

11 無職

12 その他(具体的に:)

F5 あなたはご結婚(事実婚を含む)されていますか。

1 未婚	2 既婚(配偶者あり)	3 既婚(配偶者と離別・死別)
↓		
F5-1 お宅は共働きですか。		
1 共働きである		2 共働きでない

F6 お宅の家族形態をお知らせください。

1 あなただけの単身世帯	4 親と子と孫の世帯
2 夫婦だけの世帯	5 その他(具体的に:)
3 親と子の世帯	

F7 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

1 いる	2 いない
------	-------

↓

F7-1 あなたのお子さんは次のどれにあたりますか。(○はいくつでも)

1 乳児	5 高校生
2 幼児	6 大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)
3 小学生	7 学校を卒業した(中退を含む)未婚の子ども
4 中学生	8 学校を卒業した(中退を含む)既婚の子ども

F8 あなたの最終卒業学校をお知らせください。

1 中学校	4 短大・高等専門学校
2 高等学校	5 大学(中退を含む)
3 各種専門・専修学校	6 大学院(中退を含む)

【男女共同参画・女性の活躍促進に関してお伺いします。】

I 男女共同参画に関する意識

問1 あなたは次のような各分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。

①～⑦のそれぞれの項目ごとにお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

	1 男性が優 遇されて いる	2 どちらか といえば 男性が優 遇されて いる	3 平等で ある	4 どちらか といえば 女性が優 遇されて いる	5 女性が優 遇されて いる	6 わから ない
① 家庭において	1	2	3	4	5	6
② 職場において	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場において	1	2	3	4	5	6
④ 習慣・しきたりの面から	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場において	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度の上において	1	2	3	4	5	6
⑦ 自治会やPTAなど地域活動において	1	2	3	4	5	6

問2 女性及び男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。
女性の生き方、男性の生き方両方についてお答えください。

【女性の生き方について】(○は1つだけ)

- 1 家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する
- 2 家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 3 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる
- 4 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる
- 5 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する
- 6 わからない

【男性の生き方について】(○は1つだけ)

- 1 家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する
- 2 家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 3 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる
- 4 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる
- 5 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する
- 6 わからない

問3 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。
お子さんがいらっしゃる方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に女の子と男の子
がいると仮定してお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

【女の子の場合】

- | | |
|--------|---------|
| 1 中学校 | 5 大学 |
| 2 高等学校 | 6 大学院 |
| 3 各種学校 | 7 その他 |
| ・専修学校 | () |
| 4 短期大学 | 8 わからない |

【男の子の場合】

- | | |
|--------|---------|
| 1 中学校 | 5 大学 |
| 2 高等学校 | 6 大学院 |
| 3 各種学校 | 7 その他 |
| ・専修学校 | () |
| 4 短期大学 | 8 わからない |

問4 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が
重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する
- 2 学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する
- 3 学校において、人権や男女平等に関する授業を行う
- 4 学校のクラス名簿に男女混合名簿の導入を推進する
- 5 家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う
- 6 学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う
- 7 女性の校長や教頭を増やす
- 8 今のままでよい
- 9 その他(具体的に:)
- 10 わからない

II 仕事・家庭・地域生活に関する意識

－現在、収入をとまなう仕事をしていらっしゃる方(学生の方のアルバイトは除く)にだけお聞きします－

問5 あなたが仕事をしている理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 生計を維持するため | 9 視野を広げたり、友人を得るため |
| 2 家計の足しにするため | 10 社会に貢献するため |
| 3 住宅ローンなど借金の返済のため | 11 仕事をするのが好きだから |
| 4 教育資金を得るため | 12 働くのが当然だから |
| 5 将来に備えて貯蓄するため | 13 時間的に余裕があるから |
| 6 自分で自由に使えるお金を得るため | 14 家業だから |
| 7 生きがいを得るため | 15 その他(具体的に:) |
| 8 自分の能力・技能・資格を生かすため | 16 わからない |

－これまでに仕事を退職した経験のある方にだけお聞きします－

問6 あなたが仕事を辞めた理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1 独立するため | 13 出産、育児のため |
| 2 別の仕事を経験するため | 14 子どもの教育のため |
| 3 仕事が自分に向いていないため | 15 介護のため |
| 4 仕事や待遇に対する不満があったため | 16 家事専念のため |
| 5 職場の人間関係のため | 17 配偶者の転勤のため |
| 6 職場のセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント※のため | 18 親と同居するため |
| 7 勤め先の都合(事業縮小等) | 19 家業を継ぐ(手伝う)ため |
| 8 職場での結婚・出産退社の習慣があったため | 20 家業を後継者に譲ったため |
| 9 休業後の職場復帰がスムーズに行かなくなったため | 21 自分の健康上の理由 |
| 10 経済的に働く必要がなくなったため | 22 定年のため |
| 11 家族の同意・協力が得られないため | 23 その他(具体的に:) |
| 12 結婚のため | |

※セクシュアル・ハラスメントとは:一般的に、相手が望まない性的な意味合いを持つ言動を相手に強いることをいい、「性的いやがらせ」と訳されることが多い。「セクハラ」ともいう。

※パワー・ハラスメントとは:一般的に、同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える行為をいう。「パワハラ」ともいう。

問7 仕事や家庭など、家庭の生活に必要な労働について、あなたはどのくらい分担していますか。

①～③のそれぞれについて、一番近いものを選んでください。

① 家事【あなたがしている割合】（○は1つだけ）

1 全部	3 半分くらい	5 まったくしていない
2 大部分	4 一部している	

② 育児【あなたがしている割合】（○は1つだけ）

1 全部	3 半分くらい	5 まったくしていない
2 大部分	4 一部している	

③ 介護【あなたがしている割合】（○は1つだけ）

1 全部	3 半分くらい	5 まったくしていない
2 大部分	4 一部している	

問8 次にあげた①～⑤の結婚、家庭、離婚に関する考え方について、それぞれあなたのお考えに最も近いものをお選びください。（それぞれ○は1つだけ）

	1 そう思う	2 どちらか といえば そう思う	3 どちらか といえば そう思わ ない	4 そう思わ ない	5 わから ない
① 結婚は個人の自由であるから、人は結婚 してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
② 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
③ 女性は結婚したら、自分のことより夫や子 どもを中心に考えて生活したほうがよい	1	2	3	4	5
④ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要は ない	1	2	3	4	5
⑤ 一般に、今の社会では離婚すると女性の ほうが不利である	1	2	3	4	5

問9 最近、出生数が少なくなっていますが、あなたはその理由は何だと思えますか。（○はいくつでも）

1 子どもの教育にお金がかかるから	8 結婚しない人が多いから
2 育児には心理的、肉体的負担がかかるから	9 結婚しないで子どもをもつことに 対して、抵抗感が強いから
3 育児の負担がもつぱら女性にかかるから	10 子どもが欲しくないから
4 家が狭いから	11 その他(具体的に:)
5 経済的に余裕がないから	12 わからない
6 仕事をしながら子育てをするのが困難だから	
7 自分の趣味やレジャーと両立しないから	

問10 あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(○は1つだけ)

- 1 行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)
- 2 ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)
- 3 特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)
- 4 その他(具体的に:)
- 5 わからない

(問10で、1 または 2 を回答した方にだけお聞きします)

問10-1 自宅で介護する場合、家族の中では主に誰が介護することになると思いますか。(○は1つだけ)

- 1 主に、自分が介護すると思う(している)
- 2 主に、自分の配偶者が介護すると思う(している)
- 3 主に、その他の家族(女性)が介護すると思う(している)
- 4 主に、その他の家族(男性)が介護すると思う(している)
- 5 その他(具体的に:)
- 6 わからない

(全員にお聞きします)

問11 もしあなた自身が、介護をしてもらう状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい
- 2 ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい
- 3 特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい
- 4 その他(具体的に:)
- 5 わからない

(問11で、1 または 2 を回答した方にだけお聞きします)

問11-1 自宅で介護される場合、主にだれに介護してもらいたいと思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------|--------------|---------|
| 1 配偶者 | 6 その他の家族(女性) | 9 わからない |
| 2 息子 | (具体的に:) | |
| 3 娘 | 7 その他の家族(男性) | |
| 4 息子の妻 | (具体的に:) | |
| 5 娘の夫 | 8 ホームヘルパー等 | |

問12 職業以外に、次のような社会活動、地域活動の中で、あなたが参加しているものをすべてあげてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 各種ボランティア・NPO活動 | 7 趣味・サークル・スポーツ等の活動 |
| 2 自治会・町内会の役員活動 | 8 政治活動・労働組合活動 |
| 3 子ども会・青少年グループの世話 | 9 環境・美化・自然保護活動 |
| 4 PTA活動 | 10 国際交流・国際理解活動 |
| 5 各種女性団体の活動 | 11 その他(具体的に:) |
| 6 消費者団体等の消費者活動 | 12 参加しているものはない |

問13 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|--|
| 1 男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること |
| 2 学校教育や生涯学習の場において、男女共同参画についての学習を充実すること |
| 3 男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること |
| 4 男性が生活面において自立できるような能力を身に付けること |
| 5 女性自身が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身に付けること |
| 6 行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること |
| 7 雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを周知徹底すること |
| 8 労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること |
| 9 年功序列、終身雇用等の従来の雇用制度を見直し、再雇用や中途採用枠の拡大など柔軟な制度を普及させること |
| 10 パートタイマー、派遣労働者等の労働条件を向上させること |
| 11 官民ともに、育児・介護に係る施設や、家事・育児・介護に係るサービス等を充実すること |
| 12 その他(具体的に:) |
| 13 わからない |

問14 あなたが住んでいる地域で、男性と女性を差別しているようなしきたりや慣習がありますか。ありましたら、具体的にご記入ください。

Ⅲ 女性の活躍に関する意識

問15 あなた自身、あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 活躍している | 3 どちらかといえば活躍していない |
| 2 どちらかといえば活躍している | 4 活躍していない |

(問15で、1 または 2 を回答した方にだけお聞きします)

問15-1 活躍していると思う理由は何ですか。(○は3つまで)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている |
| 2 女性の経営者や管理職が増えている |
| 3 管理職でないが活躍する女性が増えている |
| 4 女性の職域(研究開発、マーケティング、営業など)が広がっている |
| 5 各種報道などで女性の活躍を目にする機会が増えた |
| 6 女性のキャリア意識が上がっている |
| 7 長時間労働の慣習が改善されてきている |
| 8 PTAや自治会の会長等役職に就いている女性が増えている |
| 9 その他(具体的に:) |

(問15で、3 または 4 を回答した方にだけお聞きします)

問15-2 活躍していないと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

- | |
|---------------------------------|
| 1 産休・育休などの支援制度が不充実である |
| 2 産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい(できない) |
| 3 女性の経営者や管理職が少ない |
| 4 女性の職域が限定的である |
| 5 女性のキャリア意識が向上していない |
| 6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい |
| 7 男性優位の考え方が変わっていない |
| 8 長時間労働の慣習が改善されていない |
| 9 PTAや自治会の会長等役職に就いている女性が少ない |
| 10 その他(具体的に:) |

問16 女性が活躍するには何が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1 企業トップが女性の活躍促進に積極的であること |
| 2 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること |
| 3 育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること |
| 4 企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること |
| 5 身近に活躍している女性(ロールモデル)がいること |
| 6 仕事が適性に評価されていること |
| 7 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること |
| 8 キャリア形成のための研修制度があること |
| 9 保育施設が充実していること |
| 10 国や地方自治体など、行政による企業支援があること |
| 11 地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること |
| 12 その他(具体的に:) |

問17 あなたは、女性が職業を持つことについてどうお考えになりますか。
次の中からあなたのお考えに一番近いものを選んでください。(○は1つだけ)

- 1 職業は一生持ち続けるほうがよい
- 2 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 3 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 4 子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
- 5 女性は職業を持たないほうがよい
- 6 その他(具体的に: _____)
- 7 わからない

問18 女性が働き続けるために必要なことは何だと思えますか。
特に重要だと思うものを選んでください。(○は3つだけ)

- 1 賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす
- 2 パート、派遣労働等の労働条件を改善する
- 3 労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする
- 4 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)のない職場をつくる
- 5 女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する
- 6 女性に対して昇進、昇格の機会を確保する
- 7 女性自身が意欲・能力を高める
- 8 託児施設、託児サービスを充実する
- 9 介護施設、介護サービスを充実する
- 10 育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する
- 11 家族の理解や協力を得る
- 12 家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める
- 13 仕事と家事・育児・介護の両立(ワーク・ライフ・バランス※)のための職場の支援制度を充実する
- 14 その他(具体的に: _____)
- 15 わからない

※ワーク・ライフ・バランスとは:男女がともに、ライフステージに応じて、仕事や家庭、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動を含めた生活スタイルを自らの選択によるバランスで形成すること。「仕事と生活の調和」ともいう。

問19 男性の育児休暇取得についてどう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 |

問20 働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいと思いますか。
(○は1つだけ)

- 1 早期に復職し、仕事に専念する
- 2 職場の支援制度(育児休暇等)を活用した上で、仕事を継続する
- 3 退職し、育児を終えてから再就職する
- 4 退職し、専業主婦になる

(問20で、1、2、3のいずれかを回答した方にだけお聞きします)

問20-1 復職・再就職する際どのような支援が必要だと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟に働きやすい勤務体制
- 2 保育サービス供給体制の整備・充実
- 3 スムーズに復職できる復職前研修制度
- 4 再就職の再チャレンジや起業のための研修制度
- 5 その他(具体的に:)

問21 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 なりたい | 3 できることならなりたくない |
| 2 できることならなりたくない | 4 なりたくない |

(問21で、1 または 2 を回答した方にだけお聞きします)

問21-1 なぜなりたいと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 責任を持った仕事がしたい | 3 仕事を通して、社会に貢献したい |
| 2 能力やスキルを思う存分に活かしたい | 4 その他(具体的に:) |

(問21で、3 または 4 を回答した方にだけお聞きします)

問21-2 なぜなりたくないと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 責任を持ちたくない | 3 人間関係で苦勞したくない |
| 2 能力やスキルが十分でない | 4 その他(具体的に:) |

問22 本県は、政策、方針決定に関わる役職の女性の割合が全国平均と比べて低い現状にあります。あなたが、次にあげるような政策、方針決定に関わる役職において、今後、女性がもっと増えたほうがよいと思うものはどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 都道府県、市町村の首長 | 9 労働組合の幹部 |
| 2 国会議員、都道府県議員、市町村議員 | 10 農協の役員 |
| 3 国家公務員、地方公務員の管理職 | 11 自治会、町内会の役員 |
| 4 裁判官、検察官、弁護士 | 12 PTAの役員 |
| 5 大学教授、教育関係の管理職(校長・教頭) | 13 その他(具体的に:) |
| 6 国連などの国際機関の管理職 | 14 今のままでよい |
| 7 企業の管理職 | 15 わからない |
| 8 起業家、経営者 | |

IV 人権に関する意識

問23 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。
次の中から選んでください。(○は1つだけ)

- 1 売春・買春(いわゆる「援助交際」を含む)
- 2 ポルノ産業や女性の働く風俗営業
- 3 女性のヌード写真などを掲載した雑誌、女性の媚びたポーズなどを使用した広告、女性の身体を強調したテレビ番組など
- 4 女性の容姿を競うミス・コンテスト
- 5 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
- 6 家庭内における夫から妻に対する暴力
- 7 「女流○○」「未亡人」のように女性だけに用いられる言葉
- 8 「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること
- 9 その他(具体的に: _____)
- 10 特にない
- 11 わからない

問24 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 女性が性生活について主体的・総合的に判断する力をつけること
- 2 妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供
- 3 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施
- 4 思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進
- 5 女性専用外来の設置に代表される、性差医療の充実
- 6 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備
- 7 職場等でのメンタルヘルス体制の充実
- 8 その他(具体的に: _____)
- 9 特にない
- 10 わからない

V 配偶者等からの暴力

問28 あなたは、次にあげた①～⑯のことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
①～⑯のそれぞれについてお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

	1 どんな場合でも暴力にあたると思う	2 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	3 暴力にあたるとは思わない
① 殴る、蹴る、首を絞める	1	2	3
② 物を投げつける	1	2	3
③ 刃物などを突きつける	1	2	3
④ 大声でどなる	1	2	3
⑤ 無視する	1	2	3
⑥ 「別れるなら自殺する」などと言う	1	2	3
⑦ 相手が大切にしている物を壊す	1	2	3
⑧ 性行為を強要する	1	2	3
⑨ 避妊に協力しない	1	2	3
⑩ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑪ 生活費を渡さない	1	2	3
⑫ 妻(夫)を働かせない	1	2	3
⑬ 家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない	1	2	3
⑭ 友人などとの付き合いを制限する	1	2	3
⑮ 電話・メール・SNS(LINEなど)の内容を細かくチェックする	1	2	3
⑯ 子どもに母親(父親)を非難することを言わせる	1	2	3

問29 あなたは、次にあげた①～④のようなことが夫婦の間で行われた場合、警察などの公的な機関が解決に向けて関わるべきだと思いますか。①～④のそれぞれについてお答えください。
(それぞれ○は1つだけ)

	1 警察などの公的な機関が何らかの形で関わるべきである	2 警察などの公的な機関は関わるべきではない	3 わからない
① 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける	1	2	3
② 医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける	1	2	3
③ 医師の治療が必要とされない程度の暴力をひんぱんに受ける	1	2	3
④ 医師の治療が必要とされない程度の暴力を何年かに一度受ける	1	2	3

問30 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。あなたがご存じのものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

<p>1 警察</p> <p>2 法務局、地方法務局、人権擁護委員</p> <p>3 保健福祉(福祉)事務所、女性相談員</p> <p>4 女性のための相談支援センター、男女共生センター</p> <p>5 県庁</p> <p>6 市役所、町村役場</p> <p>7 裁判所</p> <p>8 民間の機関(弁護士会、民間シェルターなど)</p> <p>9 その他(具体的に:)</p> <p>10 相談できる窓口として知っているところはない</p>
--

VI 男女共同参画の推進

問31 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、県や市町村は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 男女平等、相互理解・協力について普及・啓発を進めること
- 2 経営者・企業のトップの意識改革を進めること
- 3 政策・方針決定過程へ女性を積極的に登用すること
- 4 男女が共に働きやすい就業環境を整備すること
- 5 女性の就業を促進するために、女性の職業訓練の場を充実すること
- 6 女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの機能を整備すること
- 7 女性の学習の場を充実し、女性のリーダーを養成すること
- 8 男性の家事・育児・介護への参画に関する理解を促進すること
- 9 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進めること
- 10 男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの機能を整備すること
- 11 学校教育の場で、男女平等や相互理解のための学習を充実すること
- 12 保育所、学童保育、高齢福祉などの施設・サービスを整備すること
- 13 女性の進出が少ない分野への進出を促すための取組を行うこと
- 14 配偶者等からの暴力被害の防止・根絶や、相談・救援体制を充実すること
- 15 その他(具体的に: _____)
- 16 特になし

○ ご意見・ご要望 ○

男女共同参画の推進、女性の活躍促進のための対策等について、ご意見、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

以上で質問は終わりです。

お忙しいところ、ご協力をいただきありがとうございました。

記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、11月25日(月)までにご投函くださいますようお願いいたします。

男女共同参画・女性の活躍促進に関する 意識調査報告書

令和2年3月発行

福島県生活環境部男女共生課
〒960-8670 福島市杉妻町2番16号
TEL : 024-521-7188
FAX : 024-521-7887

URL <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005c/danjo-top.html>

